

大和市子ども・子育て支援に関する調査結果
【概要】

令和6年3月
大 和 市

目次

1. 調査概要	1
2. 調査結果の概要	2
3. 調査結果	6
(1) お子さんご家族の状況について	6
(2) 子どもの育ちをめぐる環境について	10
(3) 調査対象児童の保護者の就労状況について	14
(4) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について.....	26
(5) 調査対象児童の病気の際の対応について	41
(6) 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について..	56
(7) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	62
(8) 地域の子育て支援事業の利用状況について	73
(9) 小学校での放課後の過ごし方について	84
(10) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	104
(11) 子育てや子育て支援等について	122

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、「子ども・子育て支援法」に基づいた本市の子育て支援事業計画である「第三期大和市子ども・子育て支援事業計画」を策定するにあたり、子育てをされている家庭のニーズ把握及び分析を行うことで、子ども・子育て支援事業計画策定に必要となる基礎データの収集及び住民の教育・保育等に関するニーズ推計を行うことを目的とした。

(2) 調査対象者

大和市に在住する就学前児童（0～5歳）のいる世帯（3,000世帯）を住民基本台帳から抽出した。

※外国人世帯を含む

(3) 調査方法

郵送による送付、郵送による回収及びWeb回答とした。

(4) 調査期間

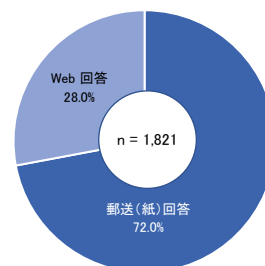
令和5年11月15日（水）～11月30日（木）

(5) 回収結果

配布票数	回収数（集計対象）	回収率
3,000	1,821	60.7%

紙回答 1,313件

Web回答 508件



(6) 集計結果の見方

- ・回答の比率（すべて百分率（%）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・資料編の単純集計表は小数点以下第2位を四捨五入して表示しているため、グラフの合計数値と合わない場合がある。
- ・図中のn（number of case）は、設問に対する回答者数のことである。
- ・本文や表やグラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化して表現している場合がある。

※概要数値の見方

数値はそれぞれ割合（%）を表示。基数の記述があるもの以外は有効回収数を基本としている（n=1,821）。

2. 調査結果の概要

子どもの育ちをめぐる環境について

日常的に関わっている人(施設)については、「父母ともに」、「保育所」に増加傾向、「母親」、「幼稚園」に減少傾向がみられる。子育てに最も影響すると思われる環境については、「保育所」が増加傾向、「幼稚園」、「地域」に減少傾向がみられる。子どもの面倒をみてもらえる親族や知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した割合が 59.1%と最も多く、経年比較でも大きな変化はなかった。「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」、「日常的にこどもを見てもらえる友人知人がいる」はいずれも減少となっている。一方、「いずれもない」との回答は、19.7%で、増加傾向がみられる。

調査対象児童の保護者の就労状況について

調査対象児童の母親の就労状況は、「フルタイムで就労」「パートタイムで就労」がいずれも増加傾向、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は減少傾向がみられ、10年前の調査に比べて働いている母親の割合は約 1.73 倍となっている。

調査対象児童の父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、育休介護休業中ではない」が 95.2%と非常に高い。

働き方については、母親、父親ともに 1 週当たりの就労日数は「5～6 日未満」が最も多く、1 日当たりの就労時間は「8～9 時間」が最も多く、前回調査と比べると、母親は 36.7%と 4.7 ポイント、父親は 35.3%と前回調査から 10.0 ポイント高くなっている。また、父親の家を出る時間は 7 時台以前では減少、8 時台以降では増加傾向、帰宅時間は 20 時台以前では増加、21 時台以降では減少傾向がみられる。

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

平日の定期的教育・保育事業の利用の有無について、「利用している」と回答した方は前回調査から 5.8 ポイント高い 73.4%と増加傾向にあり、内訳は「認可保育所」が最も多く 49.6%、次いで「幼稚園」が 33.3%、「幼稚園の預かり保育」が 10.6%である。

平日に定期的に教育・保育の事業を利用している理由については、「子育て(教育を含む)をしている方が現在就労している」が前回調査よりも 11.8 ポイント高い 69.6%で、前回調査では最も多かった「子どもの教育や発達のため」より 10.7 ポイント高くなっている。

また、平日の教育・保育の事業として「定期的に」利用したいと考える事業は、「幼稚園」が最も多く 56.5%、次いで「認可保育所」が 49.6%、「幼稚園の預かり保育」が 38.2%であるが、平成 30 年度調査と比較すると、全ての事業において利用希望は減少している。

国が検討している「こども誰でも通園制度(仮称)」が創設された場合、事業の利用を希望する割合は 73.2%である。

調査対象児童の病気の際の対応について

この 1 年間に子どもが病気やけがのために普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことが「あった」と回答した人の割合が前回調査よりも 11.6 ポイント高い 87.3%で増加傾向がみられる。

その場合の対処方法は、「母親が休んだ」が最も多く 76.1%、次いで「父親が休んだ」が 43.1%、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもを看てもらった」が 25.5%であり、経年で比較すると「母親が休んだ」、「父親が休んだ」の割合は増加、「親族・知人に子どもを看てもらった」の割合は減少傾向がみられる。一方、「父親又は母親がリモートワークや時差勤務等の取得により仕事をしながら対応した」が 21.3%である。

病気やけがのために通常の事業が利用できなかった場合の**実際の対処方法と対処したい方法を比較**してみると、全体的に大きな差はみられなかったが、病児保育については差がみられた。実際に「病児・病後児の保育を利用した」は 7.8%であるのに対し、対処したい方法で「病児・病後児の保育を利用する」は 29.3%と高くなっている。

子どもが病気やけがの際の「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」という意向の有無は、「できれば仕事を休んで看たい」が前回調査から 8.1 ポイント高い 56.7%と増加傾向がみられる。

土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

土曜日の定期的な教育・保育の事業の利用希望の有無については、「利用する必要はない」が最も多く 64.6%、次いで「月 1～2 回は利用したい」が 24.3%、「ほぼ毎週利用したい」が 8.7%である。

日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用希望の有無については、「利用する必要はない」が最も多く 79.5%、次いで「月に 1～2 回は利用したい」が 15.7%、「ほぼ毎週利用したい」が 2.3%である。

長期休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望の有無については、「休みの期間中、週に数日利用したい」が最も多く 43.6%、次いで「利用する必要はない」が 35.7%、「休みの期間中、ほぼ毎週利用したい」が 17.8%である。

調査対象児童の不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業の有無については、「利用していない」が 77.8%で、その理由は、「特に利用する必要がない」が最も多く 74.0%、次いで「利用料がかかる・高い」が 18.3%、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」が 11.7%である。

保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族(兄弟姉妹含む)の育児疲れや育児不安、病気など)により、子どもを泊りがけで家族以外に預ける必要がある時の**短期入所生活援助事業(ショートステイ)**の利用希望について、「利用したい」は 12.4%、「利用する必要はない」は 85.6%である。その利用目的としては、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が 66.7%、「保護者や家族の病気」が 59.6%である。

地域の子育て支援事業の利用状況について

地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「利用していない」が最も多く 80.5%、次いで「地域子育て支援拠点事業」が 17.2%、「その他、本市で実施している類似の事業」が 2.6%である。

また、今後の利用意向は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が最も多く 66.6%、次いで「利用していないが、今後利用したい」が 21.5%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が 8.7%である。

それぞれの地域の子育て支援事業の認知度、利用状況及び今後の利用意向について、『家庭教育に関する学級・講座』の「認知度」は 18.7%、「利用経験」は他の事業と比較すると 3.3%と低い、「今後の利

用意向」では31.6%と3割を超えている。また、『家庭教育に関する学級・講座』以外の事業については、いずれも「認知度」は5～7割台、「利用経験」は2～3割台、「利用意向」は2～4割となっている。

それぞれの地域の子育て支援事業の利用状況を経年で比較してみると、『母親（父親）学級』、『家庭教育に関する学級・講座』、『保育所や幼稚園の園庭等の開放』、『子育て支援施設等の子育て相談』における、認知度・利用状況・利用意向はいずれも減少傾向がみられる。

小学校就学後の放課後の過ごし方について

小学校低学年（1～3年生）の放課後の時間（平日の小学校終了後）の過ごし方は、「自宅」が最も多く45.0%、次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」が39.8%である。

また、小学校高学年（4～6年生）になったときの放課後の時間（平日の小学校終了後）の過ごし方は、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が最も多く53.2%、次いで「自宅」が53.0%で拮抗している。

育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

母親の育児休業の利用状況は、「取得した（取得中である）」が54.9%、「取得していない」が10.8%、「働いていなかった」が33.1%である。経年で比較してみると、「取得した（取得中である）」は平成30年度調査より20.1ポイント増加、「働いていなかった」は16.5ポイント減少した。

また、育児休業制度を利用した母親のうち、「育児休業取得後、職場に復帰した」が70.9%である。一方で、「育児休業中に離職した」と回答している方は8.7%である。

父親の育児休業の利用状況は、「取得した（取得中である）」が17.2%、「取得していない」が74.7%、「働いていなかった」が1.4%であり、平成25年度調査（10年前）と比較すると、父親の育児休暇の取得率は約4倍になっている。

また、育児休業制度を利用した父親のうち、「育児休業取得後、職場に復帰した」が93.0%である。一方で、「育児休業中に離職した」と回答している方は1.0%である。

子育てや子育て支援等について

子育てをされていて感じる困りごとについて、上位5項目に挙がったのは、「子育ての出費がかさむこと」63.1%、「一人になれる時間がない（欲しい）」61.2%、「自分のやりたいことが十分にできない」51.4%、「子どもとテレビやインターネット、ゲームとの付き合い方」48.6%、「子育てによる身体の疲れが大きい」46.9%である。平成30年度調査と、『困っている』（「とても困っている」と「やや困っている」の合計）の割合を比較すると、いずれも「子育ての出費がかさむ」の割合が最も高く、「子育てと仕事との両立が十分にできない」、「子どもを叱りすぎているような気がする」、「配偶者と子育てに関しての意見が合わない」では、減少傾向がみられた。

子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人及び場所が「いる／ある」が88.1%、「いない／ない」が10.2%である。経年で比較すると「いない／ない」の割合が増加傾向にある。

子育てに関して、気軽に相談する相手の上位3位は、「親やきょうだいなどの親族」87.6%、「友人や知人」70.9%、「子どもが通う保育所等の保育士」26.0%である。

一方、気軽に相談できる人が「いない／ない」と回答した人の理由は、「誰に相談したらよいか分から

ない」が最も多く 50.0%、次いで「適切な人・相談場所がない」が 40.9%、「自分が忙しい」が 39.8%である。平成 30 年度とで比較すると、「自分が忙しい」が 8.4 ポイント、「(施設や機関など) 相談の時間が合わない」が 7.4 ポイント増加し、「相談場所が遠い」が 5.0 ポイント、「適切な人・相談場所がない」が 4.4 ポイント減少した。

経済的な理由でできなかったことが「あった」割合の上位 3 項目は、「家族旅行（日帰りのおでかけを含む）ができなかったこと」が最も多く 17.4%、次いで「ご家族の衣服が買えなかったこと」が 9.9%、「子どものためのおもちゃを買えなかったこと」が 9.4%である。平成 30 年度調査と経済的な理由でできなかったことが「あった」割合を比較すると、項目の順番に相違はないが、いずれも「あった」割合が減少している。

世帯の昨年一年間の収入（手取額）は、「600～800 万円」が 23.8%で最も多く、平成 30 年度調査と比較すると、500 万円以上が増加傾向にあり、500 万円未満に減少傾向がみられた。

子育てをされていてよかったこと、うれしかったことの上位 5 項目は、「子どもの成長」97.1%、「子どものしぐさや言葉」90.2%、「子育てを通じた自分の経験や成長」61.0%、「家庭が明るくなった」57.9%、「自分の親への理解が深まった」48.2%である。

今後、子育て支援の充実に向けて望むことの上位 5 項目は、「出産費用や保育・教育費などの子育て費用の助成」75.5%、「子どもの遊び場の充実」68.3%、「交通事故や犯罪から子どもを守る環境の整備」64.4%、「子連れの方が街中を移動しやすい環境の整備」60.5%、「子どもが安心して過ごせる居場所づくり」60.4%である。

「〇はいくつでも」で回答した場合と「〇は 3 つまで」とした場合を比較すると、上位 3 項目に変わらないが、「〇はいくつでも」の方が、環境づくりや仕組みづくり等、「〇は 3 つまで」の方が、保育所の整備や子育てのサービス等の項目の割合が高い傾向がみられた。

普段の生活の充実感、満足感が高い上位 3 項目は「自分の居場所や役割（家庭・地域・職場等）がある」90.4%、「自分のことを大切に思ってくれる人たちがいる」89.6%、「子育てが楽しい」88.1%である。一方、普段の生活の充実感、満足感が低いのは、「子育てをされていて地域社会から見守られている、支えられていると感じる」の「充実・満足を感じない」割合が 18.3%と他より高くなっている。

現在の幸せ度を 10 段階でたずねたところ、「幸せ度 8」が 25.5%と最も高く、次いで「幸せ度 10（とても幸せ）」が 25.0%である。また、『幸せ』を「幸せ度 10～6 の合計」とすると 89.0%、『不幸』を「幸せ度 5～1 の合計」とすると 10.5%である。

住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度は、「満足度がやや高い」が最も多く 38.2%、次いで「普通」が 35.6%、「満足度がやや低い」が 10.2%である。経年で比較すると、満足度は高くなる傾向がみられる。

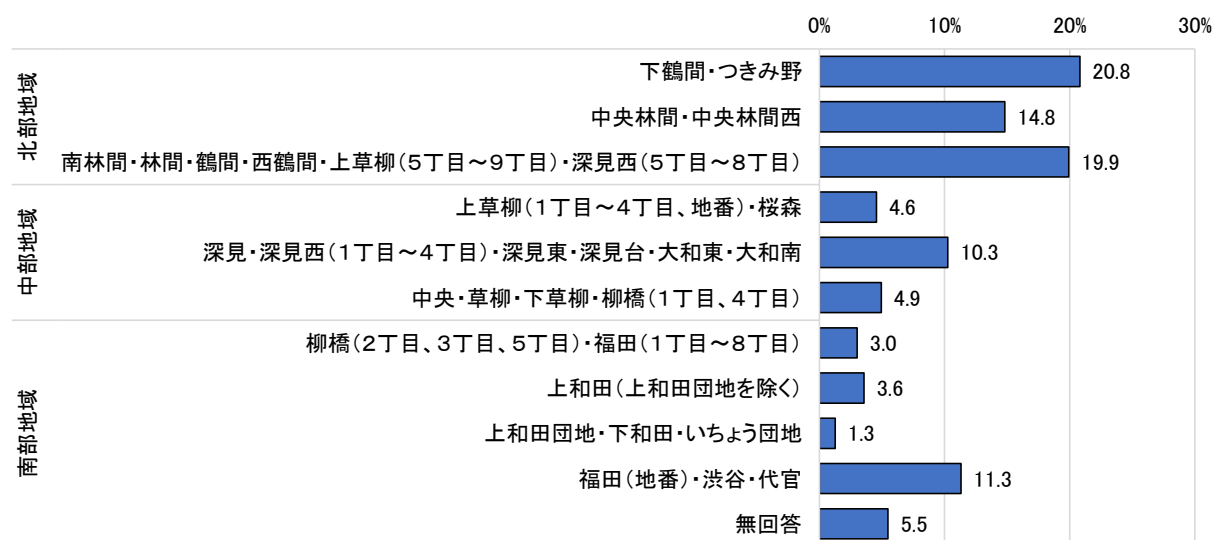
3. 調査結果

(1) お子さんご家族の状況について

居住地区（問1）

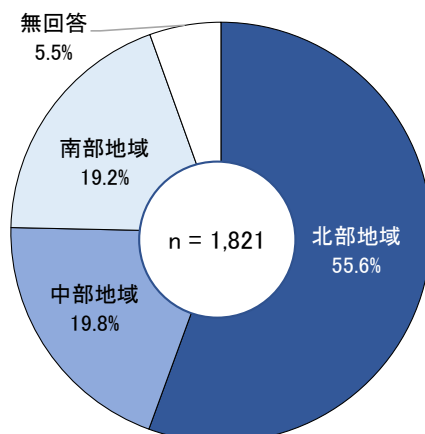
宛名の子ども（以下、調査対象児童）の居住地区は、以下のようになっている。「下鶴間・つきみ野」が20.8%と最も多く、次いで「南林間・林間・鶴間・西鶴間・上草柳（5丁目～9丁目）・深見西（5丁目～8丁目）」が19.9%、「中央林間・中央林間西」が14.8%であった。

回答者の居住地区（n=1,821）



また、調査対象児童の住んでいる地区について、「北部地域」「中部地域」「南部地域」の3地域に分類すると、それぞれの割合は「北部地域」が55.6%、「中部地域」が19.8%、「南部地域」が19.2%であった。

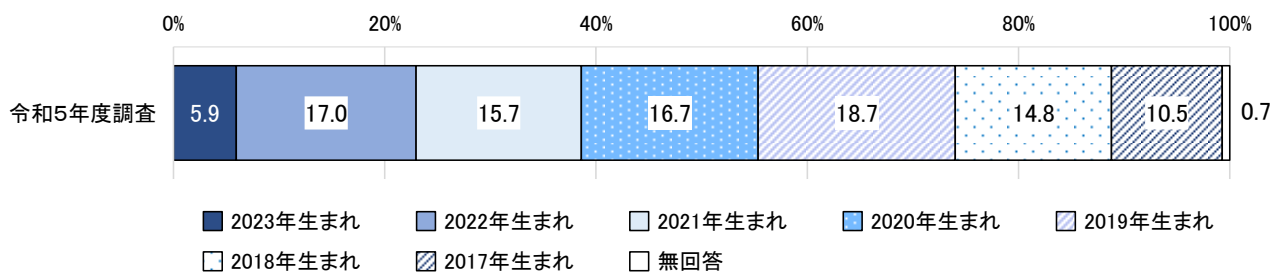
回答者の居住地域（3区分）（n=1,821）



調査対象児童の生まれた年（問2）

調査対象児童の生まれた年は、「2019年生まれ」が最も多く18.7%、次いで「2022年生まれ」が17.0%、「2020年生まれ」が16.7%であった。

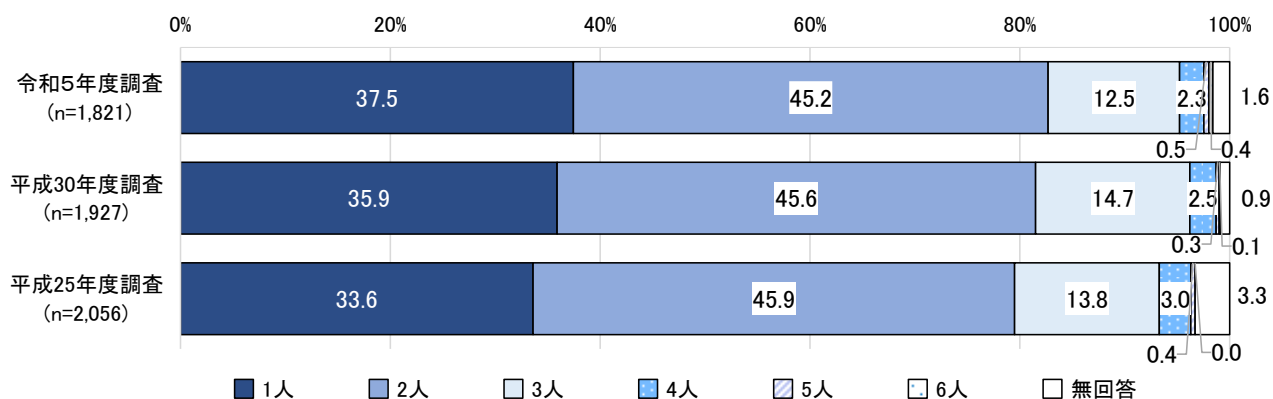
調査対象児童の生まれた年（n=1,821）



調査対象児童のきょうだいの数（本人を含む）（問3）

調査対象児童のきょうだいの数（本人を含む）は、「2人」が最も多く45.2%、次いで「1人」が37.5%、「3人」が12.5%であった。

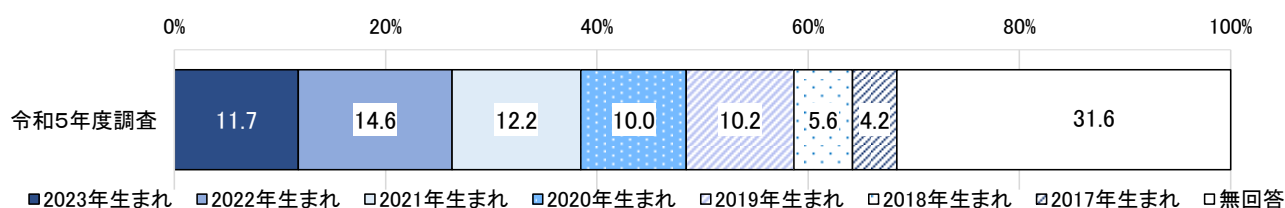
調査対象児童のきょうだいの数（本人を含む）



末子の生まれた年（問3）

きょうだいの数が2人以上の人に、末子の生まれた年についてたずねたところ、「2022年生まれ」が最も多く14.6%、次いで「2021年生まれ」が12.2%、「2023年生まれ」が11.7%であった。

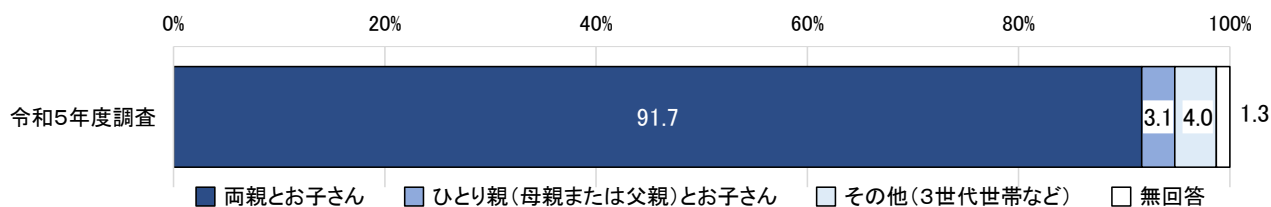
末子の生まれた年（n=1,601）



調査対象児童の家族構成（問4）

調査対象児童の家族構成は、「両親とお子さん」が最も多く 91.7%、次いで「その他（3世代世帯など）」が 4.0%、「ひとり親（母親または父親）とお子さん」が 3.1%であった。

家族構成（n=1,821）

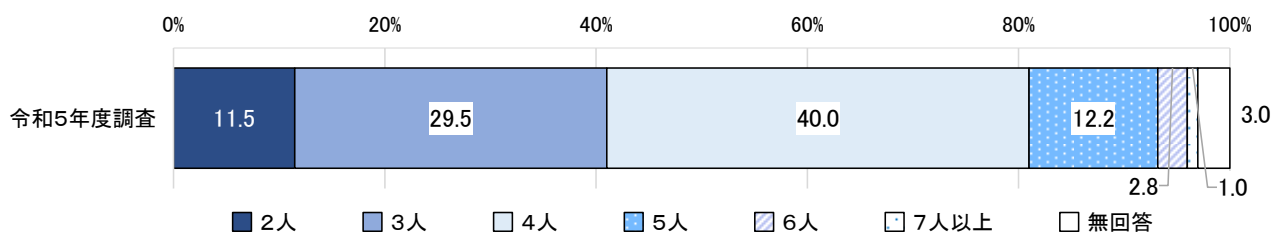


※お子さんは、宛名のお子さん以外のお子さんも含む

調査対象児童の家族の人数（問5）

調査対象児童の家族の人数は、「4人」が最も多く 40.0%、次いで「3人」が 29.5%、「5人」が 12.2%であった。

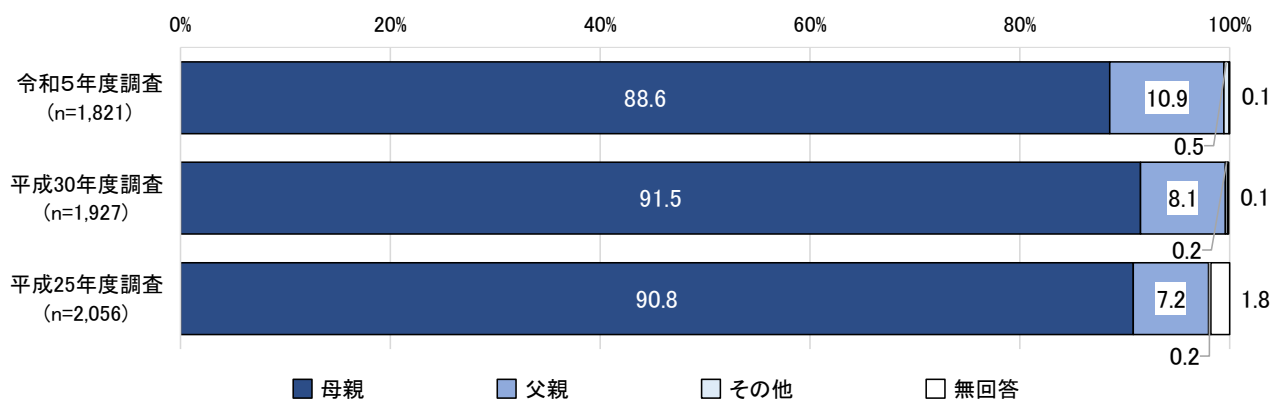
家族の人数（n=1,821）



調査票への記入者（問6）

調査票への記入者は、「母親」が 88.6%、「父親」が 10.9%であった。

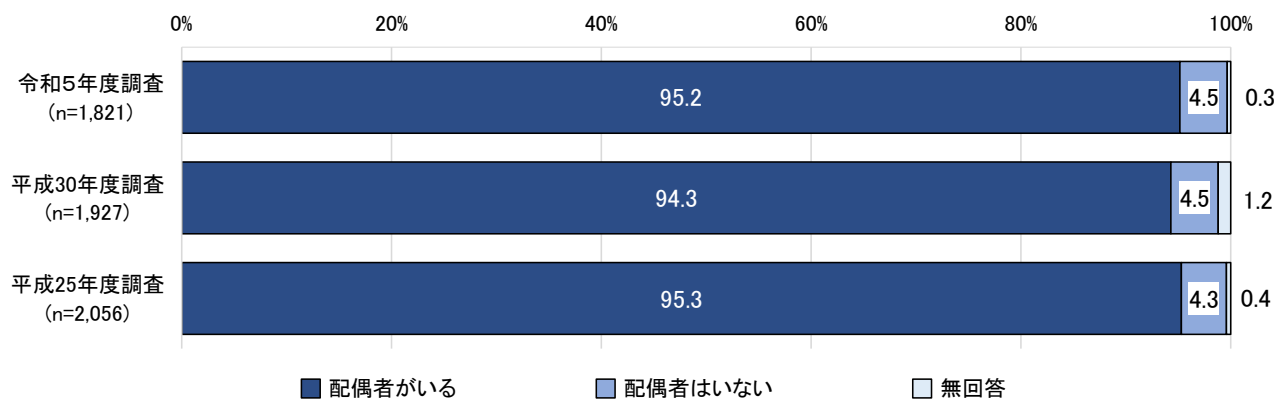
調査票への記入者



調査票への記入者の配偶関係（問7）

調査票への記入者の配偶関係は、「配偶者がいる」が95.2%、「配偶者はいない」が4.5%であった。

調査票への記入者の配偶関係

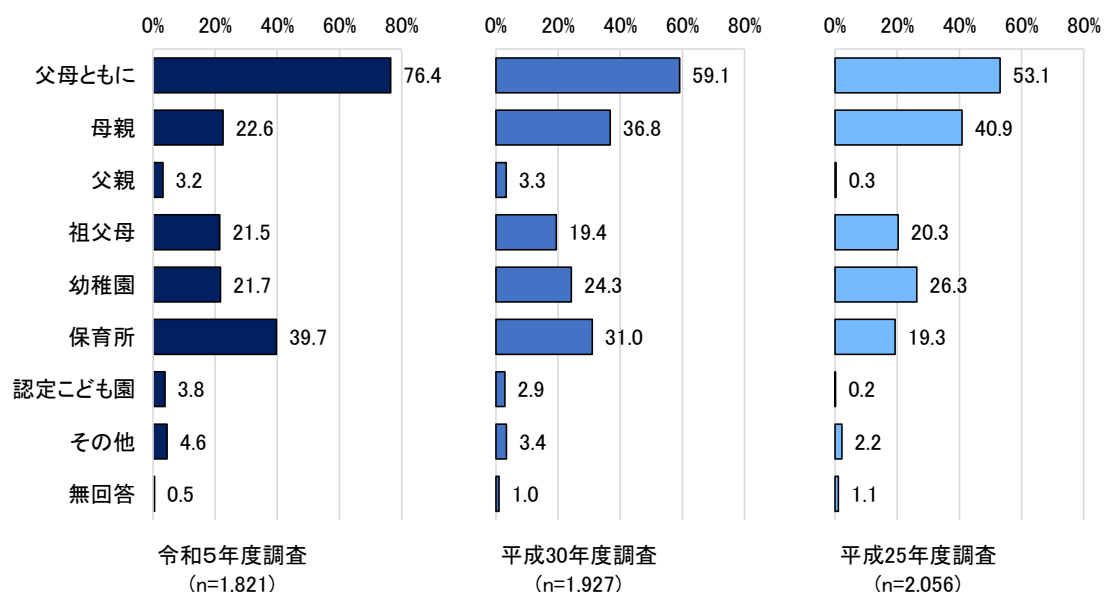


(2) 子どもの育ちをめぐる環境について

調査対象児童の子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人（施設）（問 8、複数回答）

調査対象児童の子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人（施設）は、「父母ともに」が最も多く 76.4%、次いで「保育所」が 39.7%、「母親」が 22.6%であった。

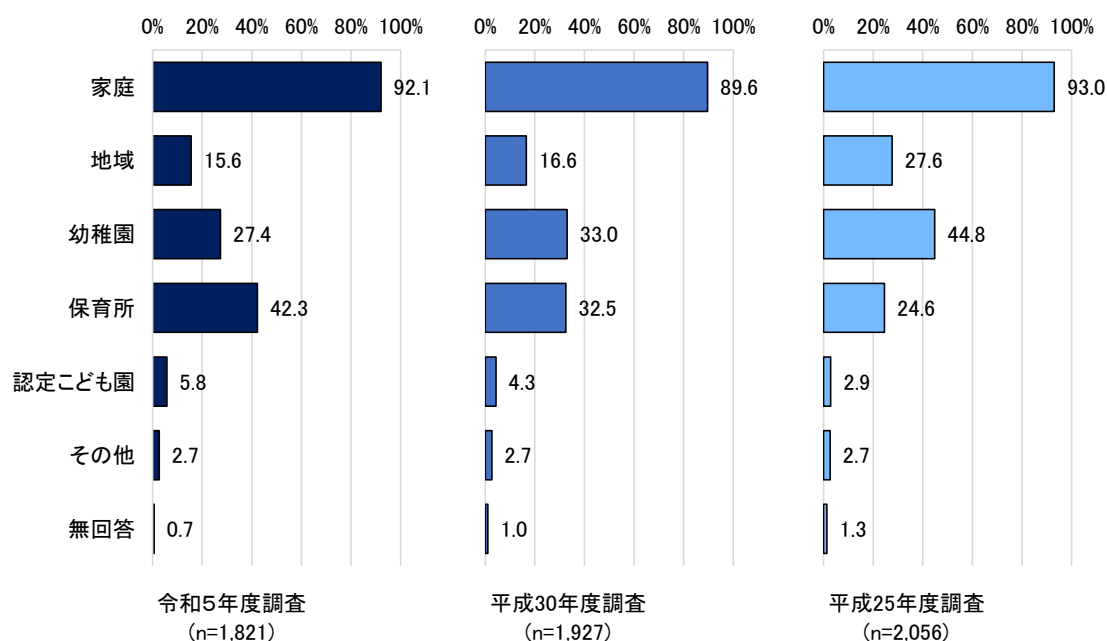
調査対象児童の子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人（施設）



調査対象児童の子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境（問 9、複数回答）

調査対象児童の子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境は、「家庭」が最も多く 92.1%、次いで「保育所」が 42.3%、「幼稚園」が 27.4%であった。

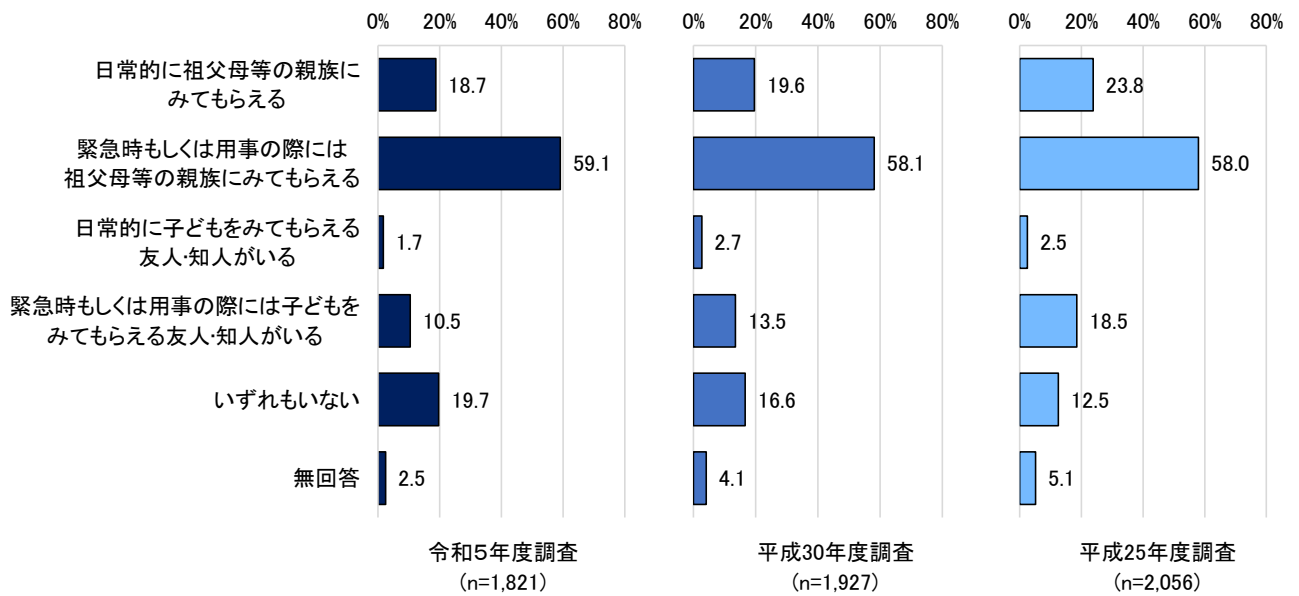
調査対象児童の子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境



日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無（問 10、複数回答）

日常的に子どもの面倒をみてもらえる親族や知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く 59.1%、次いで「いずれもない」が 19.7%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 18.7%であった。

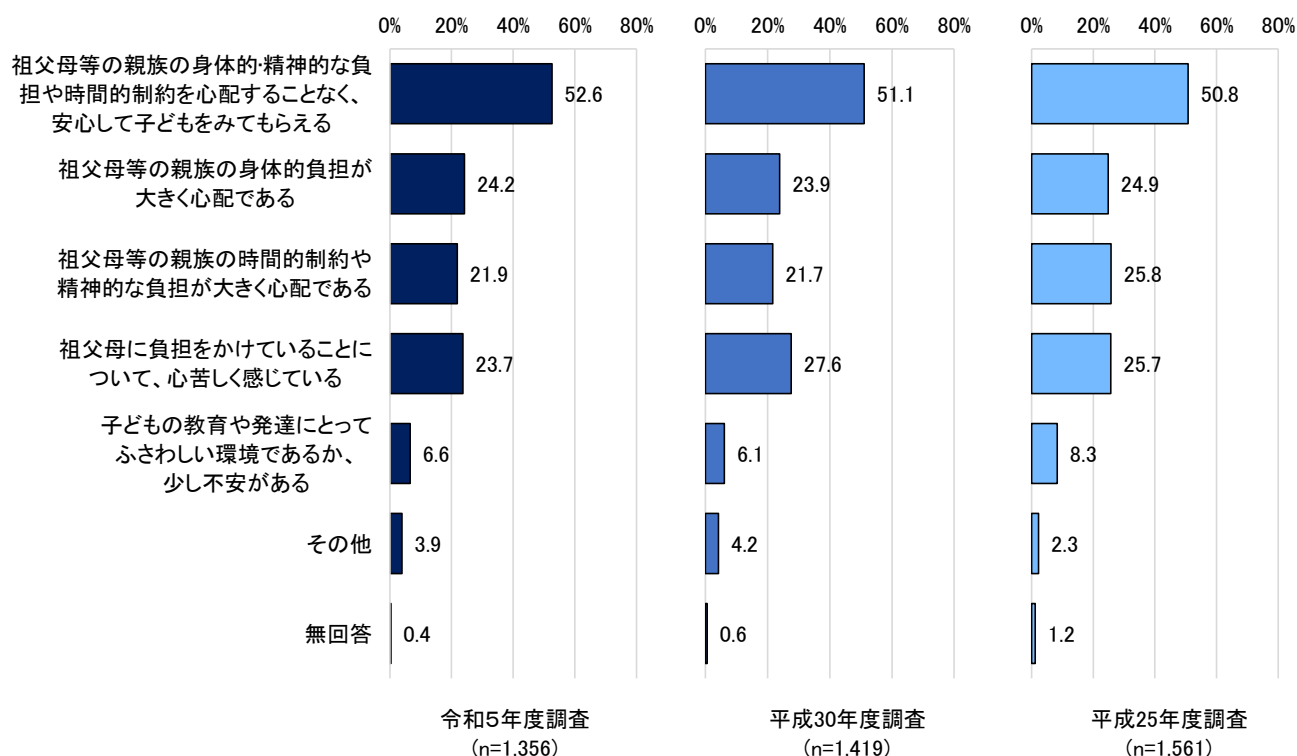
日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無



祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況（問 10-1、複数回答）

問 10 で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した方に対し、子どもをみてもらっている状況についてたずねたところ、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も多く 52.6%、次いで「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」が 24.2%、「祖父母に負担をかけていることについて、心苦しく感じている」が 23.7%であった。

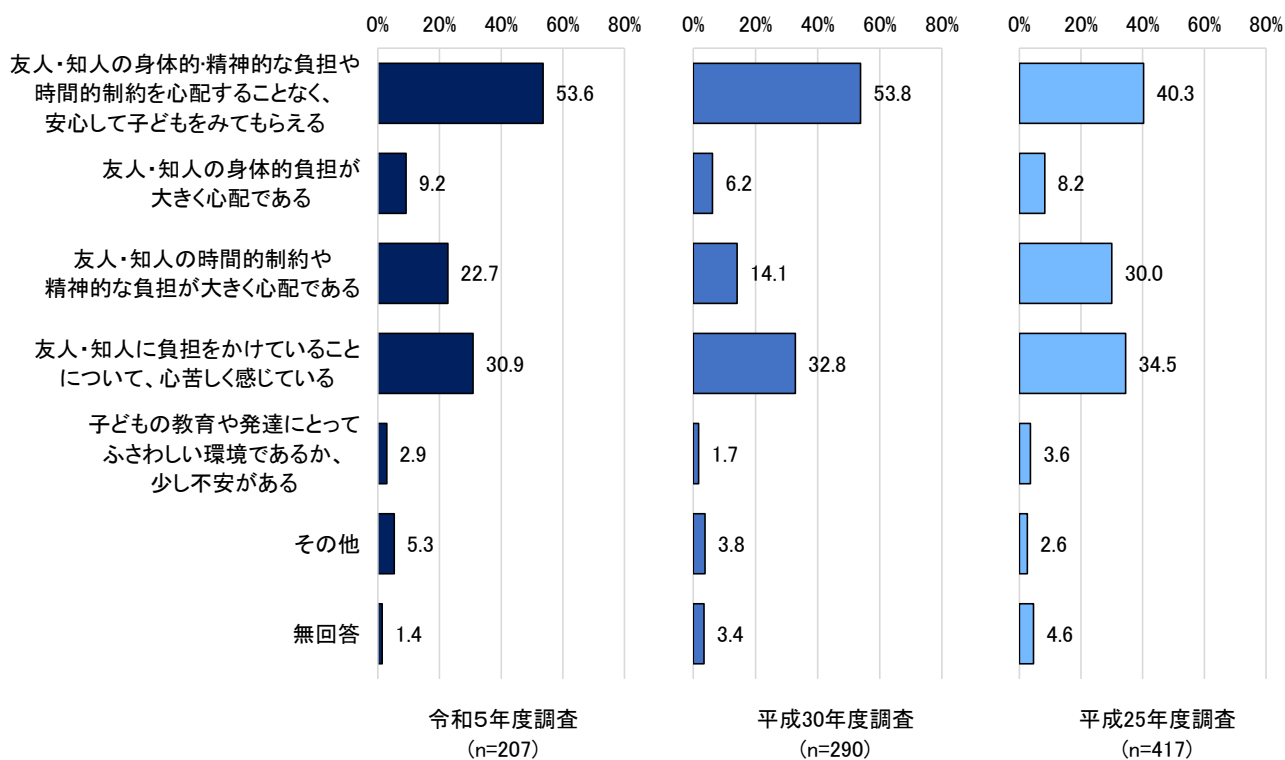
祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況



友人・知人に子どもをみてもらっている状況（問10-2、複数回答）

問10で「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」または「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」と回答した方に対し、子どもをみてもらっている状況についてたずねたところ、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も多く53.6%、次いで「友人や知人に、負担をかけていることについて、心苦しく感じている」が30.9%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が22.7%であった。

友人・知人に子どもをみてもらっている状況



(3) 調査対象児童の保護者の就労状況について

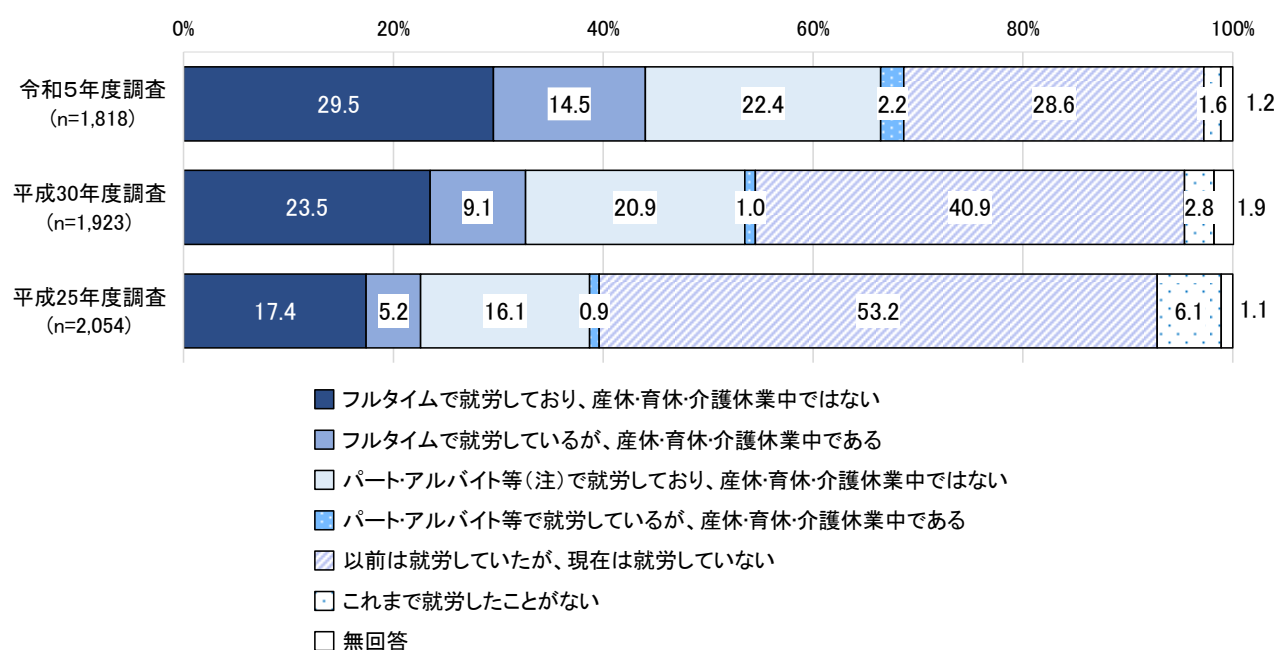
現在の就労状況（母親）（問 11）

※父子家庭の場合は記入不要

調査対象児童の母親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も多く 29.5%、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 28.6%であった。

また、調査結果年度別で比較すると、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が減少傾向である一方で、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が増加傾向となっており、働いている母親の割合は増加傾向にあることが分かる。

現在の就労状況（母親）



※フルタイムとは、1週5日程度・1日8時間程度の就労である。

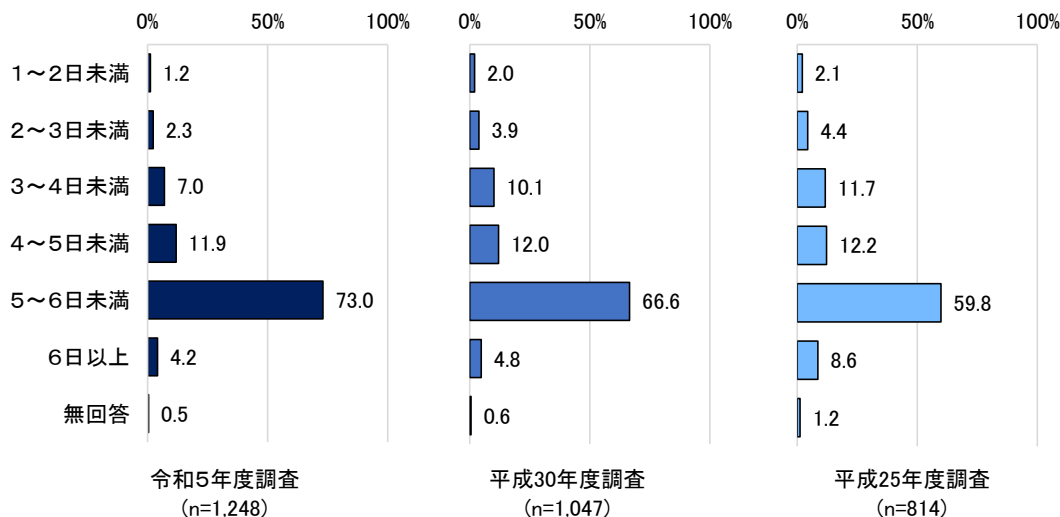
※パート・アルバイト等とは、フルタイム以外の就労である。

1週当たりの就労日数と1日当たりの就労時間（残業時間を含む）（母親）（問 11-1(1) (2)）

① 1週当たりの就労日数

問 11 で「就労している」と回答した母親に対し、1週当たりの就労日数についてたずねたところ、「5～6日未満」が最も多く73.0%、次いで「4～5日未満」が11.9%、「3～4日未満」が7.0%であった。

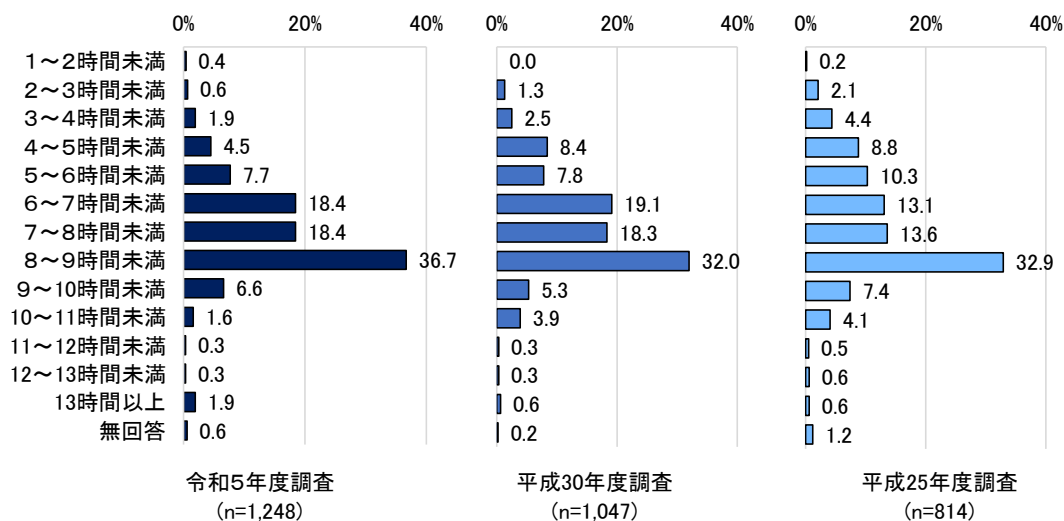
1週当たりの就労日数（母親）



② 1日当たりの就労時間

問 11 で「就労している」と回答した母親に対し、1日当たりの就労時間（残業時間を含む）についてたずねたところ、「8～9時間未満」が最も多く36.7%、次いで「6～7時間未満」、「7～8時間未満」が18.4%であった。

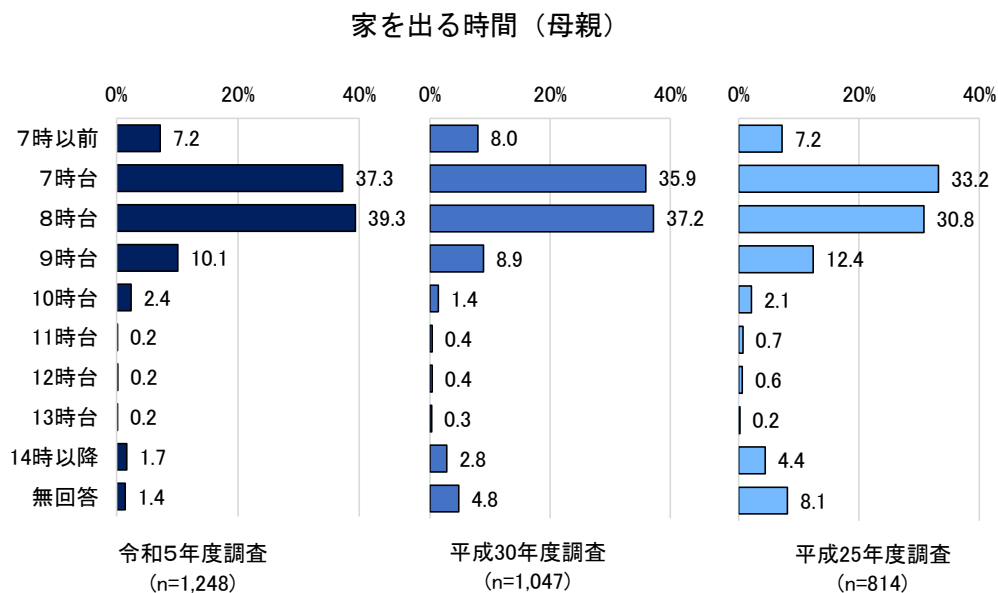
1日当たりの就労時間（母親）



家を出る時間と帰宅時間（母親）（問 11-1 (3) (4)）

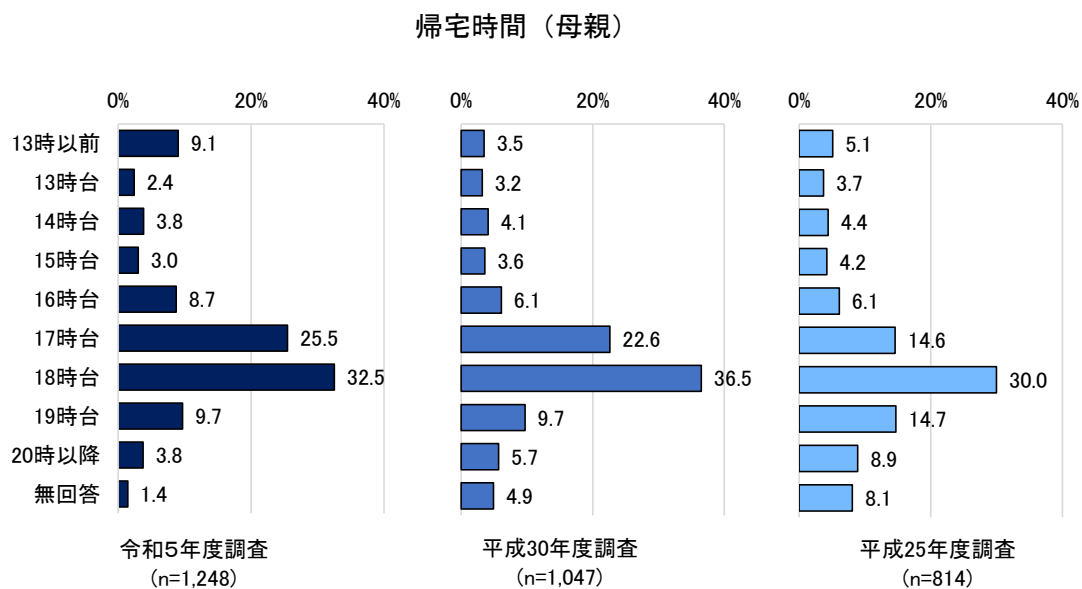
① 家を出る時間

問 11 で「就労している」と回答した母親に対し、家を出る時間についてたずねたところ、「8 時台」が最も多く 39.3%、次いで「7 時台」が 37.3%、「9 時台」が 10.1%であった。



② 帰宅時間

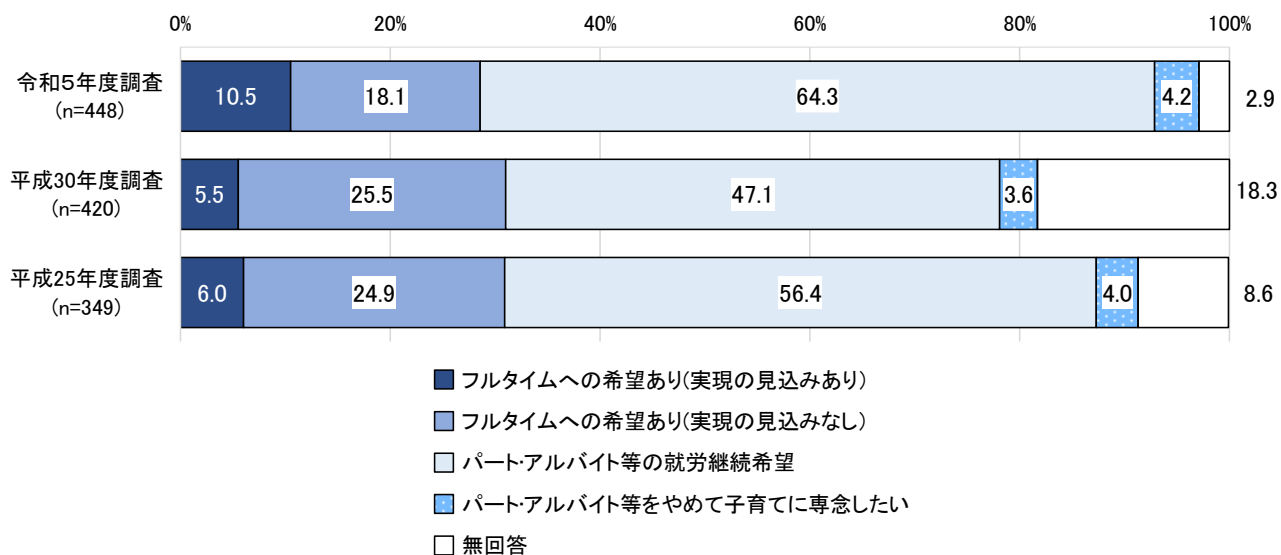
問 11 で「就労している」と回答した母親に対し、帰宅時間についてたずねたところ、「18 時台」が最も多く 32.5%、次いで「17 時台」が 25.5%、「19 時台」が 9.7%であった。



フルタイムへの転換希望（パートタイム・アルバイト等で就労している母親）（問 11-2）

問 11 で「パートタイム・アルバイト等で就労している」と回答した母親に対し、フルタイムへの転換希望についてたずねたところ、「パート・アルバイト等の就労継続希望」が 64.3%であった。フルタイムへの転換を希望する回答としては、「フルタイムへの希望はあり（実現の見込みなし）」が 18.1%、「フルタイムへの希望あり（実現の見込みがあり）」が 10.5%であった。

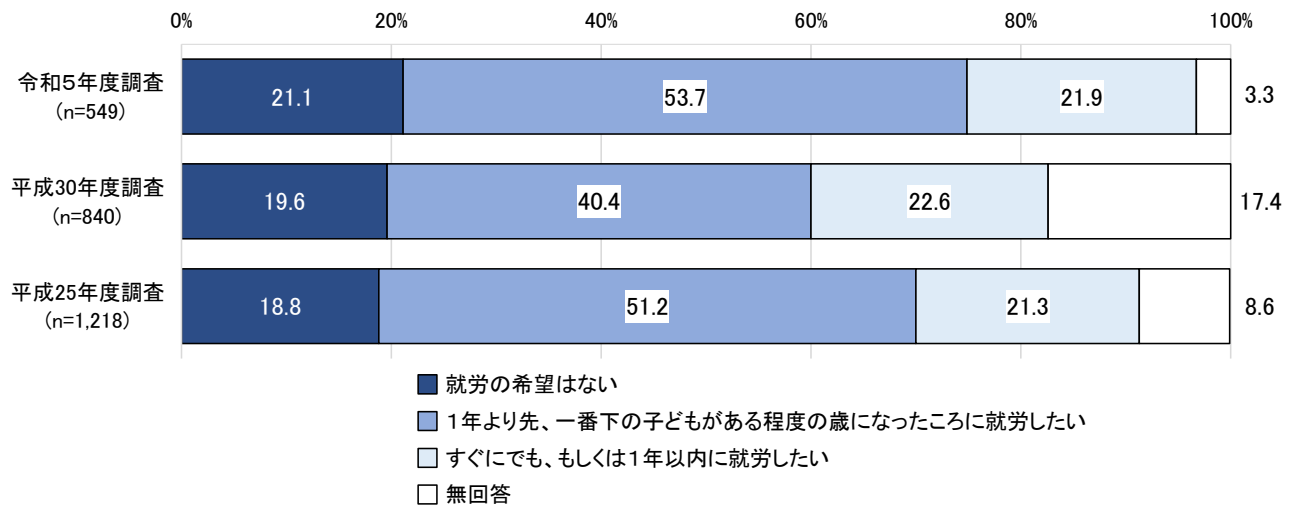
フルタイムへの転換希望（パートフルタイム・アルバイト等で就労している母親）



就労したいという希望の有無（現在就労していない母親）（問 11-3）

問 11 で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまで就労したことがない」と回答した母親に対し、就労したいという希望についてたずねたところ、「1年より先、一番下の子どもがある程度の歳になったところに就労したい」が最も多く 53.7%、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 21.9%であった。なお、「就労の希望はない」は 21.1%であった。

就労したいという希望の有無（現在就労していない母親）

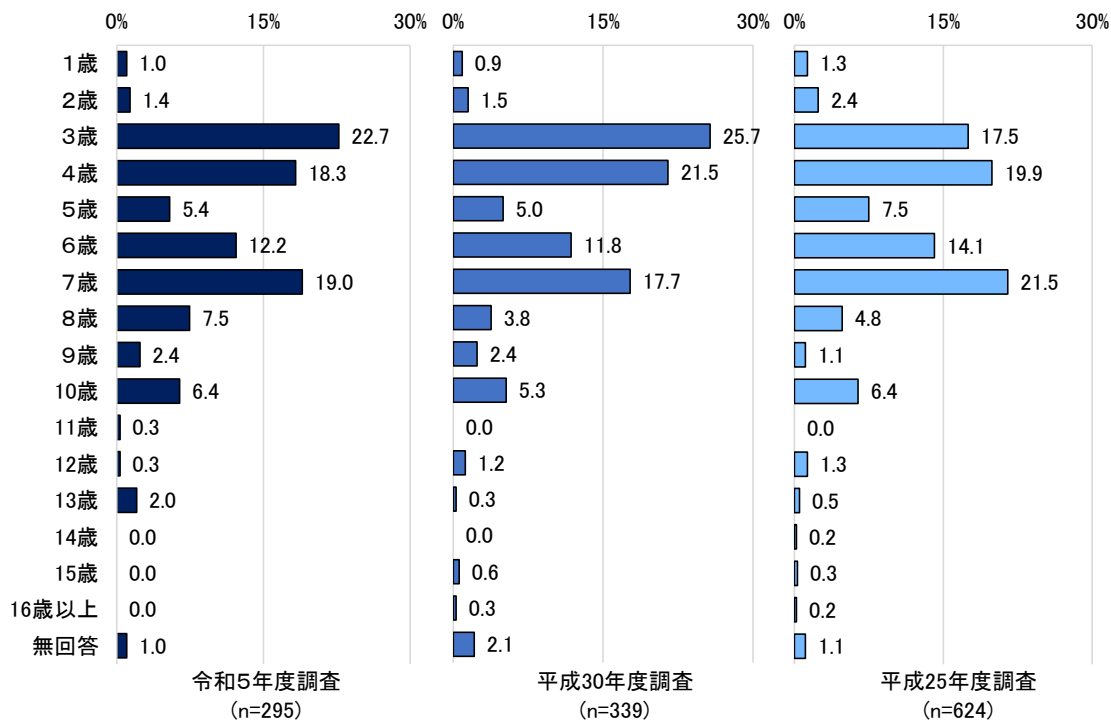


※H25年度・H30年度調査では、選択肢の「就労の希望はない」は「子育てや家事に専念したい(就労の予定はない)」

① 就労したい時期の末子の年齢

問 11-3 で「1年より先、一番下の子どもがある程度の歳になったところに就労したい」と回答した母親の、就労したい時期の末子の年齢についてたずねたところ、「3歳」が最も多く 22.7%、次いで「7歳」が 19.0%、「4歳」が 18.3%であった。

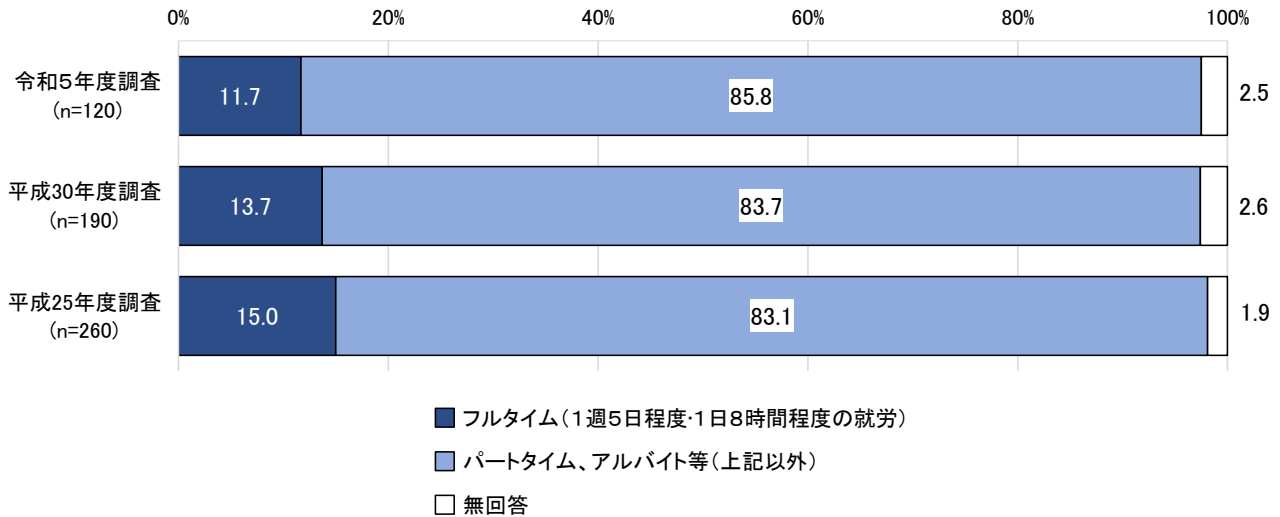
就労したい時期の末子の年齢（現在就労していない母親）



② 希望する就労形態

問 11-3 で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した母親に対し、希望する就労形態についてたずねたところ、「パートタイム、アルバイト等」が85.8%、「フルタイム」が11.7%であった。

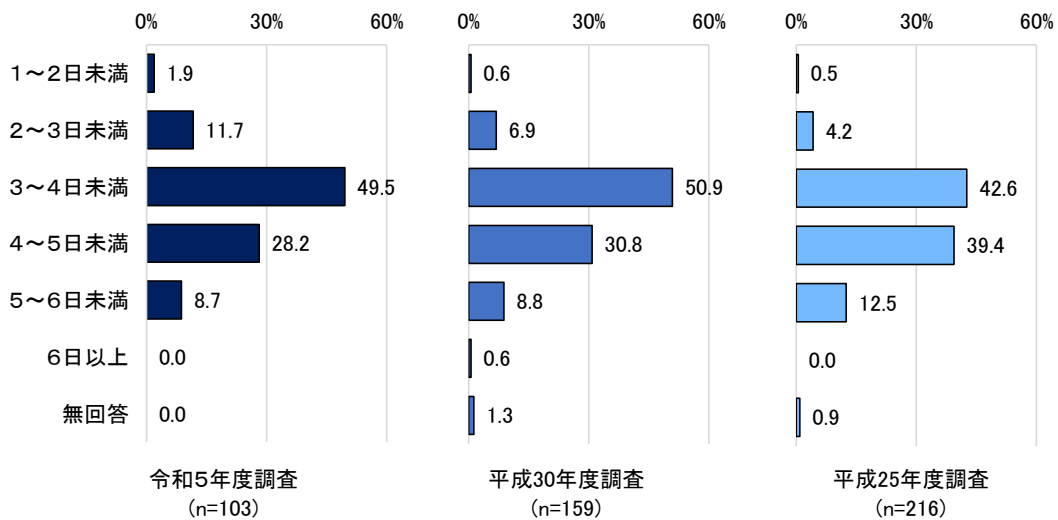
希望する就労形態（現在就労していない母親）



③ 1週当たりの就労日数（パートタイム、アルバイト等）

問 11-3 で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答し、希望する就労形態が「パートタイム、アルバイト等」の母親に対し、1週当たりの就労日数についてたずねたところ、「3～4日未満」が49.5%、次いで「4～5日未満」が28.2%、「2～3日未満」が11.7%であった。

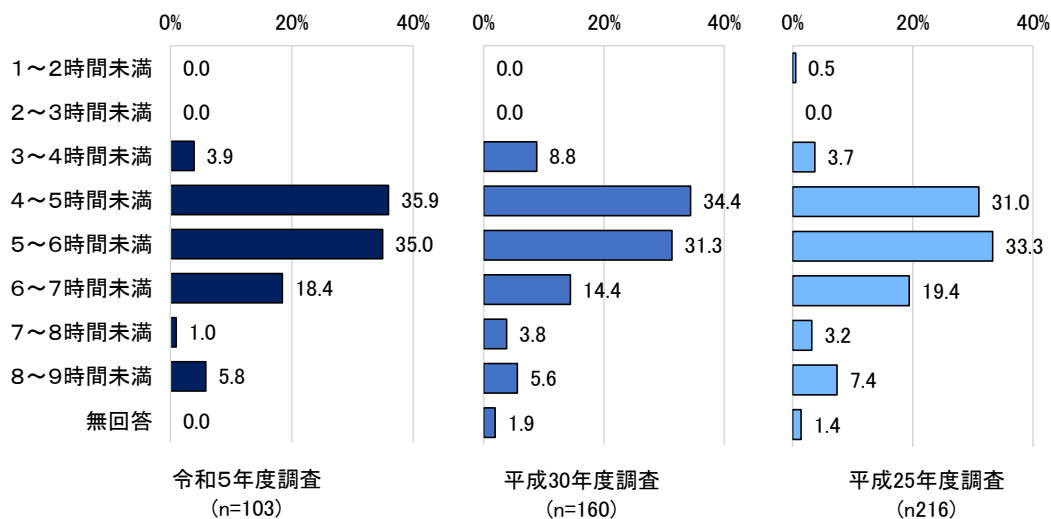
1週当たりの就労日数（パートタイム、アルバイト等）（現在就労していない母親）



④ 1日当たりの就労時間（パートタイム、アルバイト等）

問 11-3 で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答し、希望する就労形態が「パートタイム、アルバイト等」の母親に対し、1日当たりの就労時間についてたずねたところ、「4～5時間未満」が35.9%、次いで「5～6時間未満」が35.0%、「6～7時間未満」が18.4%であった。

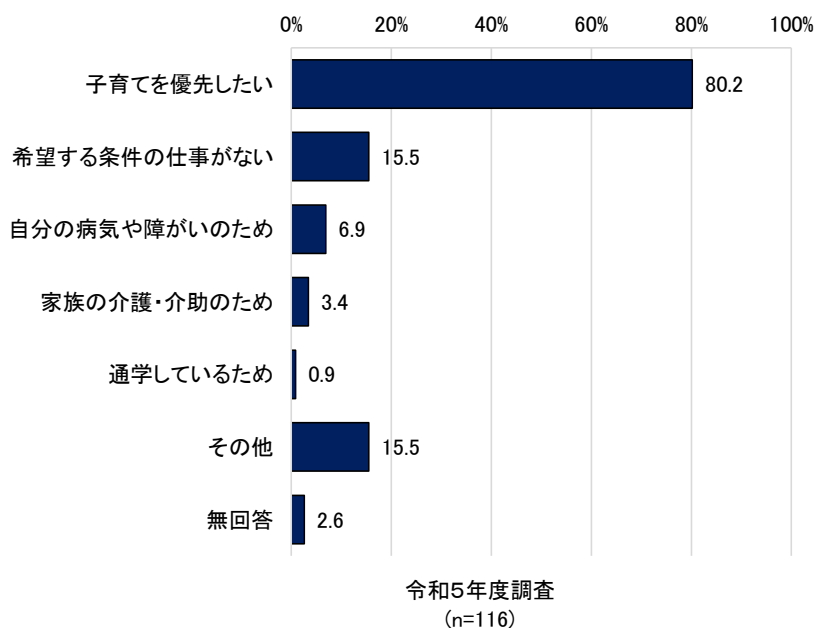
1日当たりの就労時間（パートタイム、アルバイト等）（現在就労していない母親）



就労を希望しない理由（就労希望はない母親）（問 11-4）

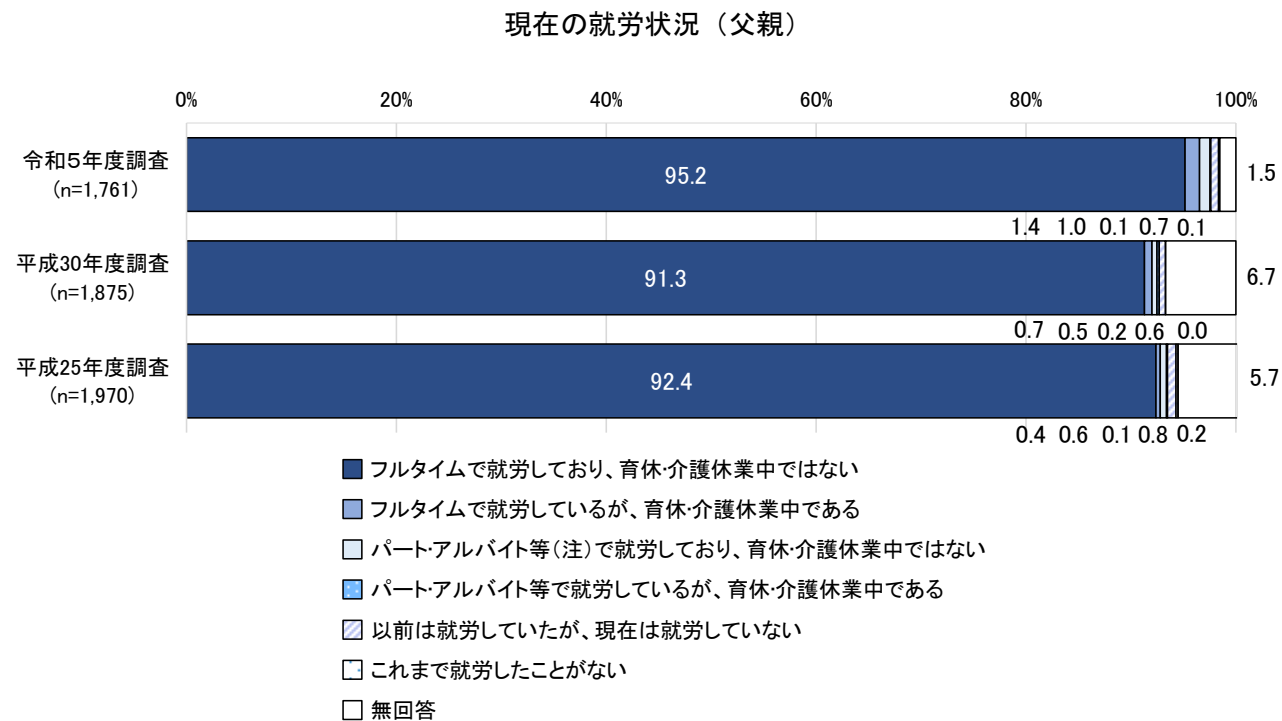
問 11-3 で「就労の希望はない」と回答した母親に対し、就労を希望しない理由についてたずねたところ、「子育てを優先したい」が最も多く80.2%、次いで「希望する条件の仕事がない」が15.5%、「自分の病気や障がいのため」が6.9%であった。

就労を希望しない理由（就労希望はない母親）



現在の就労状況（父親）（問 12）

調査対象児童の父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が最も多く 95.2%であった。



※フルタイムとは、1週5日程度・1日8時間程度の就労である。

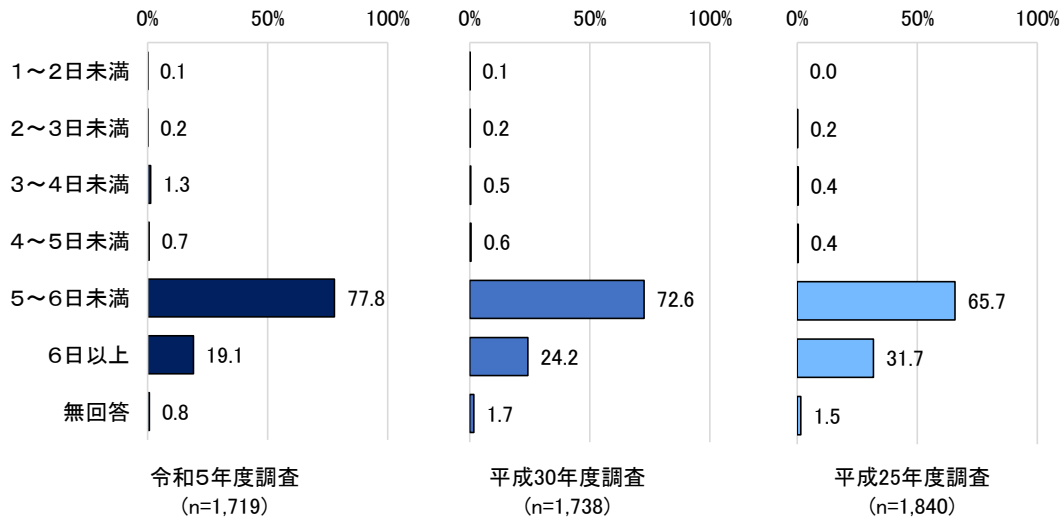
※パート・アルバイト等とは、フルタイム以外の就労である。

1週当たりの就労日数と1日当たりの就労時間(残業時間を含む)(父親)(問12-1(1)(2))

① 1週当たりの就労日数

問12で「就労している」と回答した父親に対し、1週当たりの就労日数についてたずねたところ、「5～6日未満」が最も多く77.8%、次いで「6日以上」が19.1%であった。

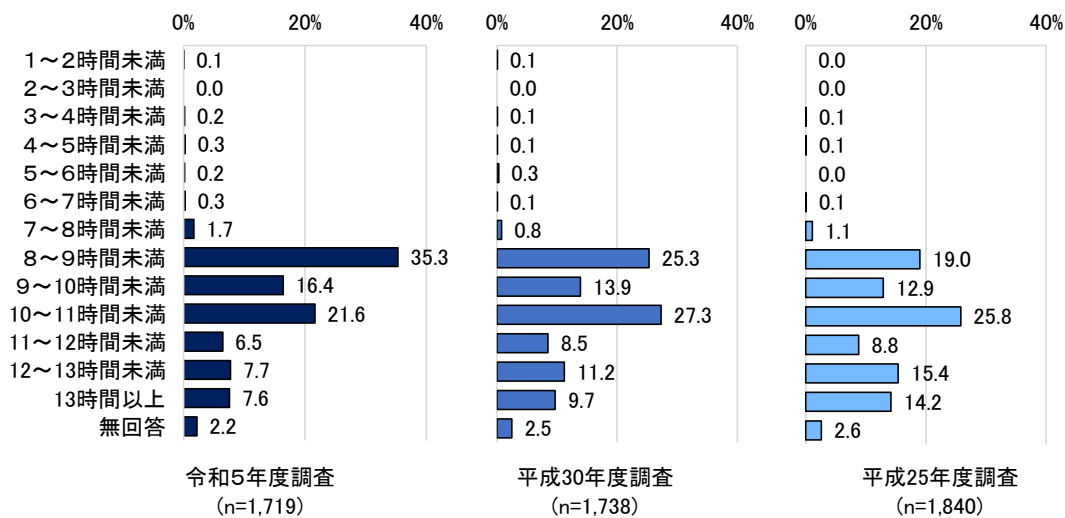
1週当たりの就労日数(父親)



② 1日当たりの就労時間

問12で「就労している」と回答した父親に対し、1日当たりの就労時間(残業時間を含む)についてたずねたところ、「8～9時間未満」が最も多く35.3%、次いで「10～11時間未満」が21.6%、「9～10時間未満」が16.4%であった。

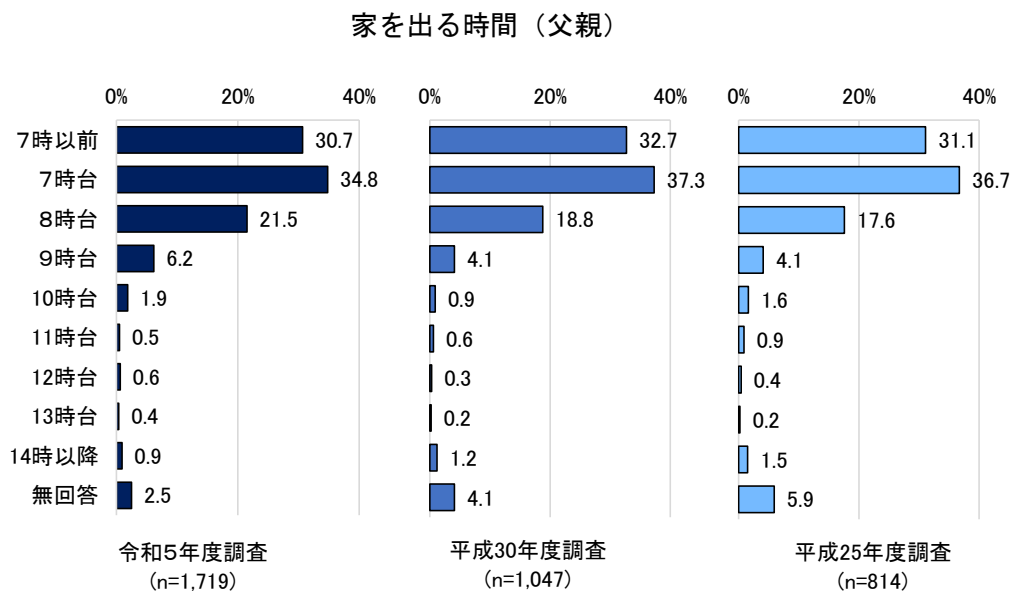
1日当たりの就労時間(父親)



家を出る時間と帰宅時間（父親）（問 12(1)-3）

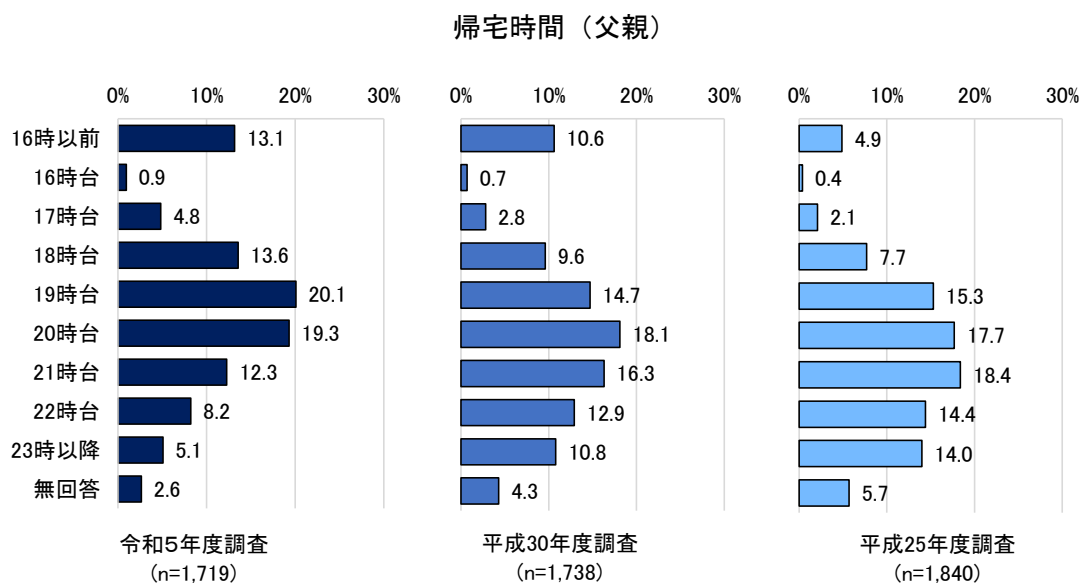
① 家を出る時間

問 12 で「就労している」と回答した父親に対し、家を出る時間についてたずねたところ、「7 時台」が最も多く 34.8%、次いで「7 時以前」が 30.7%、「8 時台」が 21.5%であった。



② 帰宅時間

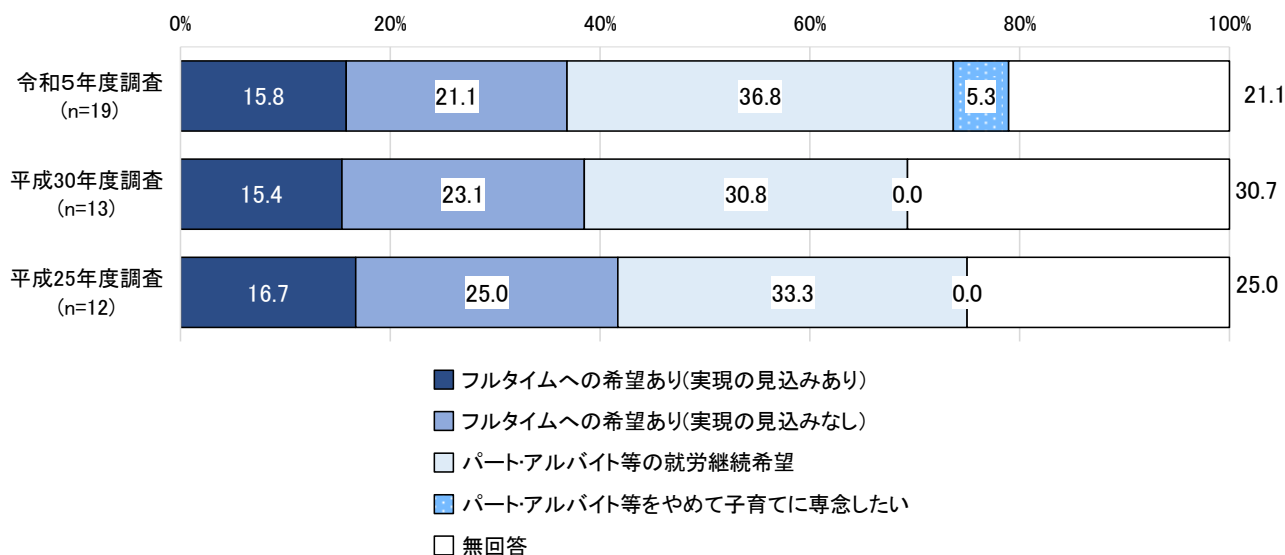
問 12 で「就労している」と回答した父親に対し、帰宅時間についてたずねたところ、「19 時台」が最も多く 20.1%、次いで「20 時台」が 19.3%、「18 時台」が 13.6%であった。



フルタイムへの転換希望（パートタイム・アルバイト等で就労している父親）（問 12-2）

問 12 で「パートタイム・アルバイト等で就労している」と回答した父親に対し、フルタイムへの転換希望についてたずねたところ、「パート・アルバイト等の就労継続希望」が最も多く 36.8%、次いで「フルタイムへの希望あり（実現できる見込みなし）」が 21.1%、「フルタイムへの希望があり（実現できる見込みあり）」が 15.8%であった。

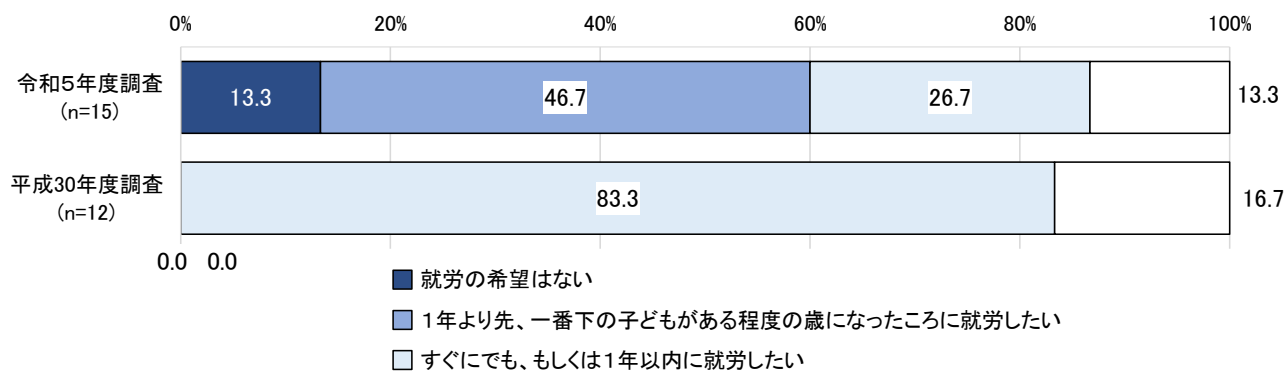
フルタイムへの転換希望（パートフルタイム・アルバイト等で就労している父親）



就労したいという希望の有無（現在就労していない父親）（問 12-3）

問 12 で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまで就労したことがない」と回答した父親に対し、就労したいという希望についてたずねたところ、「1年より先、一番下の子どもがある程度の歳になったところに就労したい」が最も多く 46.7%であった。

就労したいという希望の有無（現在就労していない父親）



※H30年度調査では、選択肢の「就労の希望はない」は「子育てや家事に専念したい(就労の予定はない)」

①就労したい時期の末子の年齢

問 12-3 で「1年より先、一番下の子どもがある程度の歳になったところに就労したい」と回答した父親は7名であり、就労したい時期の末子の年齢についてたずねたところ、「3歳」「4歳」「7歳」が2名ずつ、「8歳」が1名であった。

②希望する就労形態

問 12-3 で「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した父親は4名であり、希望する就労形態についてたずねたところ、全員が「フルタイム」を希望し、「パートタイム、アルバイト等」の回答はなかった。

③1週当たりの就労日数及び1日当たりの就労時間（パートタイム、アルバイト等）

問 12-3 で「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」と回答し、希望する就労形態が「パートタイム、アルバイト等」の父親はいなかったため、集計対象者はいない。

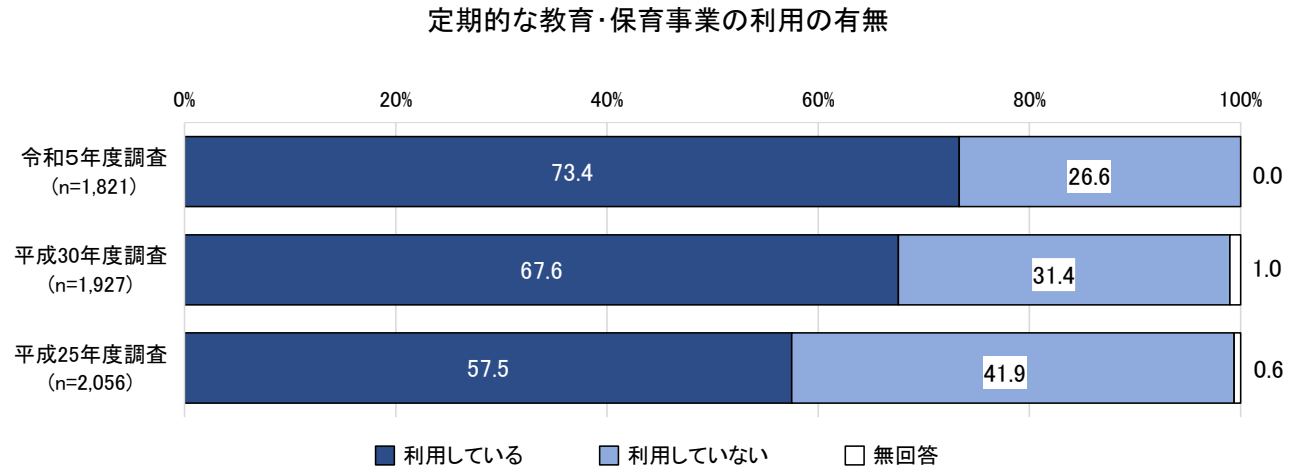
就労を希望しない理由（就労希望はない父親）（問 12-4）

問 12 で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまで就労したことがない」と回答した父親は2人であり、就労したいという希望についてたずねたところ、「子育てを優先したい」と「その他」がそれぞれ1名ずつであった。

(4) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

定期的な教育・保育の事業の利用の有無（問13）

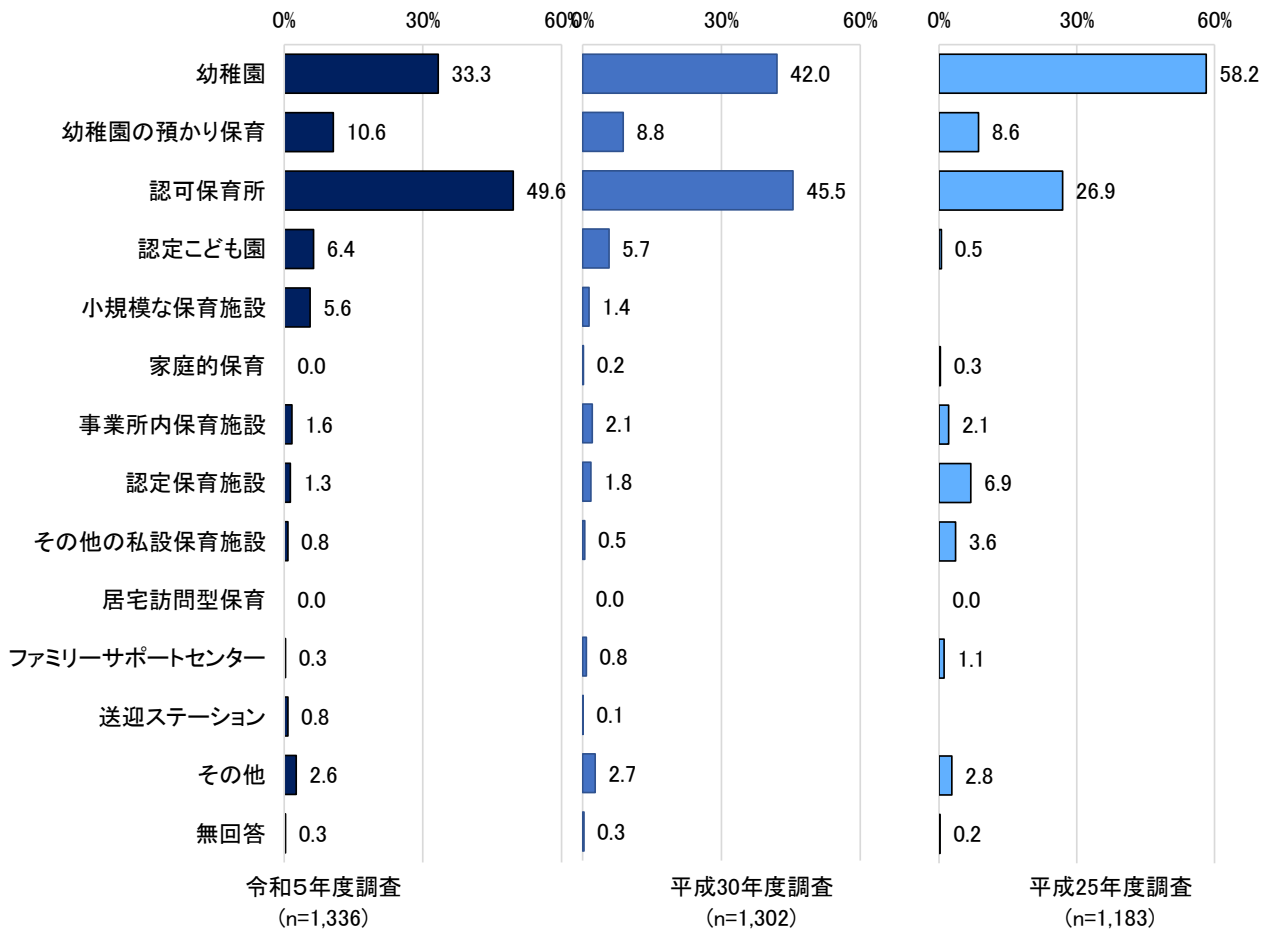
定期的な教育・保育の事業の利用の有無については、「利用している」が73.4%、「利用していない」が26.6%であった。



平日に定期的に利用している教育・保育の事業（問 13-1、複数回答）

問 13 で「利用している」と回答した方に対し、平日に定期的に利用している教育・保育の事業についてたずねたところ、「認可保育所」が最も多く 49.6%、次いで「幼稚園」が 33.3%、「幼稚園の預かり保育」が 10.6%であった。

平日に定期的に利用している教育・保育の事業

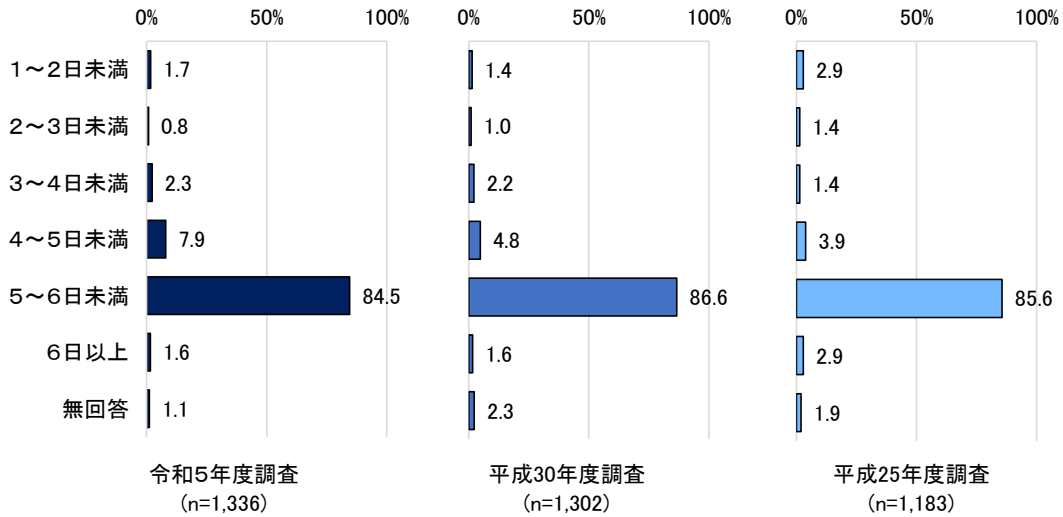


- 幼稚園 (通常の就園時間の利用)
- 幼稚園の預かり保育 (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、定期的な利用のみ)
- 認可保育所 (国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員 20 人以上のもの)
- 認定こども園
- 小規模な保育施設 (国が定める最低基準に適合した施設で市町村の許可を受けた定員がおおむね6~19 人のもの)
- 家庭的保育 (保育者の家庭等で5人以下の子どもを保育する事業)
- 事業所内保育施設 (企業が主に従業員用に運営する施設)
- 認定保育施設 (認可保育所ではないが、大和市が認定した施設)
- その他の私設保育施設
- 居宅訪問型保育 (保育者が子どもの家庭で保育する事業)
- ファミリーサポートセンター (地域住民が子どもを預かる事業)
- 送迎ステーション (幼稚園等と連携し教育時間の前後に子どもを預かる事業)

平日に定期的に教育・保育の事業の現在の利用状況（問 13-2(1)）

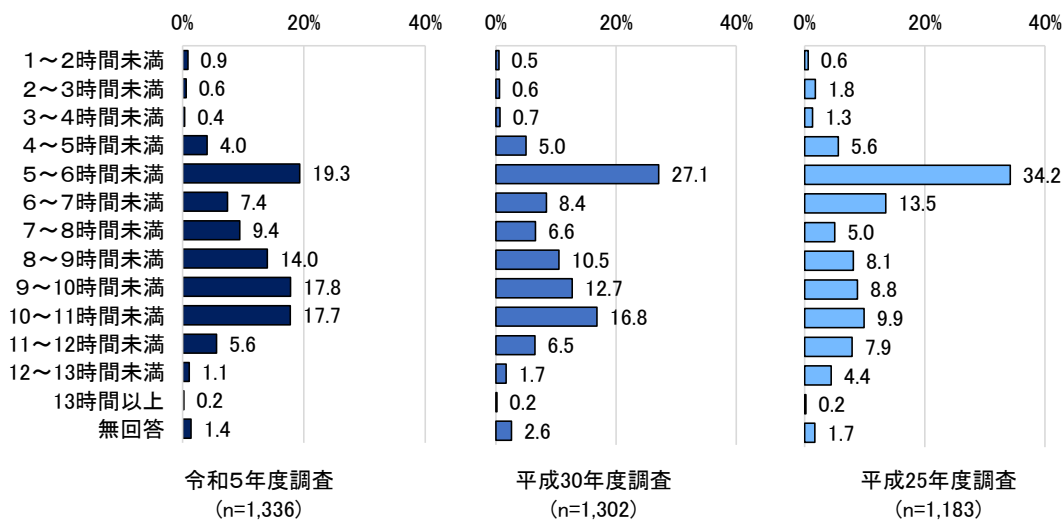
問 13 で「利用している」と回答した方に対し、平日に定期的に利用している教育・保育の事業の1週当たりの日数をたずねたところ、「5～6日未満」が最も多く84.5%であった。

平日に定期的に利用している教育・保育の事業の1週当たりの利用日数



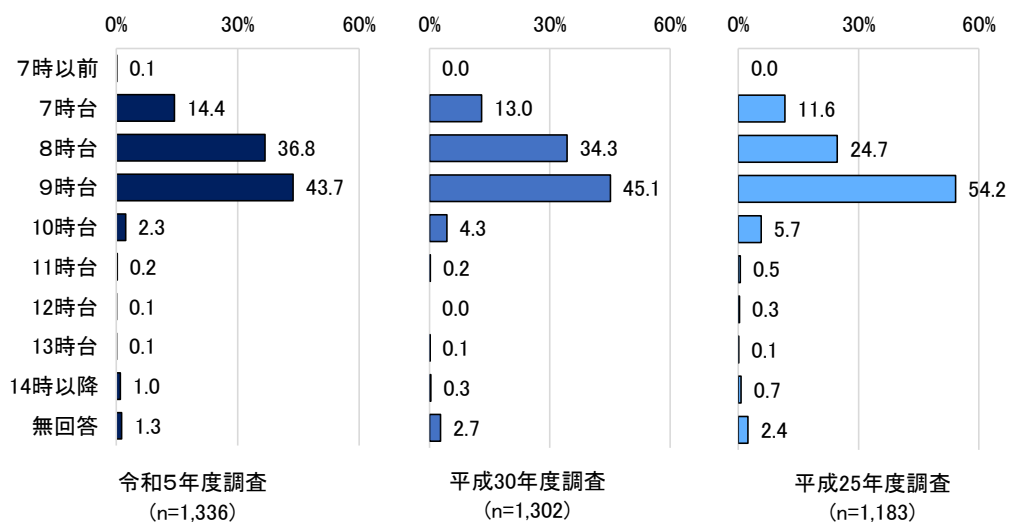
問 13 で「利用している」と回答した方に対し、平日に定期的に利用している教育・保育の事業の1日当たりの時間をたずねたところ、「5～6時間未満」が最も多く19.3%、次いで「9～10時間未満」が17.8%、「10～11時間未満」が17.7%であった。

平日に定期的に利用している教育・保育の事業の1日当たりの利用時間



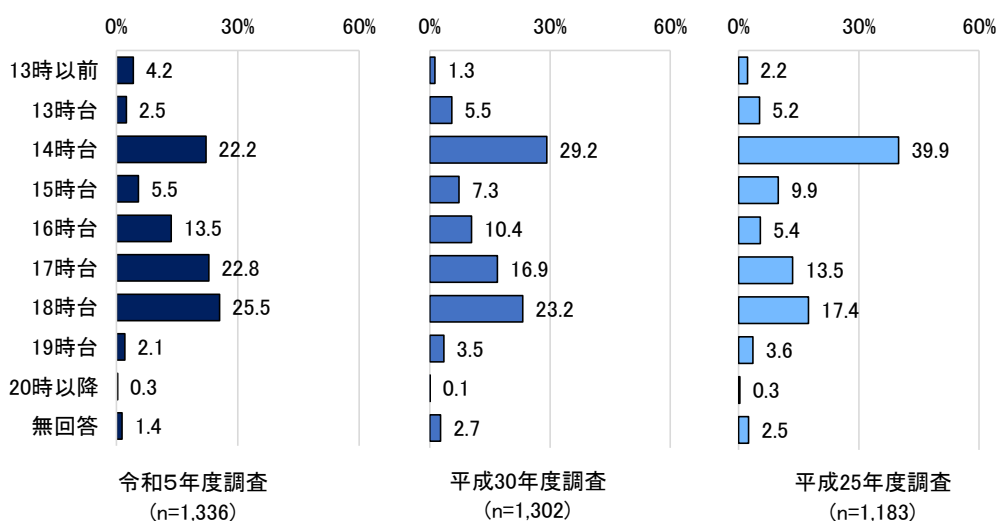
問 13 で「利用している」と回答した方に対し、平日に定期的に利用している教育・保育の事業の開始時刻をたずねたところ、「9 時台」が最も多く 43.7%、次いで「8 時台」が 36.8%、「7 時台」が 14.4%であった。

平日に定期的に利用している教育・保育の事業の開始時刻



問 13 で「利用している」と回答した方に対し、平日に定期的に利用している教育・保育の事業の終了時刻をたずねたところ、「18 時台」が最も多く 25.5%、次いで「17 時台」が 22.8%、「14 時台」が 22.2%であった。

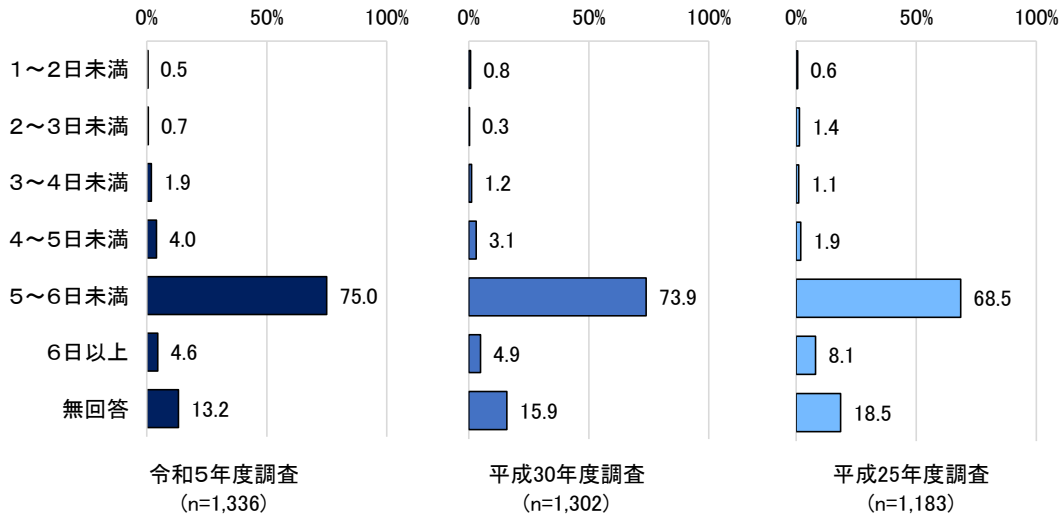
平日に定期的に利用している教育・保育の事業の終了時刻



平日に定期的に教育・保育の事業の希望する利用状況（問 13-2(2)）

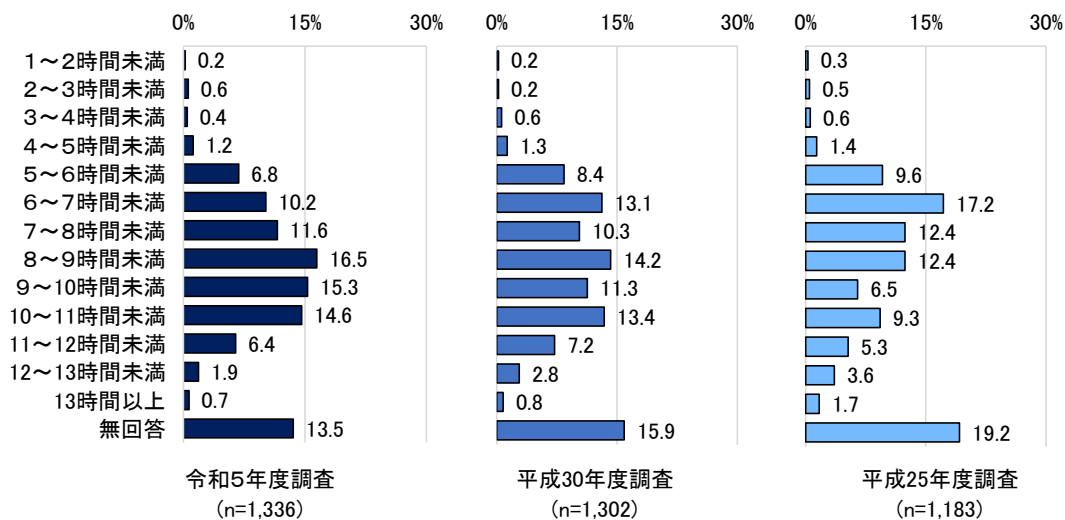
問 13 で「利用している」と回答した方に対し、平日に定期的に利用している教育・保育の事業の1週当たりの希望する日数をたずねたところ、「5～6日未満」が最も多く75.0%であった。

平日に定期的に利用している教育・保育の事業の1週当たりの希望する利用日数



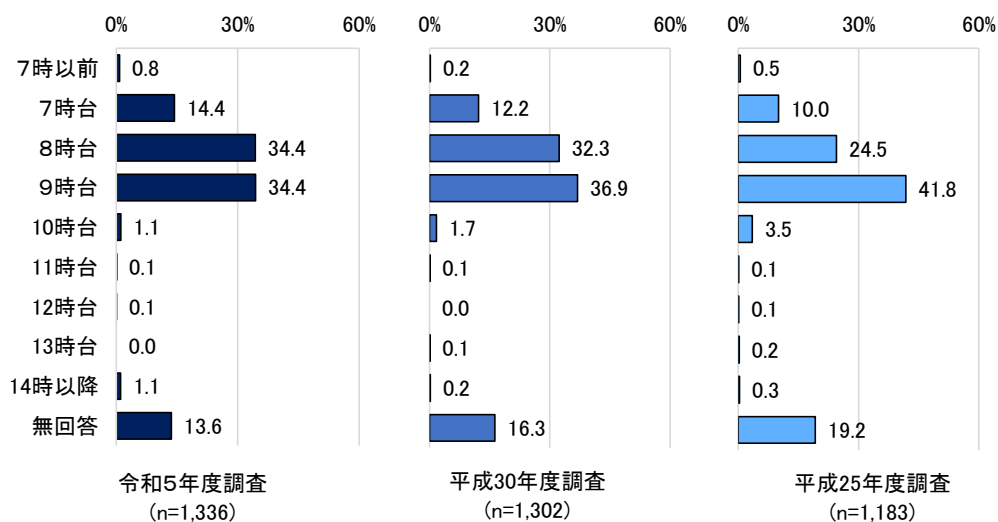
問 13 で「利用している」と回答した方に対し、平日に定期的に利用している教育・保育の事業の1日当たりの希望する時間をたずねたところ、「8～9時間未満」が最も多く16.5%、次いで「9～10時間未満」が15.3%、「10～11時間未満」が14.6%であった。

平日に定期的に利用している教育・保育の事業の1日当たりの希望する利用時間



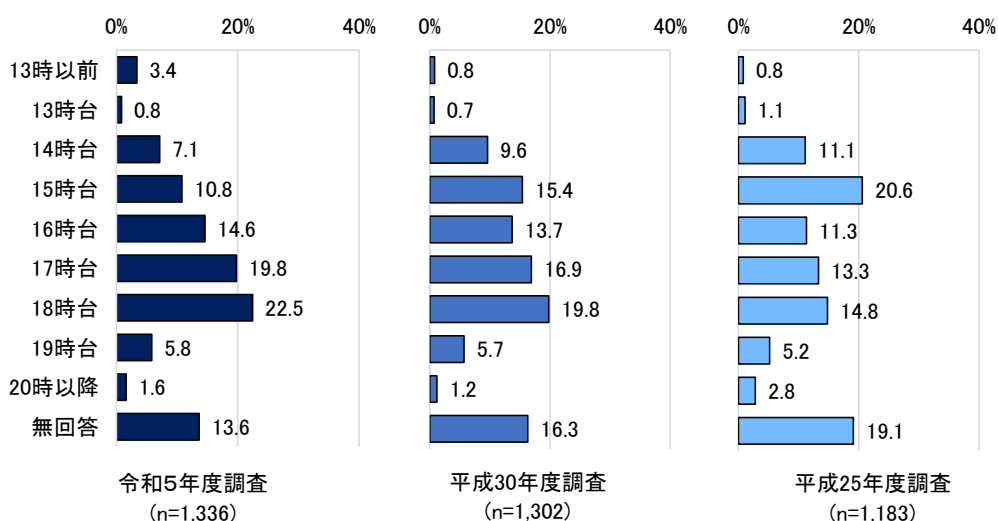
問 13 で「利用している」と回答した方に対し、平日に定期的に利用している教育・保育の事業の希望する開始時刻をたずねたところ、「8時台」と「9時台」が最も多く、それぞれ 34.4%、次いで「7時台」が 14.4%であった。

平日に定期的に利用している教育・保育の事業の希望する開始時刻



問 13 で「利用している」と回答した方に対し、平日に定期的に利用している教育・保育の事業の希望する終了時刻をたずねたところ、「18時台」が最も多く 22.5%、次いで「17時台」が 19.8%、「16時台」が 14.6%であった。

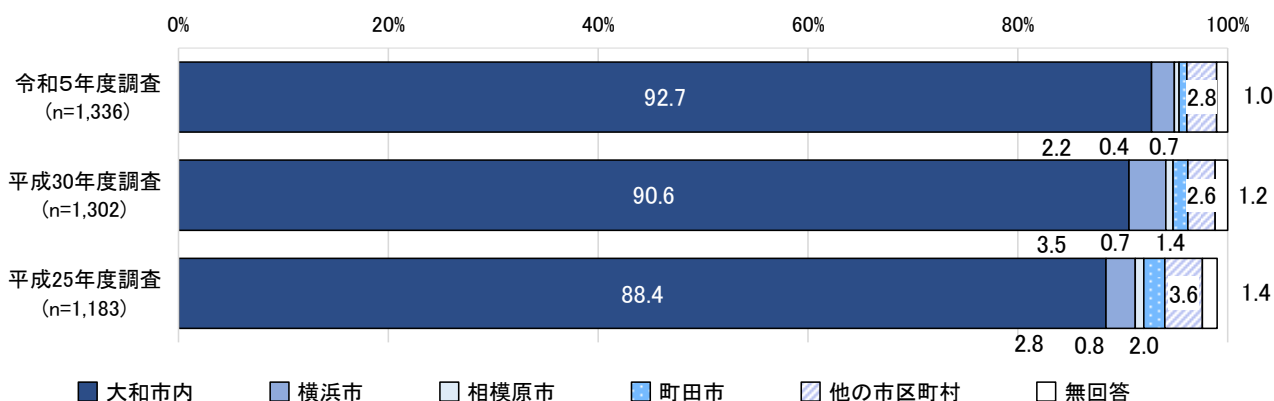
平日に定期的に利用している教育・保育の事業の希望する終了時刻



現在、定期的に利用している教育・保育事業の実施場所（問 13-3）

問 13 で「利用している」と回答した方に対し、現在、定期的にご利用している教育・保育事業の実施場所についてたずねたところ、「大和市内」が最も多く 92.7%、次いで「他の市区町村（相模原市、町田市含む）」が 3.9%、「横浜市」が 2.2%であった。

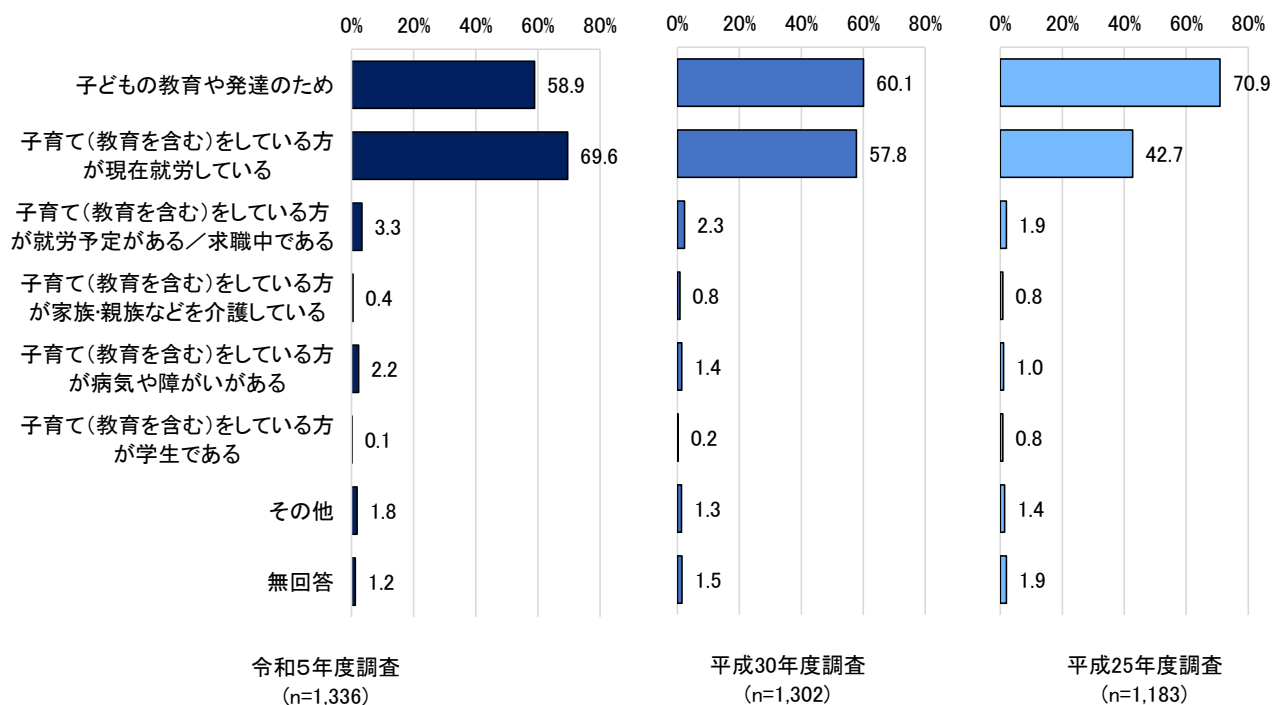
現在、定期的にご利用している教育・保育事業の実施場所



平日に定期的な教育・保育の事業を利用している理由（問 13-4、複数回答）

問 13 で「利用している」と回答した方に対し、平日に定期的な教育・保育の事業を利用している理由についてたずねたところ、「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が最も多く 69.6%、次いで「子どもの教育や発達のため」が 58.9%、「子育て（教育を含む）をしている方が就労予定がある／求職中である」が 3.3%であった。

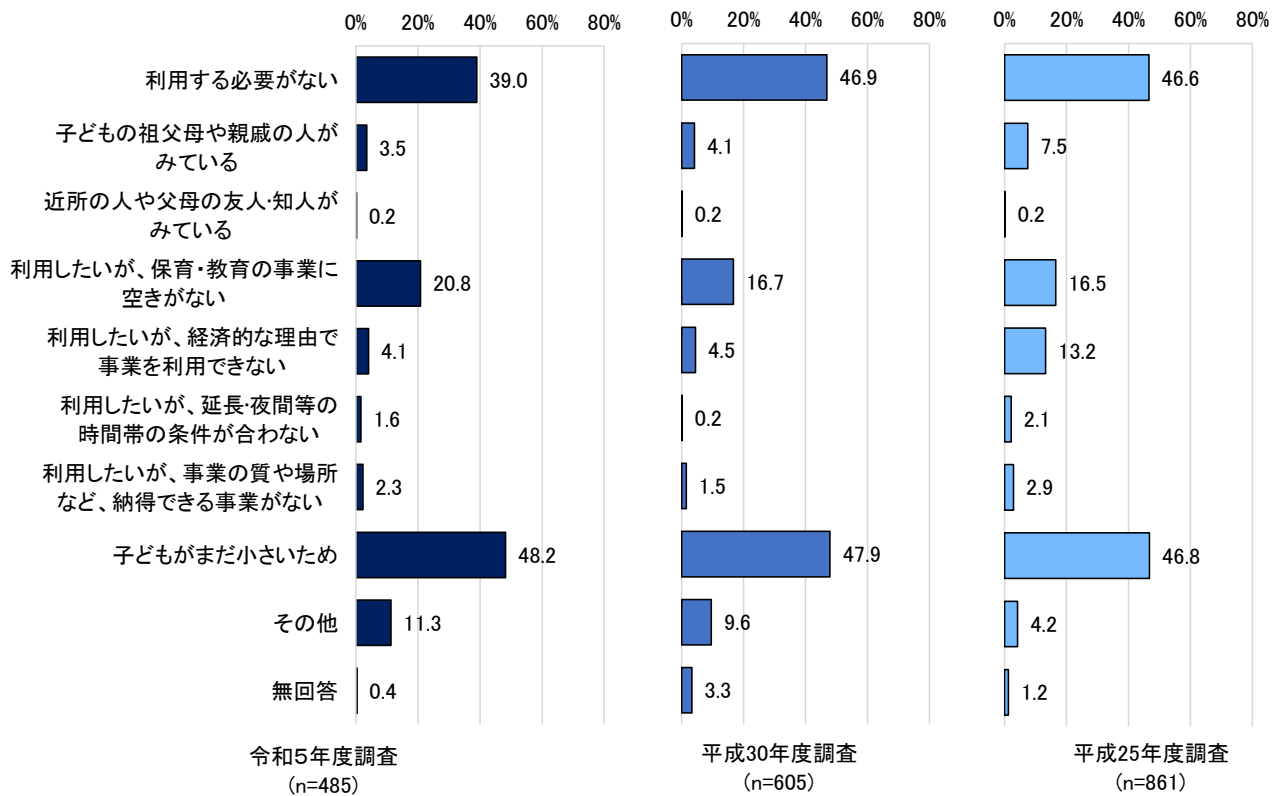
平日に定期的な教育・保育の事業を利用している理由



平日に定期的に教育・保育の事業を利用していない理由（問 13-5、複数回答）

問 13 で「利用していない」と回答した方に対し、その理由をたずねたところ、「子どもがまだ小さいため」が最も多く 48.2%、次いで「利用する必要がない」が 39.0%であった。なお、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」という回答は 20.8%であった。

平日に定期的に教育・保育の事業を利用していない理由

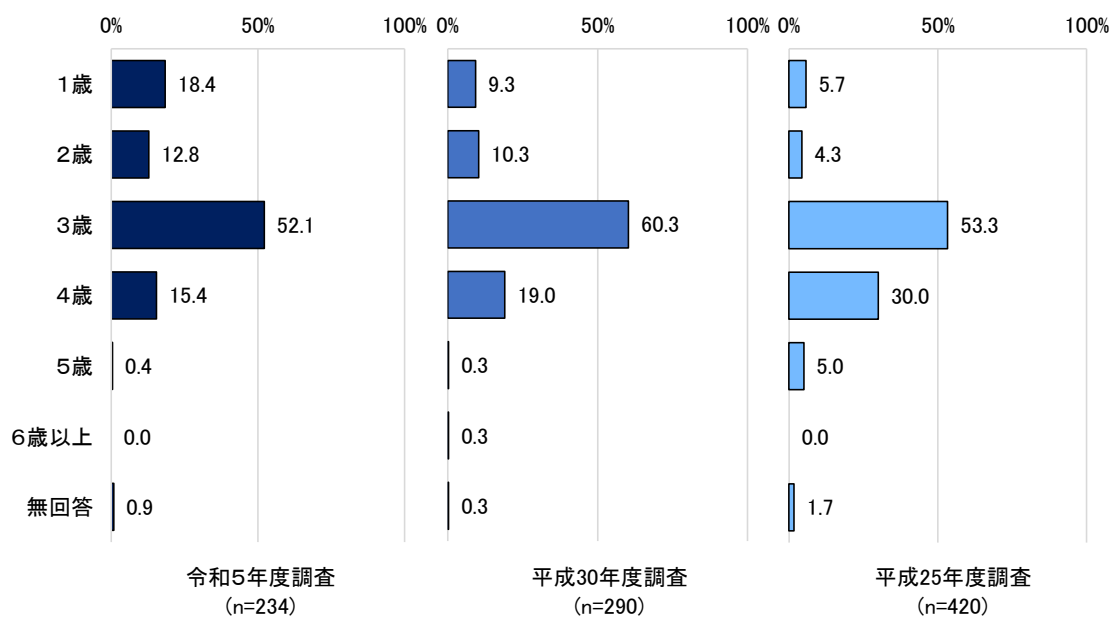


※「利用する必要がない」は、子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどが理由である。

①教育・保育の事業を利用しようと考えている時期（子どもの年齢）

問13で「利用していない」と回答した方で、「子どもがまだ小さいため」と回答した方に対し、何歳くらいになったら利用したいと考えているかについてたずねたところ、「3歳」が最も多く52.1%、次いで「1歳」が18.4%、「4歳」が15.4%であった。

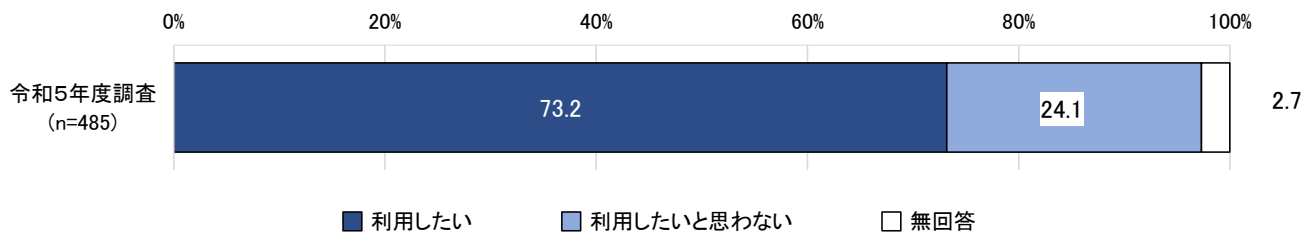
教育・保育の事業を利用しようと考えている時期（子どもの年齢）



**国が検討している「こども誰でも通園制度(仮称)」*が創設された場合、
事業を希望する利用の有無(問13-6)**

問13で「利用していない」と回答した方に対し、国が検討している「こども誰でも通園制度(仮称)」*が創設された場合、事業の利用希望についてたずねたところ、「利用したい」が73.2%、「利用したいと思わない」が24.1%であった。

「こども誰でも通園制度(仮称)」の利用希望の有無

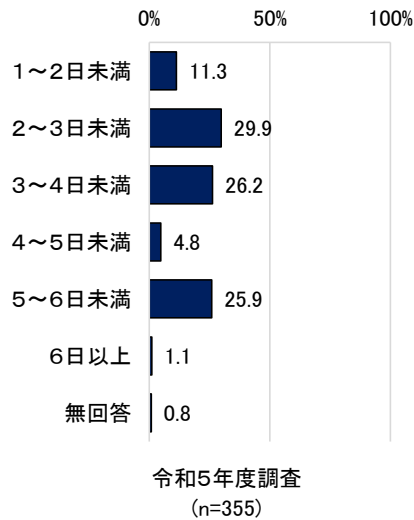


* 「こども誰でも通園制度(仮称)―普段、保育所や幼稚園等を利用していない未就学園児を、月一定時間までの利用枠の中で、就労要件を問わず、保育所等で定期的に預かることで、時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園制度

「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用希望状況

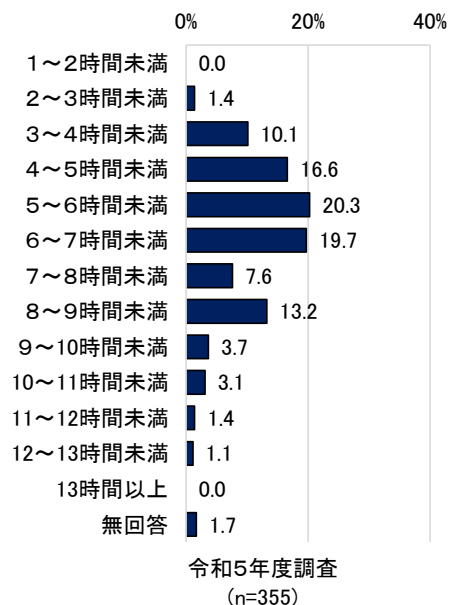
問 13-6 で「利用したい」と回答した方に対し、「こども誰でも通園制度（仮称）」の1週当たりの希望する利用日数をたずねたところ、「2～3日未満」が最も多く 29.9%、次いで「3～4日未満」が 26.2%、「5～6日未満」が 25.9%であった。

「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、1週当たりの希望する利用日数



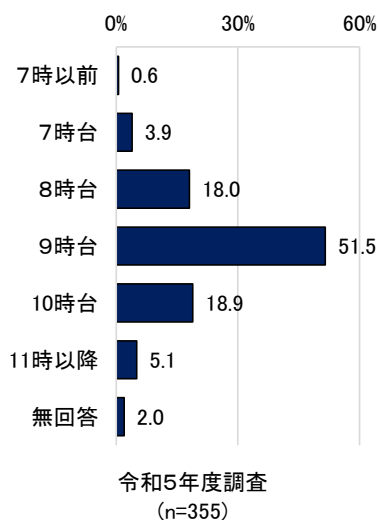
問 13-6 で「利用したい」と回答した方に対し、「こども誰でも通園制度（仮称）」の1日当たりの希望する利用時間をたずねたところ、「5～6時間未満」が最も多く 20.3%、次いで「6～7時間未満」が 19.7%、「4～5時間未満」が 16.6%であった。

「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、1日当たりの希望する利用時間



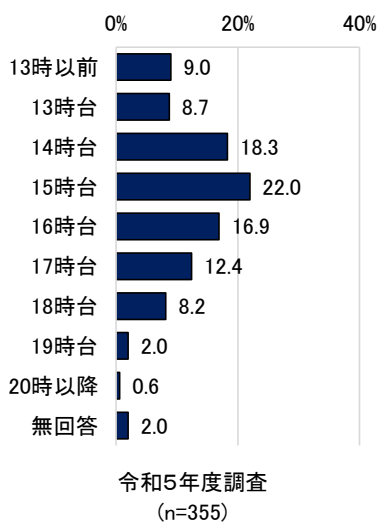
問 13-6 で「利用したい」と回答した方に対し、「こども誰でも通園制度（仮称）」の希望する開始時刻をたずねたところ、「9 時台」が最も多く 51.5%、次いで「10 時台」が 18.9%、「8 時台」が 18.0%であった。

「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、希望する開始時刻



問 13-6 で「利用したい」と回答した方に対し、「こども誰でも通園制度（仮称）」の希望する終了時刻をたずねたところ、「15 時台」が最も多く 22.0%、次いで「14 時台」が 18.3%、「16 時台」が 16.9%であった。

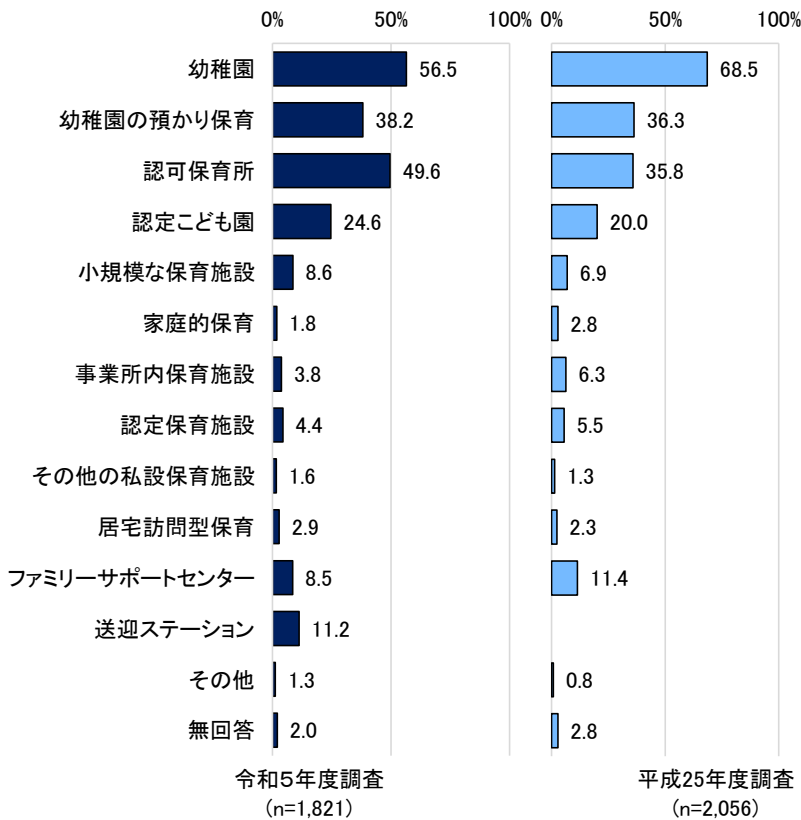
「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、終了時刻



平日の教育・保育の事業として「定期的に」利用したいと考える事業（問 14、複数回答）

現在、利用している、利用していないにかかわらず、調査対象児童の平日の教育・保育の事業として「定期的に」利用したいと考える事業についてたずねたところ、「幼稚園」が最も多く 56.5%、次いで「認可保育所」が 49.6%、「幼稚園の預かり保育」が 38.2%であった。

平日の教育・保育の事業として「定期的に」利用したいと考える事業



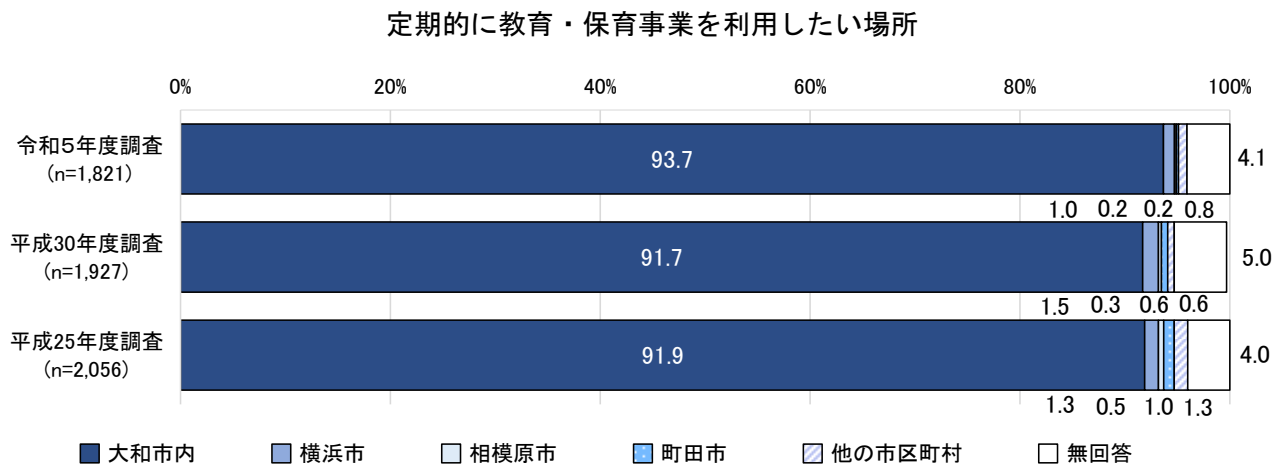
【参考】平成 30 年度調査での類似設問

事業	平成30年度調査 (n=1,927)
幼稚園	69.0
幼稚園の預かり保育	55.5
認可保育所	52.5
認定こども園	33.6
小規模な保育施設	14.7
家庭的保育	9.4
事業所内保育施設	18.7
認定保育施設	18.8
その他の私設保育施設	7.7
居宅訪問型保育	5.2
ファミリーサポートセンター	23.8
送迎ステーション	20.8
その他	1.8
無回答	4.9

※ 平成 30 年度の調査方法は全ての事業に対して、利用希望の有無を問うているもの
令和 5 年度及び平成 25 年度の調査方法は利用したい事業を一覧の中から選択するもの

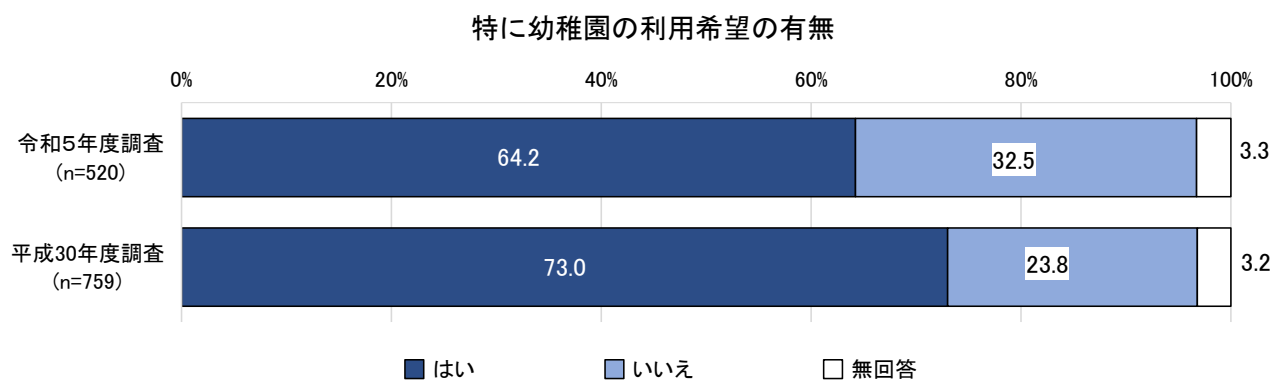
定期的に教育・保育事業を利用したい場所（問 14-1）

定期的に教育・保育事業を利用したい場所は、「大和市内」が最も多く 93.7%、次いで「他の市区町村（相模原市、町田市含む）」が 1.2%、「横浜市」が 1.0%であった。



特に幼稚園の利用希望の有無（問 14-2）

問 14 で「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」で「利用したい」と回答した方のうち、「認可保育所」「認定こども園」「小規模な保育施設」「家庭的保育」「事業所内保育施設」「認定保育施設」「その他の私設保育施設」「居宅訪問型保育」の中で1つでも「利用したい」と回答した方に対し、特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合も含む）の利用を強く希望するかどうかについてたずねたところ、「はい」が64.2%、「いいえ」が32.5%であった。

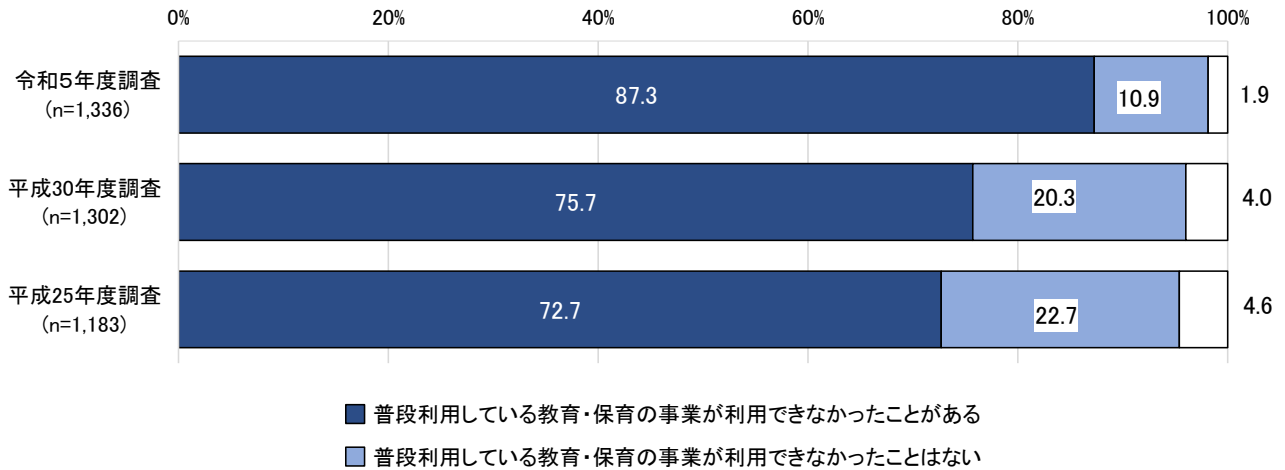


(5) 調査対象児童の病気の際の対応について

病気やけがのために通常の事業が利用できなかったことの有無（問 15）

問 13 で定期的な教育・保育の事業を利用していると回答した方に対し、この1年間に調査対象児童が病気やけがのために通常の事業が利用できなかったことの有無についてたずねたところ、「あった」が87.3%、「なかった」が10.9%であった。

病気やけがのために通常の事業が利用できなかったことの有無

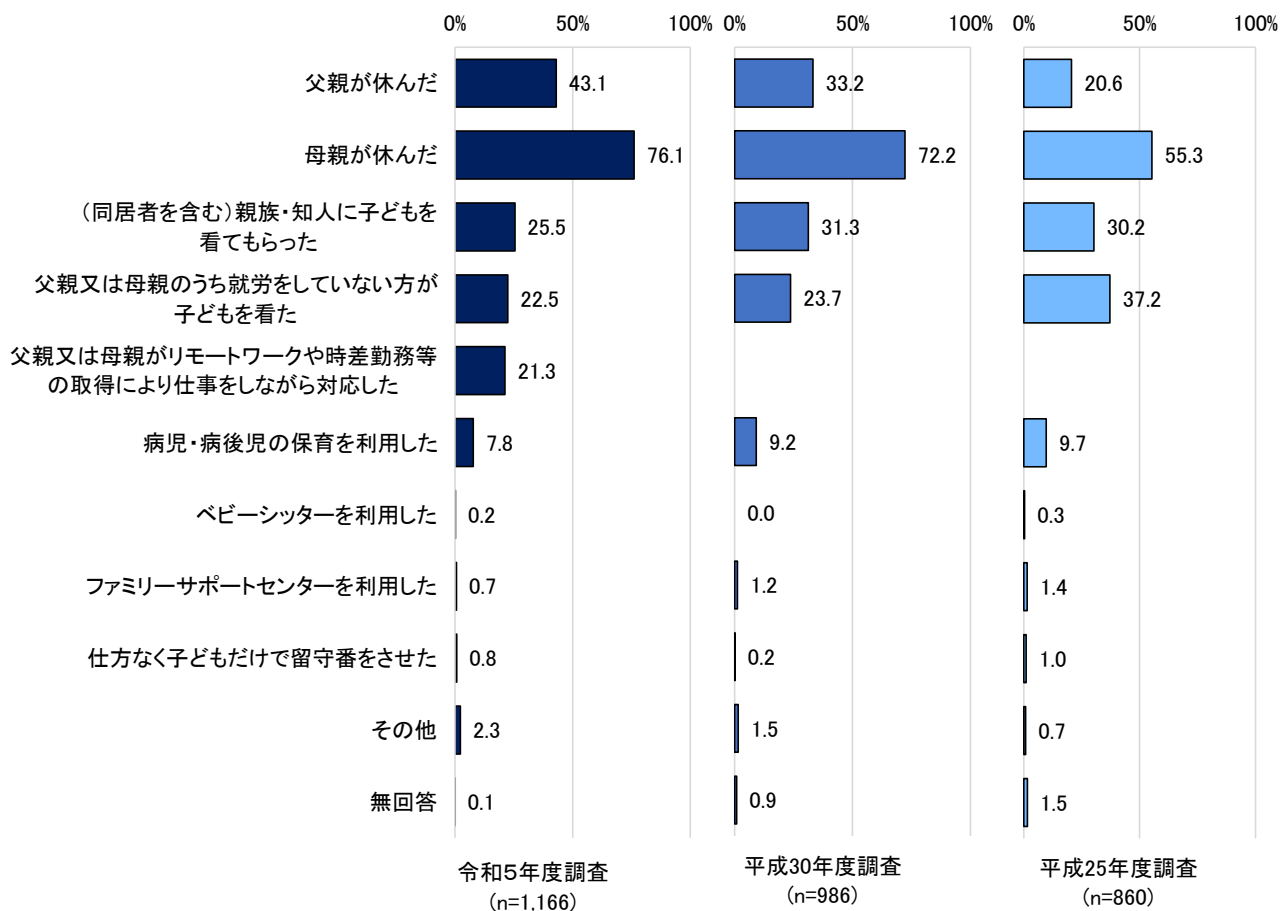


病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の対処方法

(問 15-1、複数回答)

病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の対処方法は、「母親が休んだ」が最も多く 76.1%、次いで「父親が休んだ」が 43.1%、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもを看てもらった」が 25.5%であった。

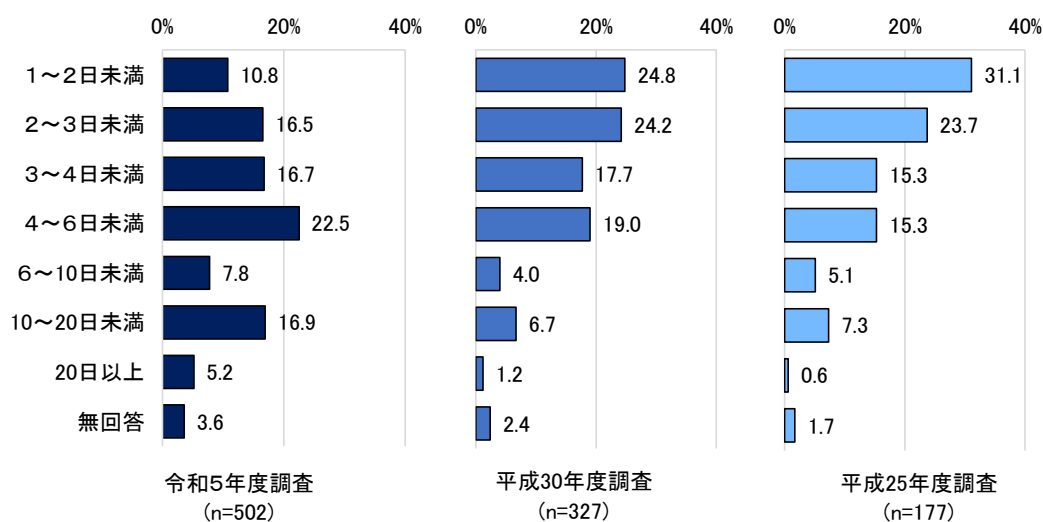
病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の対処方法



①父親が休んだ日数

問 15 で「普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことがある」と回答した方で、病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できずに父親が休んだ日数（年間）についてたずねたところ、「4～6日未満」が最も多く 22.5%、次いで「10～20日未満」が 16.9%、「3～4日未満」が 16.7%であった。

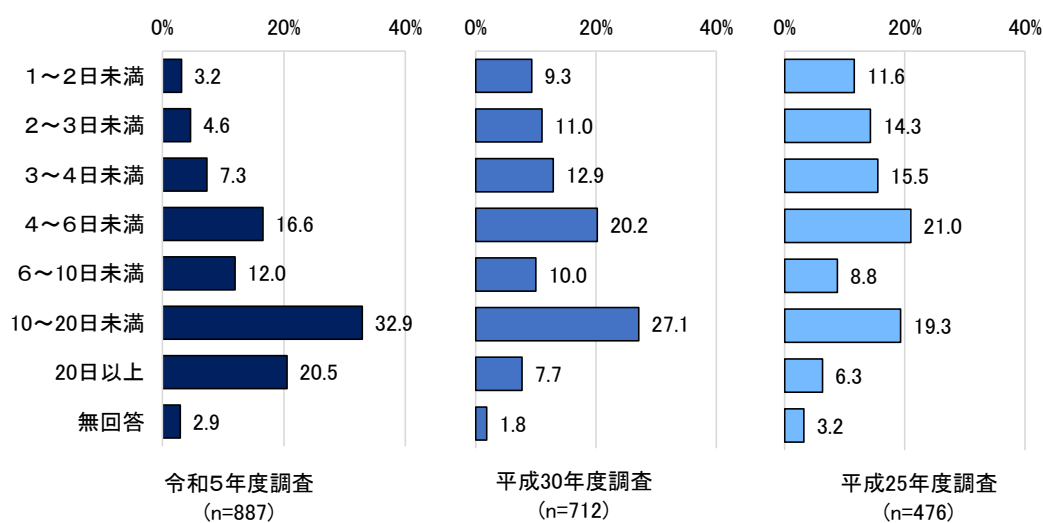
父親が休んだ日数（年間）



②母親が休んだ日数

問 15 で「普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことがある」と回答した方で、病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できずに母親が休んだ日数（年間）についてたずねたところ、「10～20日未満」が最も多く 32.9%、次いで「20日以上」が 20.5%、「4～6日未満」が 16.6%であった。

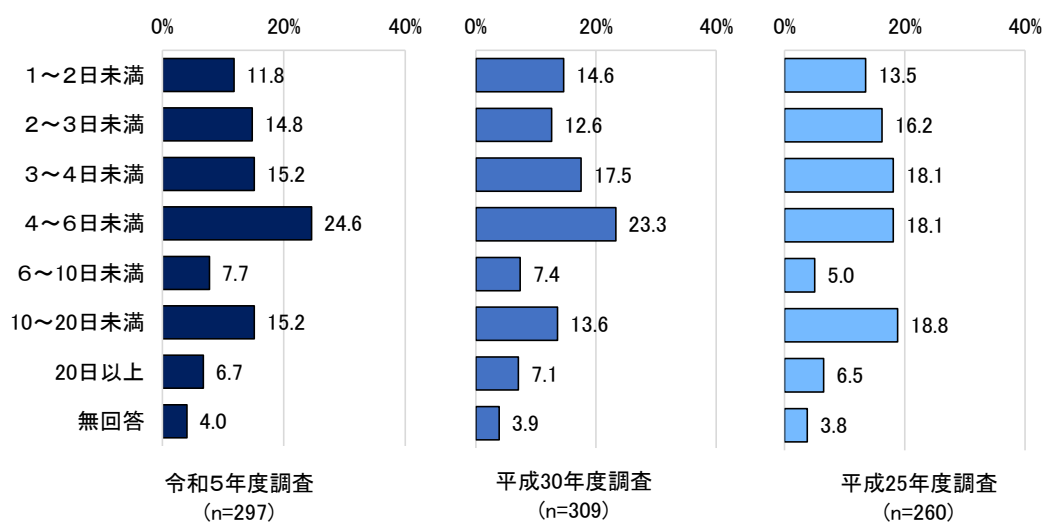
母親が休んだ日数（年間）



③（同居者を含む）親族・知人に子どもを看てもらった日数

問15で「普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことがある」と回答した方で、病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できずに（同居者を含む）親族・知人に子どもを看てもらった日数（年間）についてたずねたところ、「4～6日未満」が最も多く24.6%、次いで「3～4日未満」、「10～20日未満」が15.2%、「2～3日未満」が14.8%であった。

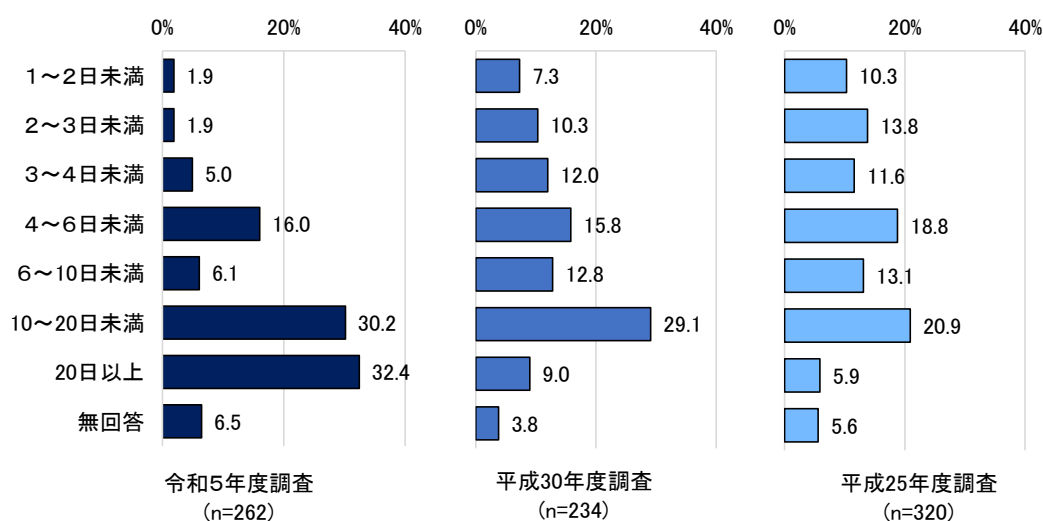
（同居者を含む）親族・知人に子どもを看てもらった日数（年間）



④父親又は母親のうち就労をしていない方が子どもを看た日数

問15で「普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことがある」と回答した方で、病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できずに父親又は母親のうち就労をしていない方が子どもを看た日数（年間）についてたずねたところ、「20日以上」が最も多く32.4%、次いで「10～20日未満」が30.2%、「4～6日未満」が16.0%であった。

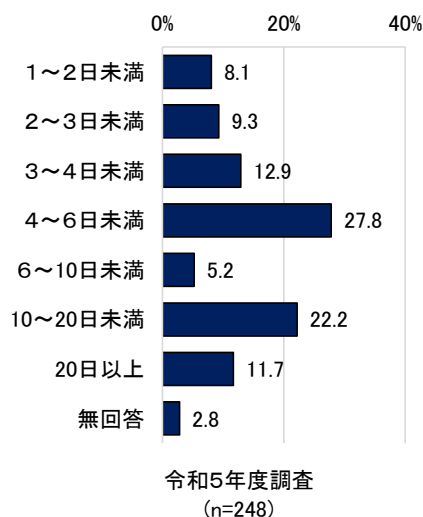
父親又は母親のうち就労をしていない方が子どもを看た日数（年間）



⑤父親又は母親がリモートワークや時差勤務等の取得により仕事をしながら対応した日数

問 15 で「普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことがある」と回答した方で、病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できずに父親又は母親のうち就労をしていない方が子どもを看た日数（年間）についてたずねたところ、「4～6日未満」が最も多く27.8%、次いで「10～20日未満」が22.2%、「3～4日未満」が12.9%であった。

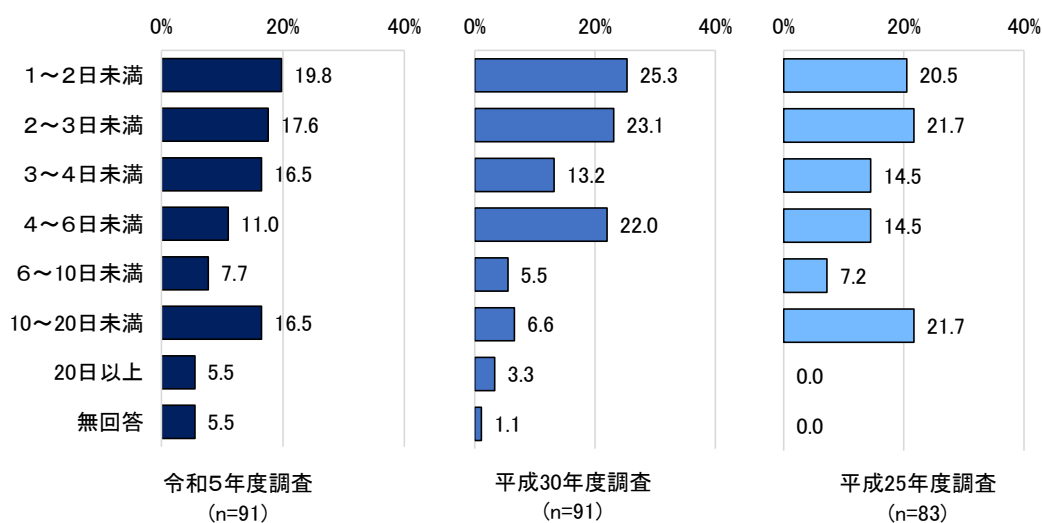
父親又は母親がリモートワークや時差勤務等の取得により仕事をしながら対応した日数（年間）



⑥病児・病後児の保育を利用した日数

問 15 で「普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことがある」と回答した方で、病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できずに病児・病後児の保育を利用した日数（年間）についてたずねたところ、「1～2日未満」が最も多く19.8%、次いで「2～3日未満」が17.6%、「3～4日未満」、「10～20日未満」が16.5%であった。

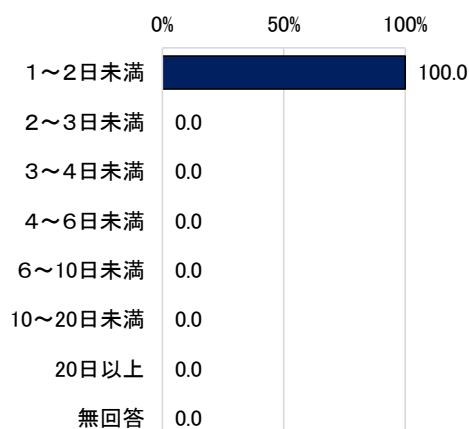
病児・病後児の保育を利用した日数（年間）



⑦ベビーシッターを利用した日数

問 15 で「普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことがある」と回答した方で、病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できずにベビーシッターを利用した日数（年間）についてたずねたところ、「1～2日未満」が2名であった。（平成25年度と平成30年度調査でベビーシッターを利用したと回答した方はいなかった）

ベビーシッターを利用した日数（年間）

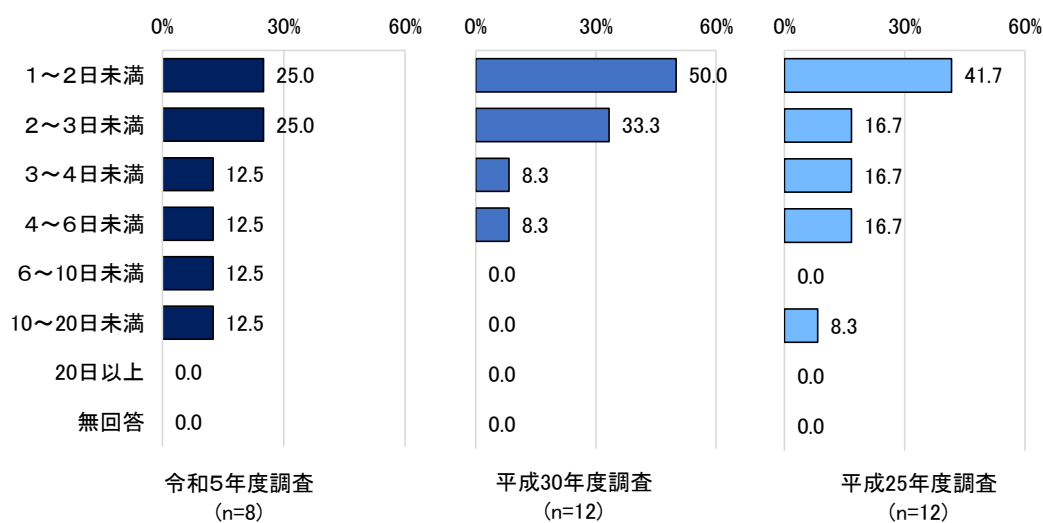


令和5年度調査
(n=2)

⑧ファミリーサポートセンターを利用した日数

問 15 で「普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことがある」と回答した方で、病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できずにファミリーサポートセンターを利用した日数（年間）についてたずねたところ、「1～2日未満」、「2～3日未満」がそれぞれ2名ずつ、「3～4日未満」、「4～6日未満」、「6～10日未満」がそれぞれ1名ずつで計8名から回答があった。

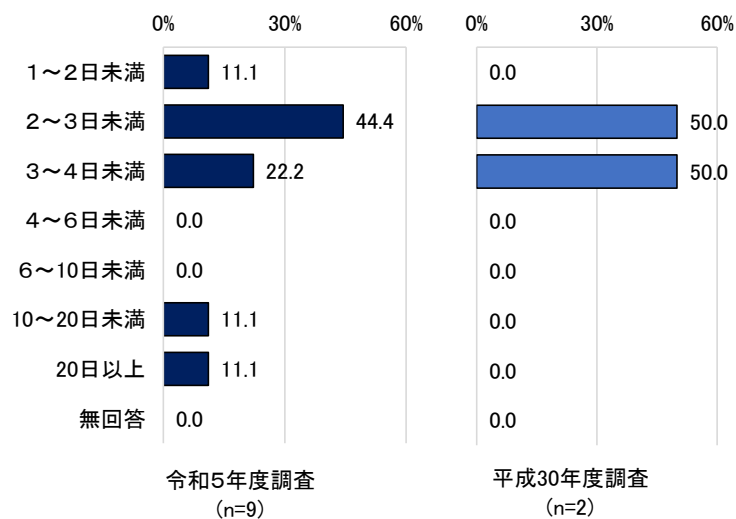
ファミリーサポートセンターを利用した日数（年間）



⑨仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数

問 15 で「普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことがある」と回答した方で、病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できずに仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数（年間）についてたずねたところ、「2～3日未満」が4名、「3～4日未満」が2名、「1～2日未満」、「10～20日未満」、「20日以上」がそれぞれ1名ずつで計9名から回答があった。

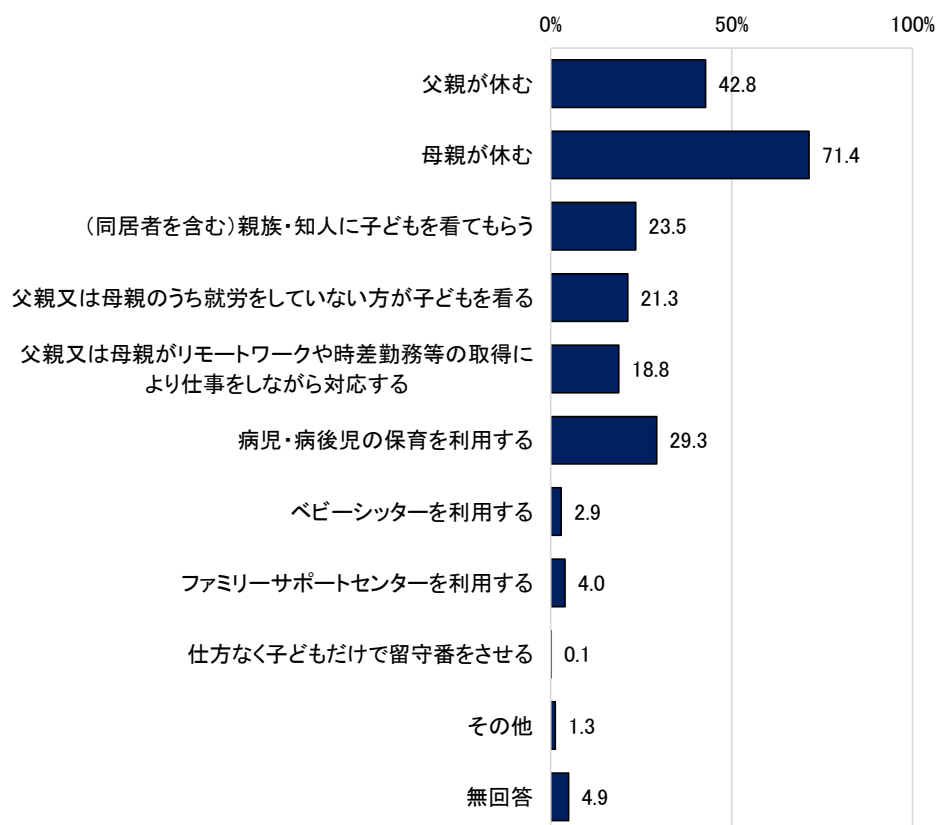
仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数（年間）



病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に対処したい方法(問 15-2、複数回答)

病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に対処したい方法は、「母親が休む」が最も多く 71.4%、次いで「父親が休む」が 42.8%、「病児・病後児の保育を利用する」が 29.3%であった。

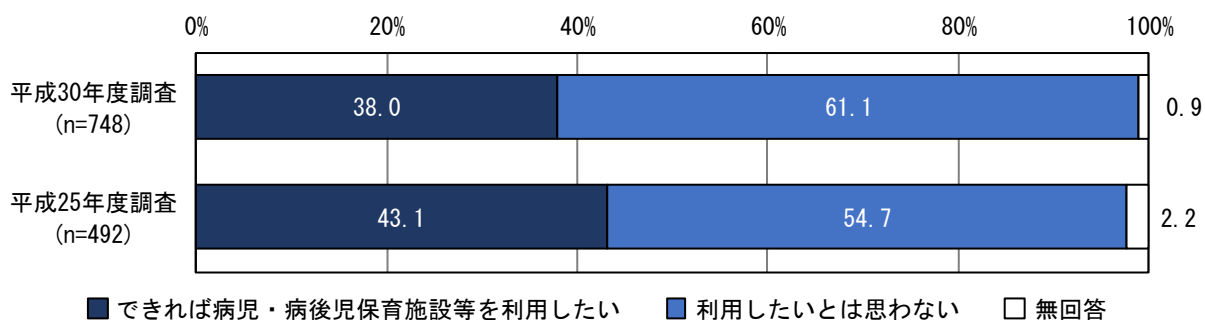
病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に対処したい方法



令和5年度調査
(n=1,336)

【参考】平成25年度・平成30年度調査での類似設問

父親又は母親が仕事を休んで対応した場合の病児・病後児のための保育施設等に関する利用意向

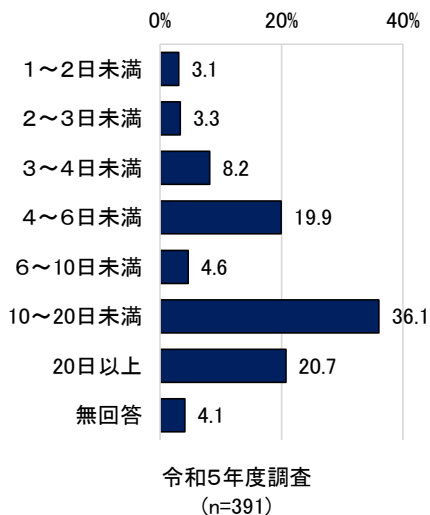


■ できれば病児・病後児保育施設等を利用したい ■ 利用したいとは思わない □ 無回答

①病児・病後児のための保育施設等の利用希望日数

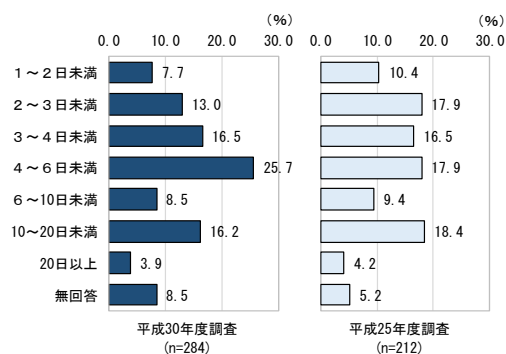
問 15-2 で「病児・病後児の保育を利用する」と回答した方に対し、利用希望日数（年間）についてたずねたところ、「10～20 日未満」が最も多く 36.1%、次いで「20 日以上」が 20.7%、「4～6 日未満」が 19.9%であった。

病児・病後児のための保育施設等の利用希望日数（年間）



【参考】平成 25 年度・平成 30 年度調査での類似設問

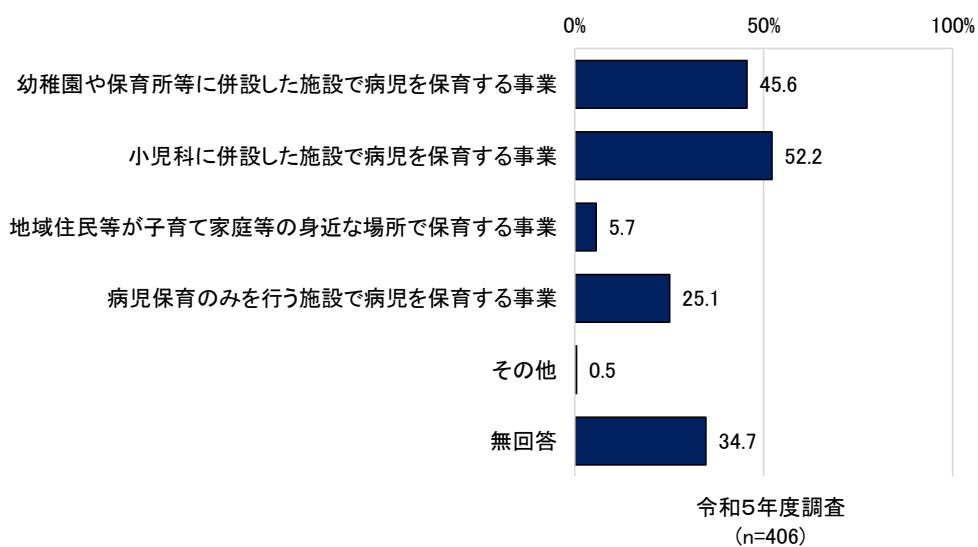
父親又は母親が仕事を休んで対応した場合の
病児・病後児のための保育施設等の利用希望日数



病気やけがの子どもを預ける場合に、望ましい事業形態（問 15-3、複数回答）

問 15-1 で「病児・病後児保育を利用した」と回答した方、あるいは問 15-1 で「病児・病後児保育を利用する」と回答した方に対し、子どもを預ける場合にいずれの事業形態が望ましいかについてたずねたところ、「小児科に併設した施設で病児を保育する事業」が最も多く 52.2%、次いで「幼稚園や保育所等に併設した施設で病児を保育する事業」が 45.6%、「病児保育のみを行う施設で病児を保育する事業」が 25.1%であった。

病気やけがの子どもを預ける場合に、望ましい事業形態

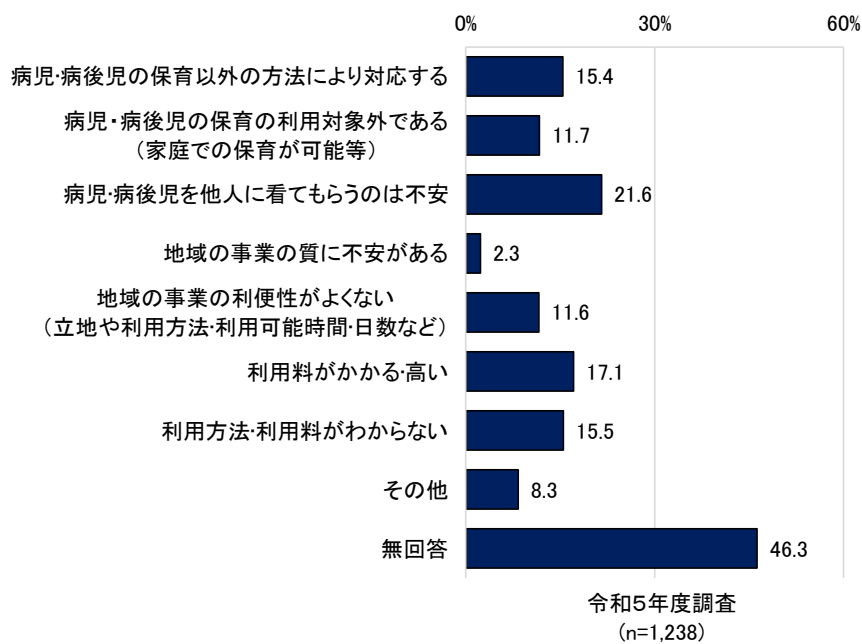


※地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業とは、ファミリーサポートセンター等である。

事業を利用したいと思わない理由（問 15-4、複数回答）

問 15-1 で「病児・病後児の保育を利用した」あるいは問 15-2 で「病児・病後児の保育を利用する」に○をつけなかった方に対し、その理由についてたずねたところ、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が最も多く 21.6%、次いで「利用料がかかる・高い」が 17.1%、「利用方法・利用料がわからない」が 15.5%、「病児・病後児の保育以外の方法により対応する」が 15.4%であった。

事業を利用したいと思わない理由

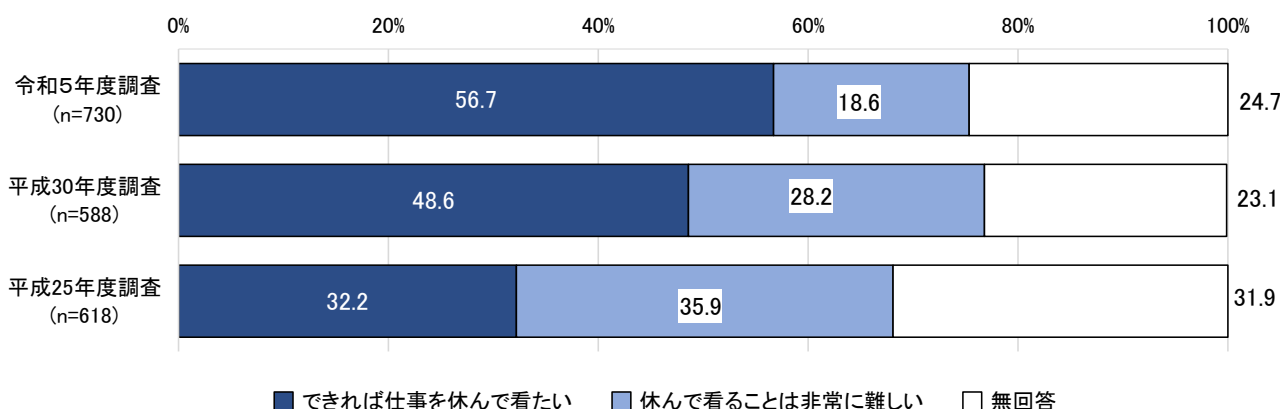


子どもが病気やけがの際の「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」という意向の有無

(問 15-5)

問 15-1 でこの1年間に「父親が休んだ」「母親が休んだ」以外の対処方法を行った方に対し、子どもが病気やけがで通常の教育・保育事業が受けられなかった際に、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思ったかについてたずねたところ、「できれば仕事を休んで看たい」が 56.7%、「休んで看することは非常に難しい」が 18.6%であった。

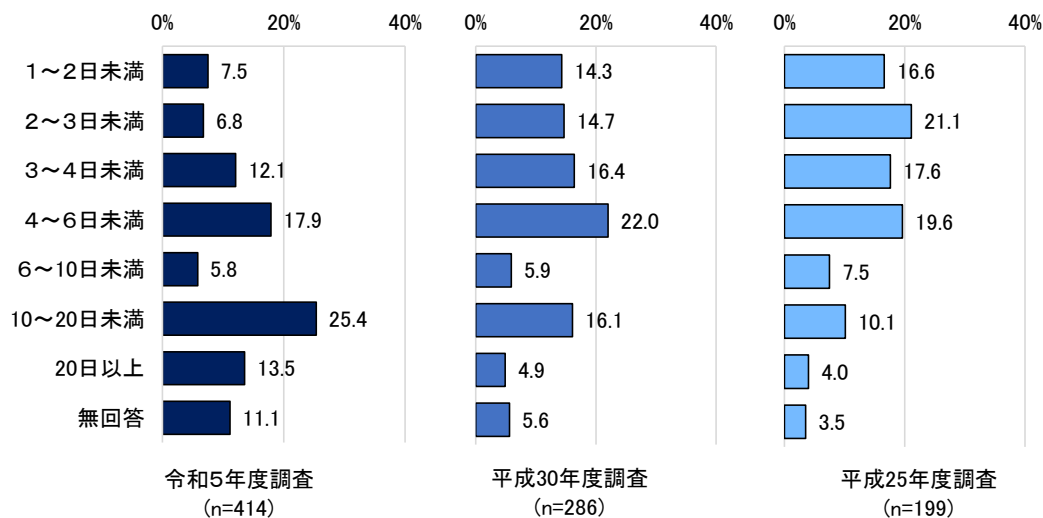
子どもが病気やけがの際の「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」という意向の有無



① できれば仕事を休んで看たいと思った日数

問 15-5 で「できれば仕事を休んで看たい」と回答した方に対し、仕事を休んで看たかった日数（年間）についてたずねたところ、「10～20日未満」が最も多く 25.4%、次いで「4～6日未満」が 17.9%、「20日以上」が 13.5%であった。

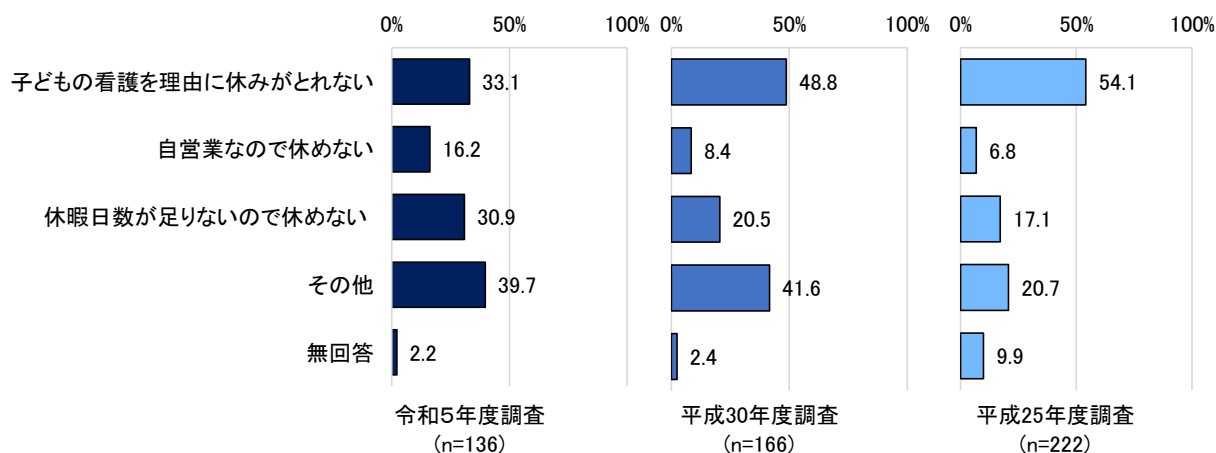
できれば仕事を休んで看たいと思った日数（年間）



休んで看ることが難しいと思う理由（問 15-6、複数回答）

問 15-5 で「休んで看ことは非常に難しい」と回答した方に対し、休んで看ることが難しいと思う理由についてたずねたところ、「その他」を除き「子どもの看護を理由に休みがとれない」が最も多く 33.1%、次いで「休暇日数が足りないので休めない」が 30.9%、「自営業なので休めない」が 16.2%であった。また、「その他」では、「仕事に支障が出る、多忙」、「代わりがいない、人手不足」、「見る人（母親、父親）がいるから」、「休みがとりにくい風土」、「経済的な理由」などの回答があった。

休んで看ることが難しいと思う理由



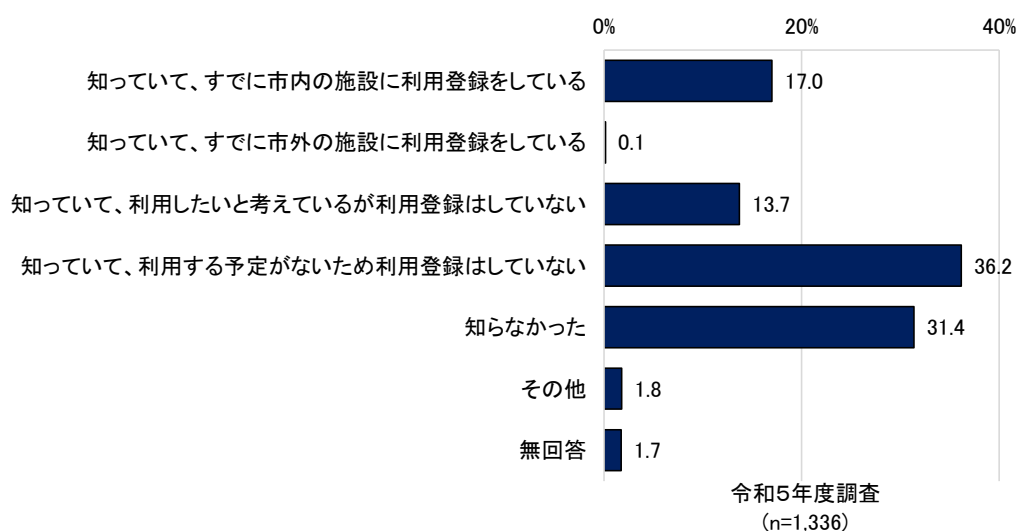
その他記述

意見	件数
仕事に支障が出る、多忙	13
代わりがいない、人手不足	10
見る人(母親、父親)がいるから	9
休みがとりにくい風土	8
経済的な理由	8
罪悪感がある、迷惑になる	4
休暇が足りない	3
リモートで対応できる	1
その他	2
合計	58

大和市内に病児保育施設があること、大和市に在住する方が利用できる市外の病児保育施設があることの認知度と登録について（問 16、複数回答）

大和市内に病児保育施設があること、大和市に在住する方が利用できる市外（厚木市、海老名市、綾瀬市、座間市）の病児保育施設があることを知っているかについてたずねたところ、「知っていて、利用する予定がないため利用登録はしていない」が最も多く 36.2%、次いで「知らなかった」が 31.4%、「知っていて、すでに市内の施設に利用登録をしている」が 17.0%、「知っていて、利用したいと考えているが利用登録はしていない」が 13.7%であった。

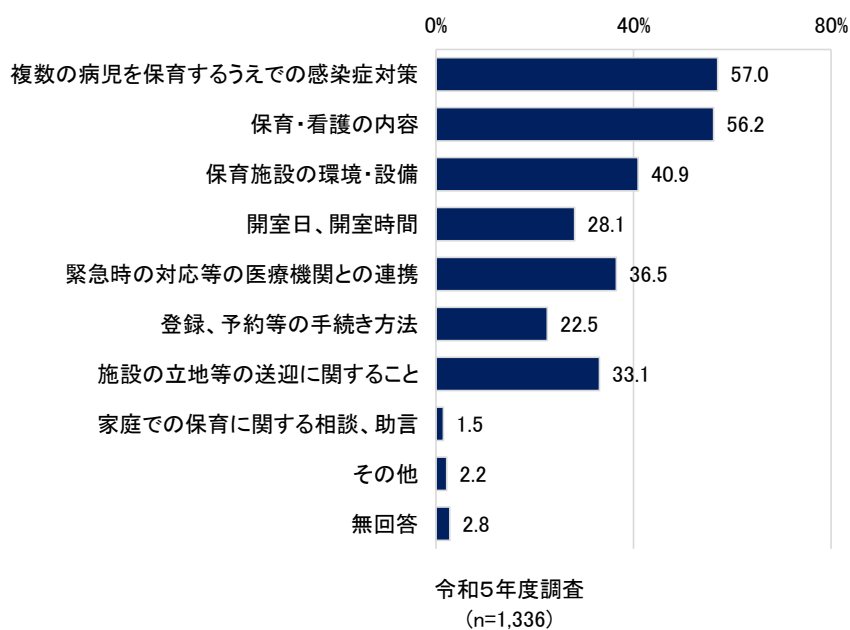
大和市内に病児保育施設があること、大和市に在住する方が利用できる市外の病児保育施設があることの認知度と登録について



病児保育施設を利用する場合に、最も重視する事項（問 17、複数回答（〇は3つ））

病児保育施設を利用する場合に、最も重視する事項についてたずねたところ、「複数の病児を保育するうえでの感染症対策」が最も多く 57.0%、次いで「保育・看護の内容」が 56.2%、「保育施設的环境・設備」が 40.9%であった。

病児保育施設を利用する場合に、最も重視する事項

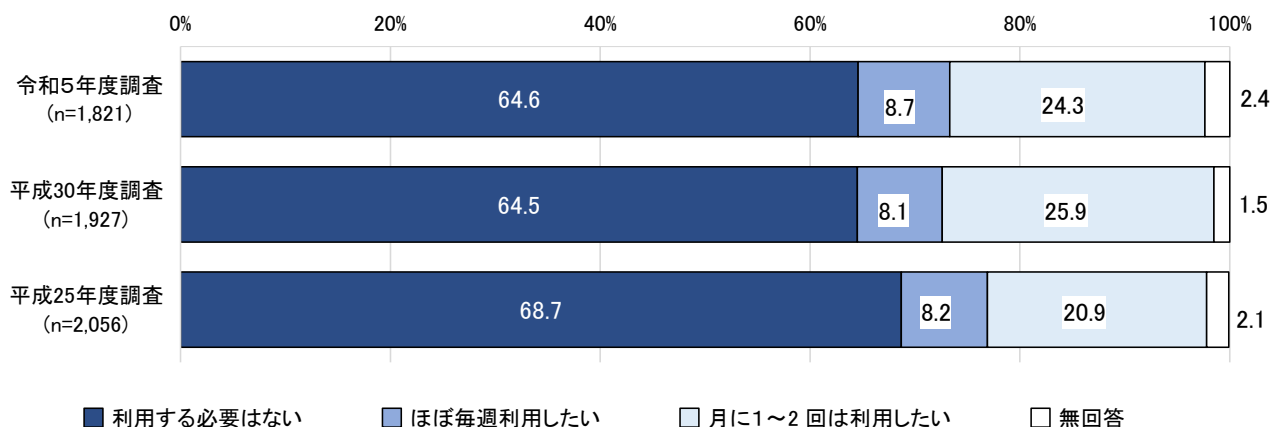


(6) 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

土曜日の定期的な教育・保育の事業の利用希望の有無（問 18(1)）

土曜日の定期的な教育・保育の事業の利用希望の有無については、「利用する必要はない」が最も多く64.6%、次いで「月1～2回は利用したい」が24.3%、「ほぼ毎週利用したい」が8.7%であった。

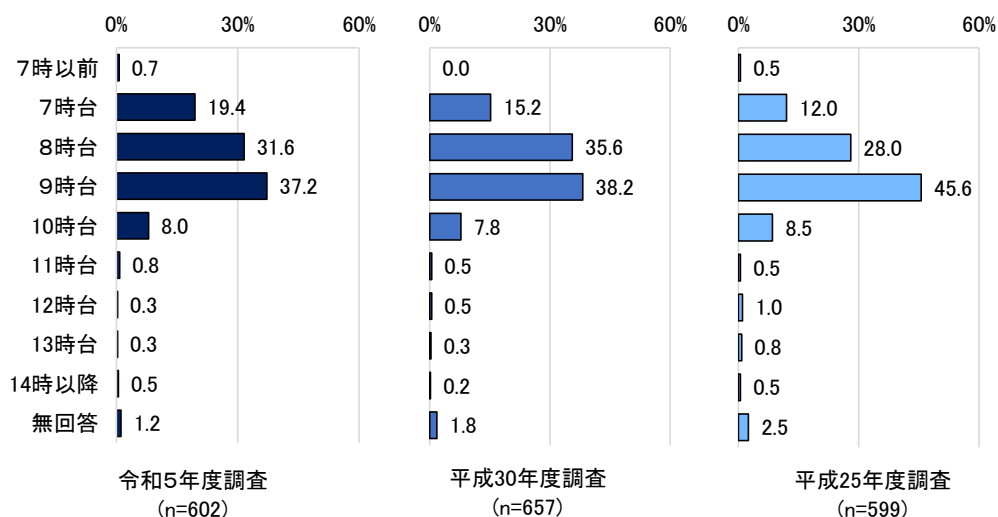
土曜日の定期的な教育・保育の事業の利用希望の有無



①利用したい時間帯（開始時刻）

問 18（1）で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（開始時刻）についてたずねたところ、「9時台」が最も多く37.2%、次いで「8時台」が31.6%、「7時台」が19.4%であった。

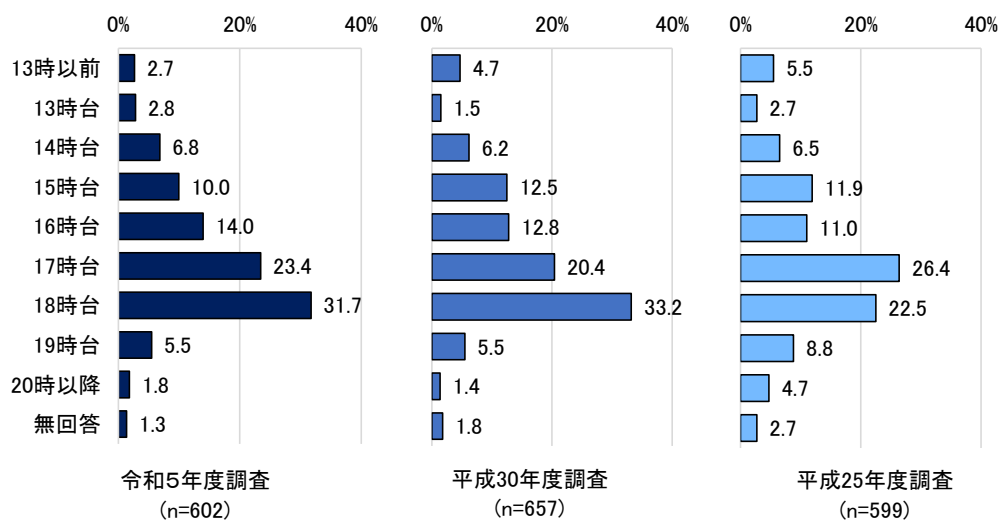
土曜日の定期的な教育・保育の事業を利用したい時間帯（開始時刻）



②利用したい時間帯（終了時刻）

問 18（1）で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（終了時刻）についてたずねたところ、「18 時台」が最も多く 31.7%、次いで「17 時台」が 23.4%、「16 時台」が 14.0%であった。

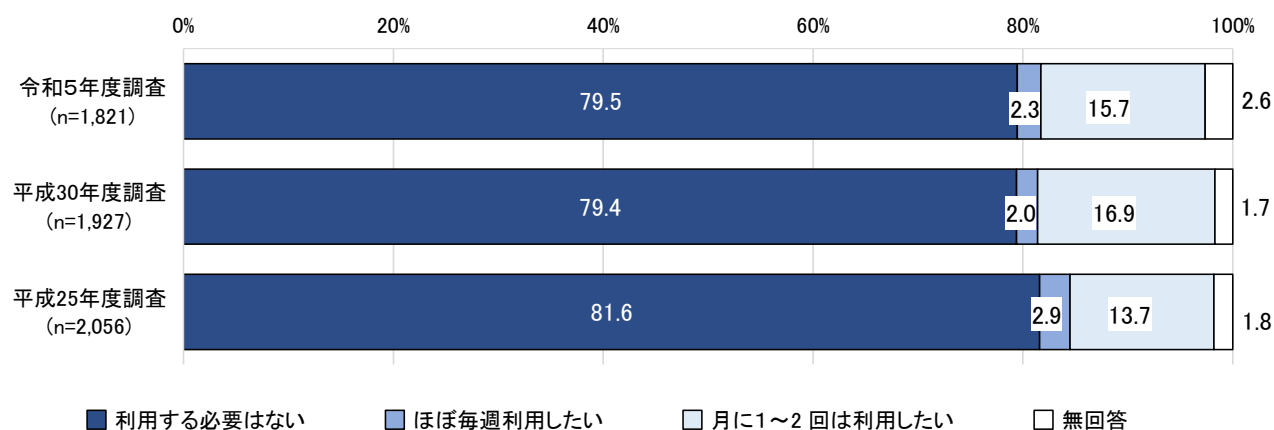
土曜日の定期的な教育・保育の事業を利用したい時間帯（終了時刻）



日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用希望の有無（問 18(2)）

日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用希望の有無については、「利用する必要はない」が最も多く 79.5%、次いで「月に1～2回は利用したい」が 15.7%、「ほぼ毎週利用したい」が 2.3%であった。

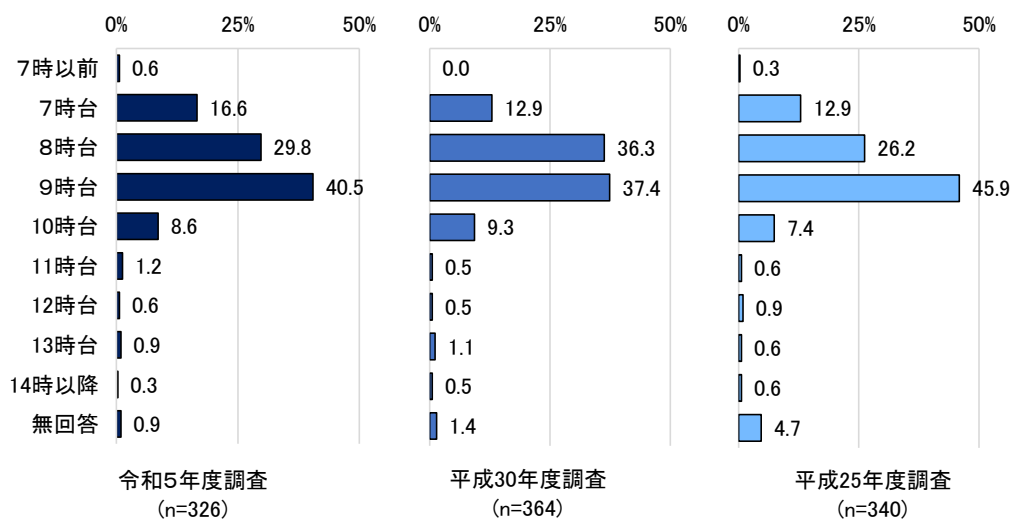
日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用希望の有無



①利用したい時間帯（開始時刻）

問 18（2）で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（開始時刻）についてたずねたところ、「9時台」が最も多く40.5%、次いで「8時台」が29.8%、「7時台」が16.6%であった。

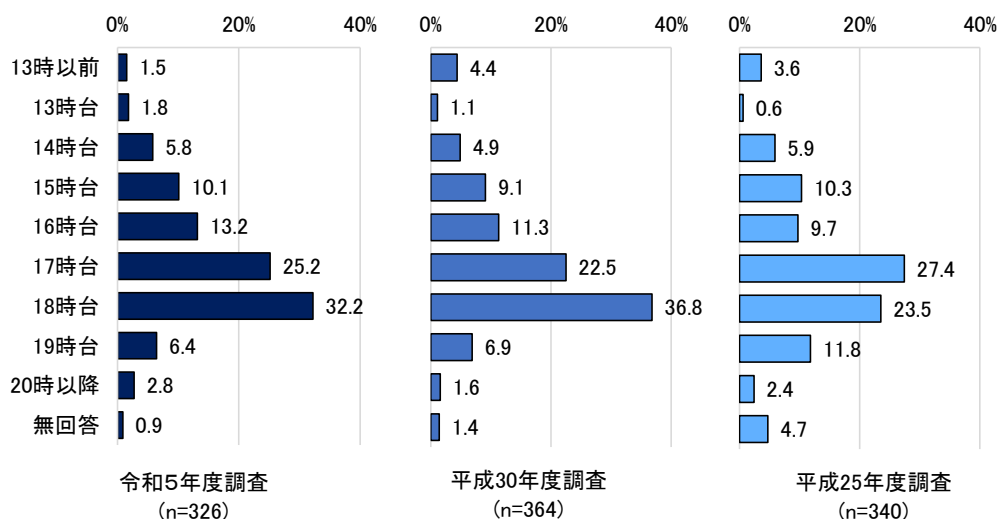
日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業を利用したい時間帯（開始時刻）



②利用したい時間帯（終了時刻）

問 18（2）で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（終了時刻）についてたずねたところ、「18時台」が最も多く32.2%、次いで「17時台」が25.2%、「16時台」が13.2%であった。

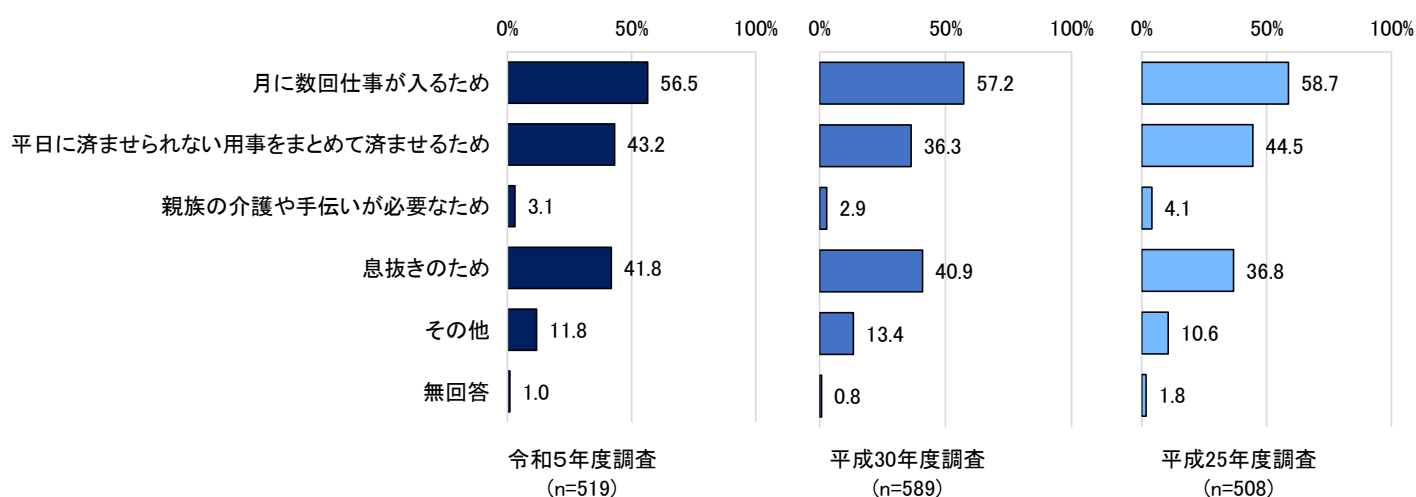
日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業を利用したい時間帯（終了時刻）



土曜・休日の定期的な教育・保育の事業を、たまに利用したい理由（問 18-1、複数回答）

問 18（1）もしくは（2）で「月に1～2回は利用したい」と回答した方に対し、毎週ではなく、たまに利用したい理由についてたずねたところ、「月に数回仕事が入るため」が最も多く 56.5%、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が 43.2%、「息抜きのため」が 41.8%であった。

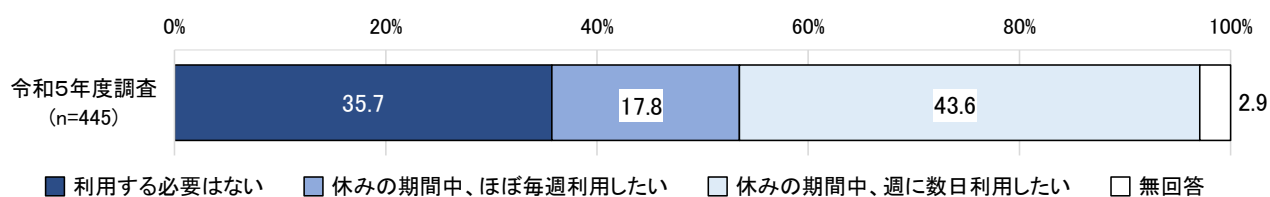
土曜・休日の定期的な教育・保育の事業を、毎週ではなく、たまに利用したい理由



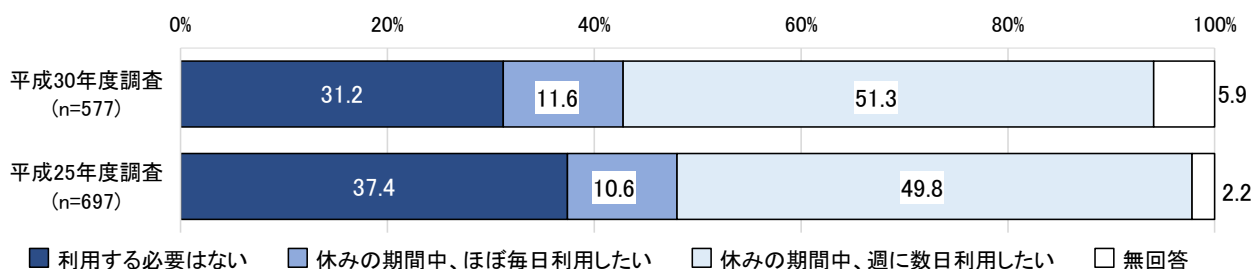
長期休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望の有無（問 19）

幼稚園を利用している方に対し、長期休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望の有無をたずねたところ、「休みの期間中、週に数日利用したい」が最も多く 43.6%、次いで「利用する必要はない」が 35.7%、「休みの期間中、ほぼ毎週利用したい」が 17.8%であった。

長期休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望の有無



【参考】

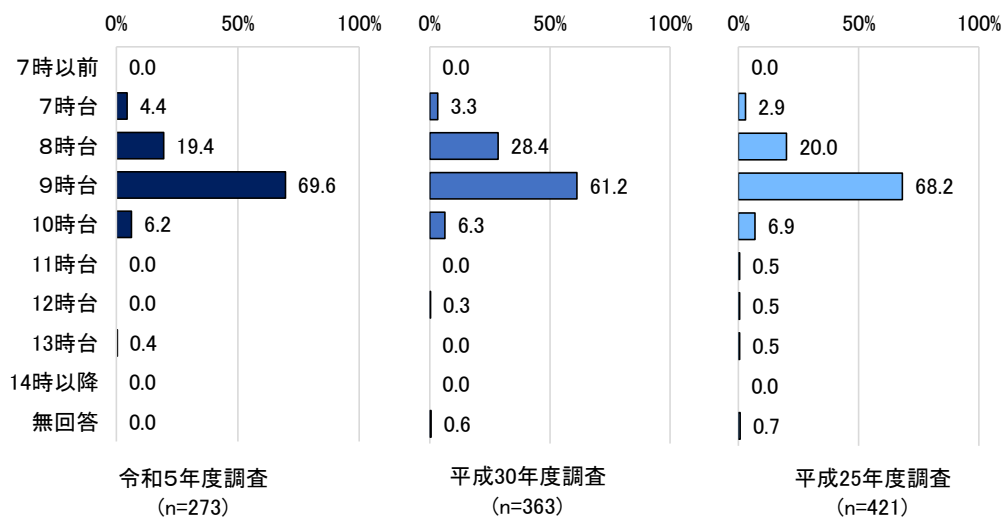


※平成 25 年度調査平成 30 年度調査では、選択肢「休みの期間中、ほぼ毎週利用したい」は「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」

①利用したい時間帯（開始時刻）

問 19 で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（開始時刻）についてたずねたところ、「9 時台」が最も多く 69.6%、次いで「8 時台」が 19.4%、「10 時台」が 6.2%であった。

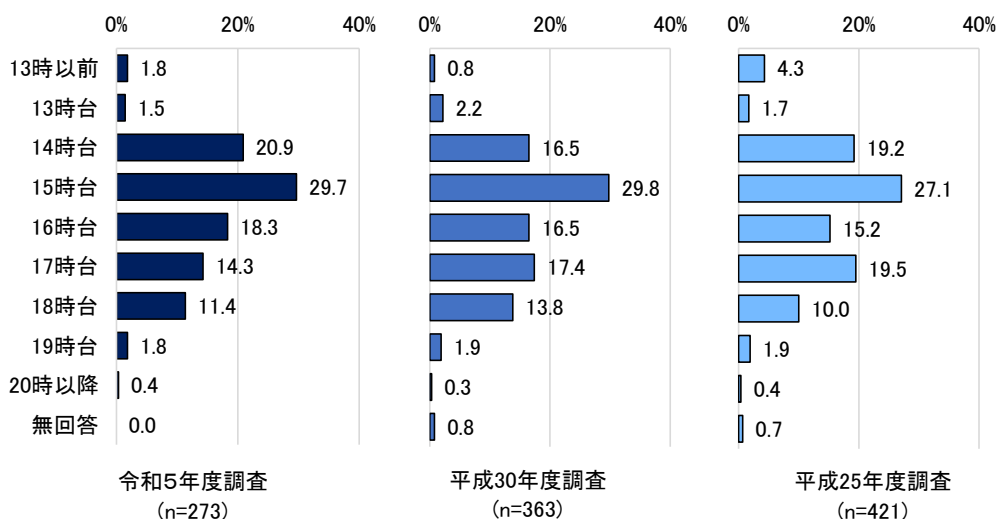
長期休暇期間中の教育・保育の事業を利用したい時間帯（開始時刻）



②利用したい時間帯（終了時刻）

問 19 で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（終了時刻）についてたずねたところ、「15 時台」が最も多く 29.7%、次いで「14 時台」が 20.9%、「16 時台」が 18.3%であった。

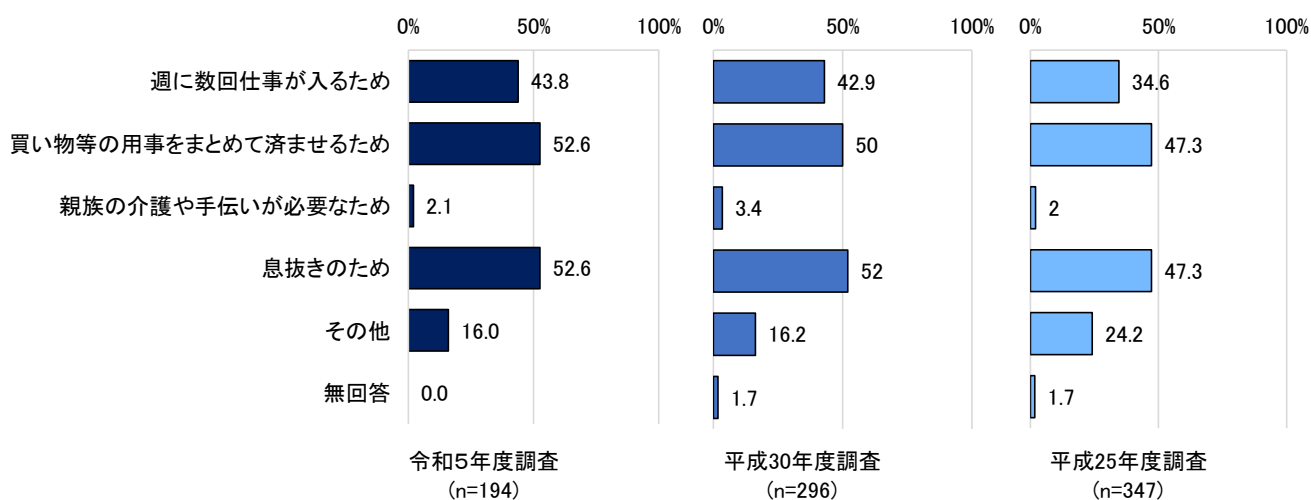
長期休暇期間中の教育・保育の事業を利用したい時間帯（終了時刻）



長期休暇期間中の教育・保育の事業を、たまに利用したい理由（問 19-1、複数回答）

問 19 で「休みの期間中、週に数日利用したい」と回答した方に対し、たまに利用したい理由についてたずねたところ、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」と「息抜きのため」が最も多く、それぞれ 52.6%、「週に数回仕事が入るため」が 43.8%であった。

長期休暇期間中の教育・保育の事業を、たまに利用したい理由



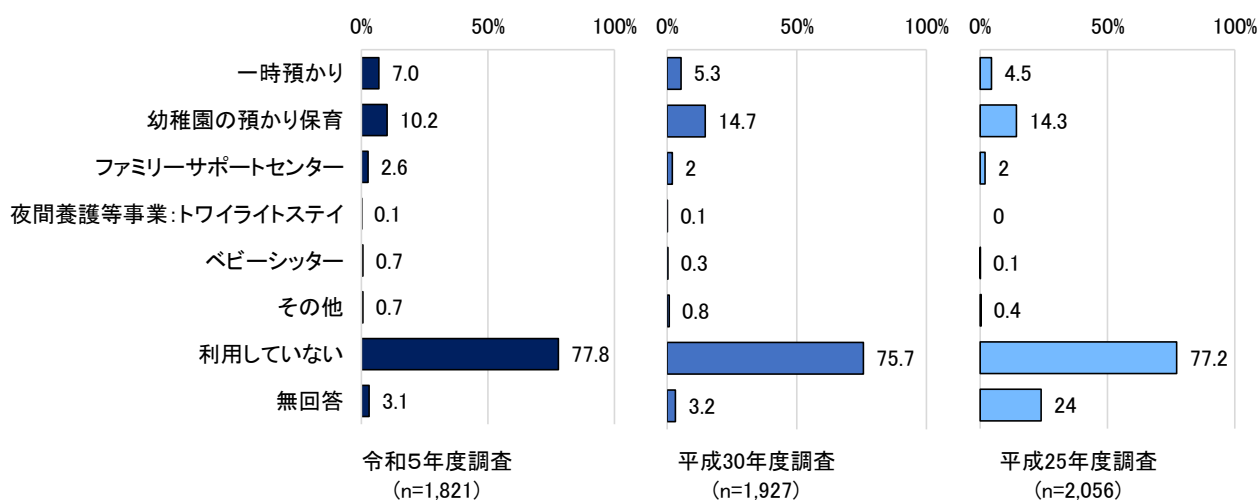
(7) 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期的に利用している事業の有無

(問 20、複数回答)

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期的に利用している事業の有無については、「利用していない」が最も多く 77.8%、次いで「幼稚園の預かり保育」が 10.2%、「一時預かり」が 7.0%であった。

私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期的に利用している事業の有無

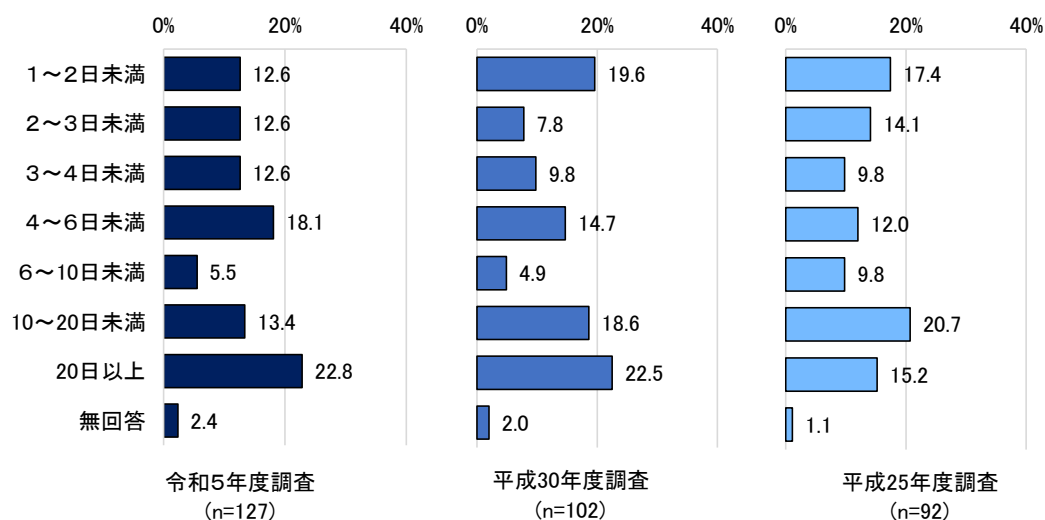


※一時預かりとは、私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業である。
 ※幼稚園の預かり保育は、通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期的に利用する場合のみである。
 ※夜間養護等事業：トワイライトステイとは、児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業である。

①一時預かり

問 20 で「一時預かり」と回答した方に対し、1年間の利用日数についてたずねたところ、「20日以上」が最も多く 22.8%、次いで「4～6日未満」が 18.1%、「10～20日未満」が 13.4%であった。

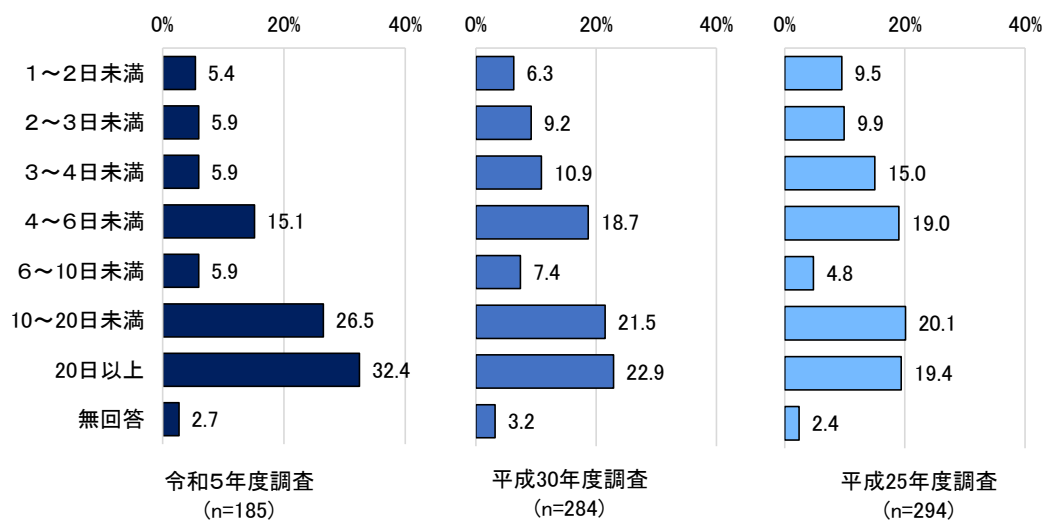
一時預かりの1年間の利用日数



②幼稚園の預かり保育

問 20 で「幼稚園の預かり保育」と回答した方に対し、1年間の利用日数についてたずねたところ、「20日以上」が最も多く 32.4%、次いで「10～20日未満」が 26.5%、「4～6日未満」が 15.1%であった。

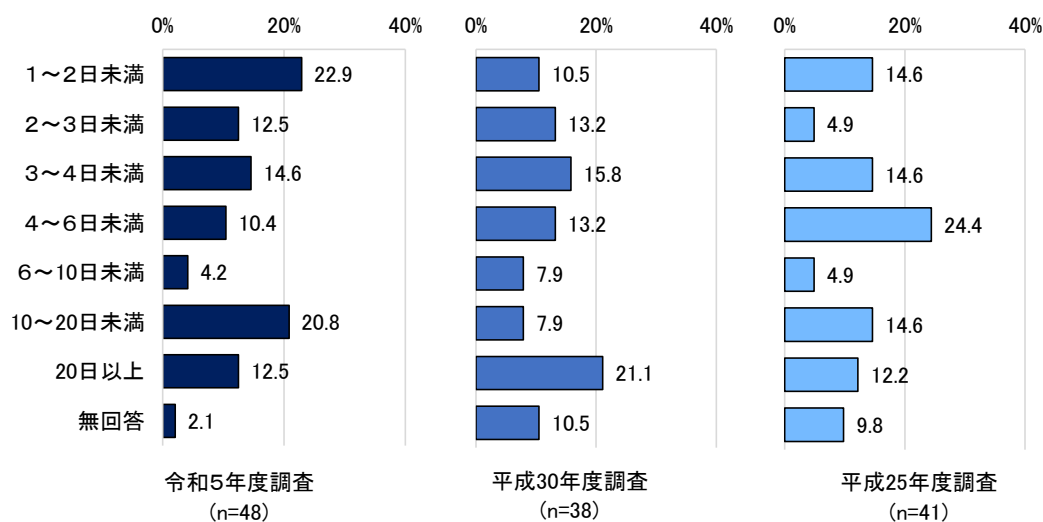
幼稚園の預かり保育の1年間の利用日数



③ファミリーサポートセンター

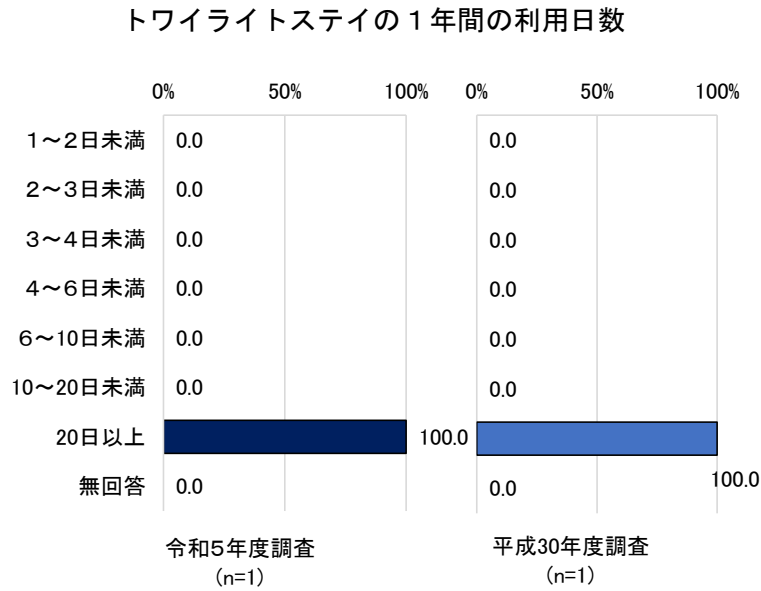
問 20 で「ファミリーサポートセンター」と回答した方に対し、1年間の利用日数についてたずねたところ、「1日～2日未満」が最も多く 22.9%、次いで「10日～20日未満」が 20.8%、「3～4日未満」が 14.6%であった。

ファミリーサポートセンターの1年間の利用日数



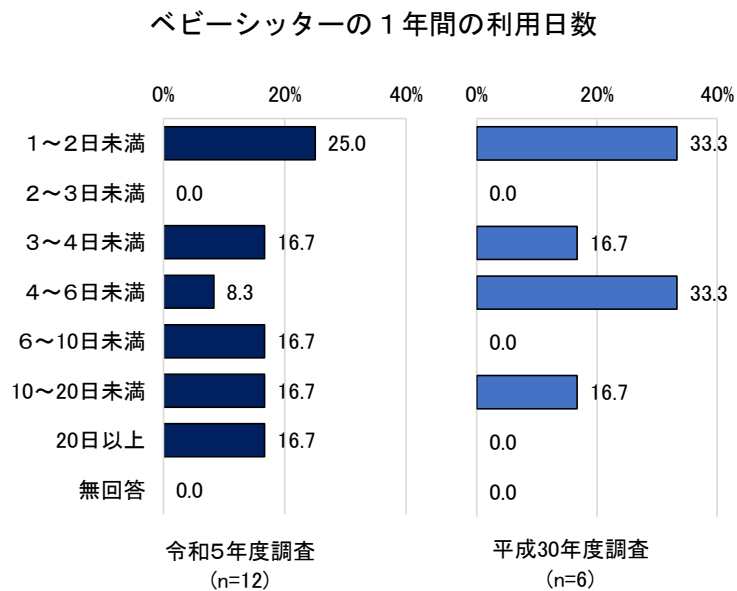
④夜間養護等事業：トワイライトステイ

問 20 で「夜間養護等事業：トワイライトステイ」と回答した方は1人であり、1年間の利用日数は「20日以上」であった。



⑤ベビーシッター

問 20 で「ベビーシッター」と回答した方に対し、1年間の利用日数についてたずねたところ、「1日～2日未満」が最も多く25.0%、次いで「3～4日未満」、「5～10日未満」、「10日～20日未満」、「20日以上」がそれぞれ16.7%であった。

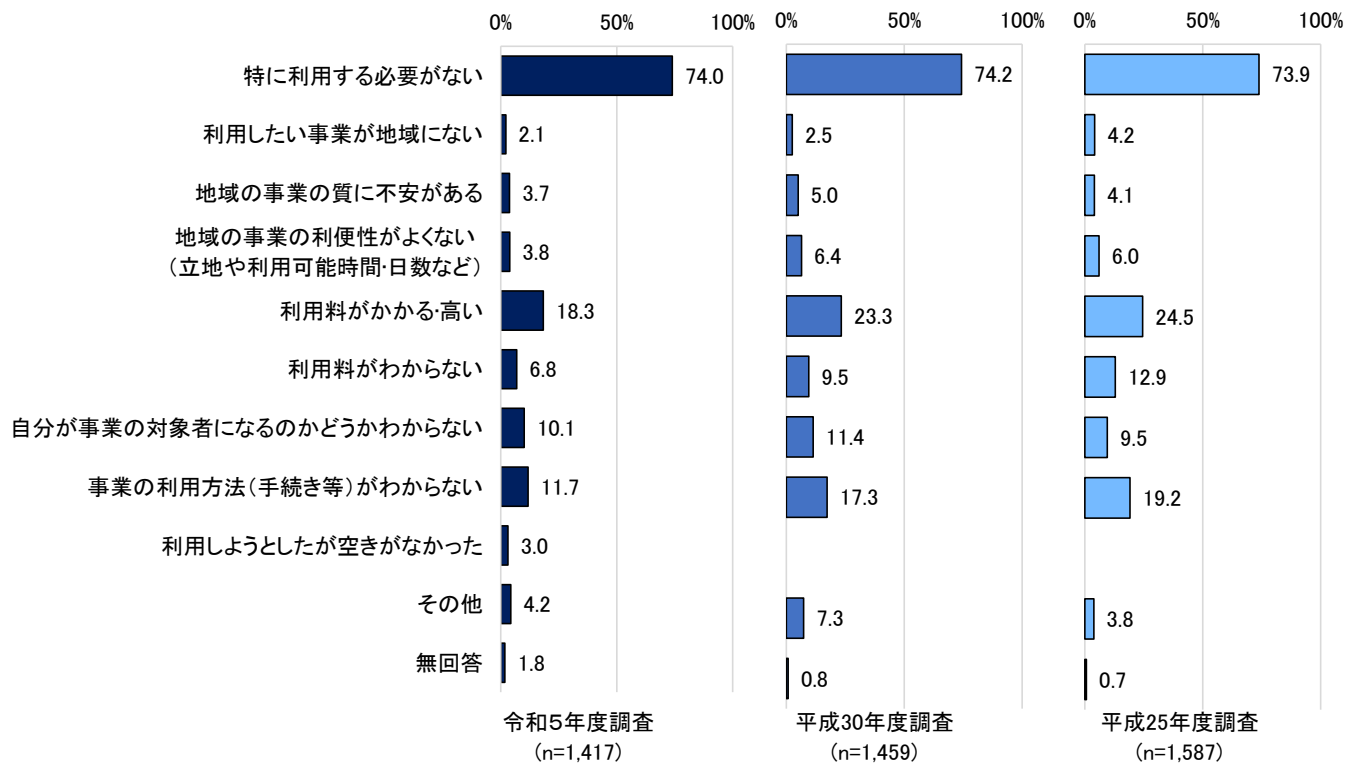


私用、親の通院、不定期の就労等の目的での不定期の事業を現在利用していない理由

(問 20-1、複数回答)

問 20 で「利用していない」と回答した方に対し、現在利用していない理由についてたずねたところ、「特に利用する必要がない」が最も多く 74.0%、次いで「利用料がかかる・高い」が 18.3%、「事業の利用方法（手続き等）がわからない」が 11.7%であった。

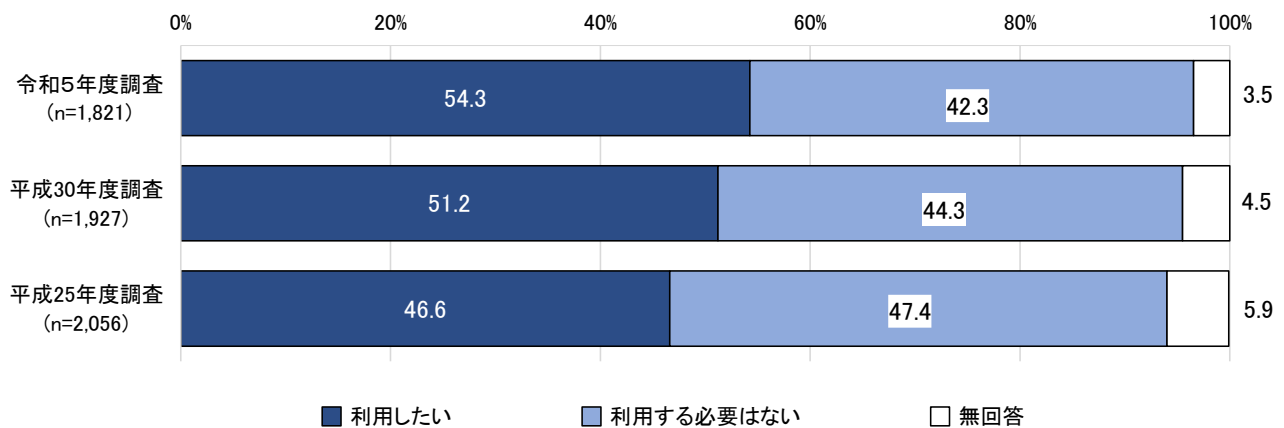
私用、親の通院、不定期の就労等の目的での不定期の事業を現在利用していない理由



私用、親の通院、不定期の就労等の目的での不定期の事業利用希望（問 21）

私用、親の通院、不定期の就労等の目的での不定期の事業利用希望は、「利用したい」が 54.3%、「利用する必要はない」が 42.3%であった。

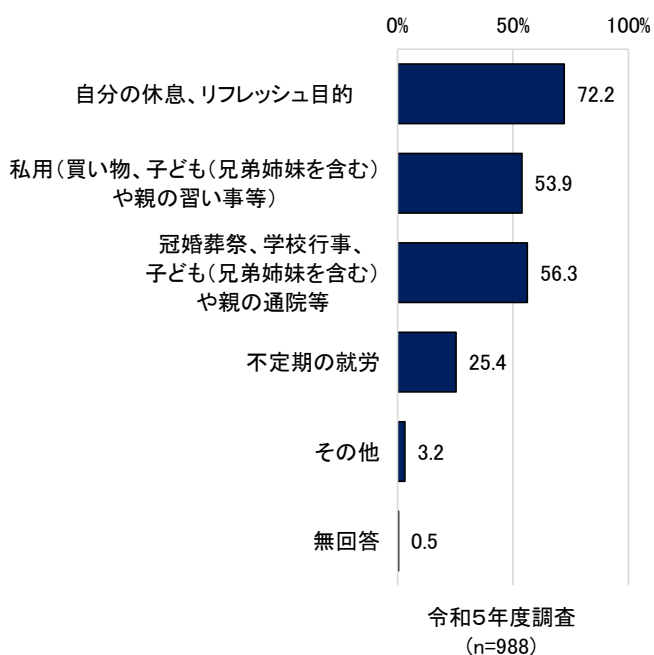
私用、親の通院、不定期の就労等の目的での不定期の事業利用希望



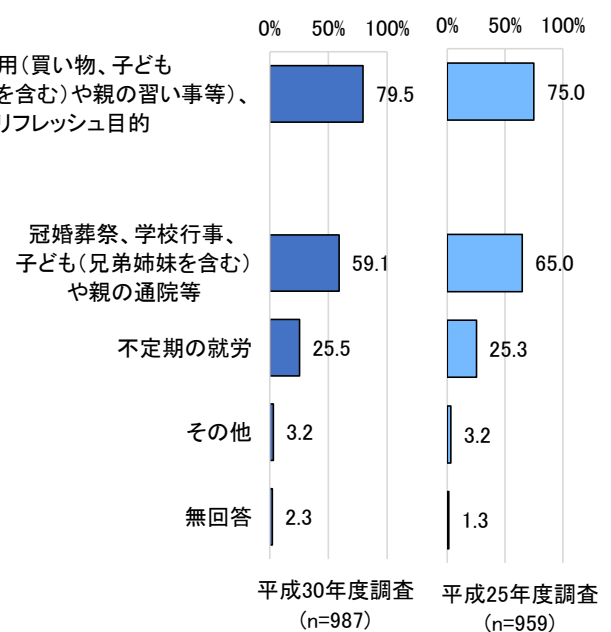
不定期の事業利用目的（問 21-1、複数回答）

問 21 で「利用したい」と回答した方に対し、不定期の事業を利用する目的についてたずねたところ、「私用、リフレッシュ目的」が最も多く 72.2%、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が 56.3%、「私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）」が 53.9%であった。

不定期の事業利用目的



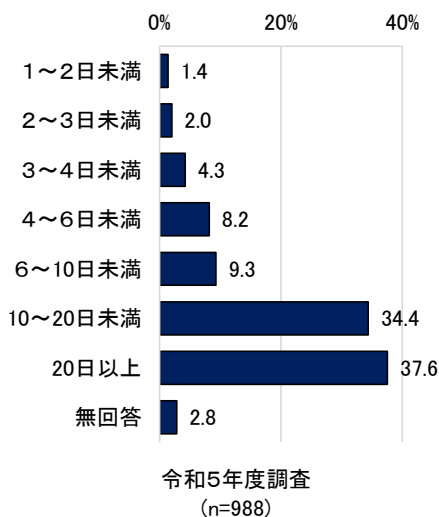
【参考】 不定期の事業利用目的



⑩私用、親の通院、不定期の就労等の目的で利用したい日数の合計

問 21 で私用、親の通院、不定期の就労等の目的で事業を「利用したい」と回答した方に対し、事業を利用したい日数（年間）の合計についてたずねたところ、「20 日以上」が最も多く 37.6%、次いで「10～20 日未満」が 34.4%であった。

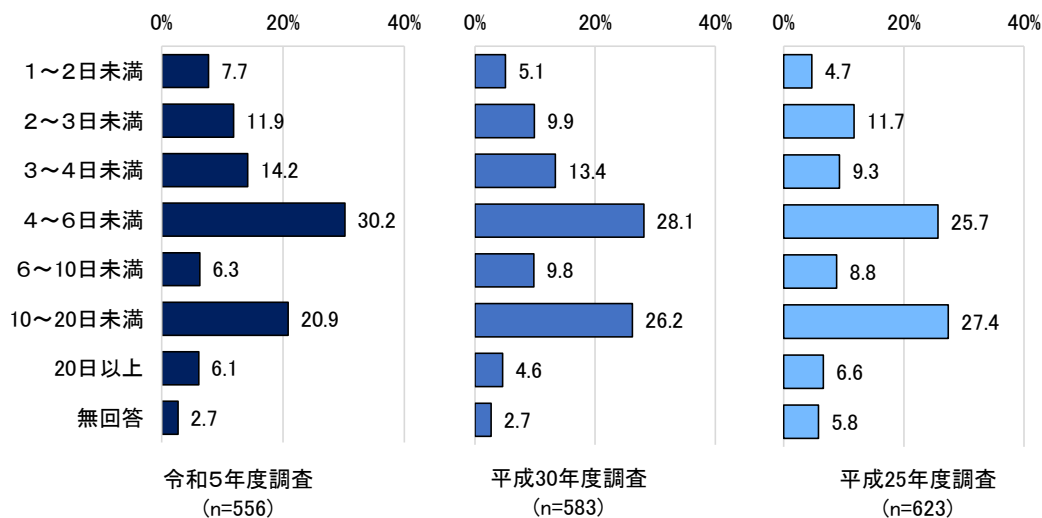
私用、親の通院、不定期の就労等の目的で利用したい日数の合計（年間）



⑪冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等

問 21 で「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等」と回答した方に対し、事業を利用したいと思う年間の日数についてたずねたところ、「4～6 日未満」が最も多く 30.2%、次いで「10～20 日未満」が 20.9%、「3～4 日未満」が 14.2%であった。

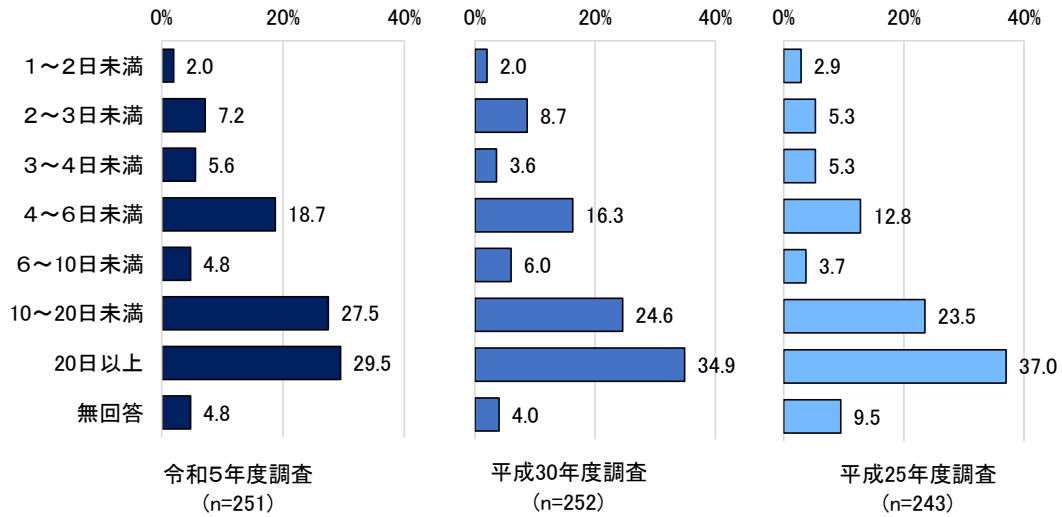
冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等で事業を利用したいと思う日数（年間）



②不定期の就労

問 21 で「不定期の就労」と回答した方に対し、事業を利用したいと思う年間の日数についてたずねたところ、「20 日以上」が最も多く 29.5%、次いで「10～20 日未満」が 27.5%、「4～6 日未満」が 18.7%であった。

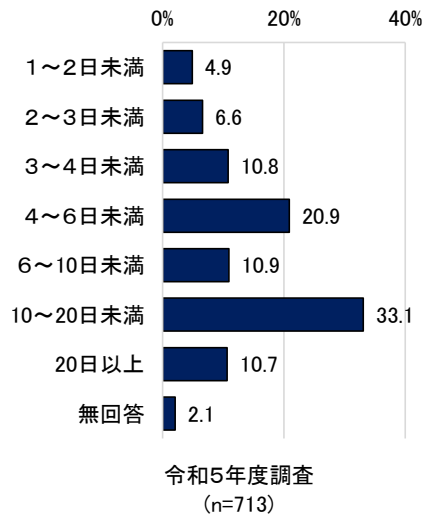
不定期の就労で事業を利用したいと思う日数（年間）



③自分の休息、リフレッシュ目的

問 21 で「自分の休息、リフレッシュ目的」と回答した方に対し、事業を利用したいと思う年間の日数についてたずねたところ、「10～20 日未満」が最も多く 33.1%、次いで「4～6 日未満」が 20.9%、「6～10 日未満」が 10.9%であった。

自分の休息、リフレッシュ目的で事業を利用したいと思う日数（年間）



④私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）

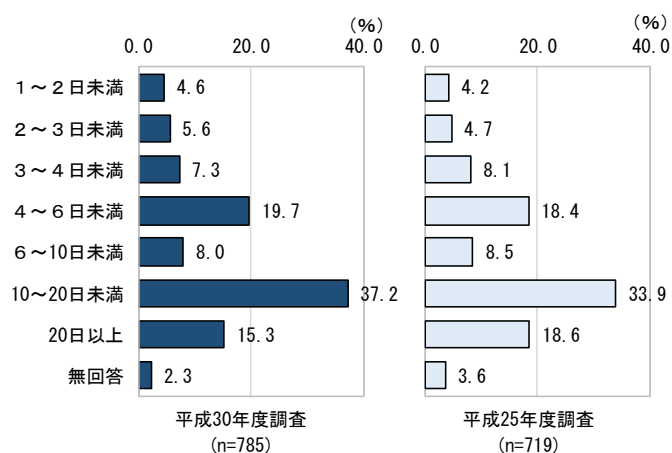
問 21 で「私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）」と回答した方に対し、事業を利用したいと思う年間の日数についてたずねたところ、「10～20 日未満」が最も多く 26.6%、次いで「4～6 日未満」が 25.3%、「3 日～4 日未満」が 12.8%であった。

私用、リフレッシュ目的で事業を利用したいと思う日数（年間）



【参考】

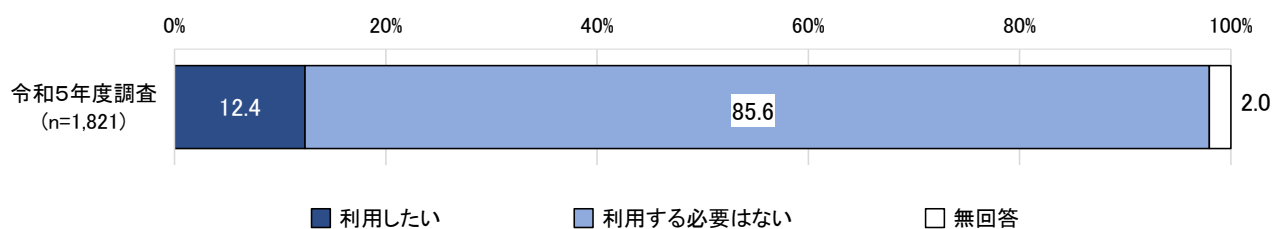
私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的



保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、子どもを泊りがけで家族以外に預ける必要がある時の短期入所生活援助事業*（ショートステイ）の利用希望（問 22）

保護者の用事により、子どもを泊りがけで短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用の希望をたずねたところ、「利用する必要はない」が85.6%、「利用したい」が12.4%であった。

短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望

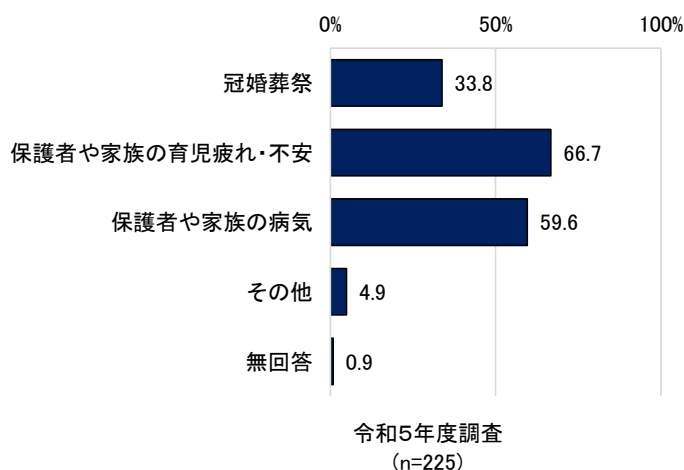


※児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業で、市内にはありません。

短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的（問 22-1、複数回答）

問 22 で「利用したい」と回答した方に対し、短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用をする場合の保護者の用事についてたずねたところ、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が最も多く66.7%、「保護者や家族の病気」が59.6%、「冠婚葬祭」が33.8%であった。

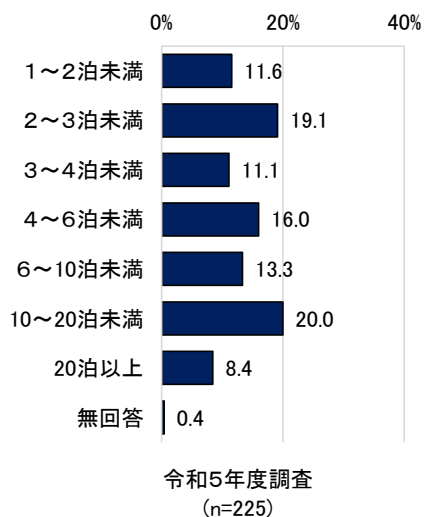
短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的



⑩短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用したい日数の合計

問 22 で保護者の用事により、短期入所生活援助事業（ショートステイ）を「利用したい」と回答した方に対し、事業を利用したい泊数（年間）の合計についてたずねたところ、「10～20泊未満」が最も多く20.0%、次いで「2～3泊未満」が19.1%、「6～10泊未満」が13.3%であった。

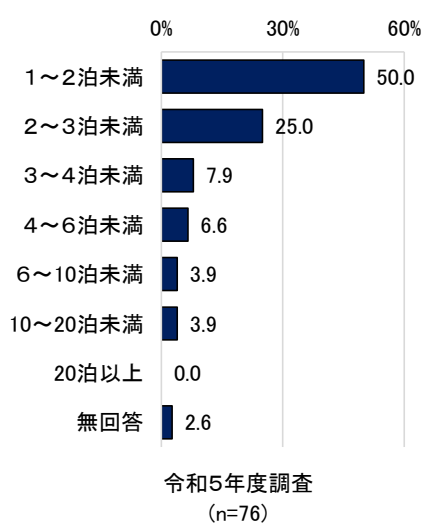
私用、親の通院、不定期の就労等の目的で利用したい泊数の合計（年間）



⑪冠婚葬祭

問 22 で「冠婚葬祭」と回答した方に対し、事業を利用したいと思う年間の泊数についてたずねたところ、「1～2泊未満」が最も多く50.0%、次いで「2～3泊未満」が25.0%、「3～4泊未満」が7.9%であった。

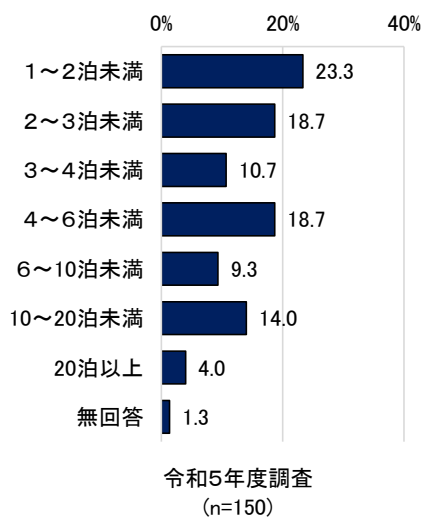
冠婚葬祭で事業を利用したいと思う泊数（年間）



②保護者や家族の育児疲れ・不安

問 22 で「保護者や家族の育児疲れ・不安」と回答した方に対し、事業を利用したいと思う年間の泊数についてたずねたところ、「1～2泊未満」が最も多く 23.3%、次いで「2～3泊未満」、「4～6泊未満」がそれぞれ 18.7%、「3～4泊未満」が 10.7%であった。

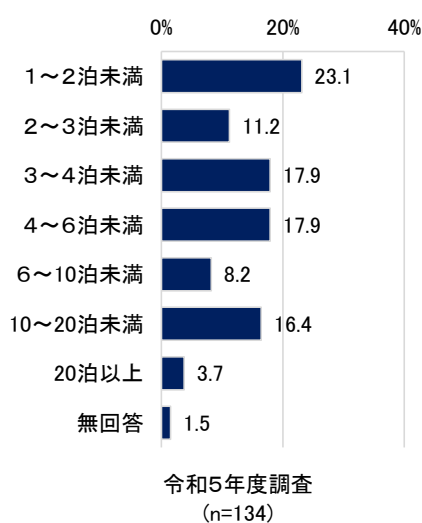
保護者や家族の育児疲れ・不安で事業を利用したいと思う泊数（年間）



③保護者や家族の病気

問 22 で「保護者や家族の病気」と回答した方に対し、事業を利用したいと思う年間の泊数についてたずねたところ、「1～2泊未満」が最も多く 23.1%、次いで「3～4泊未満」、「4～6泊未満」がそれぞれ 17.9%、「10～20泊未満」が 16.4%であった。

保護者や家族の病気で事業を利用したいと思う泊数（年間）

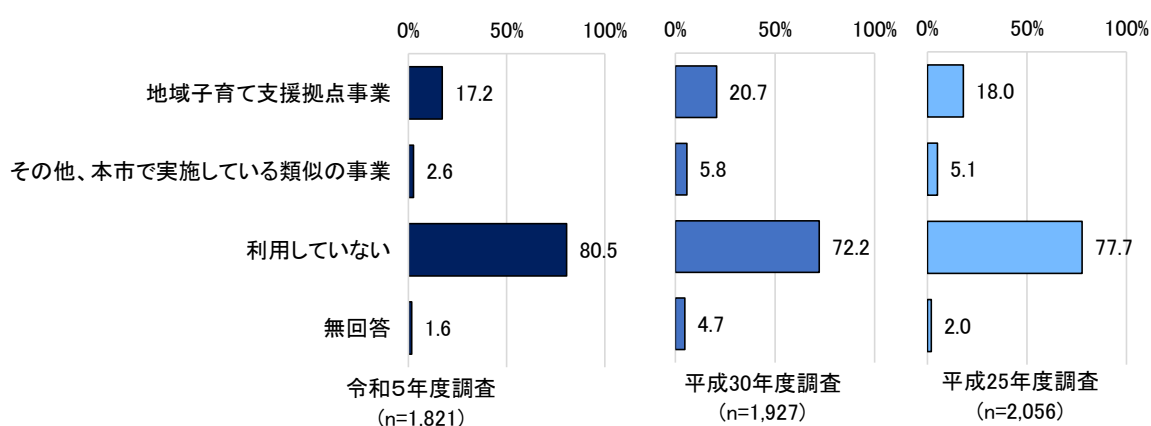


(8) 地域の子育て支援事業の利用状況について

地域子育て支援拠点事業の利用状況（問 23、複数回答）

地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「つどいの広場（こども～る）」「子育て支援センター」と呼ばれている）の利用状況は、「利用していない」が最も多く 80.5%、次いで「地域子育て支援拠点事業」が 17.2%、「その他、本市で実施している類似の事業」が 2.6%であった。

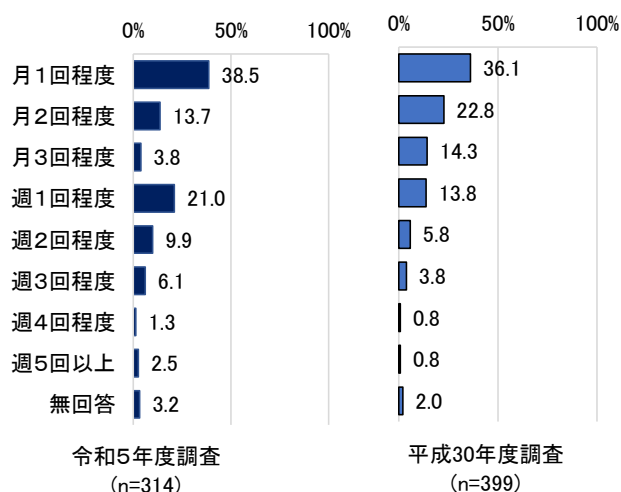
地域子育て支援拠点事業の利用状況



①地域子育て支援拠点事業の利用頻度

問 23 で「地域子育て支援拠点事業」と回答した方に対し、おおよその利用回数（頻度）についてたずねたところ、「月 1 回程度」が最も多く 38.5%、次いで「週 1 回程度」が 21.0%、「月 2 回程度」が 13.7%であった。

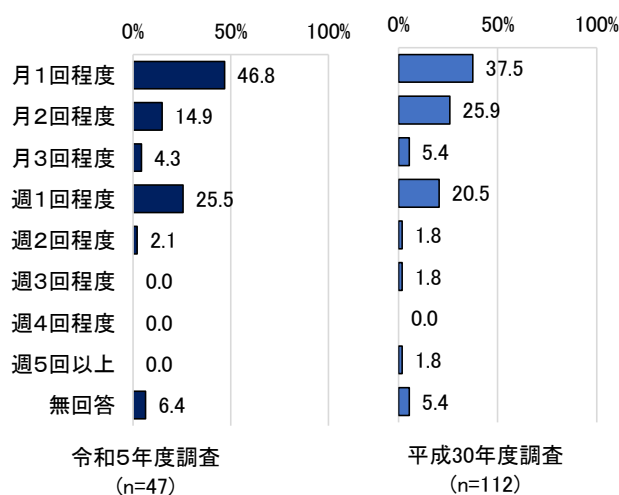
地域子育て支援拠点事業の利用頻度



②その他、本市で実施している類似の事業の利用頻度

問 23 で「その他、本市で実施している類似の事業」と回答した方に対し、おおよその利用回数（頻度）についてたずねたところ、「月 1 回程度」が最も多く 46.8%、次いで「週 1 回程度」が 25.5%、「月 2 回程度」が 14.9%であった。

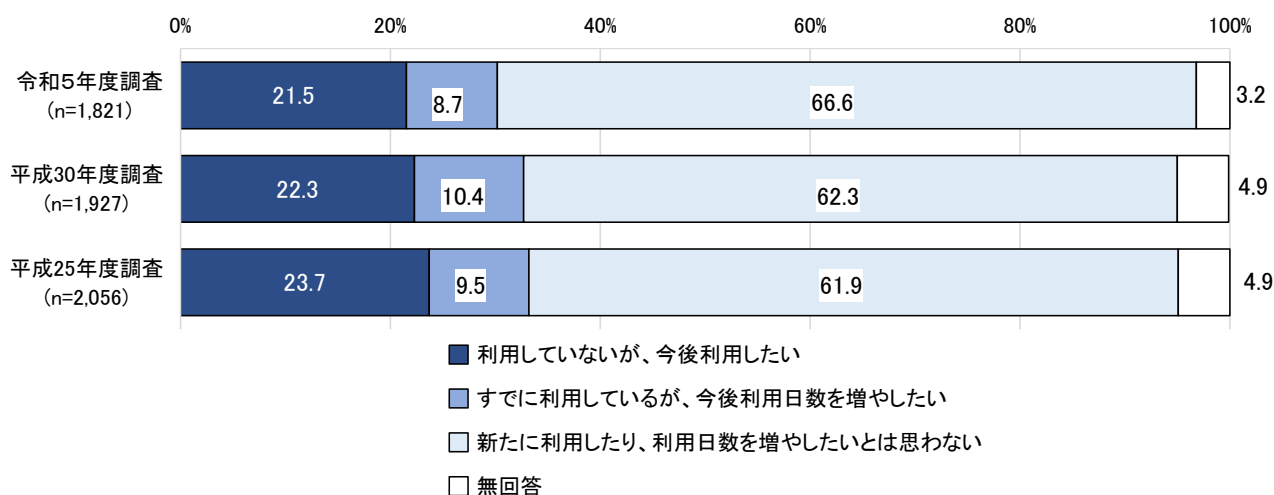
その他、本市で実施している類似の事業の利用頻度



地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向（問 24）

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が最も多く 66.6%、次いで「利用していないが、今後利用したい」が 21.5%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が 8.7%であった。

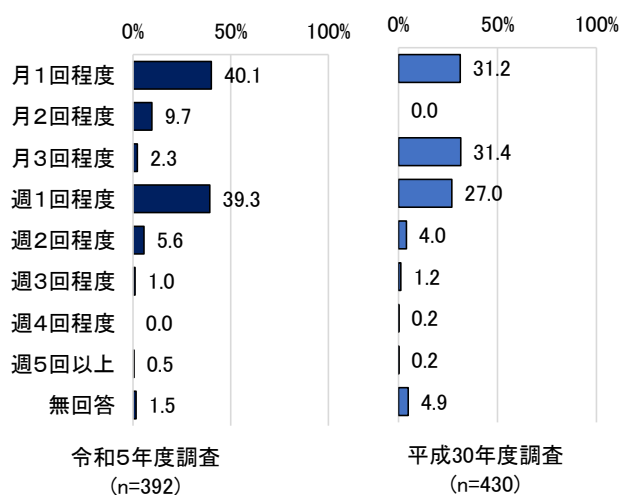
地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向



①「利用していないが、今後利用したい」の利用頻度

問 24 で「利用していないが、今後利用したい」と回答した方に対し、おおよその利用回数（頻度）についてたずねたところ、「月 1 回程度」が最も多く 40.1%、次いで「週 1 回程度」が 39.3%、「月 2 回程度」が 9.7%であった。

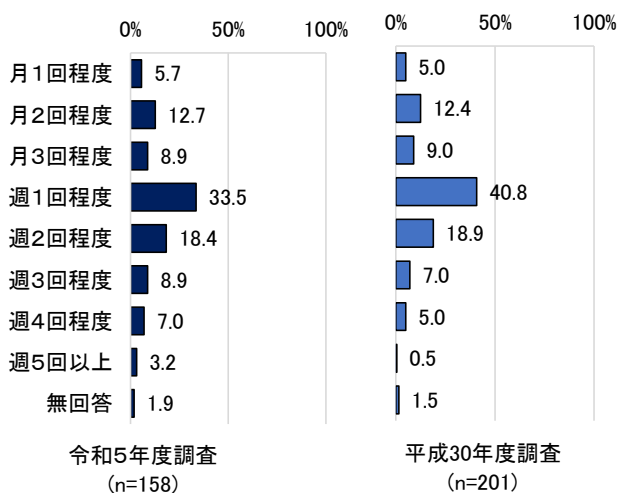
「利用していないが、今後利用したい」の利用頻度



②「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」の利用頻度

問 24 で「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した方に対し、おおよその利用回数（頻度）についてたずねたところ、「週 1 回程度」が最も多く 33.5%、次いで「週 2 回程度」が 18.4%、「月 2 回程度」が 12.7%であった。

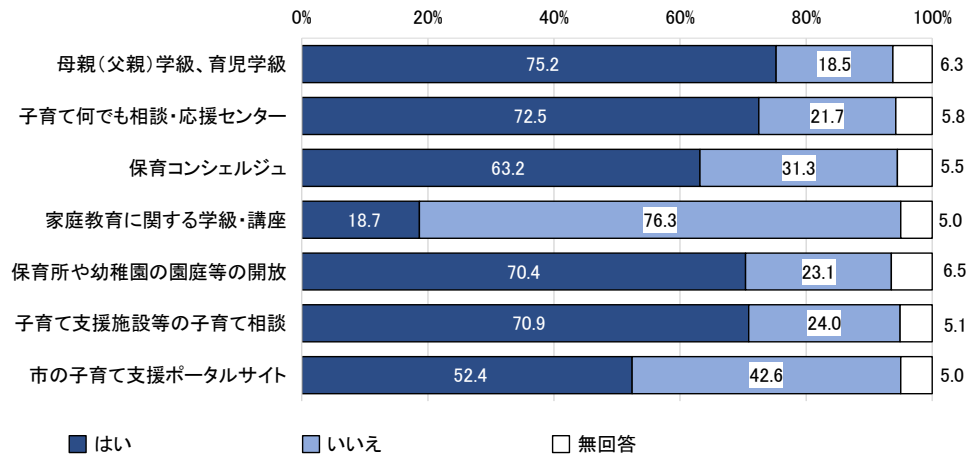
「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」の利用頻度



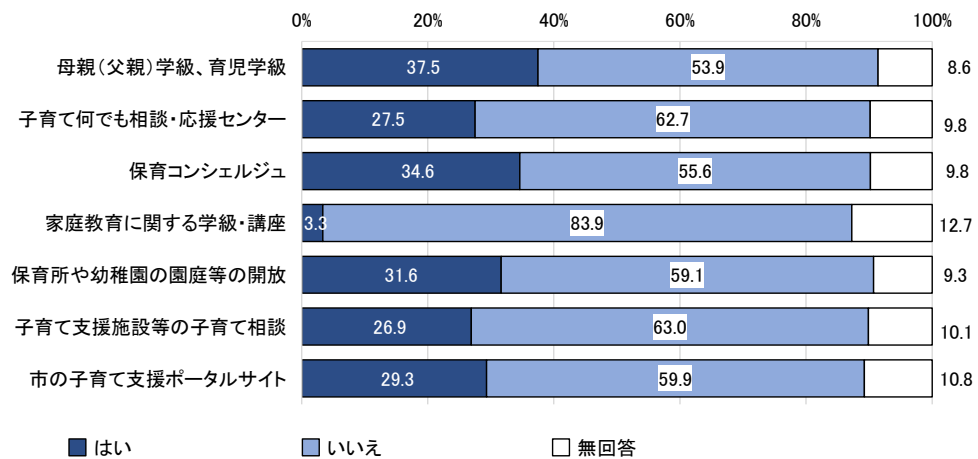
地域の子育て支援事業の認知度、利用状況及び今後の利用意向（問 25）

①地域の子育て支援事業の認知度、利用状況、今後の利用意向

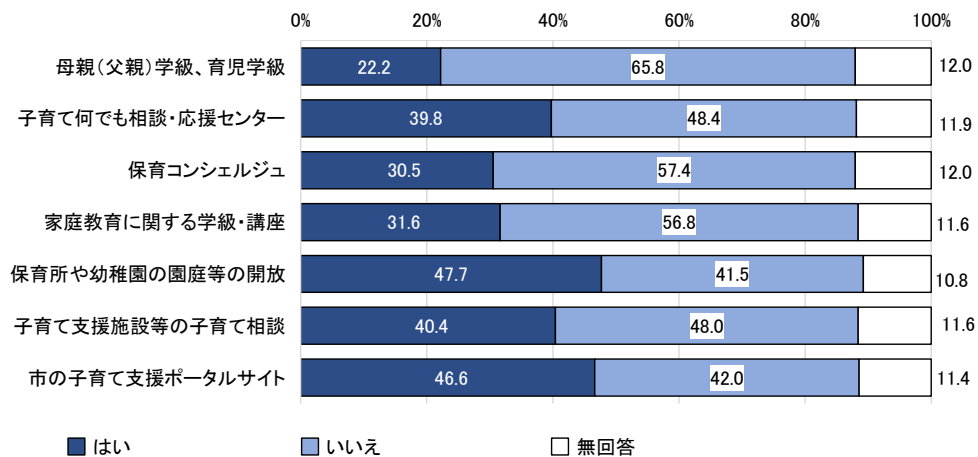
【認知度】 地域の子育て支援事業



【利用状況】 地域の子育て支援事業



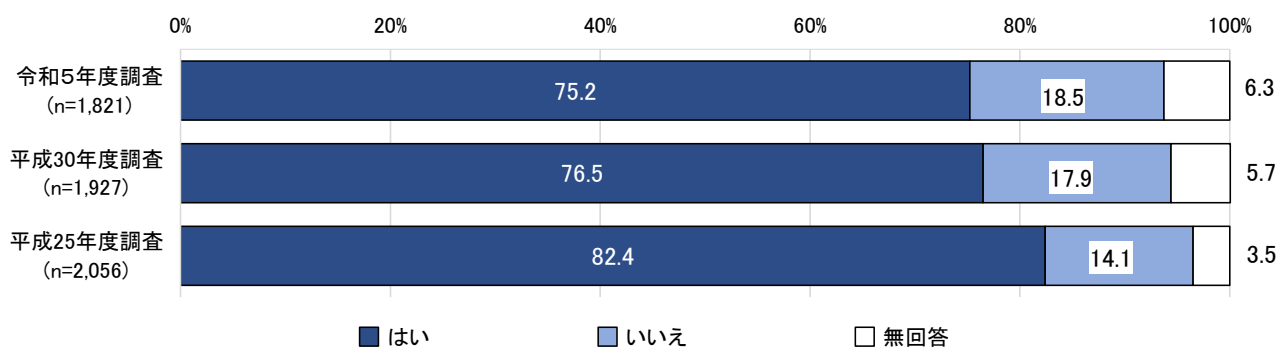
【今後の利用意向】 地域の子育て支援事業



①母親（父親）学級、育児学級

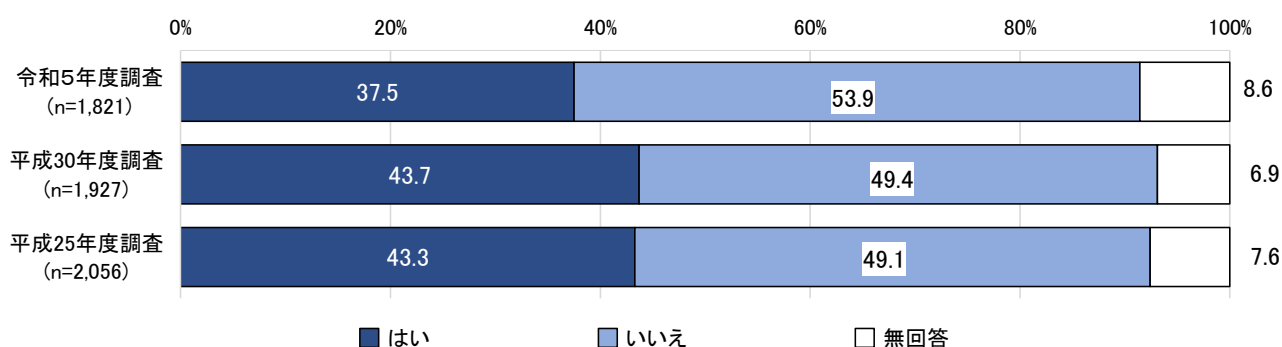
母親（父親）学級、育児学級の認知度は75.2%、これまでに利用したことがある人は37.5%、今後利用したいと思う人は22.2%であった。

母親（父親）学級、育児学級の認知度



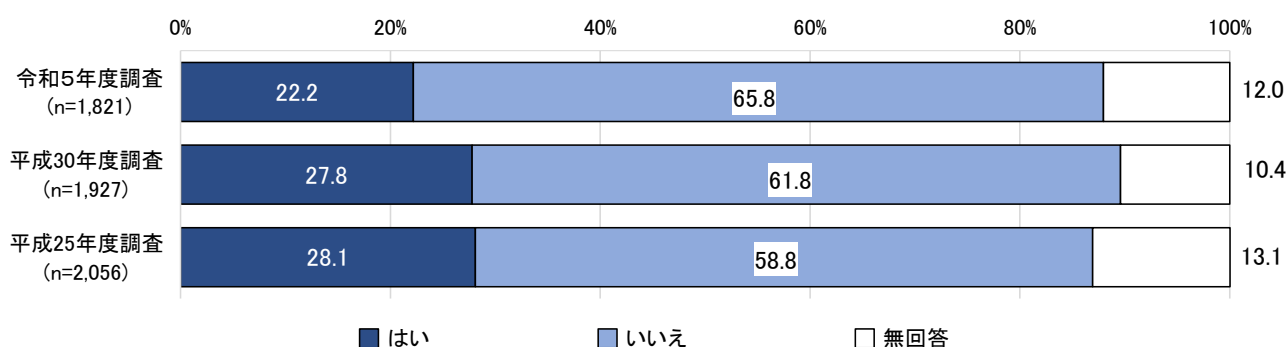
(知っている人は「はい」、知らない人は「いいえ」)

母親（父親）学級、育児学級の利用状況



(これまでに利用したことがある人は「はい」、利用したことがない人は「いいえ」)

母親（父親）学級、育児学級の今後の利用意向



(今後利用したいと思う人は「はい」、利用したいと思わない人は「いいえ」)

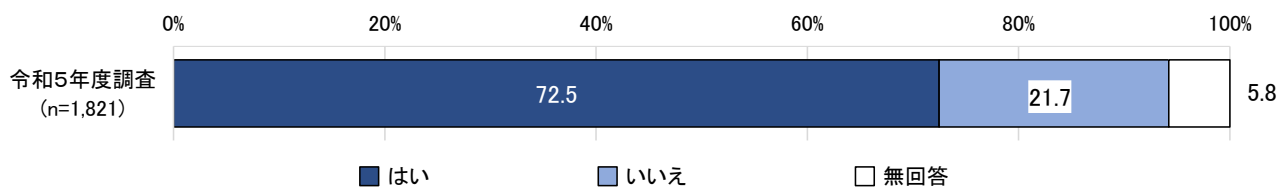
※『母親（父親）学級』は、大和市では「プレママ・パパ教室」として開催しています。

※『育児学級』は、大和市では「もぐもぐ教室」や「1才児育児教室」などを開催しています。

②子育て何でも相談・応援センター

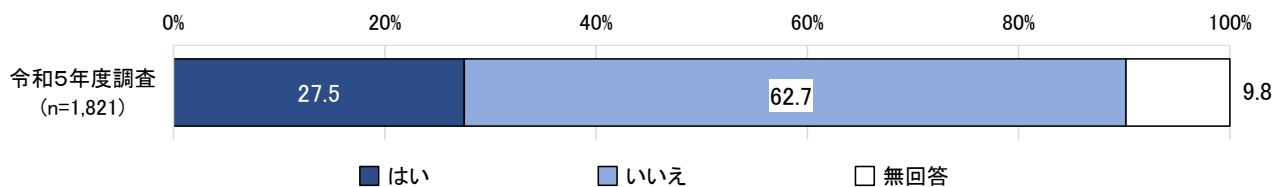
子育て何でも相談・応援センターの認知度は72.5%、これまでに利用したことがある人は27.5%、今後利用したいと思う人は39.8%であった。

子育て何でも相談・応援センターの認知度



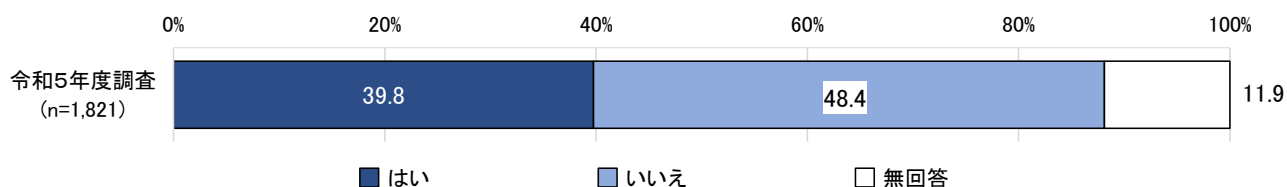
(知っている人は「はい」、知らない人は「いいえ」)

子育て何でも相談・応援センターの利用状況



(これまでに利用したことがある人は「はい」、利用したことがない人は「いいえ」)

子育て何でも相談・応援センターの今後の利用意向



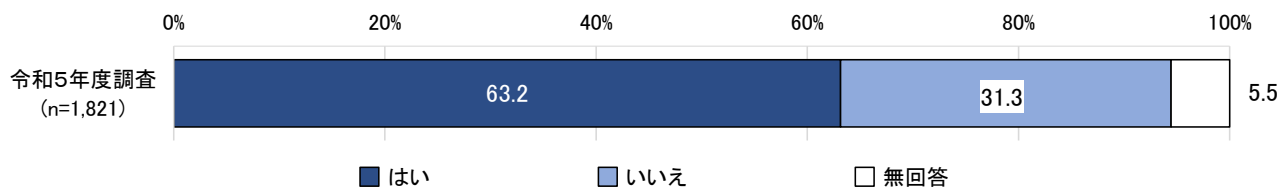
(今後利用したいと思う人は「はい」、利用したいと思わない人は「いいえ」)

※『子育て何でも相談・応援センター』とは、保健福祉センターにおいて、妊娠前から妊娠・出産子育て期の様々な相談に専門の保健師や相談員が対応しています。

③保育コンシェルジュ

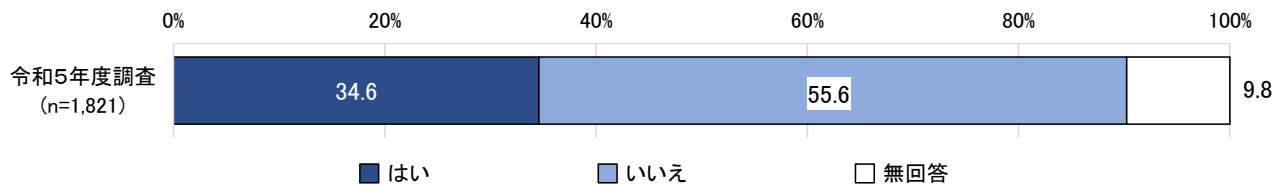
保育コンシェルジュの認知度は63.2%、これまでに利用したことがある人は34.6%、今後利用したいと思う人は30.5%であった。

保育コンシェルジュの認知度



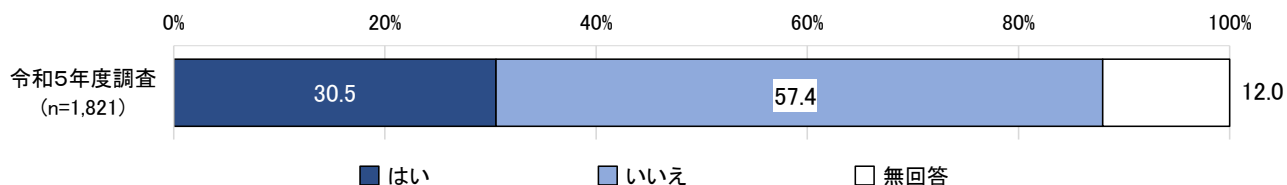
(知っている人は「はい」、知らない人は「いいえ」)

保育コンシェルジュの利用状況



(これまでに利用したことがある人は「はい」、利用したことがない人は「いいえ」)

保育コンシェルジュの今後の利用意向



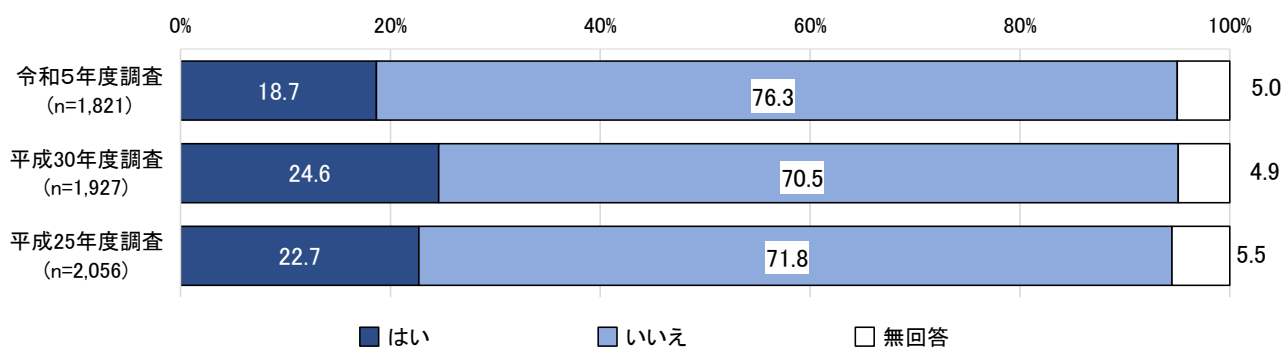
(今後利用したいと思う人は「はい」、利用したいと思わない人は「いいえ」)

※『保育コンシェルジュ』とは、保健福祉センター、子育て支援施設「きらきらぼし」、屋内こども広場、公私連携型子育て支援施設「こどもの城」において、予約制で各家庭の状況に応じた保育サービスについて、専門の相談員が対応しています。

④家庭教育に関する学級・講座

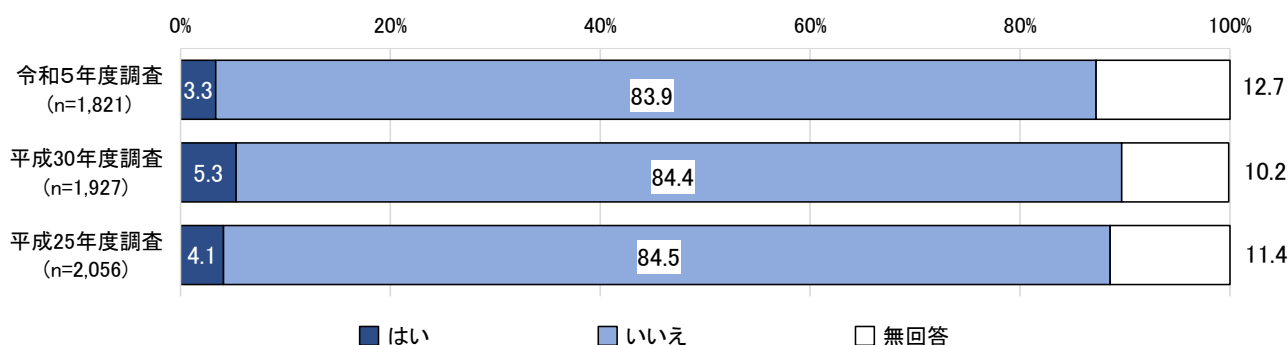
家庭教育に関する学級・講座の認知度は18.7%、これまでに利用したことがある人は3.3%、今後利用したいと思う人は31.6%であった。

家庭教育に関する学級・講座の認知度



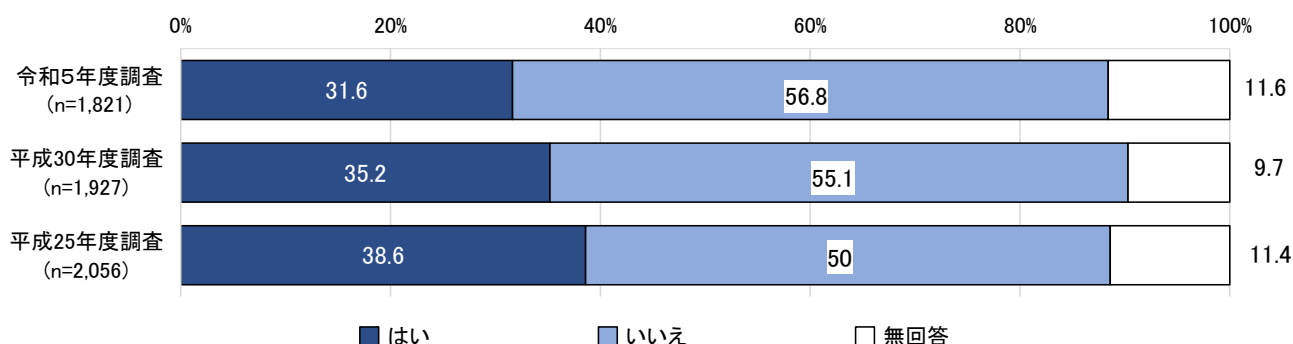
(知っている人は「はい」、知らない人は「いいえ」)

家庭教育に関する学級・講座の利用状況



(これまでに利用したことがある人は「はい」、利用したことがない人は「いいえ」)

家庭教育に関する学級・講座の今後の利用意向



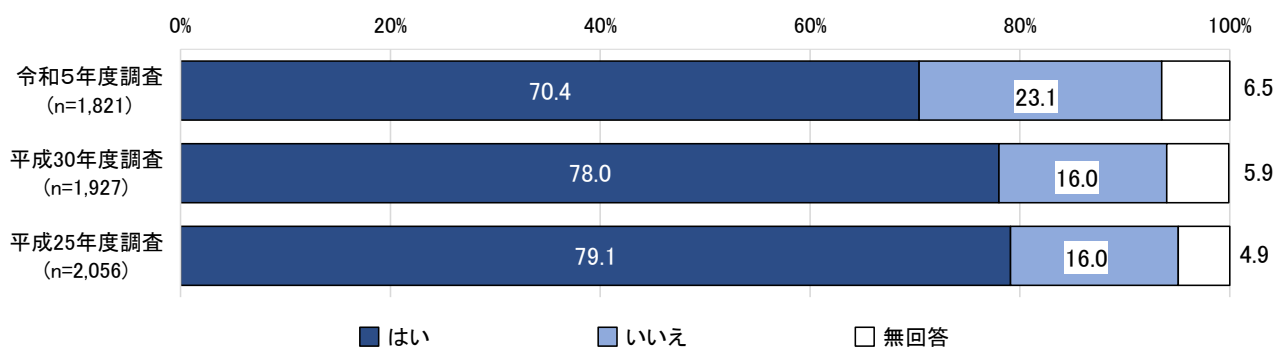
(今後利用したいと思う人は「はい」、利用したいと思わない人は「いいえ」)

※『家庭教育に関する学級・講座』とは、幼稚園や小学校等を拠点として、親同士が学習したいことを自ら企画し、計画的・継続的に活動を行うものです。

⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放

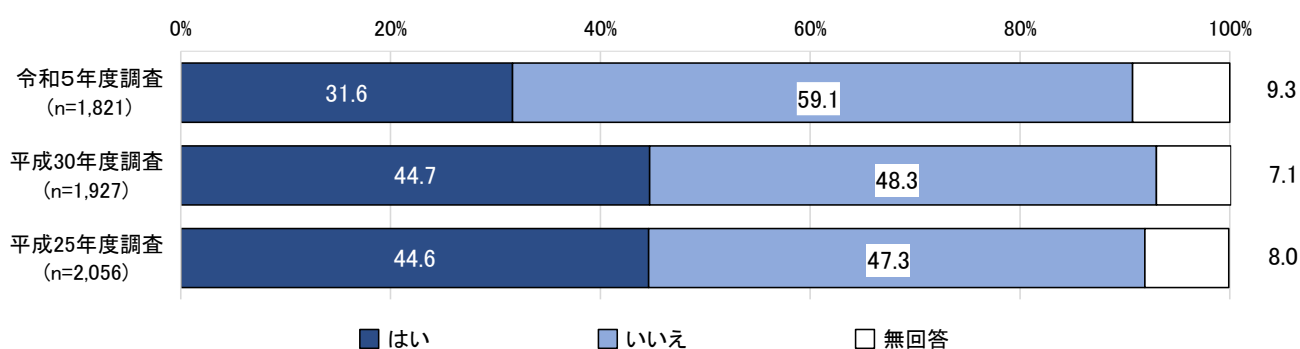
保育所や幼稚園の園庭等の開放の認知度は70.4%、これまでに利用したことがある人は31.6%、今後利用したいと思う人は47.7%であった。

保育所や幼稚園の園庭等の開放の認知度



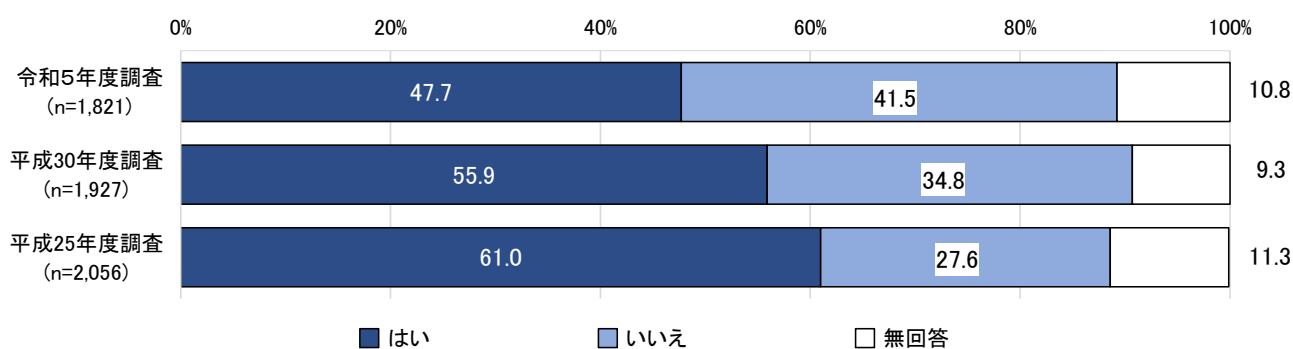
(知っている人は「はい」、知らない人は「いいえ」)

保育所や幼稚園の園庭等の開放の利用状況



(これまでに利用したことがある人は「はい」、利用したことがない人は「いいえ」)

保育所や幼稚園の園庭等の開放の今後の利用意向

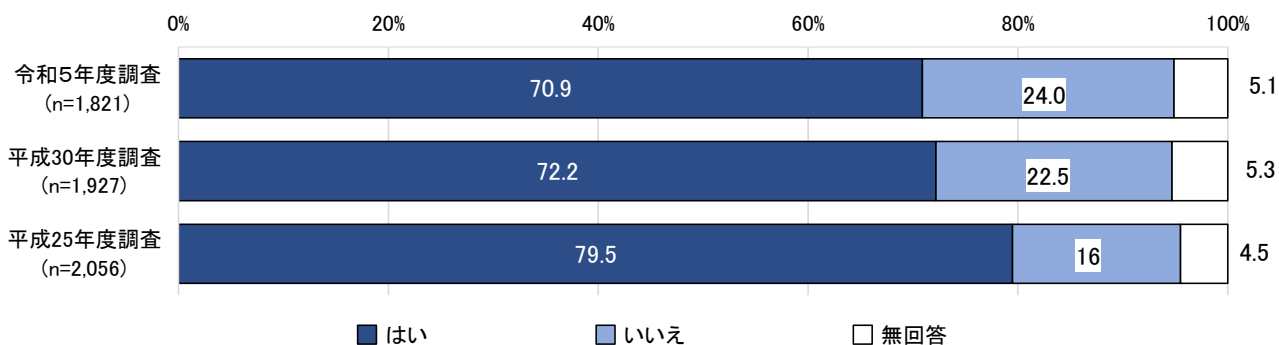


(今後利用したいと思う人は「はい」、利用したいと思わない人は「いいえ」)

⑥子育て支援施設等の子育て相談(※平成25年度・30年度は「子育てに関する相談窓口」)

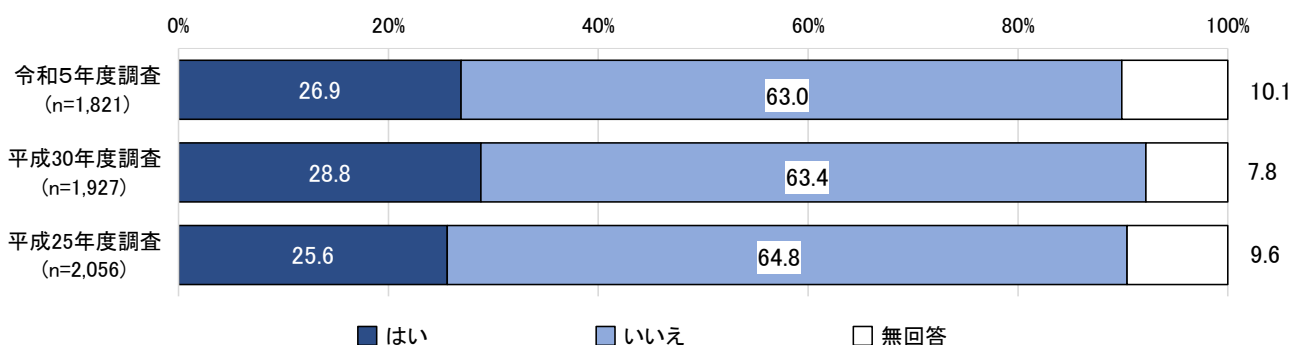
子育て支援施設等の子育て相談の認知度は70.9%、これまでに利用したことがある人は26.9%、今後利用したいと思う人は40.4%であった。

子育て支援施設等の子育て相談の認知度



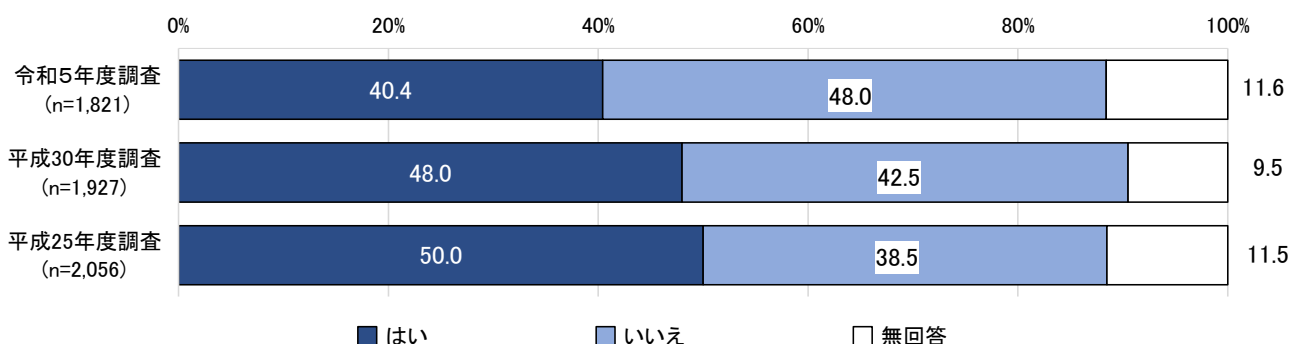
(知っている人は「はい」、知らない人は「いいえ」)

子育て支援施設等の子育て相談の利用状況



(これまでに利用したことがある人は「はい」、利用したことがない人は「いいえ」)

子育て支援施設等の子育て相談の今後の利用意向



(今後利用したいと思う人は「はい」、利用したいと思わない人は「いいえ」)

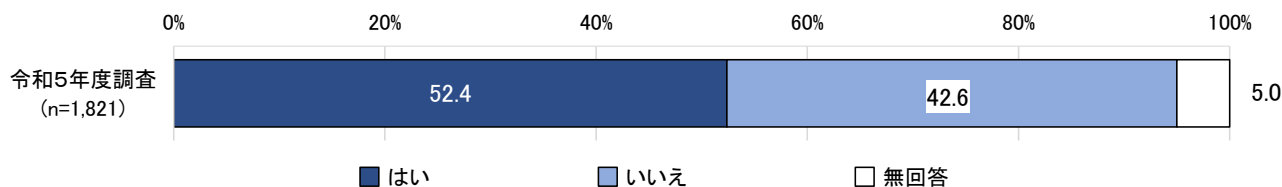
※『子育て支援施設等の子育て相談』とは、子育て支援センター、つどいの広場(こどもーる)、子育て支援施設「きらきらぼし」、屋内こども広場、市内保育園等で行っています。

※平成25・30年度調査『子育てに関する相談窓口』とは、子育て支援センター、こども〜る、きらきらぼし、屋内こども広場、緑野保育園、若葉保育園、草柳保育園、福田保育園、若草保育園、深見台保育園、渋谷保育園です。

⑦市の子育て支援ポータルサイト

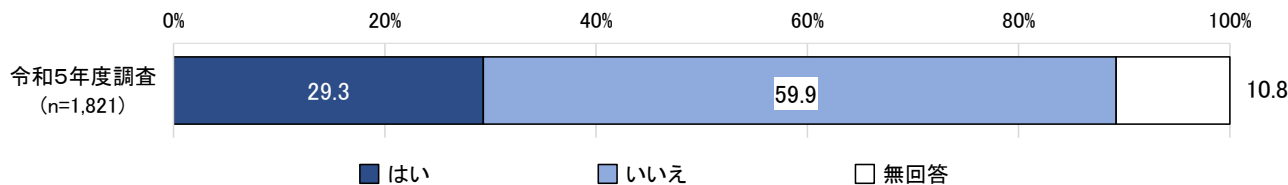
市の子育て支援ポータルサイトの認知度は52.4%、これまでに利用したことがある人は29.3%、今後利用したいと思う人は46.6%であった。

市の子育て支援ポータルサイトの認知度



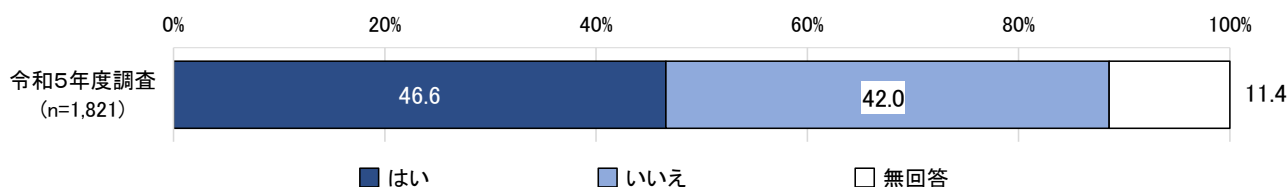
(知っている人は「はい」、知らない人は「いいえ」)

市の子育て支援ポータルサイトの利用状況



(これまでに利用したことがある人は「はい」、利用したことがない人は「いいえ」)

市の子育て支援ポータルサイトの利用意向



(今後利用したいと思う人は「はい」、利用したいと思わない人は「いいえ」)

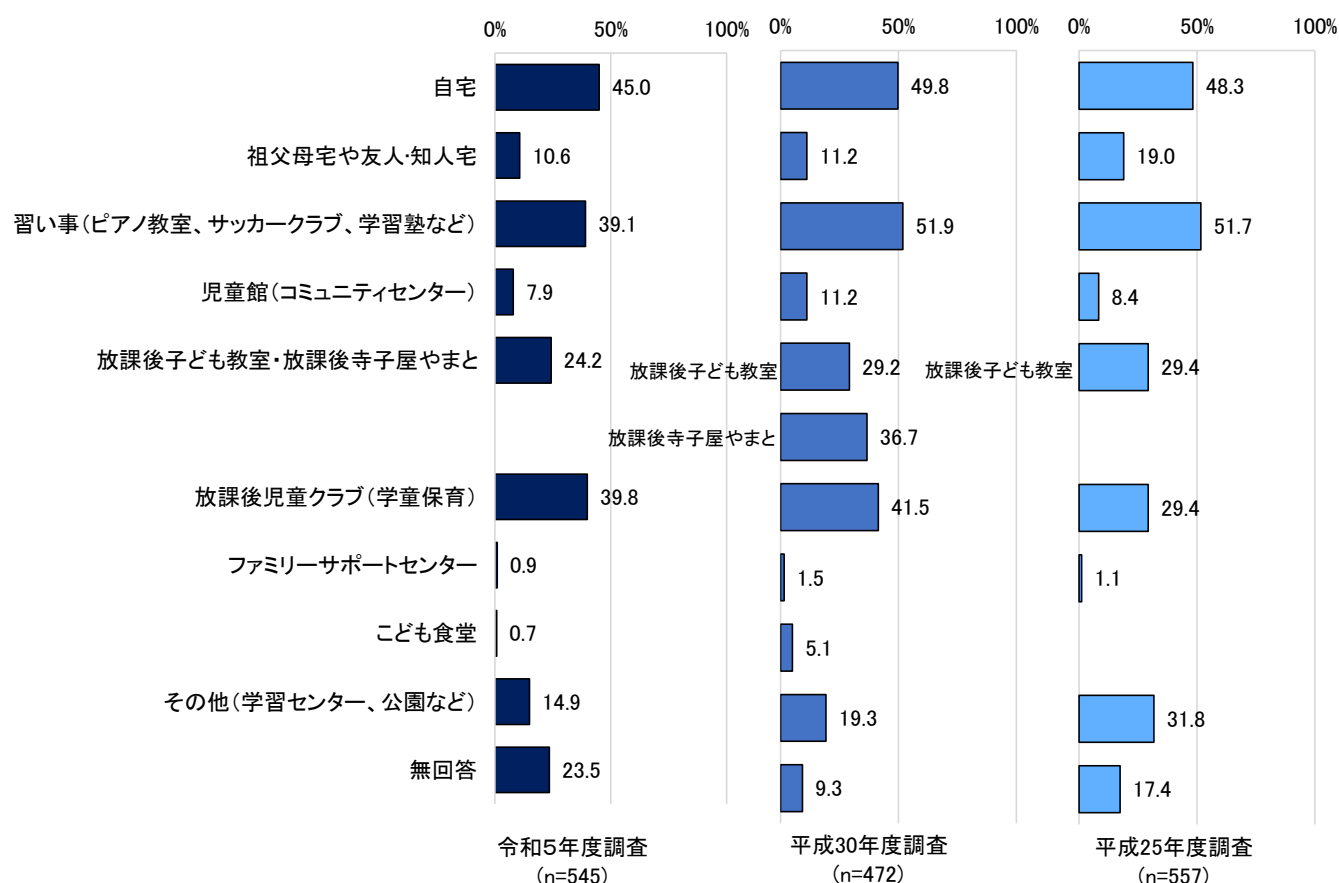
※『市の子育て支援ポータルサイト』とは、大和市では「子育て王国大和市」という名称で開設しています。

(9) 小学校での放課後の過ごし方について

小学校低学年（1～3年生）のうちに、放課後の時間を過ごさせたい場所（問 26、複数回答）

子どもが小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後の時間（平日の小学校終了後）をどのような場所で過ごさせたいと思うかについてたずねたところ、「自宅」が最も多く45.0%、次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」が39.8%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が39.1%であった。

小学校低学年（1～3年生）のうちに、放課後の時間を過ごさせたい場所



※放課後子ども教室とは、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を確保するため、市内公立小学校において、地域の方々との協力を得ながら、スポーツや工作などの体験活動を実施している。保護者の就労の有無に関わらず、実施する学校に在籍する小学生が利用できる。

※放課後寺子屋やまととは、市内の小学校に通う児童が学校で放課後の学習支援を受けることにより、学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を図ることを目的とする事業である。

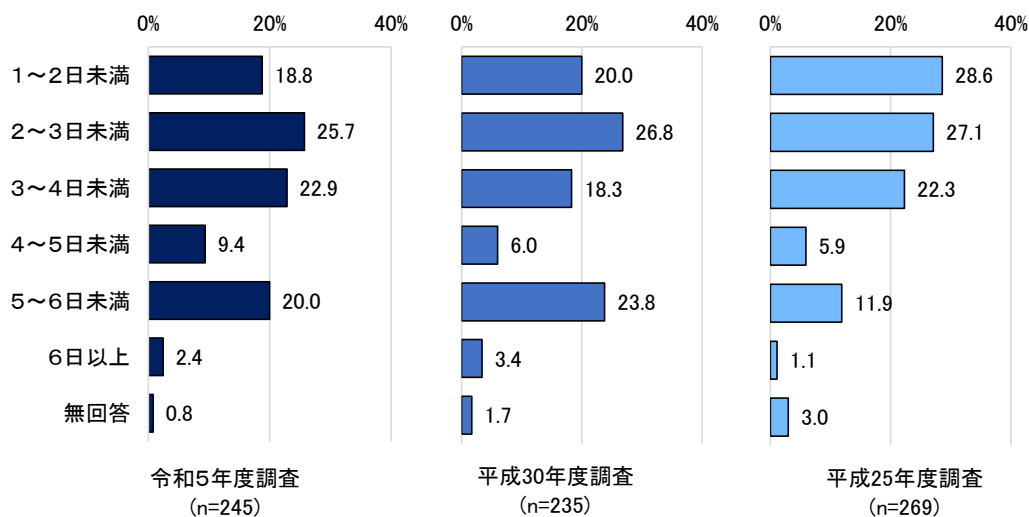
※放課後児童クラブとは、地域によって学童保育などと呼ばれている。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、支援員の下、子どもの生活の場を提供するものである。事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかる。

※こども食堂とは、無料または安価で、お子さんや保護者の方への食事提供などを行う場である。

①自宅

問 26 で「自宅」と回答した方に対し、小学校低学年のうちに、自宅で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「2～3日未満」が最も多く 25.7%、次いで「3～4日未満」が 22.9%、「5～6日未満」が 20.0%であった。

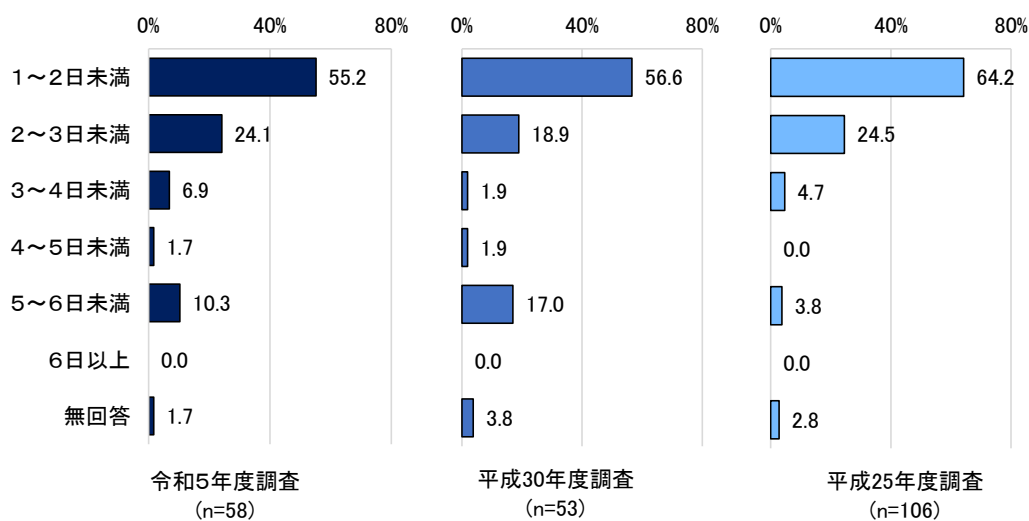
自宅で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



②祖父母宅や友人・知人宅

問 26 で「祖父母宅や友人・知人宅」と回答した方に対し、小学校低学年のうちに、祖父母宅や友人・知人宅で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「1～2日未満」が最も多く 55.2%、次いで「2～3日未満」が 24.1%、「5～6日未満」が 10.3%であった。

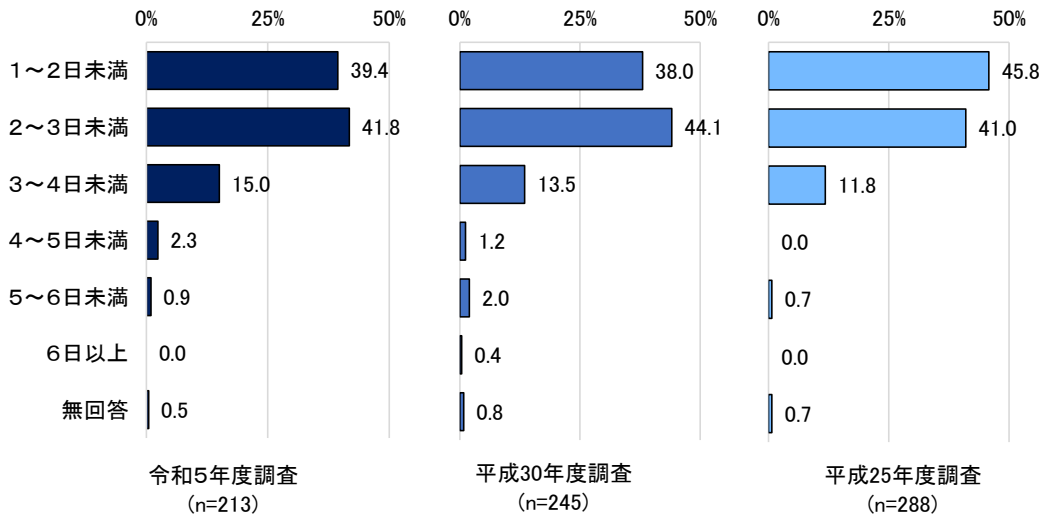
祖父母宅や友人・知人宅で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



③習い事

問 26 で「習い事」と回答した方に対し、小学校低学年のうちに、習い事で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「2～3日未満」が最も多く 41.8%、次いで「1～2日未満」が 39.4%、「3～4日未満」が 15.0%であった。

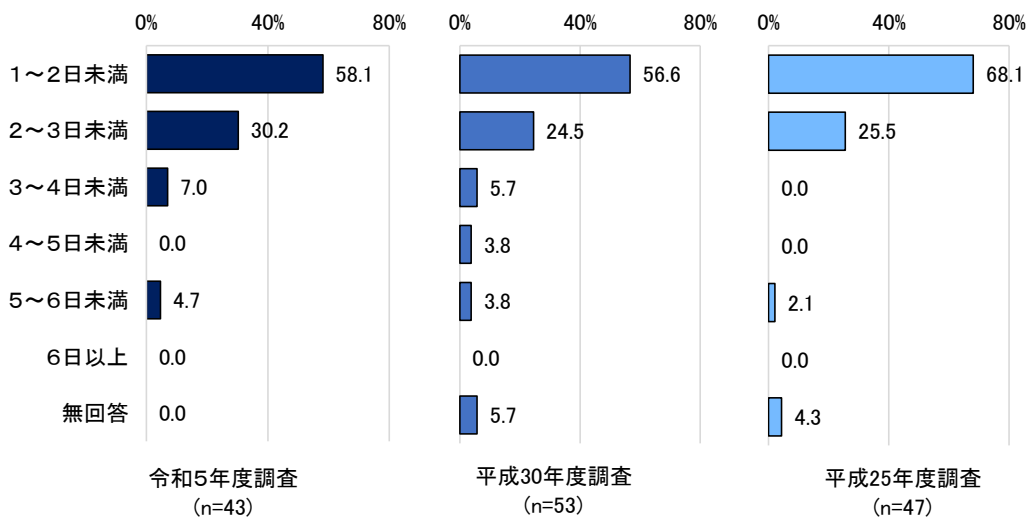
習い事で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



④児童館（コミュニティセンター）

問 26 で「児童館（コミュニティセンター）」と回答した方に対し、小学校低学年のうちに、児童館（コミュニティセンター）で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「1～2日未満」が最も多く 58.1%、次いで「2～3日未満」が 30.2%、「3～4日未満」が 7.0%であった。

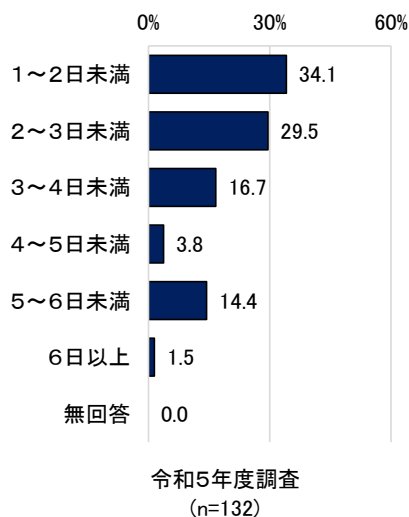
児童館（コミュニティセンター）で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



⑤放課後子ども教室・放課後寺子屋やまと

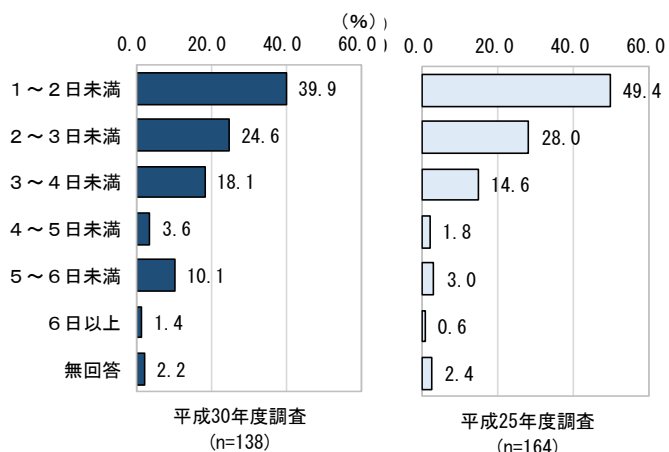
問 26 で「放課後子ども教室・放課後寺子屋やまと」と回答した方に対し、小学校低学年のうちに、放課後子ども教室で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「1～2日未満」が最も多く 34.1%、次いで「2～3日未満」が 29.5%、「3～4日未満」が 16.7%であった。

放課後子ども教室・放課後寺子屋やまとで放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数

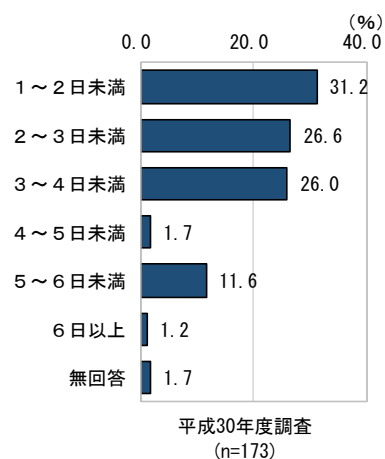


【参考】

放課後子ども教室で
放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



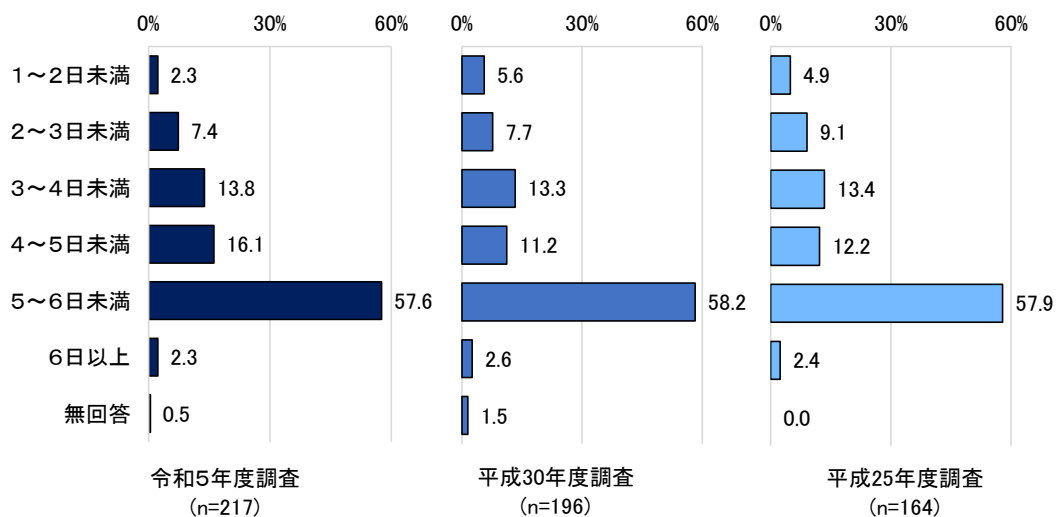
放課後寺子屋やまとで
放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



⑥放課後児童クラブ（学童保育）

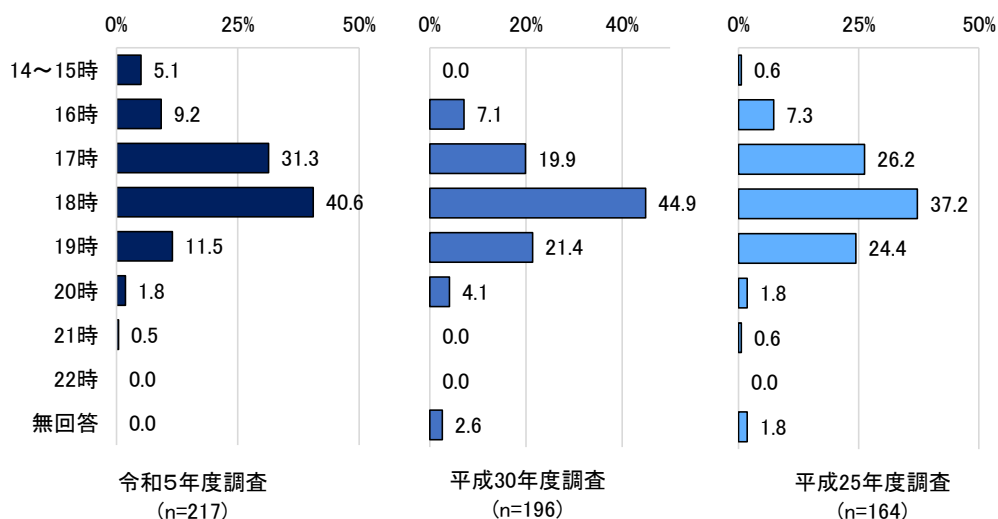
問 26 で「放課後児童クラブ（学童保育）」と回答した方に対し、小学校低学年のうちに、放課後児童クラブ（学童保育）で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「5～6日未満」が最も多く 57.6%、次いで「4～5日未満」が 16.1%、「3～4日未満」が 13.8%であった。

放課後児童クラブ（学童保育）で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



また、下校時から何時まで過ごさせたいかをたずねたところ、「18時」が最も多く 40.6%、次いで「17時」が 31.3%、「19時」が 11.5%であった。

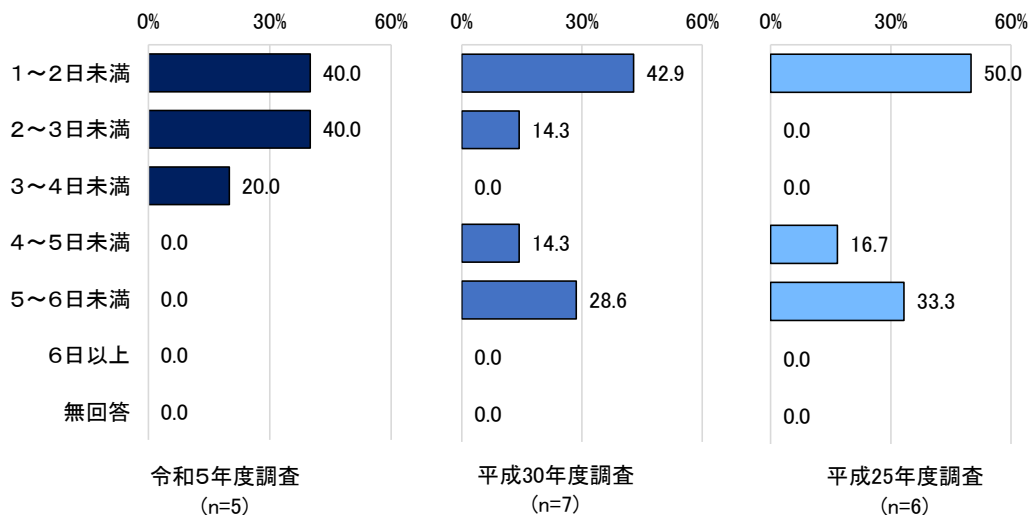
放課後児童クラブ（学童保育）で放課後の時間を過ごさせたい下校時からの時間



⑦ファミリーサポートセンター

問 26 で「ファミリーサポートセンター」と回答した方は5人であり、小学校低学年のうちに、ファミリーサポートセンターで放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「1～2日未満」と「2～3日未満」がそれぞれ2人ずつ、次いで「3～4日未満」が1人であった。

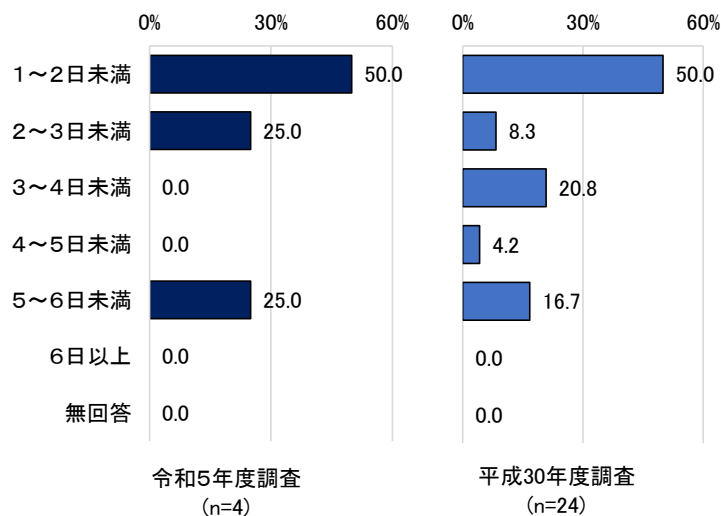
ファミリーサポートセンターで放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



⑧こども食堂

問 26 で「こども食堂」と回答した方は4人であり、小学校低学年のうちに、こども食堂で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「1～2日未満」が2人、「2～3日未満」と「5～6日未満」がそれぞれ1人ずつであった。

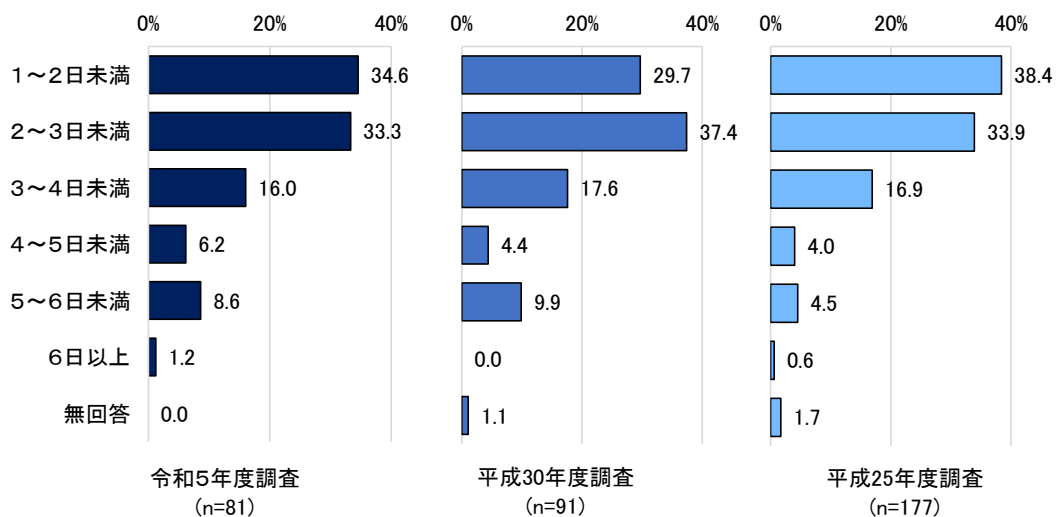
こども食堂で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



⑨その他（学習センター、公園など）

問 26 で「その他（学習センター、公園など）」と回答した方に対し、小学校低学年のうちに、学習センター、公園などで放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「1～2日未満」が最も多く 34.6%、次いで「2～3日未満」が 33.3%、「3～4日未満」が 16.0%であった。

学習センター、公園などで放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数

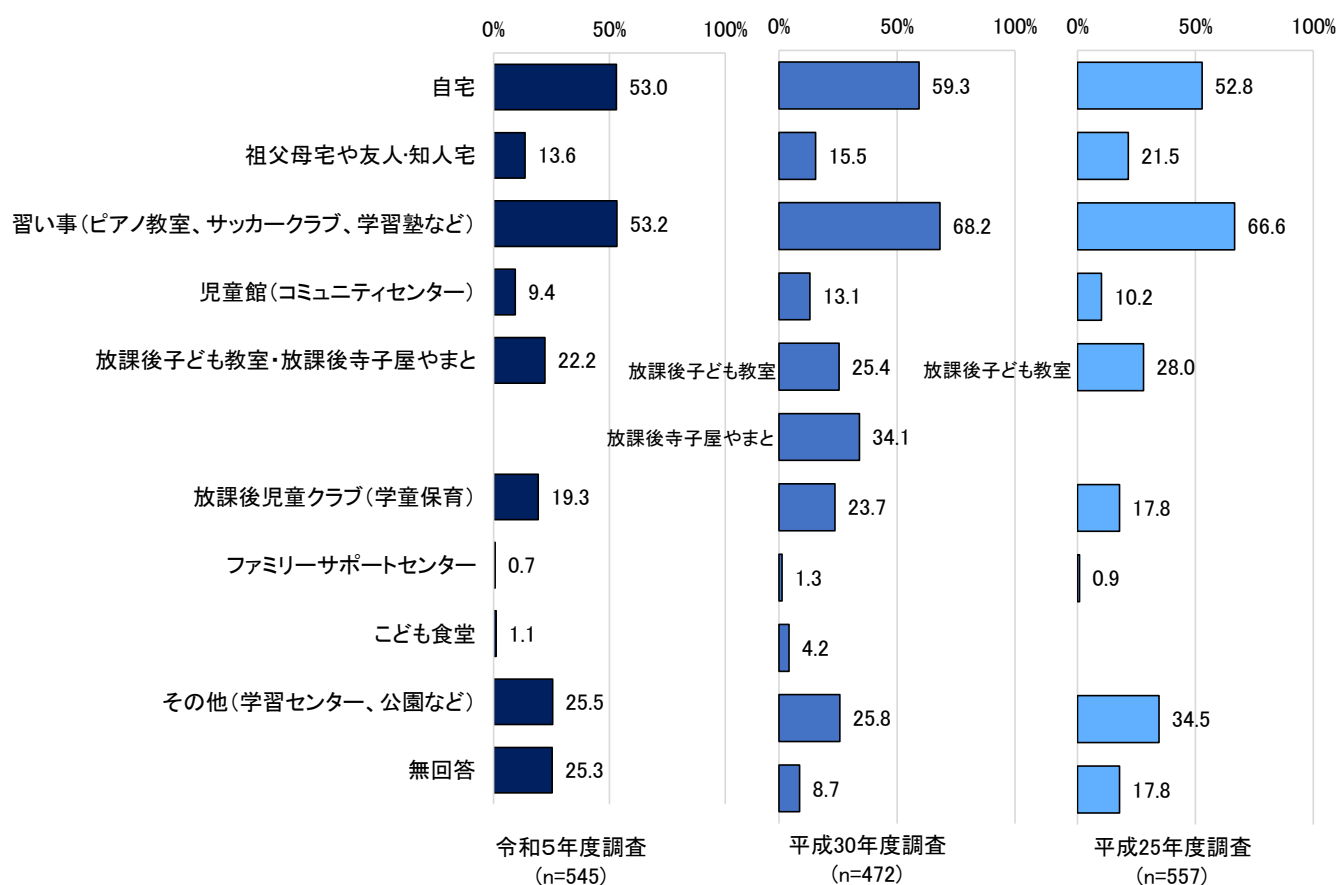


小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後の時間を過ごさせたい場所

（問 27、複数回答）

子どもが小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後の時間（平日の小学校終了後）をどのような場所で過ごさせたいと思うかについてたずねたところ、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が最も多く 53.2%、次いで「自宅」が 53.0%、「その他（学習センター、公園など）」が 25.5%であった。

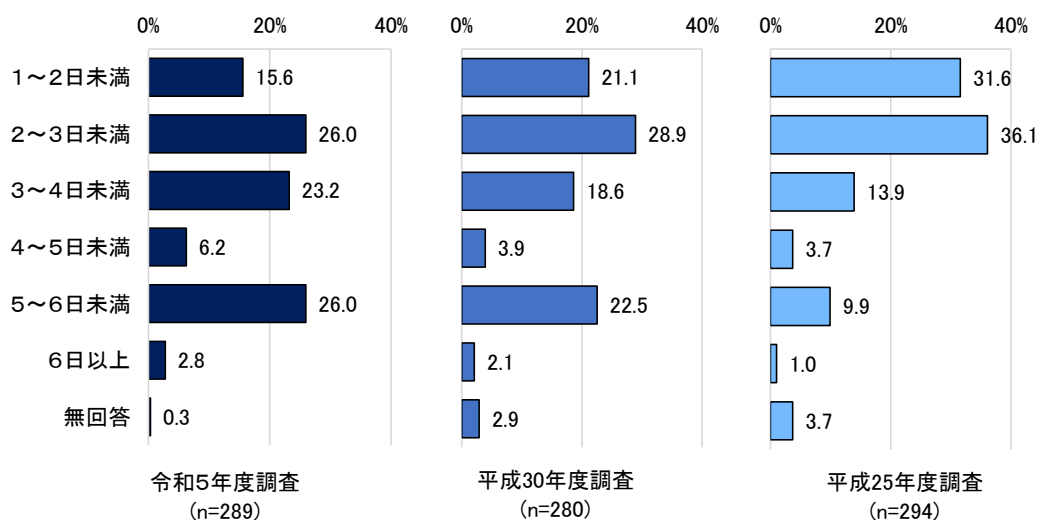
小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後の時間を過ごさせたい場所



①自宅

問 27 で「自宅」と回答した方に対し、小学校高学年のうちに、自宅で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「2～3日未満」と「5～6日未満」が最も多く、それぞれ26.0%、次いで「3～4日未満」が23.2%、「1～2日未満」が15.6%であった。

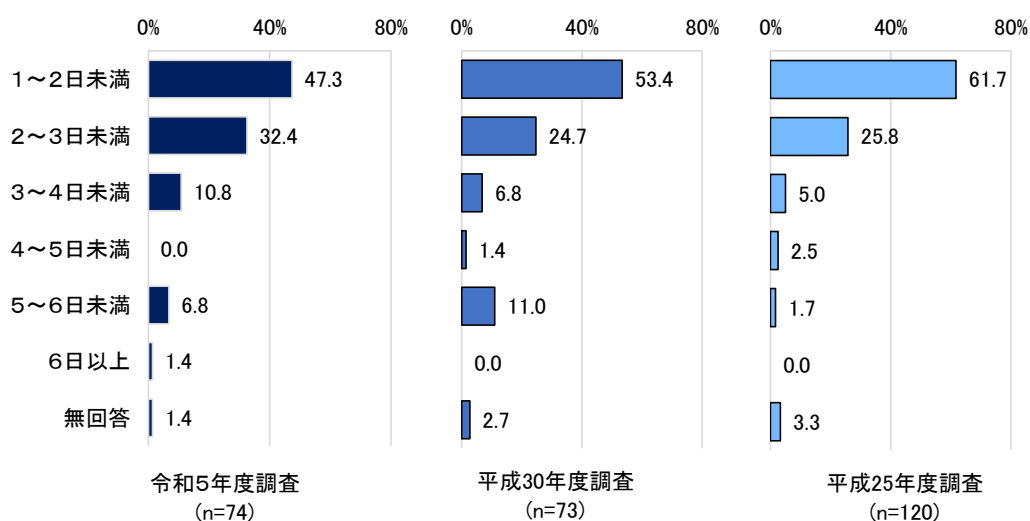
自宅で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



②祖父母宅や友人・知人宅

問 27 で「祖父母宅や友人・知人宅」と回答した方に対し、小学校高学年のうちに、祖父母宅や友人・知人宅で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「1～2日未満」が最も多く47.3%、次いで「2～3日未満」が32.4%、「3～4日未満」が10.8%であった。

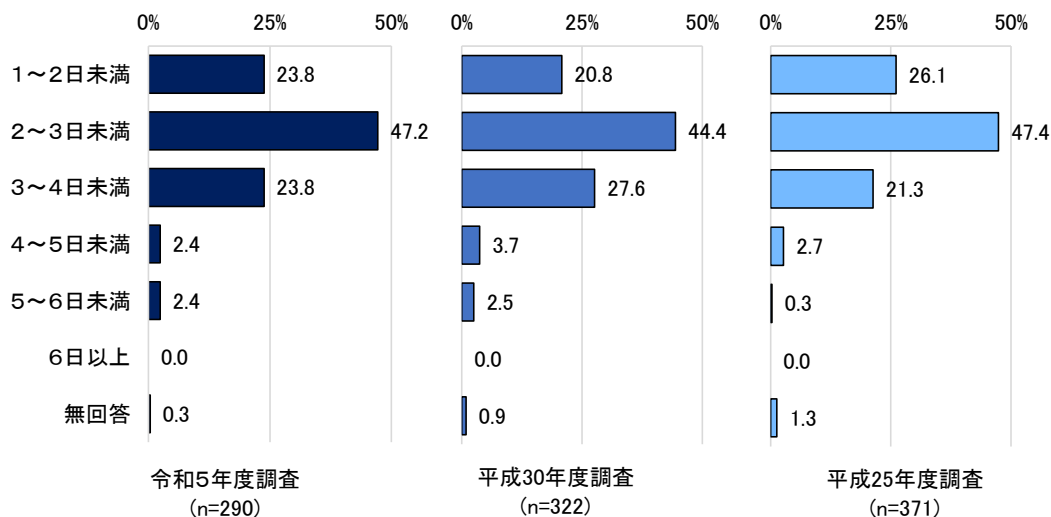
祖父母宅や友人・知人宅で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



③習い事

問 27 で「習い事」と回答した方に対し、小学校高学年のうちに、習い事で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「2～3日未満」が最も多く 47.2%、次いで「1～2日未満」と「3～4日未満」がそれぞれ 23.8%であった。

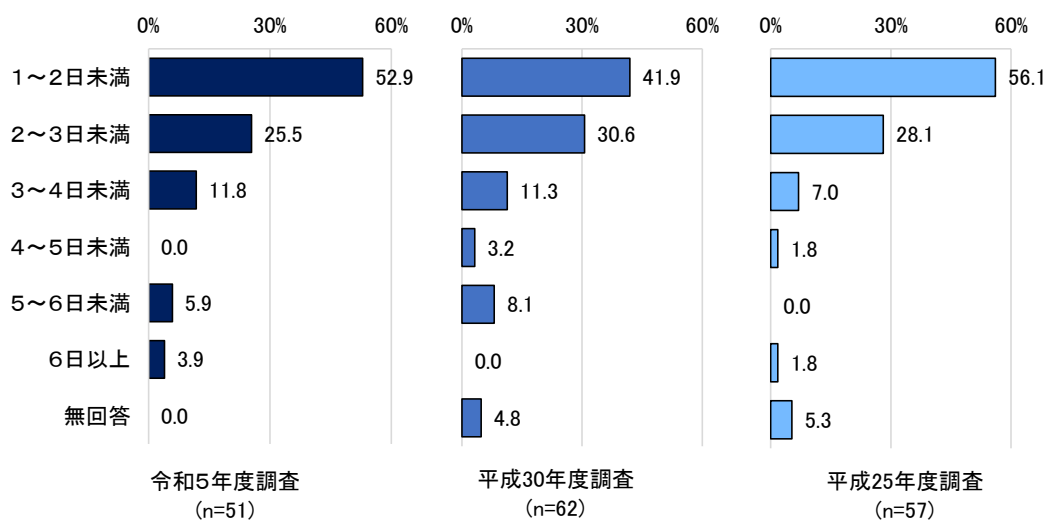
習い事で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



④児童館（コミュニティセンター）

問 27 で「児童館（コミュニティセンター）」と回答した方に対し、小学校高学年のうちに、児童館（コミュニティセンター）で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「1～2日未満」が最も多く 52.9%、次いで「2～3日未満」が 25.5%、「3～4日未満」が 11.8%であった。

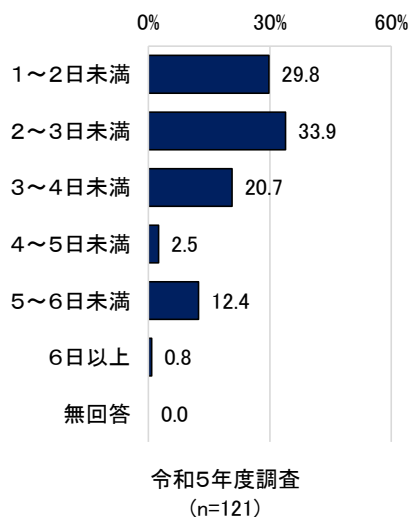
児童館（コミュニティセンター）で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



⑤放課後子ども教室・放課後寺子屋やまと

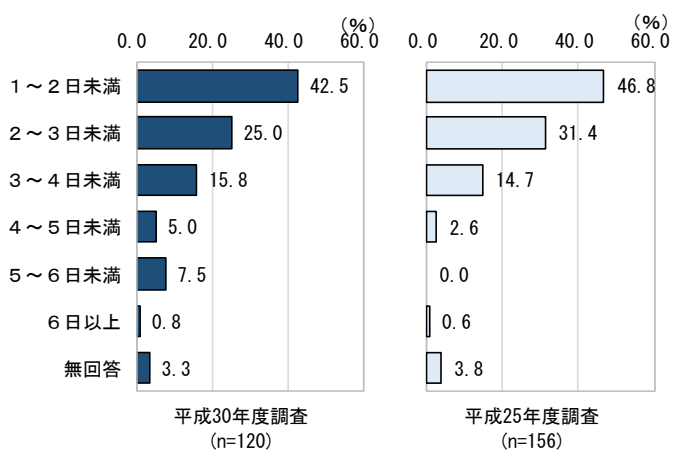
問 27 で「放課後子ども教室・放課後寺子屋やまと」と回答した方に対し、小学校高学年のうちに、放課後子ども教室で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「2～3日未満」が最も多く 33.9%、次いで「1～2日未満」が 29.8%、「3～4日未満」が 20.7%であった。

放課後子ども教室・放課後寺子屋やまとで放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数

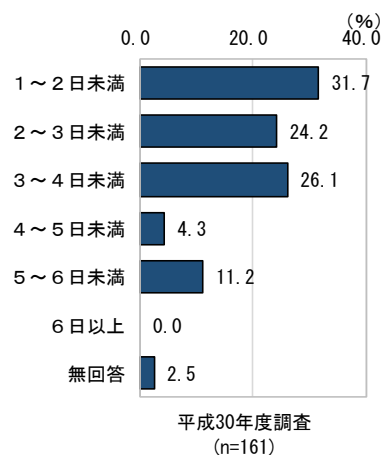


【参考】

放課後子ども教室で
放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



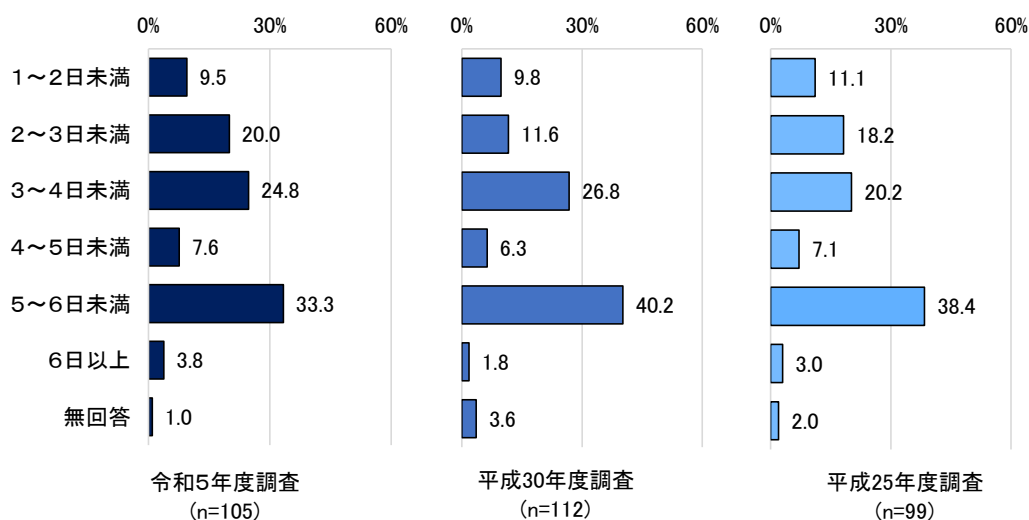
放課後寺子屋やまとで
放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



⑥放課後児童クラブ（学童保育）

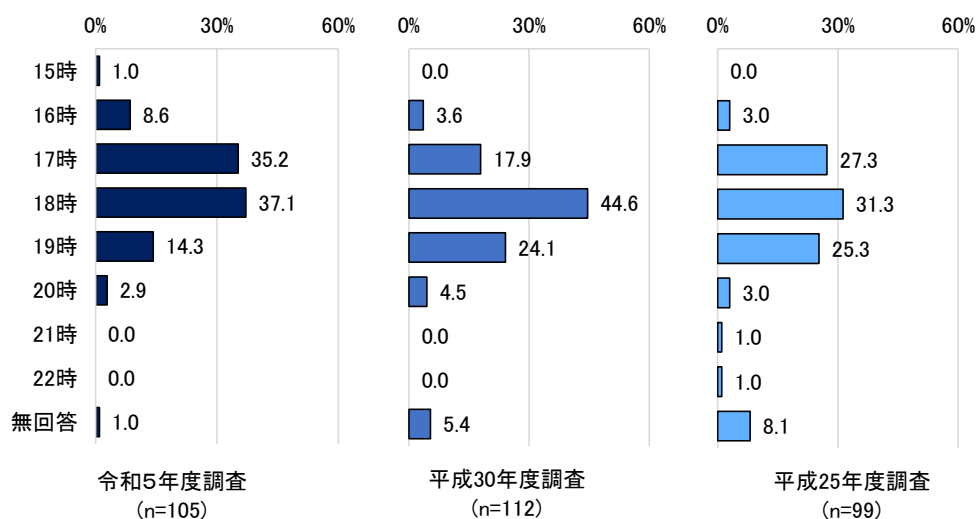
問 27 で「放課後児童クラブ（学童保育）」と回答した方に対し、小学校高学年のうちに、放課後児童クラブ（学童保育）で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「5～6日未満」が最も多く 33.3%、次いで「3～4日未満」が 24.8%、「2～3日未満」が 20.0%であった。

放課後児童クラブ（学童保育）で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



また、下校時から何時まで過ごさせたいかをたずねたところ、「18時」が最も多く 37.1%、次いで「17時」が 35.2%、「19時」が 14.3%であった。

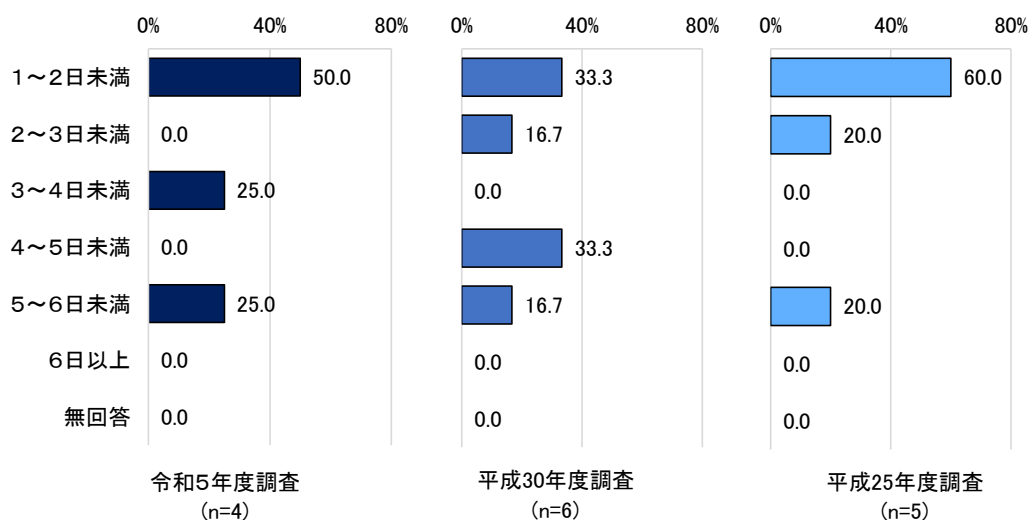
放課後児童クラブ（学童保育）で放課後の時間を過ごさせたい下校時からの時間



⑦ファミリーサポートセンター

問 27 で「ファミリーサポートセンター」と回答した方は4人であり、小学校高学年のうちに、ファミリーサポートセンターで放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「1～2日未満」が2人、「3～4日未満」と「5～6日未満」がそれぞれ1人ずつであった。

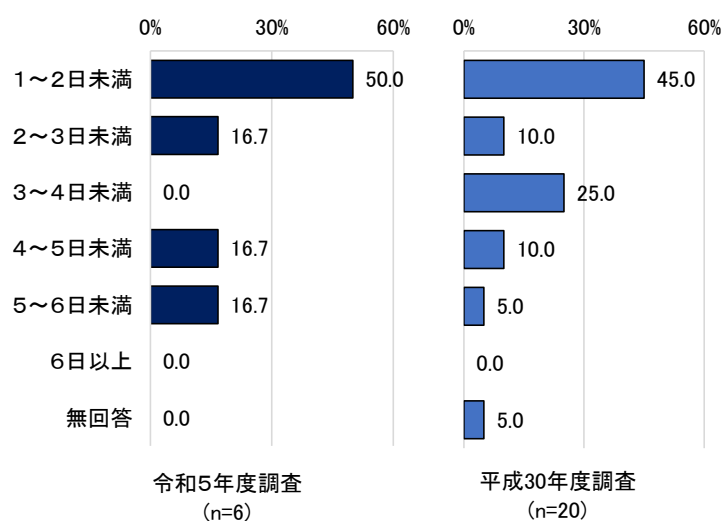
ファミリーサポートセンターで放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



⑧こども食堂

問 27 で「こども食堂」と回答した方は6人であり、小学校高学年のうちに、こども食堂で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「1～2日未満」が3人、「2～3日未満」、「4～5日未満」、「5～6日未満」がそれぞれ1人ずつであった。

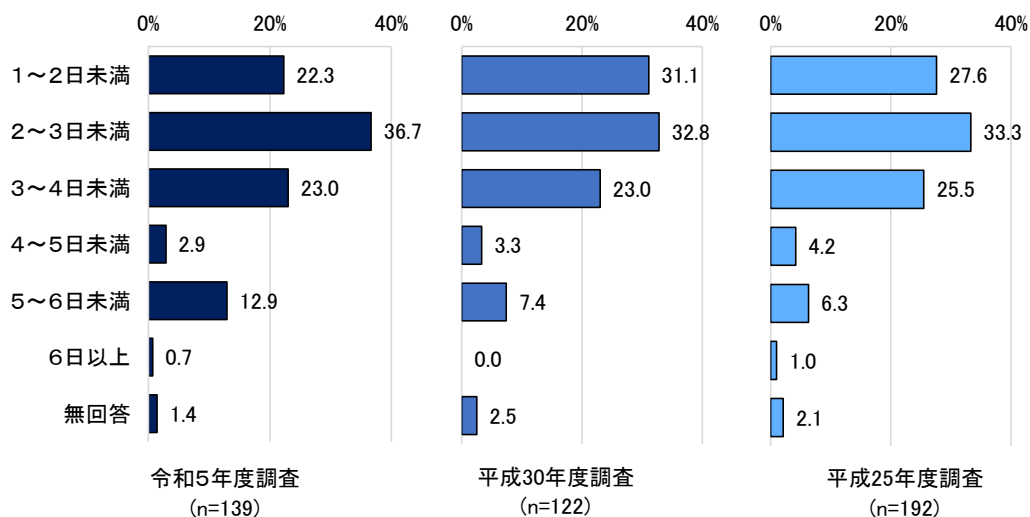
こども食堂で放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



⑨その他（学習センター、公園など）

問 27 で「その他（学習センター、公園など）」と回答した方に対し、小学校高学年のうちに、学習センター、公園などで放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数についてたずねたところ、「2～3日未満」が最も多く 36.7%、次いで「3～4日未満」が 23.0%、「1～2日未満」が 22.3%であった。

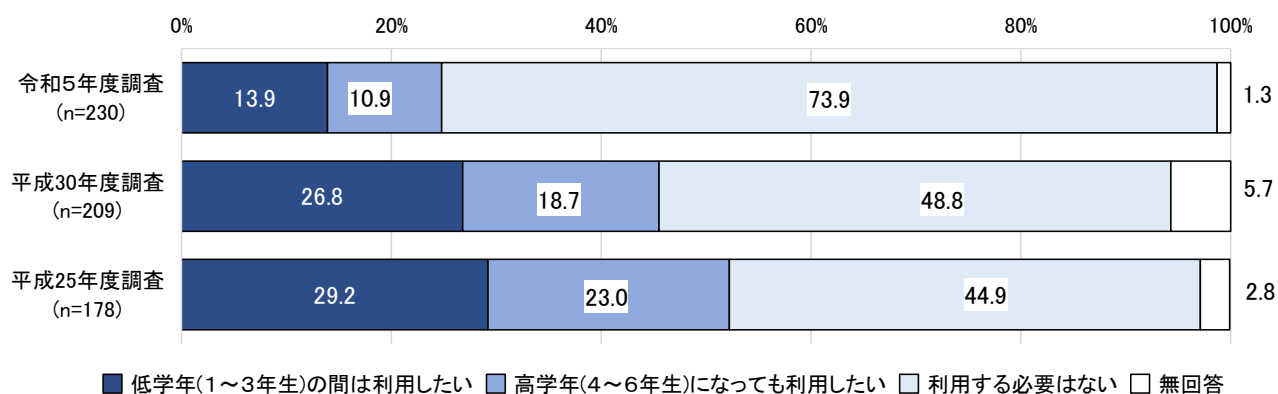
学習センター、公園などで放課後の時間を過ごさせたい週当たりの日数



土曜日の放課後児童クラブの利用希望（問 28(1)）

問 26 または問 27 で「放課後児童クラブ（学童保育）」と回答した方に対し、土曜日に放課後児童クラブを利用したいと思うかについてどうかたずねたところ、「利用する必要はない」が最も多く 73.9%、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が 13.9%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が 10.9%であった。

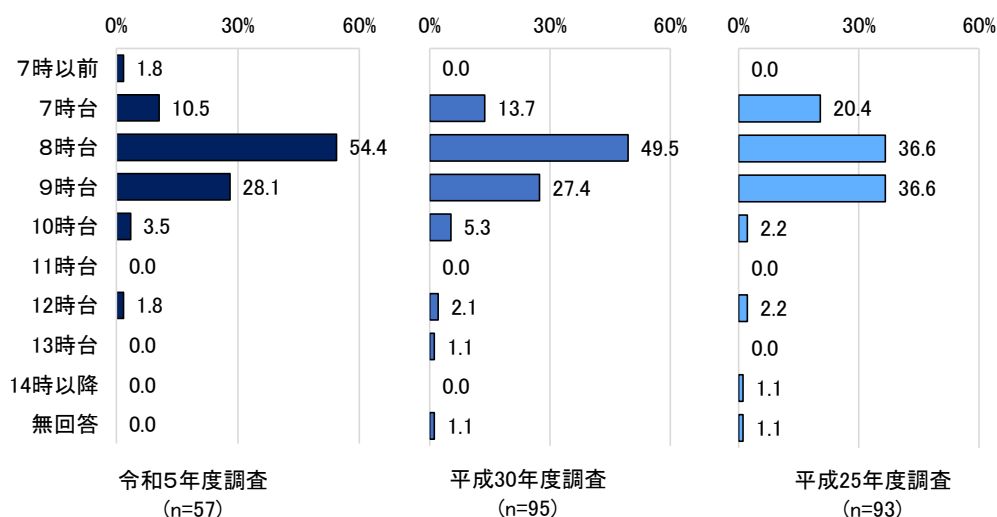
土曜日の放課後児童クラブの利用希望



①利用したい時間帯（開始時刻）

問 28（1）で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（開始時刻）についてたずねたところ、「8時台」が最も多く 54.4%、次いで「9時台」が 28.1%、「7時台」が 10.5%であった。

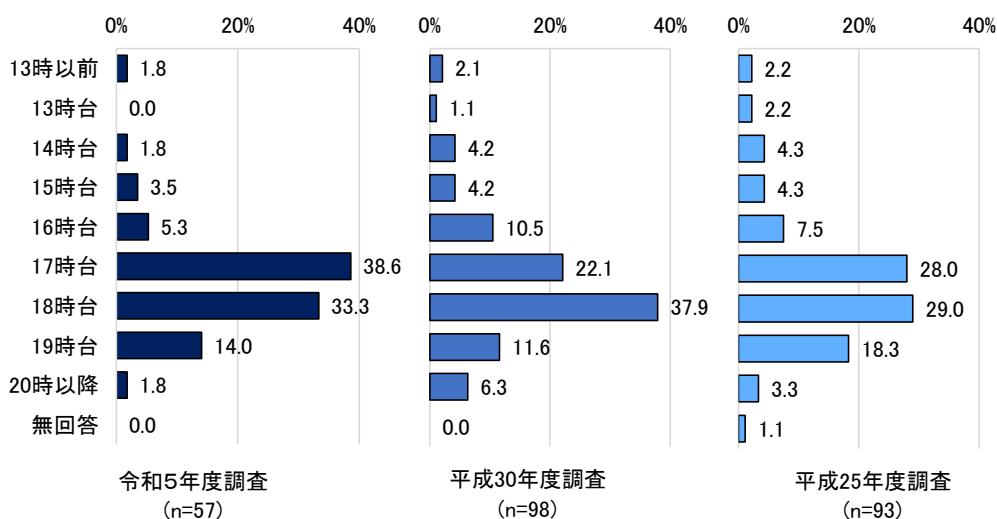
土曜日の放課後児童クラブを利用したい時間帯（開始時刻）



②利用したい時間帯（終了時刻）

問 28（1）で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（終了時刻）についてたずねたところ、「17時台」が最も多く 38.6%、次いで「18時台」が 33.3%、「19時台」が 14.0%であった。

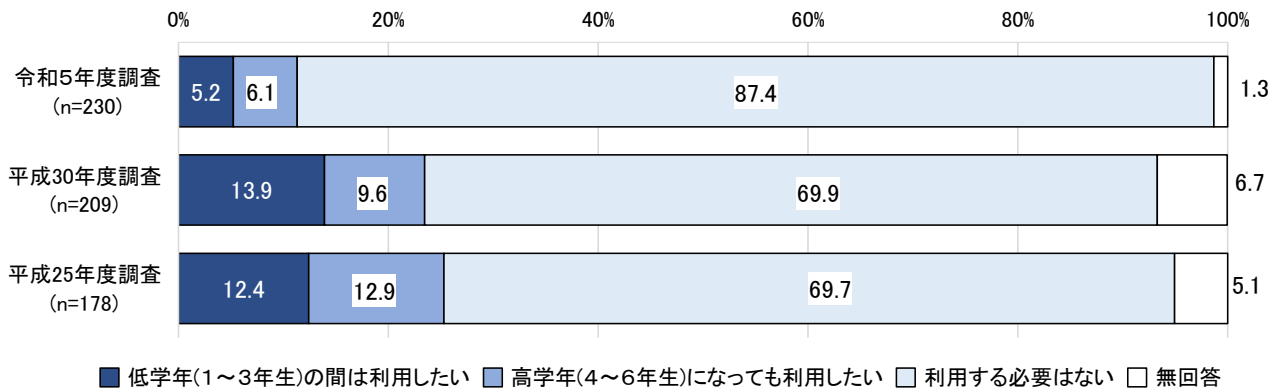
土曜日の放課後児童クラブを利用したい時間帯（終了時刻）



日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望（問 28(2)）

問 26 または問 27 で「放課後児童クラブ（学童保育）」と回答した方に対し、日曜日・祝日に放課後児童クラブを利用したいと思うかについてどうかたずねたところ、「利用する必要はない」が最も多く 87.4%、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が 5.2%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が 6.1%であった。

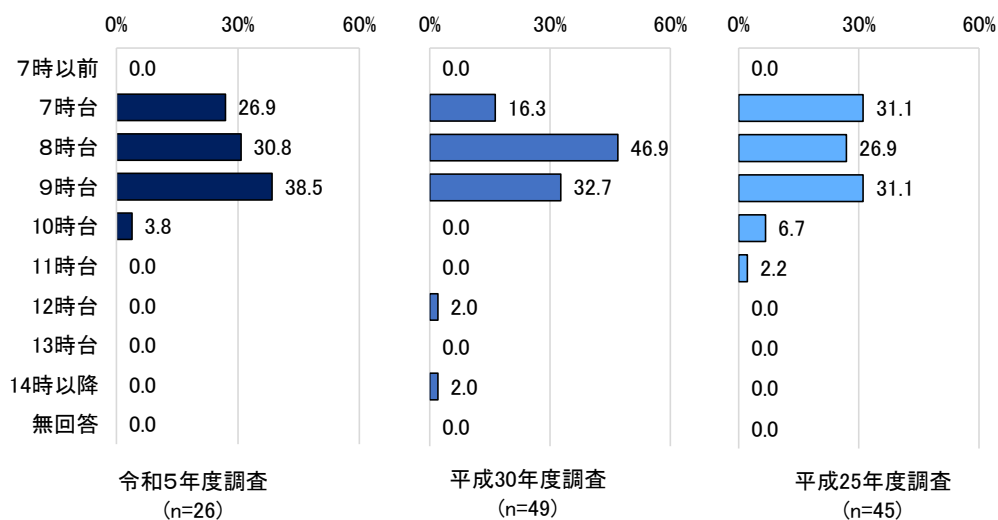
日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望



①利用したい時間帯（開始時刻）

問 28（2）で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（開始時刻）についてたずねたところ、「9時台」が最も多く 38.5%、次いで「8時台」が 30.8%、「7時台」が 26.9%であった。

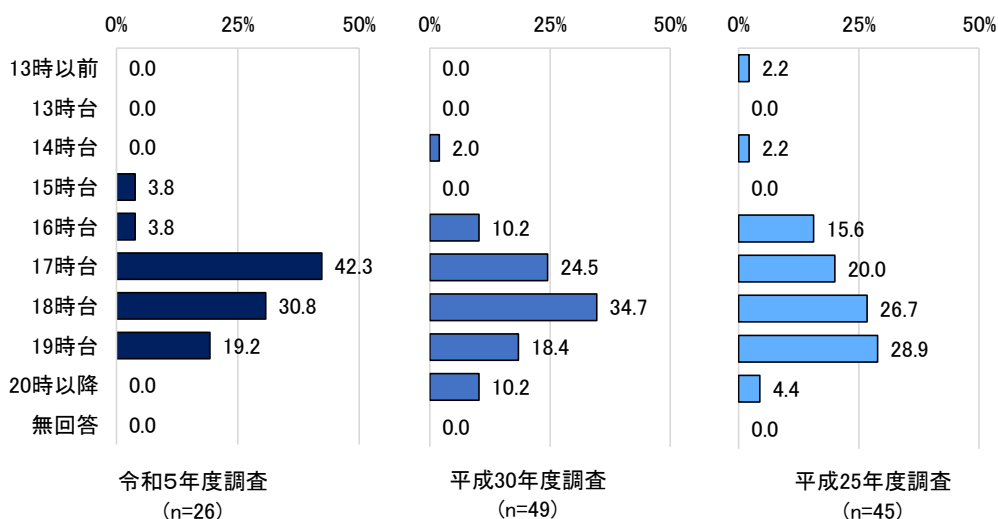
日曜日・祝日の放課後児童クラブを利用したい時間帯（開始時刻）



②利用したい時間帯（終了時刻）

問 28（2）で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（終了時刻）についてたずねたところ、「17時台」が最も多く 42.3%、次いで「18時台」が 30.8%、「19時台」が 19.2%であった。

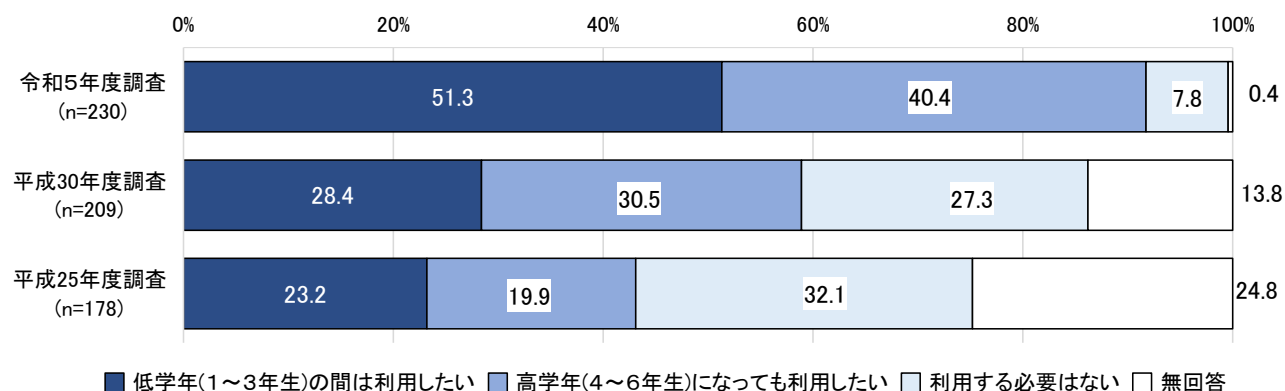
日曜日・祝日の放課後児童クラブを利用したい時間帯（終了時刻）



長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望（問 29）

子どもの夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中に、放課後児童クラブを利用したいかについては、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が最も多く 51.3%、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が 40.4%、「利用する必要はない」が 7.8%であった。

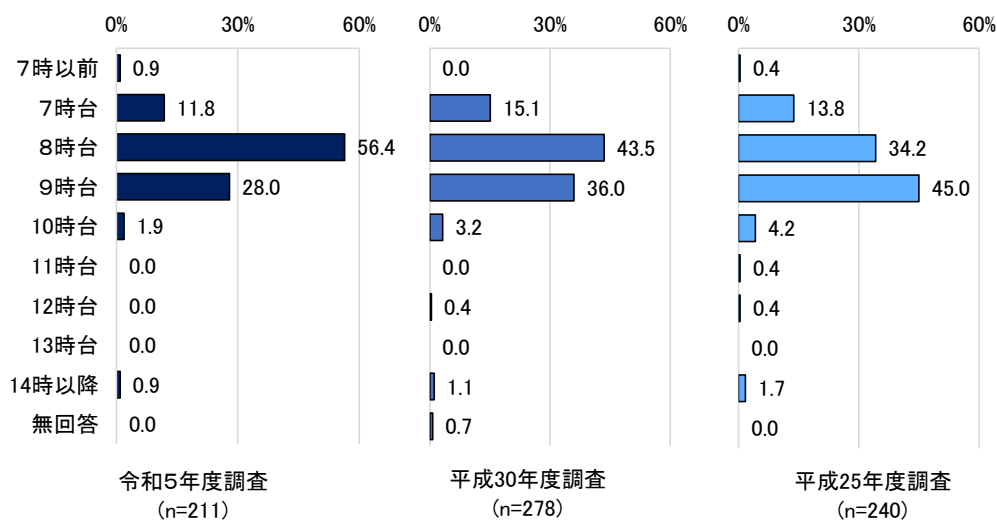
長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望



①利用したい時間帯（開始時刻）

問 29 で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（開始時刻）についてたずねたところ、「8 時台」が最も多く 56.4%、次いで「9 時台」が 28.0% 「7 時台」が 11.8%であった。

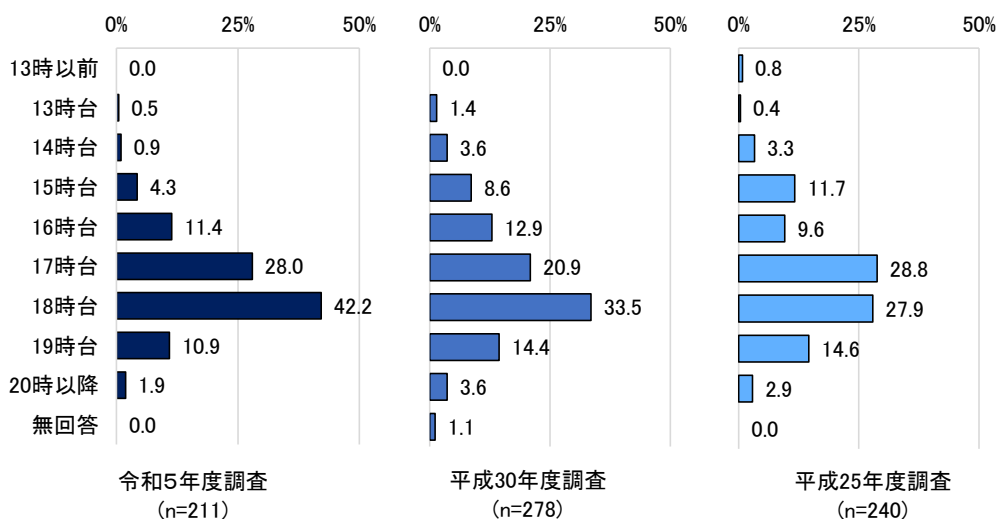
長期休暇期間中の放課後児童クラブを利用したい時間帯（開始時刻）



②利用したい時間帯（終了時刻）

問 29 で「利用したい」と回答した方に対し、利用したい時間帯（終了時刻）についてたずねたところ、「18 時台」が最も多く 42.2%、次いで「17 時台」が 28.0%、「16 時台」が 11.4%であった。

長期休暇期間中の放課後児童クラブを利用したい時間帯（終了時刻）

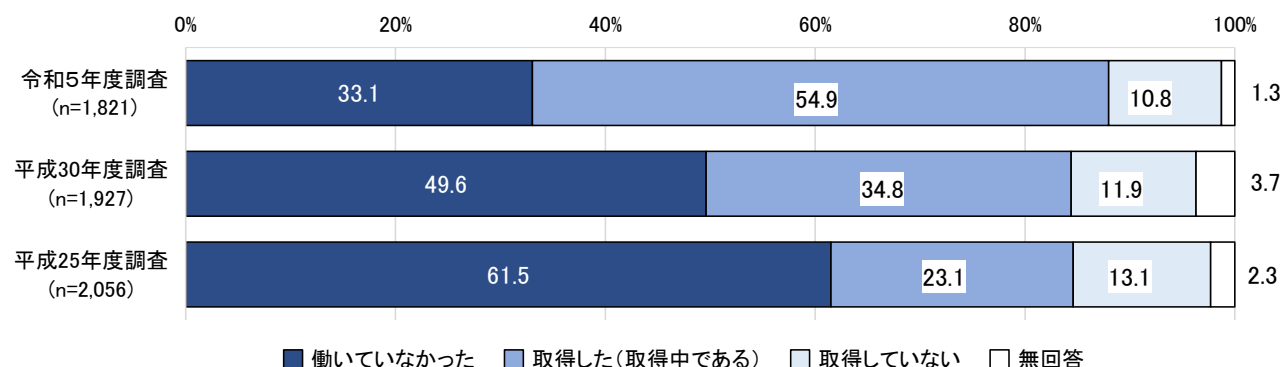


(10) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

調査対象児童が生まれた時の、育児休業の取得の有無（母親）（問 30）

調査対象児童が生まれた時、母親が育児休業を取得したかどうかについては、「取得した（取得中である）」が54.9%、「取得していない」が10.8%であった。なお、「働いていなかった」が33.1%であった。

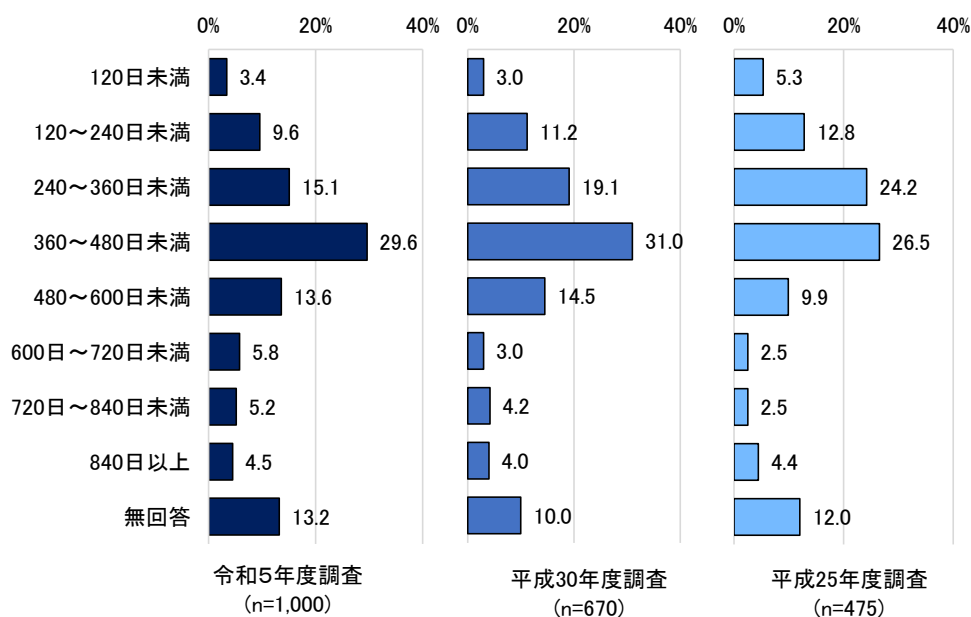
調査対象児童が生まれた時の、育児休業の取得の有無（母親）



①育児休業の取得期間（母親）

問 30 で「取得した（取得中である）」と回答した方に対し、育児休業の取得期間についてたずねたところ、「360～480日未満」が最も多く29.6%、次いで「240～360日未満」が15.1%、「480～600日未満」が13.6%であった。

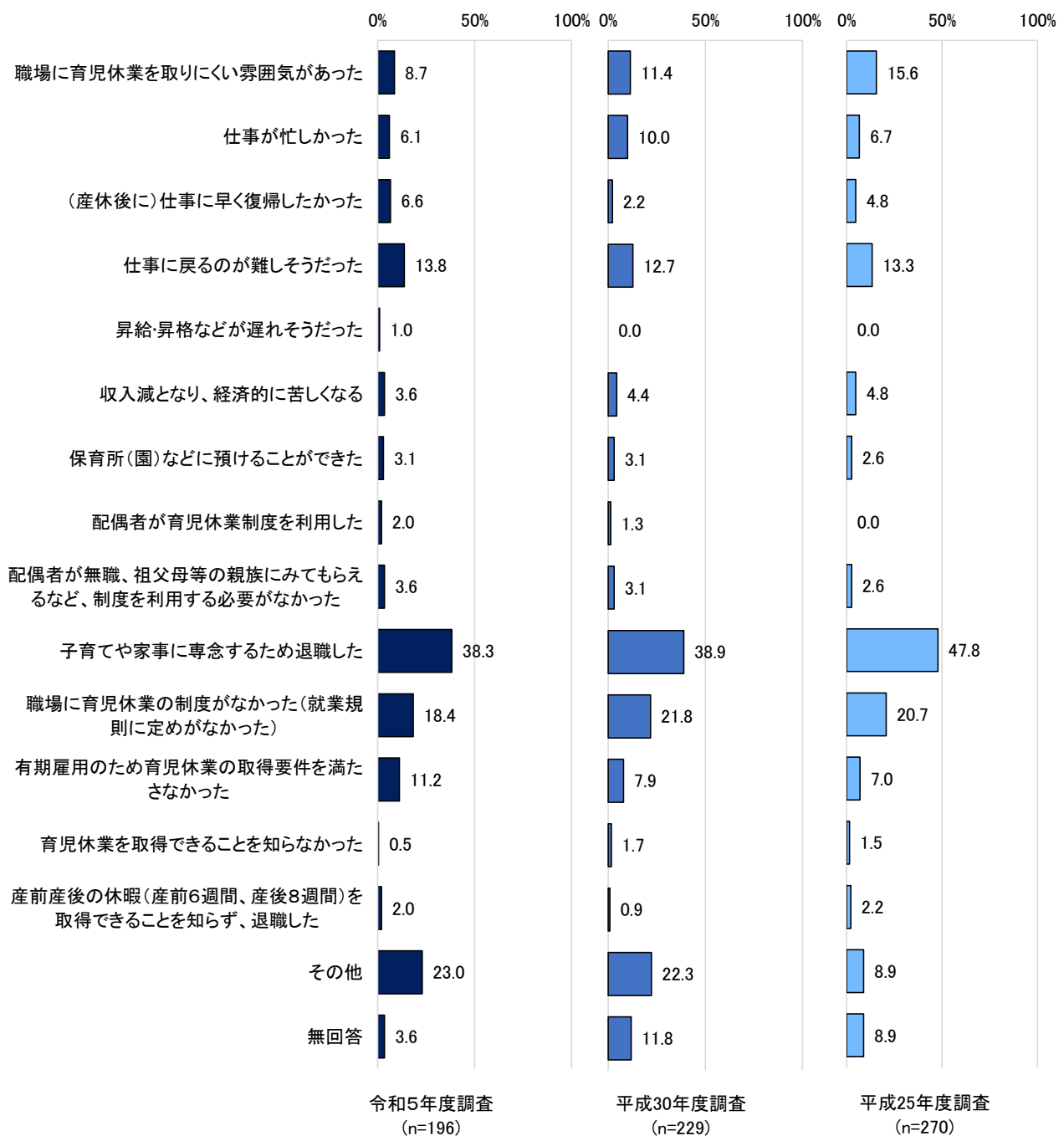
育児休暇の取得期間（母親）



調査対象児童が生まれた時に、育児休業を取得していない理由(母親、複数回答)(問 30(1))

問 30 で「取得しなかった」と回答した方に対し、育児休業を取得していない理由についてたずねたところ、「子育てや家事に専念するため退職した」が最も多く 38.3%、次いで「その他」23.0%、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が 18.4%、「仕事に戻るのが難しそうだった」が 13.8%であった。「その他」の主な理由は、「自営業、個人事業主のため」、「育児休業の取得要件を満たさなかった」、「パート、派遣、アルバイトのため」、「退職した」などであった。

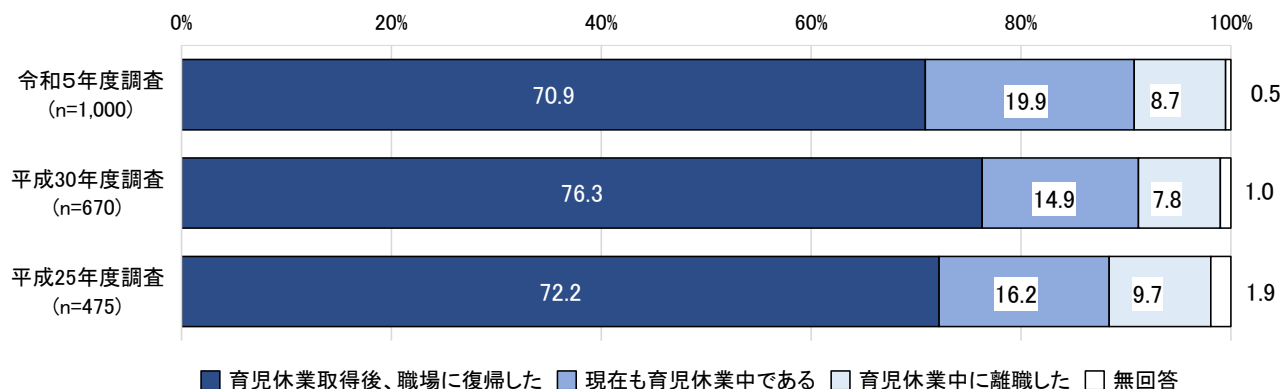
調査対象児童が生まれた時に、育児休業を取得していない理由(母親)



育児休業取得後、職場への復帰の有無（母親）（問 30-1）

問 30 において育児休業を「取得した(取得中である)」と回答した方(母親)に対し、育児休業取得後、職場に復帰したかどうかについてたずねたところ、「育児休業取得後、職場に復帰した」が70.9%であった。一方で、「育児休業中に離職した」と回答している方は8.7%であった。

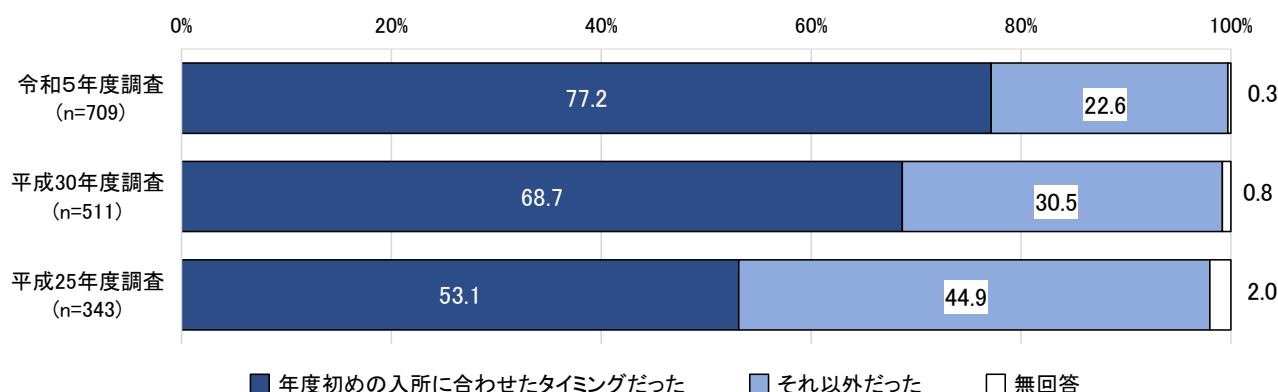
育児休業取得後、職場への復帰の有無（母親）



育児休業から職場へ復帰したタイミング（母親）（問 30-2）

問 30-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方(母親)に対し、復帰のタイミングは年度初めの保育所入所に合わせたものであったかどうかについてたずねたところ、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が77.2%、「それ以外だった」が22.6%であった。

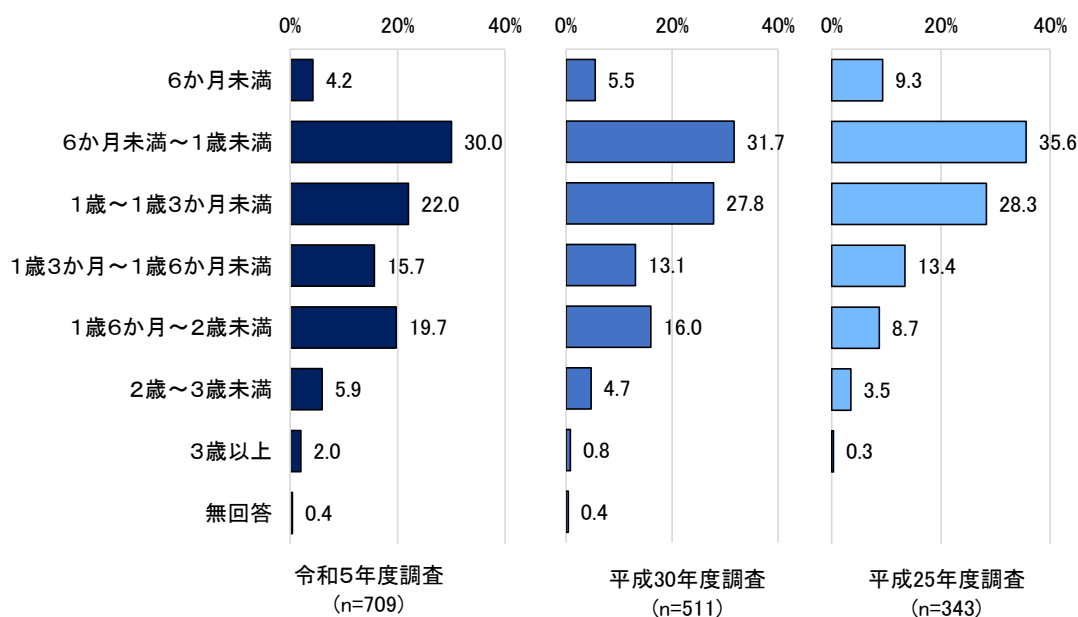
育児休業から職場へ復帰したタイミング（母親）



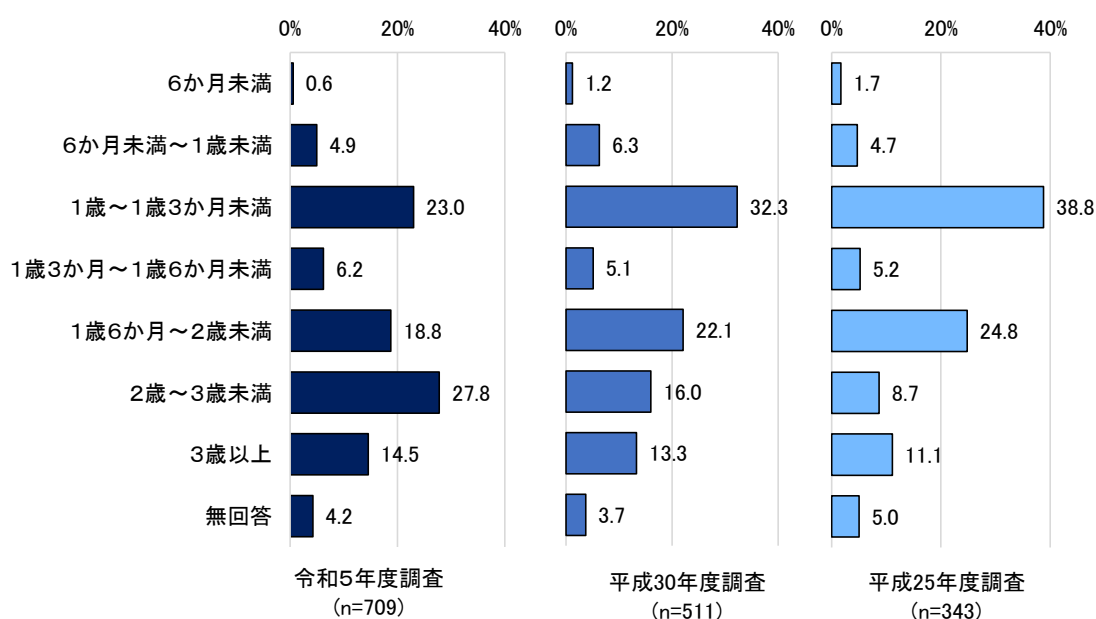
育児休業取得後、職場復帰したときの子どもの年齢（母親）（問 30-3）

問 30-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した母親に対し、職場に復帰した時に子どもが何歳であったかたずねたところ、「6か月～1歳未満」が最も多く 30.0%、次いで「1歳～1歳3か月未満」が 22.0%、「1歳6か月～2歳未満」が 19.7%であるが、希望としては「2歳～3歳未満」が最も多く 27.8%、次いで「1歳～1歳3か月未満」が 23.0%、「1歳6か月～2歳未満」が 18.8%であった。

育児休業取得後、職場復帰したときの子どもの年齢（実際）（母親）



育児休業取得後、職場復帰したときの子どもの年齢（希望）（母親）

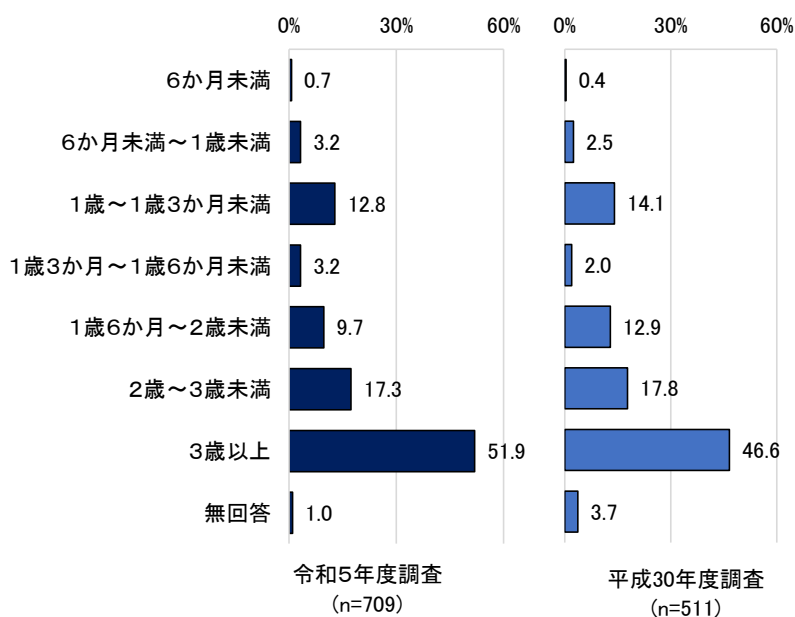


勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の取得希望（母親）

（問 30-4）

問 30-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した母親に対し、勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何か月のときまで取りたかったかについてたずねたところ、「3歳以上」が最も多く51.9%、次いで「2～3歳」が17.3%、「1歳～1歳3か月未満」が12.8%であった。

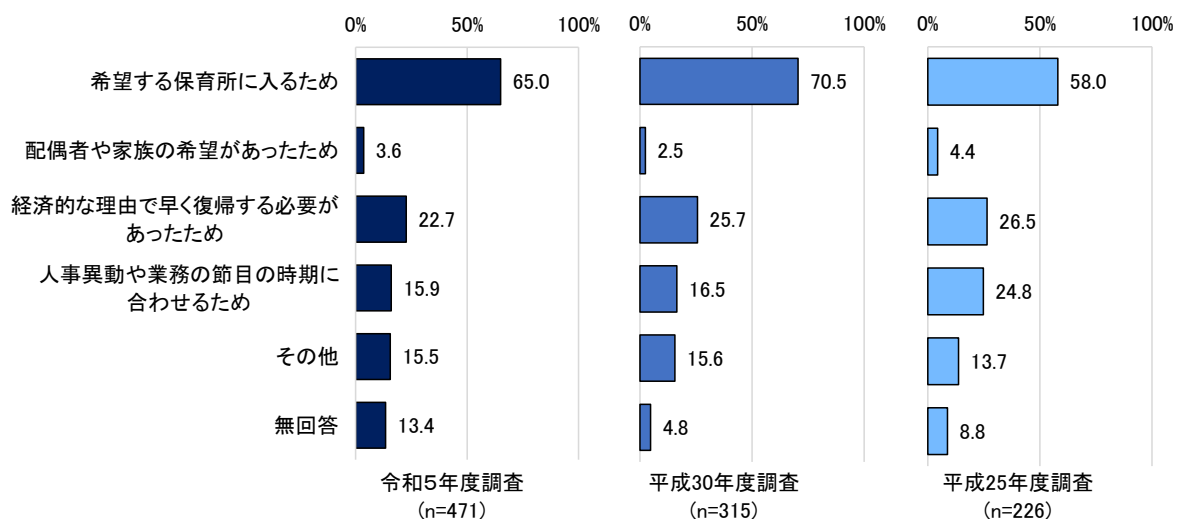
勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の取得希望（母親）



希望より早く職場復帰した理由（母親）（問 30-5(1)、複数回答）

問 30-3 で、希望していた休業期間より早く職場に復帰したと回答した方に対し、希望より早く職場復帰した理由についてたずねたところ、「希望する保育所に入るため」が最も多く65.0%、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」が22.7%であった。

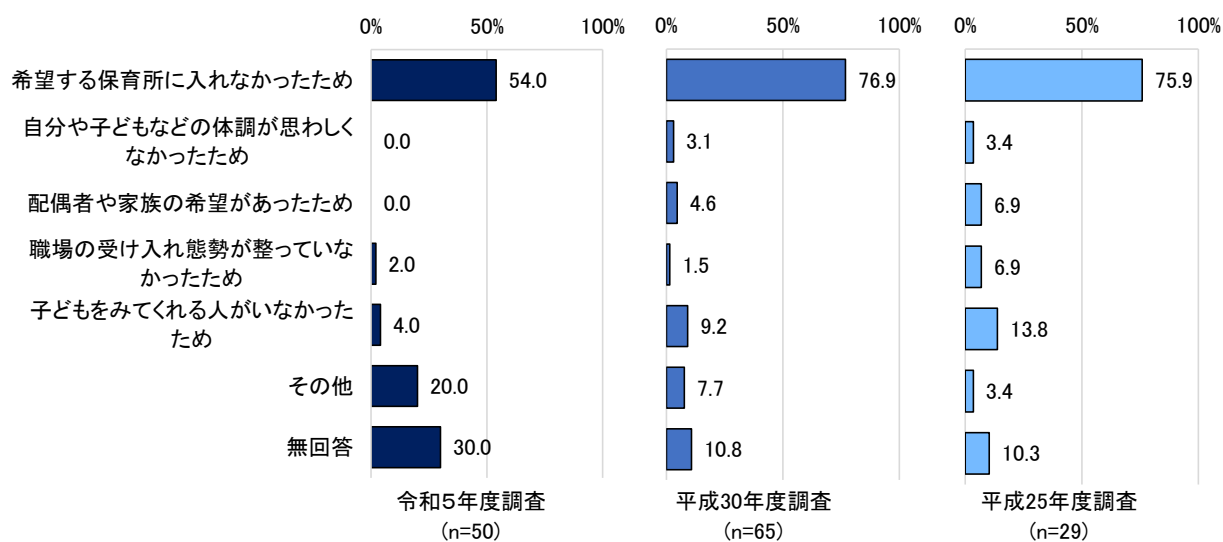
希望より早く職場復帰した理由（母親）



希望より遅く職場復帰した理由（母親）（問 30-5(2)、複数回答）

問 30-3 で、希望していた休業期間より遅く職場に復帰したと回答した方に対し、希望より遅く職場復帰した理由についてたずねたところ、「希望する保育所に入れなかったため」が最も多く 54.0%の回答があった。

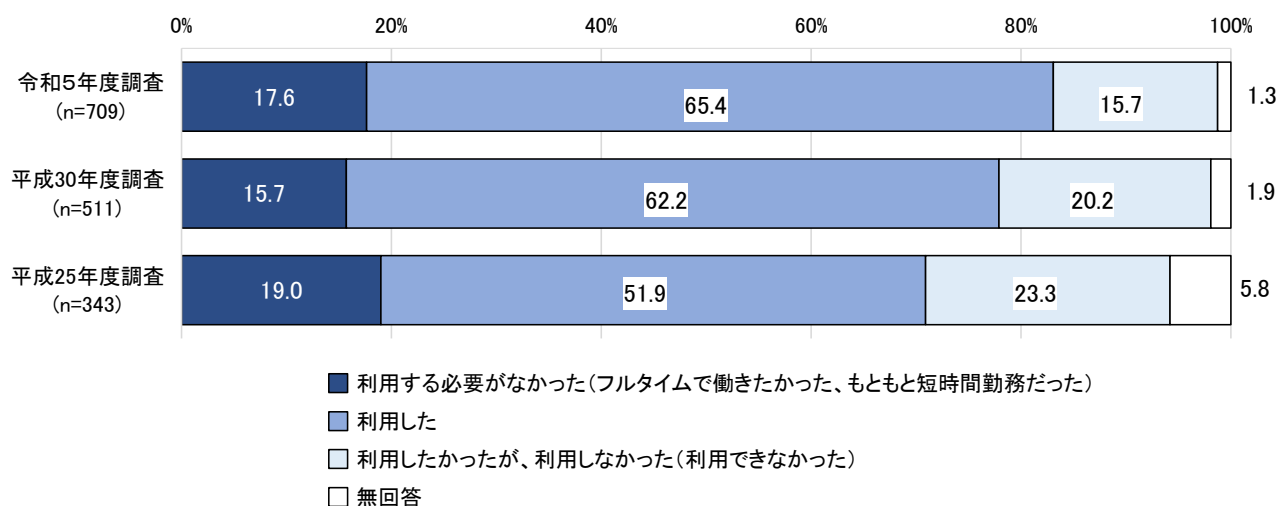
希望より遅く職場復帰した理由（母親）



育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況（母親）（問 30-6）

問 30-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した母親に対し、職場復帰時に短時間勤務制度を利用したかについてたずねたところ、「利用した」が最も多く 65.4%、次いで「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」が 17.6%、「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」が 15.7%であった。

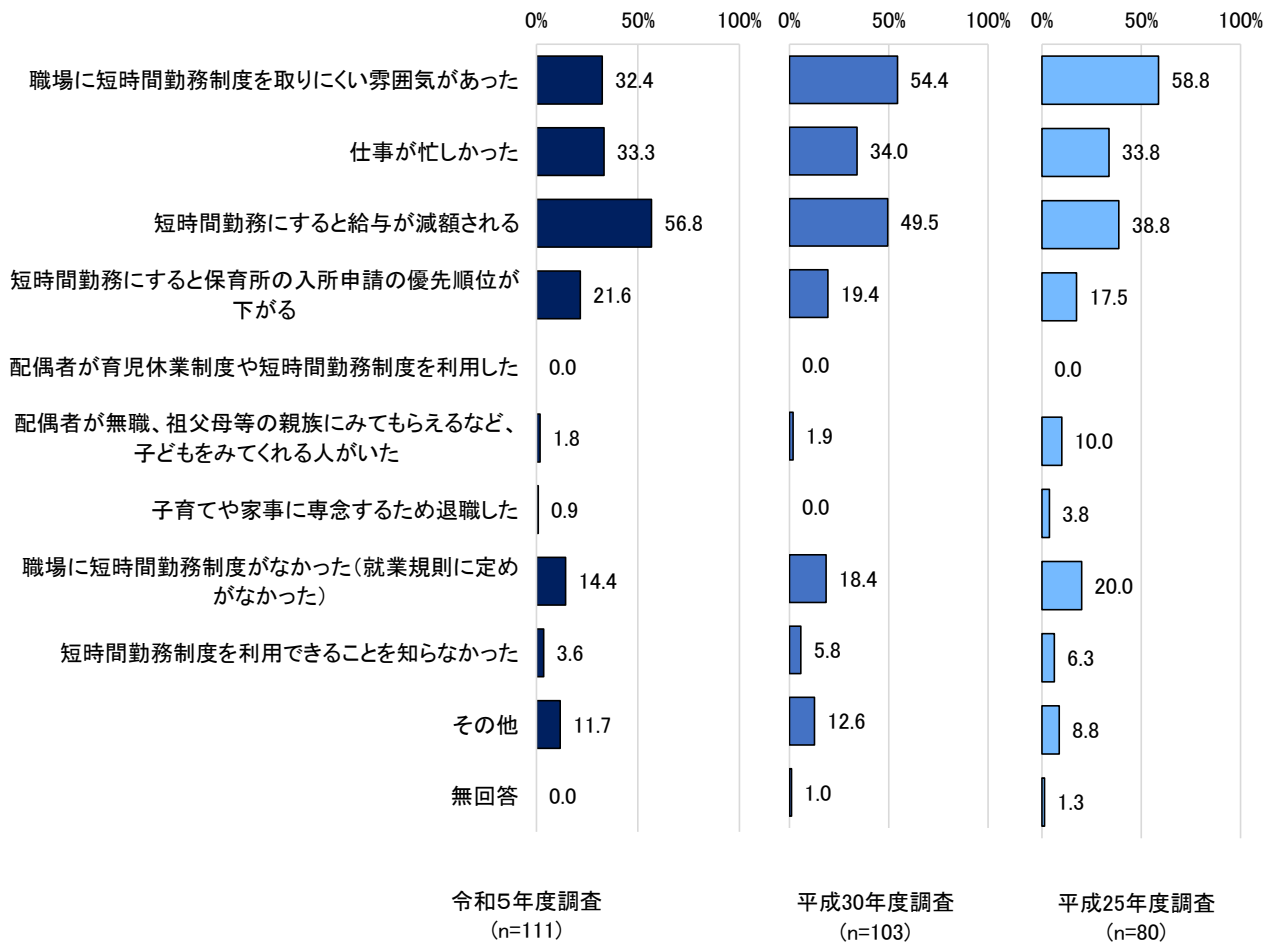
育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況（母親）



短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由（母親）（問 30-7、複数回答）

問 30-6 で「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」と回答した母親に対し、短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由についてたずねたところ、「短時間勤務にすると給与が減額される」が最も多く 56.8%、次いで「仕事が忙しかった」が 33.3%、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 32.4%であった。

短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由（母親）

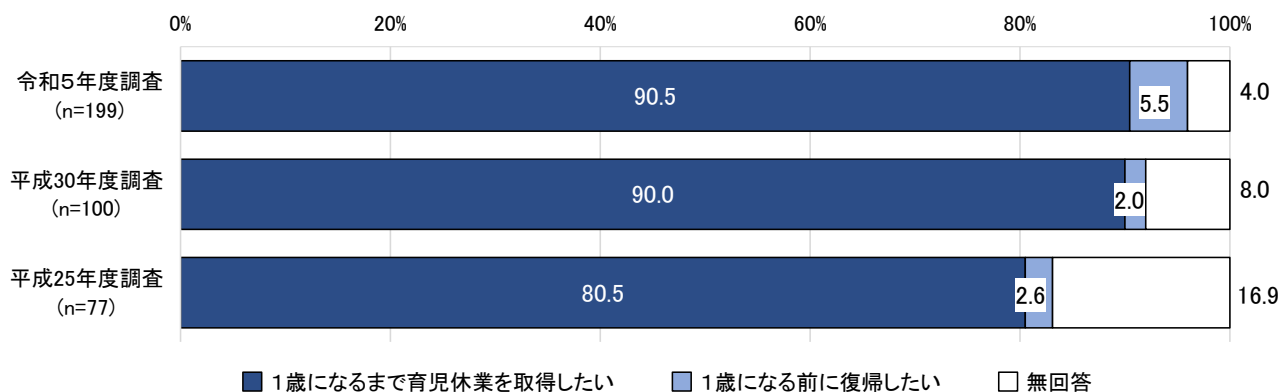


子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業がある場合の育児休業の取得期間に関する意向（母親）

（問 30-8）

問 30-1 で「現在も育児休業中である」と回答した母親に対し、子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得したいと思うかについてたずねたところ、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が90.5%、「1歳になる前に復帰したい」が5.5%であった。

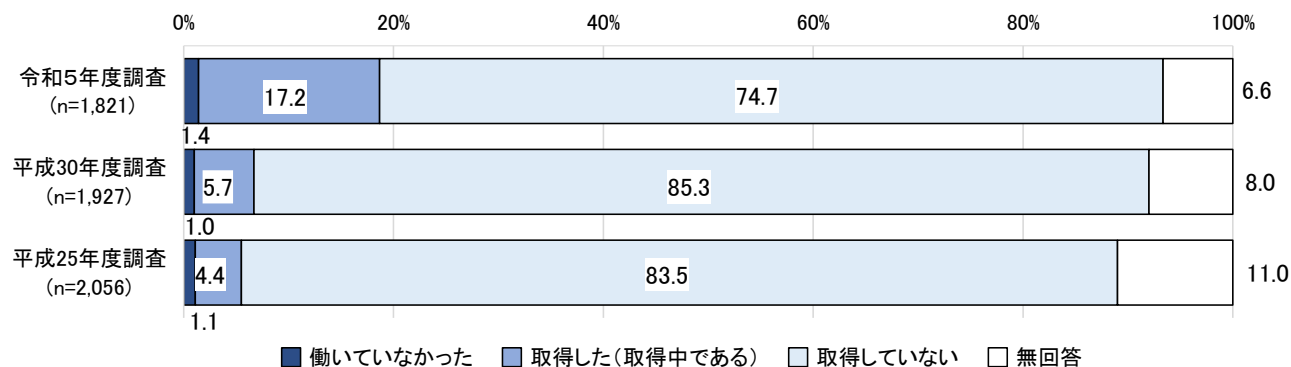
子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業がある場合の育児休業の取得期間に関する意向（母親）



調査対象児童が生まれた時の、育児休業の取得の有無（父親）（問 31）

調査対象児童が生まれた時、父親が育児休業を取得したかどうかについては、「取得していない」が最も多く 74.7%、次いで「取得した（取得中である）」が 17.2%、「働いていなかった」が 1.4%であった。

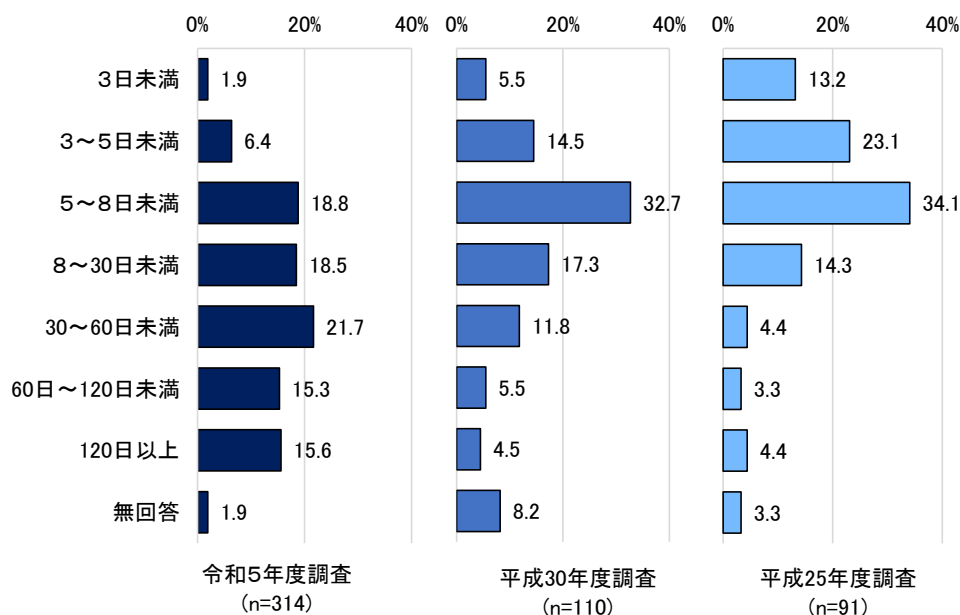
調査対象児童が生まれた時の、育児休業の取得の有無（父親）



①育児休業の取得期間（父親）

問 31 で「取得した（取得中である）」と回答した方に対し、育児休業の取得期間についてたずねたところ、「30～60日未満」が最も多く 21.7%、次いで「5～8日未満」が 18.8%、「8～30日未満」が 18.5%であった。

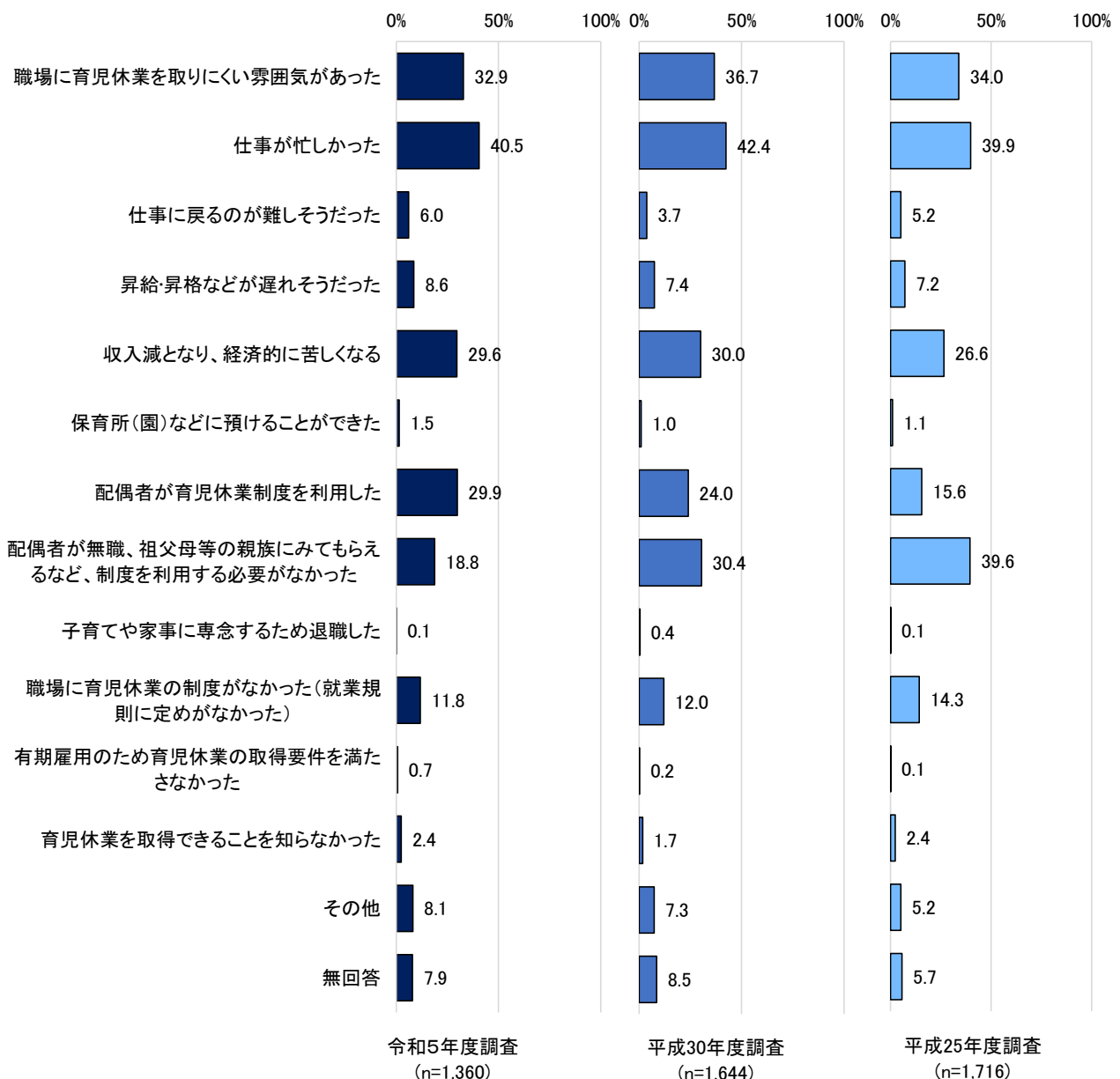
育児休暇の取得期間（父親）



調査対象児童が生まれた時に、育児休業を取得していない理由（父親、複数回答）（問 31 (1)）

問 31 で「取得しなかった」と回答した方に対し、育児休業を取得していない理由についてたずねたところ、「仕事が忙しかった」が最も多く 40.5%、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 32.9%、「配偶者が育児休業制度を利用した」が 29.9%であった。

調査対象児童が生まれた時に、育児休業を取得していない理由（父親）



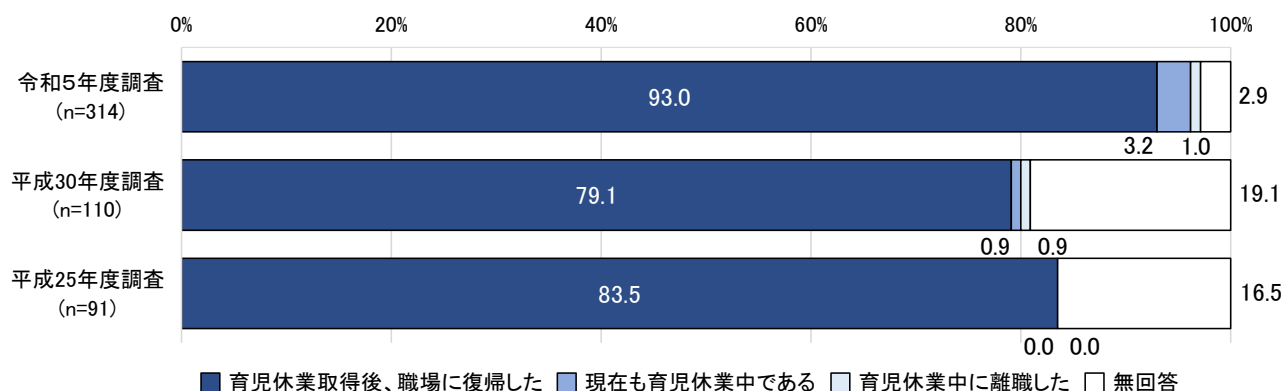
その他記述

意見	件数	意見	件数
自営業、個人事業主、フリーランス	36	まだ保護者になっていなかった(結婚前、再婚)	6
有給休暇で対応したため	15	就労環境の工夫(時短等)	5
在宅勤務、リモートワーク	11	育児休業の取得要件に満たなかったため	3
転職したため	7	親に協力してもらった	2
仕事の都合で取れなかった(海外勤務、昇進、出向等)	7	生活が成り立たないから	1
会社の都合で取れなかった(制度がない、人員不足等)	7	仕事しなかったから	1
必要ないと思ったため	6	その他	6
		合計	113

育児休業取得後、職場への復帰の有無（父親）（問 31-1）

問 31 において育児休業を「取得した(取得中である)」と回答した方（父親）に対し、育児休業取得後、職場に復帰したかどうかについてたずねたところ、「育児休業取得後、職場に復帰した」が最も多く 93.0%であった。

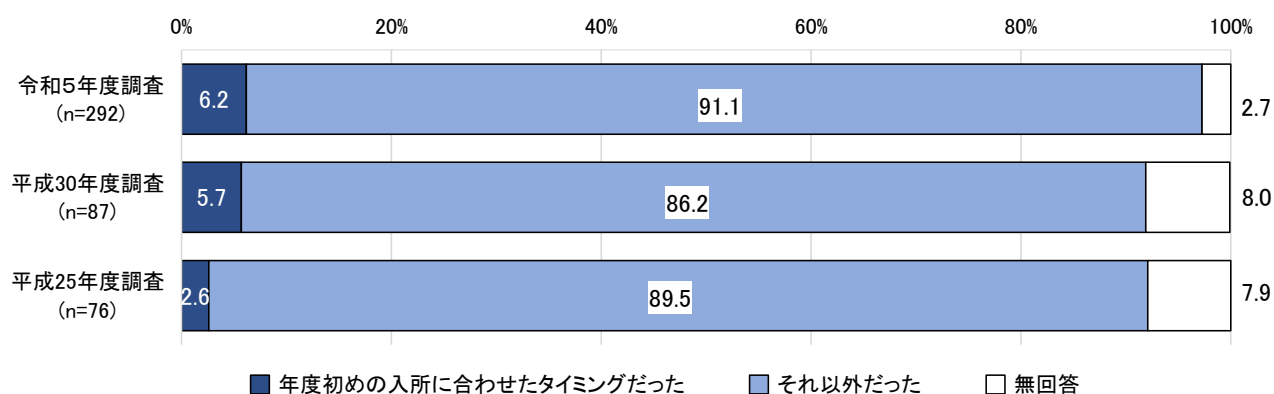
育児休業取得後、職場への復帰の有無（父親）



育児休業から職場へ復帰したタイミング（父親）（問 31-2）

問 30-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方（父親）に対し、復帰のタイミングは年度初めの保育所入所に合わせたものであったかどうかについてたずねたところ、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が 6.2%、「それ以外だった」が 91.1%であった。

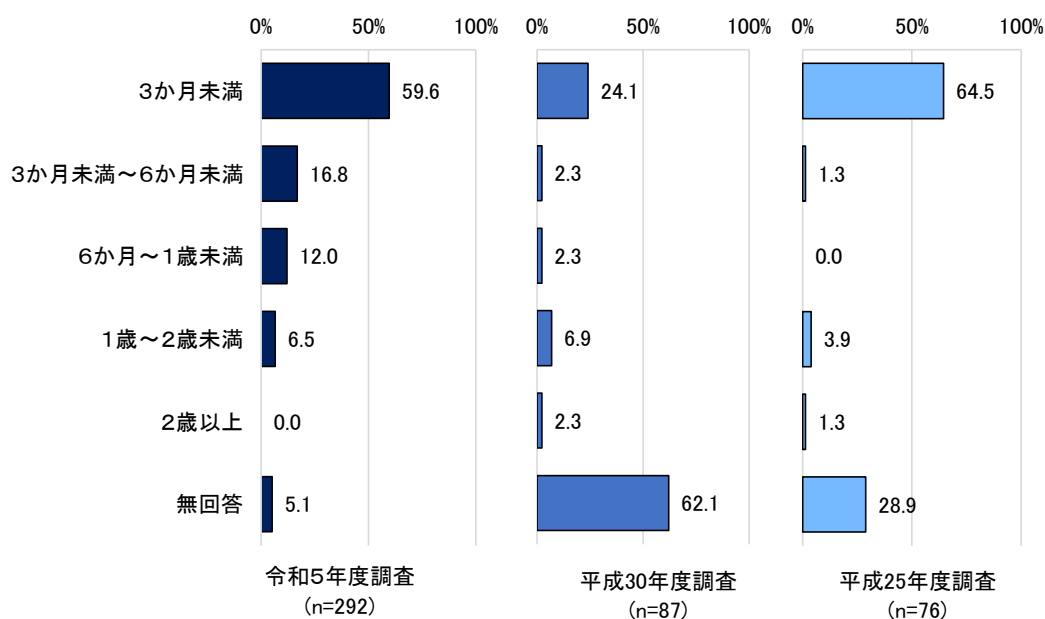
育児休業から職場へ復帰したタイミング（父親）



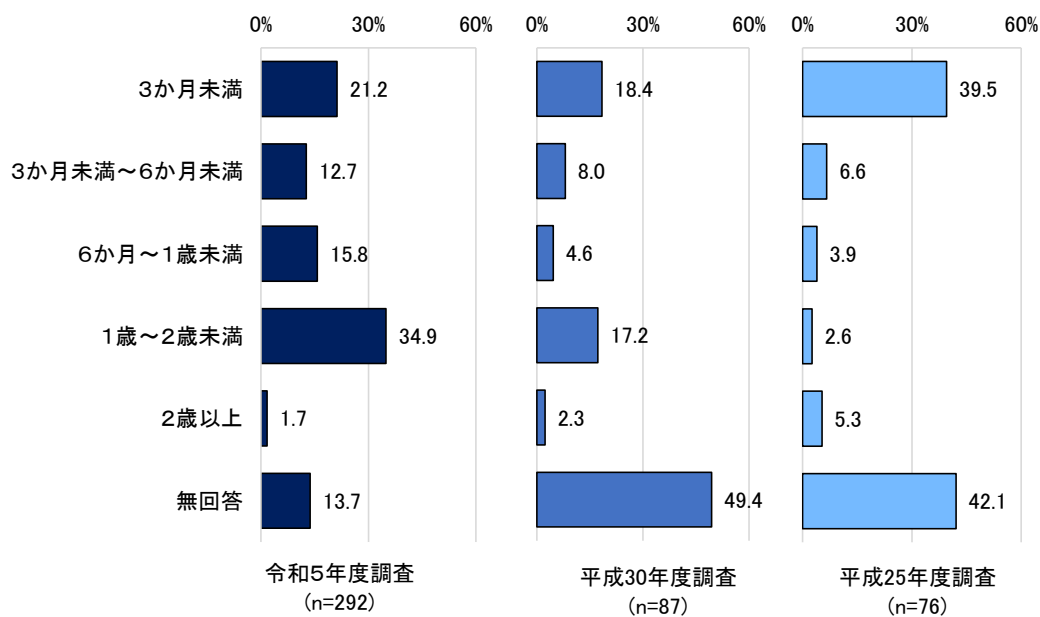
育児休業取得後、職場復帰したときの子どもの年齢（父親）（問 31-3）

問 30-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した父親に対し、職場に復帰した時に子どもが何歳であったかたずねたところ、「3か月未満」が最も多く 59.6%で、希望としては「1歳～2歳未満」が最も多く 34.9%であった。

育児休業取得後、職場復帰したときの子どもの年齢（実際）（父親）



育児休業取得後、職場復帰したときの子どもの年齢（希望）（父親）

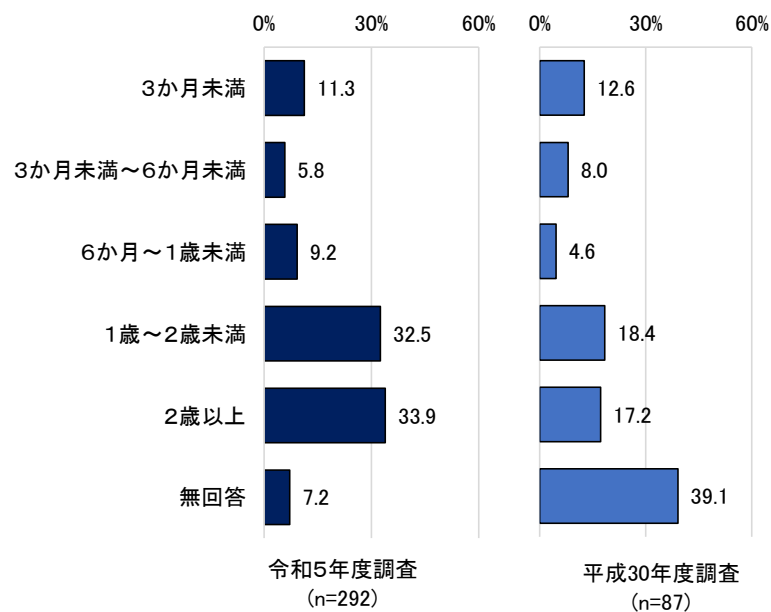


勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の取得希望（父親）

（問 31-4）

問 30-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した父親に対し、勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何か月のときまで取りたかったかについてたずねたところ、「2歳以上」が最も多く33.9%、次いで「1～2歳未満」が32.5%、「3か月未満」が11.3%であった。

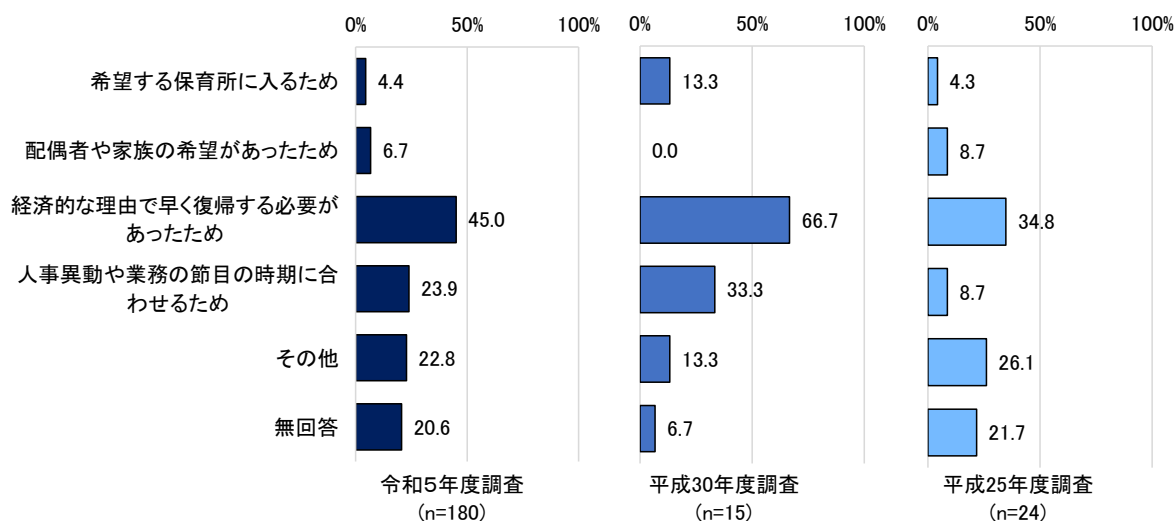
勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の取得希望（父親）



希望より早く職場復帰した理由（父親）（問 31-5(1)、複数回答）

問 30-3 で、希望していた休業期間より遅く職場に復帰したと回答した父親に対し、希望より遅く職場復帰した理由についてたずねたところ、「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」が最も多く 45.0%であった。

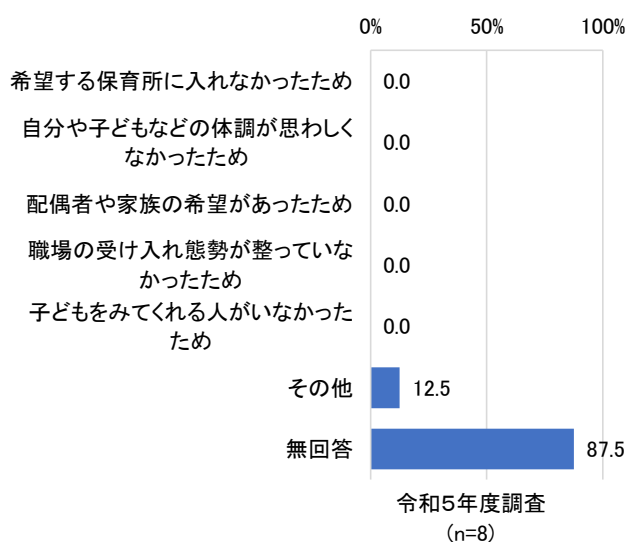
希望より早く職場復帰した理由（父親）



希望より遅く職場復帰した理由（父親）（問 31-5(2)、複数回答）

問 31-3 で、希望していた休業期間より遅く職場に復帰したと回答した方は8名であり、希望より遅く職場復帰した理由についてたずねたところ、その他が1名、無回答が7名であった。

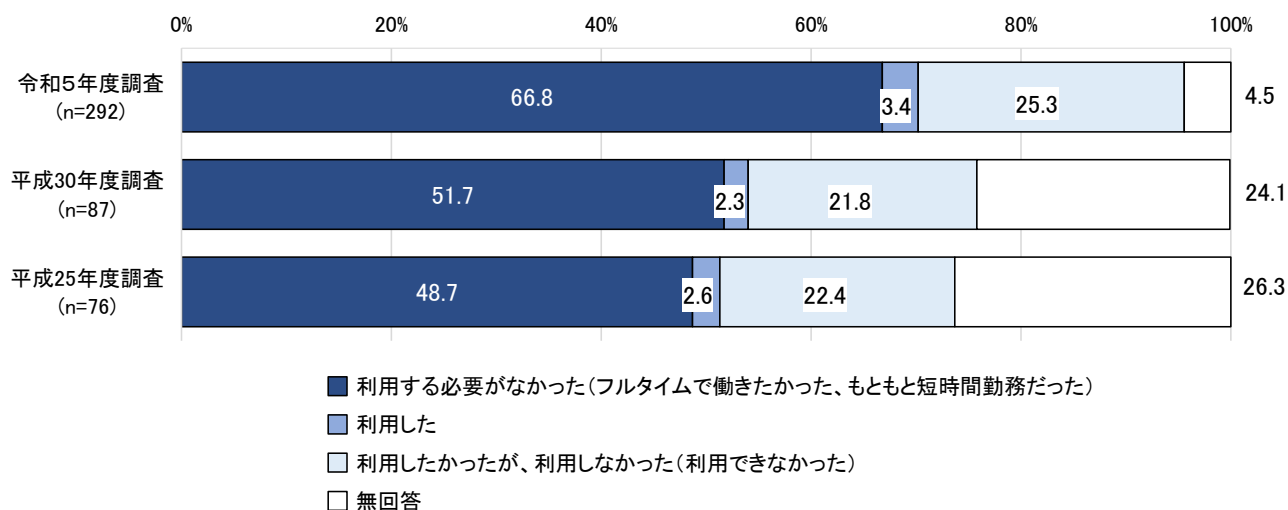
希望より遅く職場復帰した理由（父親）



育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況（父親）（問 31-6）

問 31-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した父親に対し、職場復帰時に短時間勤務制度を利用したかについてたずねたところ、「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」が最も多く 66.8%、次いで「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」が 25.3%、「利用した」が 3.4%であった。

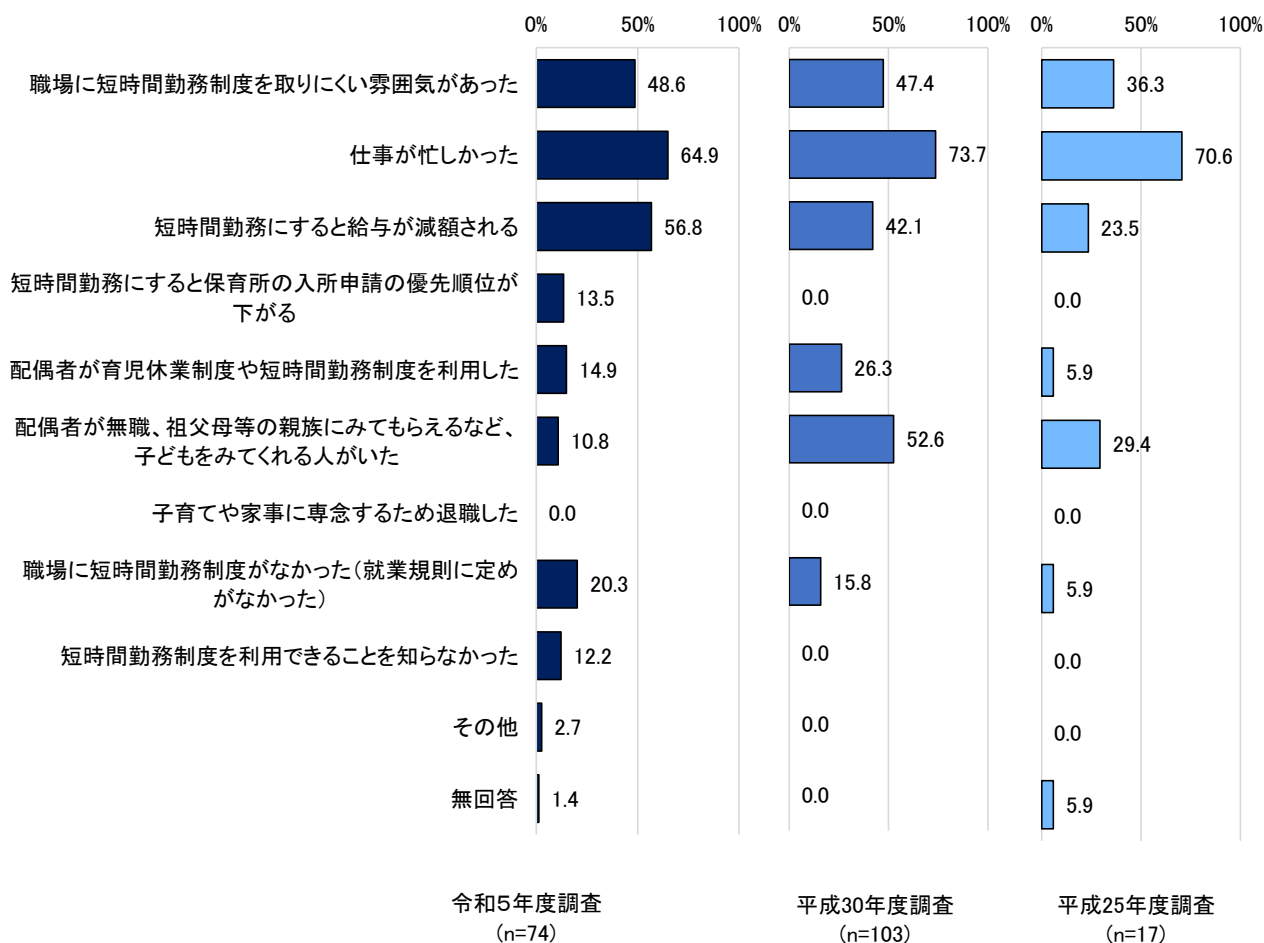
育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況（父親）



短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由（父親）（問 31-7、複数回答）

問 31-6 で「利用しなかったが、利用しなかった（利用できなかった）」と回答した父親に対し、短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由についてたずねたところ、「仕事が忙しかった」が最も多く 64.9%、次いで「短時間勤務にすると給与が減額される」が 56.8%、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 48.6%であった。

短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由（父親）

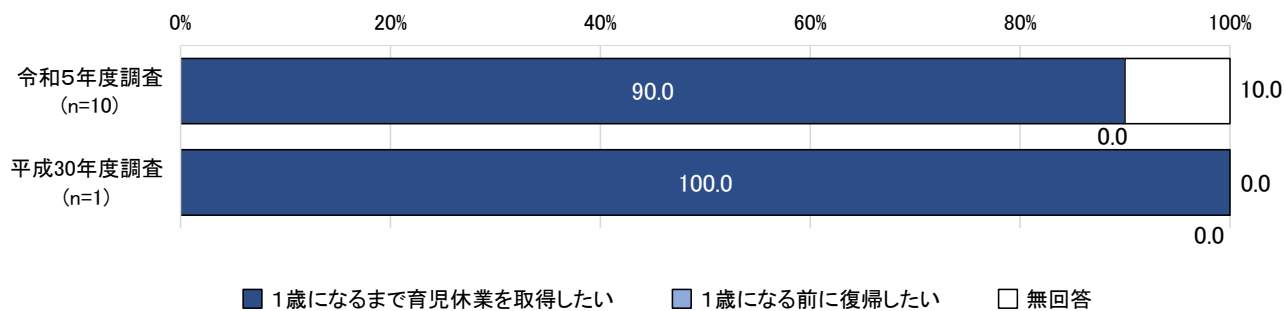


子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業がある場合の育児休業の取得期間に関する意向（父親）

（問 31-8）

問 31-1 で「現在も育児休業中である」と回答した父親は 10 人であり、子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得したいと思うかについては「1歳になるまで育児休業を取得したい」が9人であった。

子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業がある場合の育児休業の取得期間に関する意向

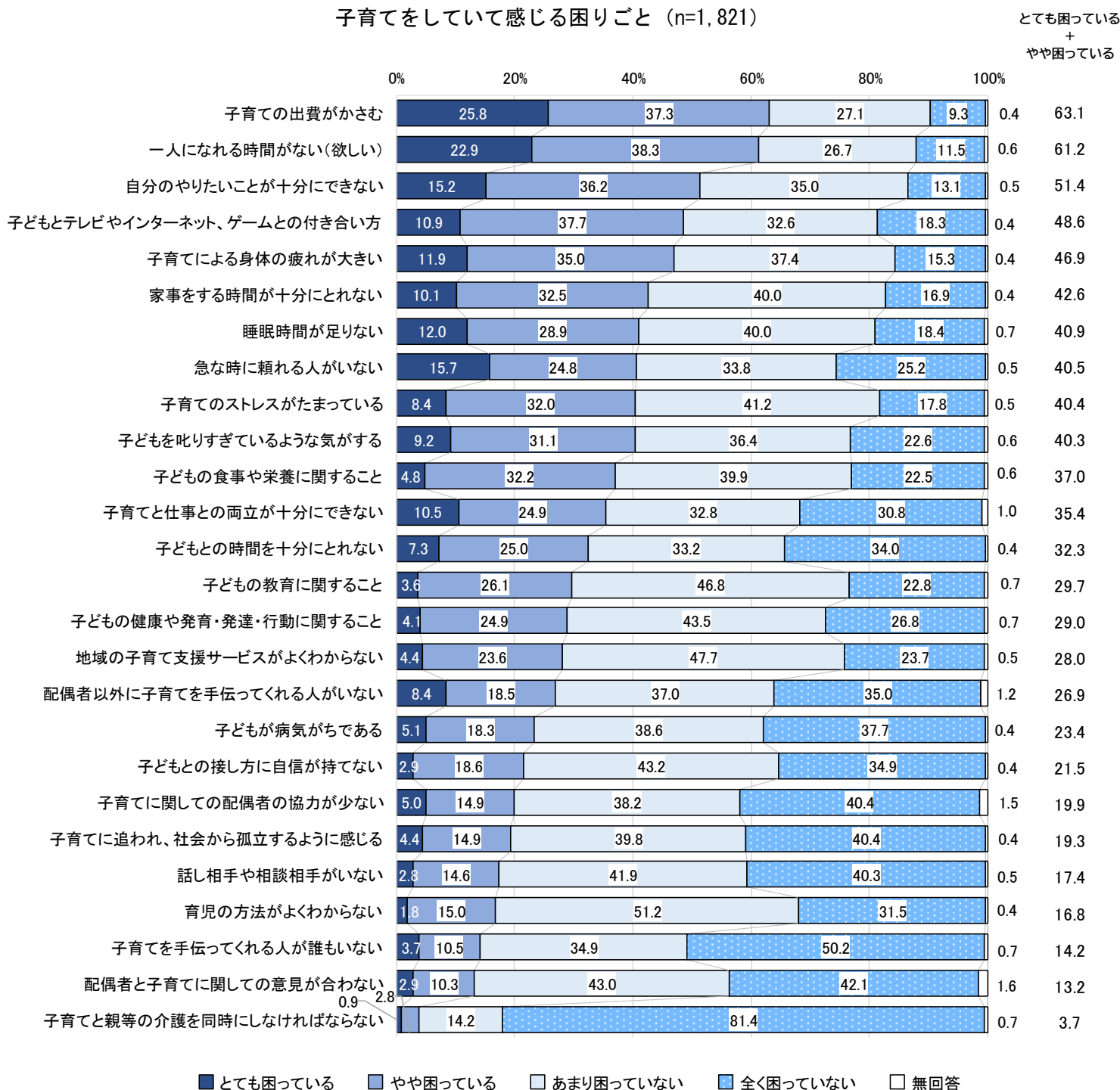


(11) 子育てや子育て支援等について

子育てをしていて感じる困りごと（問 32）

子育てをしていて感じる困りごとについて、『困っている』（「とても困っている」と「やや困っている」の合計）では、「子育ての出費がかさむこと」が最も多く 63.1%、次いで「一人になれる時間がない（欲しい）」が 61.2%、「自分のやりたいことが十分にできない」が 51.4%、「子どもとテレビやインターネット、ゲームとの付き合い方」が 48.6%、「子育てによる身体の疲れが大きい」が 46.9%であった。

子育てをしていて感じる困りごと（n=1,821）



※ 『困っている』（「とても困っている」と「やや困っている」の合計）の多い項目順

平成 30 年度調査と子育てをしていて感じる困りごとについて、『困っている』（「とても困っている」と「やや困っている」の合計）の割合で比較すると、いずれも「子育ての出費がかさむ」の割合が最も高く、「子育てと仕事との両立が十分にできない」では 9.8 ポイント減少、「子どもが病気がちである」では 11.0 ポイントの増加している。

【参考】平成 30 年度調査との比較
 子育てをしていて感じる困りごと
 『困っている』（とても困っている+やや困っている）

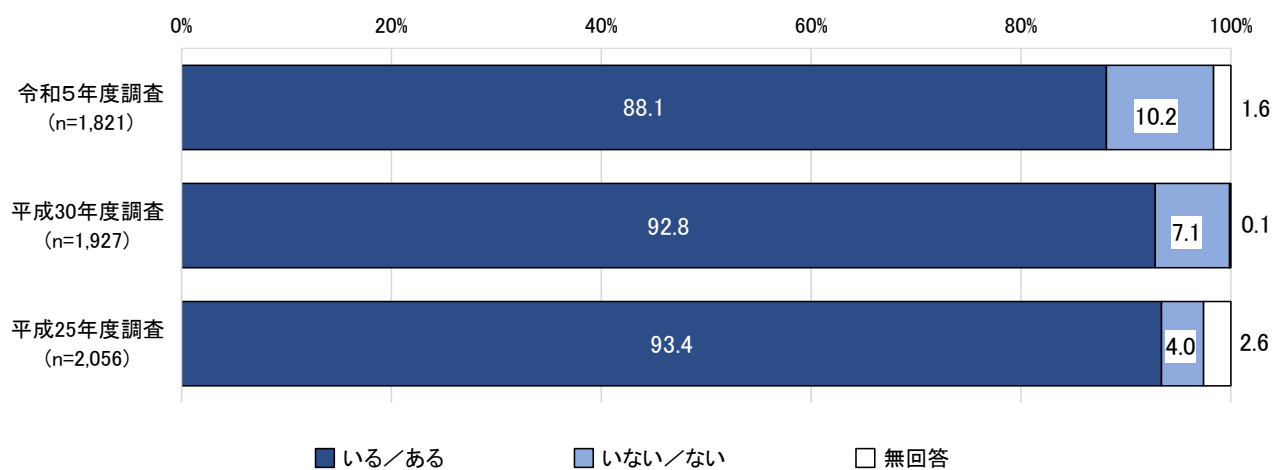


子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人及び場所の有無（問 33）

子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人及び場所の有無については、「いる／ある」が88.1%、「いない／ない」が10.2%であった。

経年で比較すると「いない／ない」の割合が増加傾向にある。

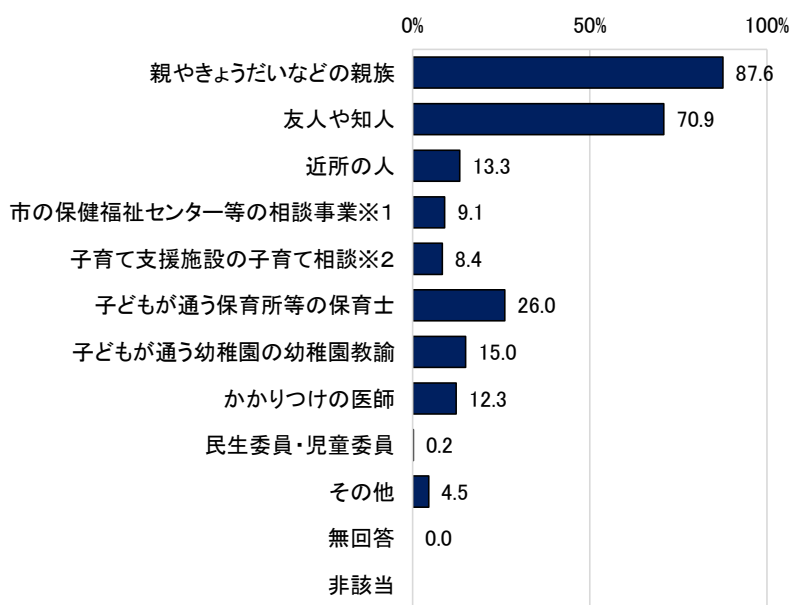
子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人及び場所の有無



調査対象児童の子育てに関して、気軽に相談する相手（問 33-1、複数回答）

問 33 で「いる／ある」と回答した方に対し、子育てに関して、気軽に相談する相手についてたずねたところ、「親やきょうだいなどの親族」が最も多く 87.6%、次いで「友人や知人」が 70.9%、「子どもが通う保育所等の保育士」が 26.0%であった。

子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先（n=1,605）

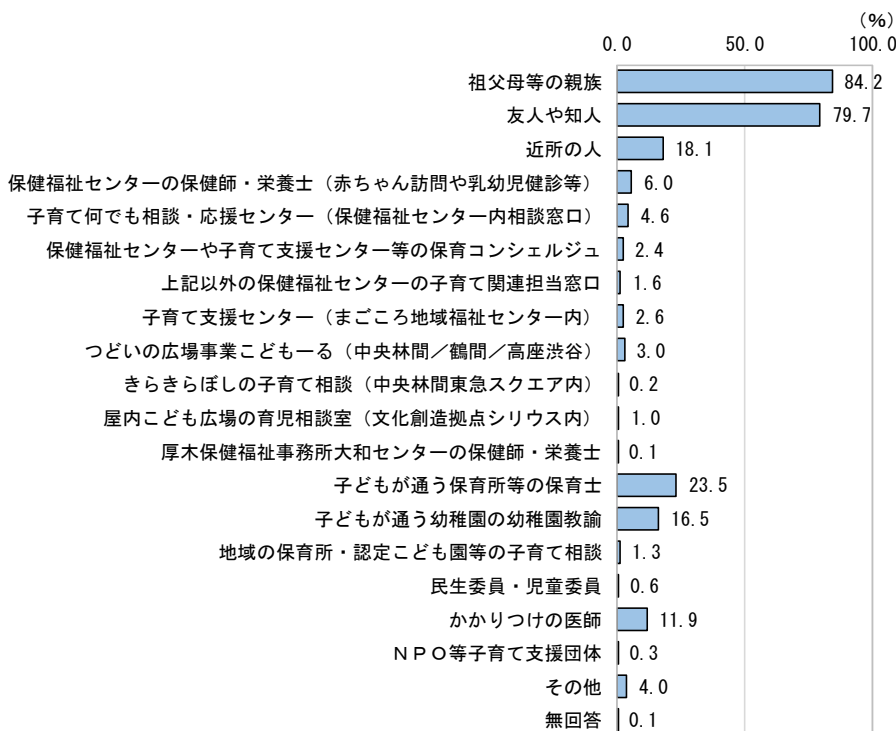


※1 子育て何でも相談・応援センター、赤ちゃん訪問、乳幼児健診、保育コンシェルジュ等

※2 子育て支援センター、つどいの広場、こども一る、きらきらぼし、屋内こども広場、市内保育園等

【参考】平成 30 年度調査

子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先（n=1,788）

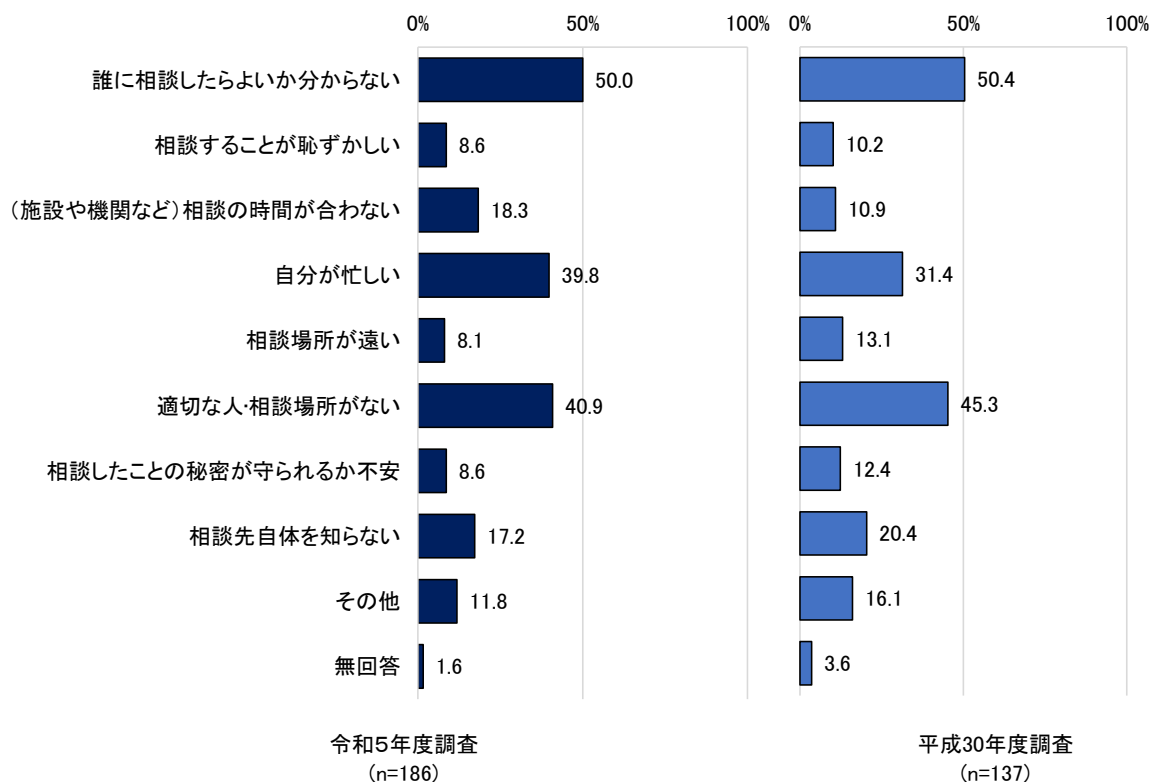


調査対象児童の子育てに関して、気軽に相談できない理由（問 33-2、複数回答）

問 33 で「いない／ない」と回答した方に対し、子育てに関して、気軽に相談できない理由についてたずねたところ、「誰に相談したらよいか分からない」が最も多く 50.0%、次いで「適切な人・相談場所がない」が 40.9%、「自分が忙しい」が 39.8%であった。

平成 30 年度とで比較すると、「自分が忙しい」が 8.4 ポイント、「(施設や機関など) 相談の時間が合わない」が 7.4 ポイント増加し、「相談場所が遠い」が 5.0 ポイント、「適切な人・相談場所がない」が 4.4 ポイント減少した。

子育てに関して、気軽に相談できない理由



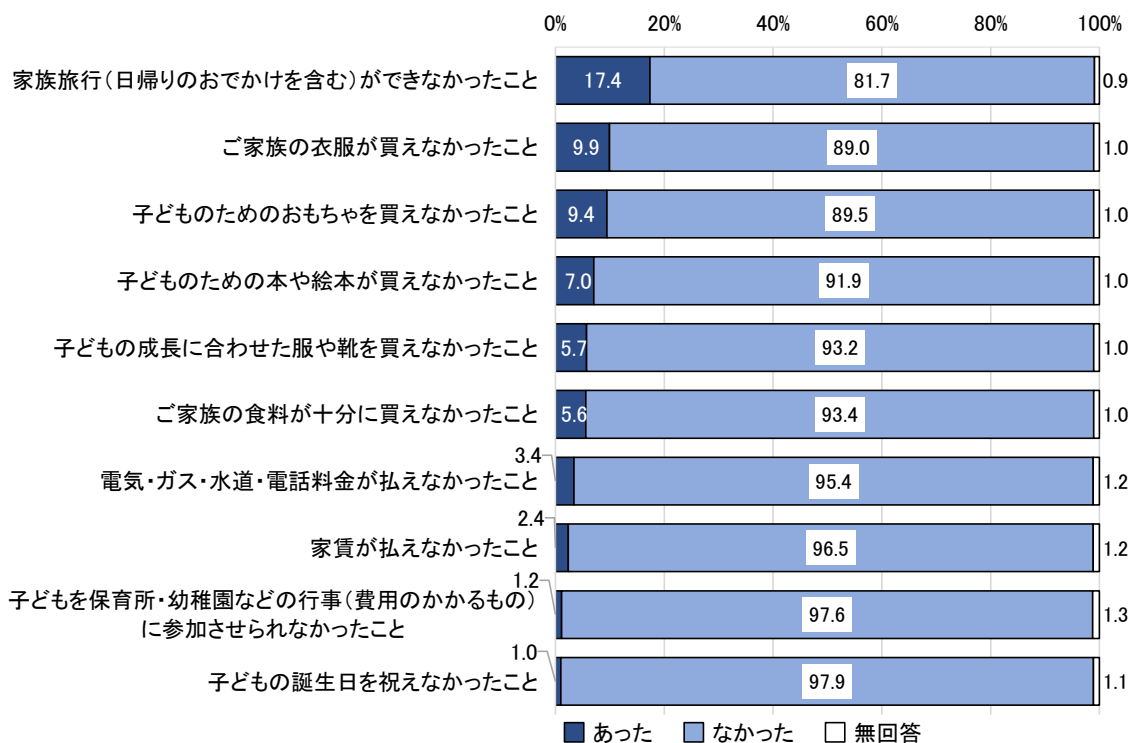
その他記述

意見	件数
解決しないから	7
身近に適任者がいない	5
ネットで調べたことと変わらないから	2
知らない人に話しづらい	2
面倒だから	2
必要ないから	2
相談内容が複雑だから	1
その他	2
合計	23

経済的な理由でできなかったこと（問 34）

過去1年間に、経済的な理由でできなかったことがあった割合は、「家族旅行（日帰りのおでかけを含む）ができなかったこと」が最も多く17.4%、次いで「ご家族の衣服が買えなかったこと」が9.9%、「子どものためのおもちゃを買えなかったこと」が9.4%であった。

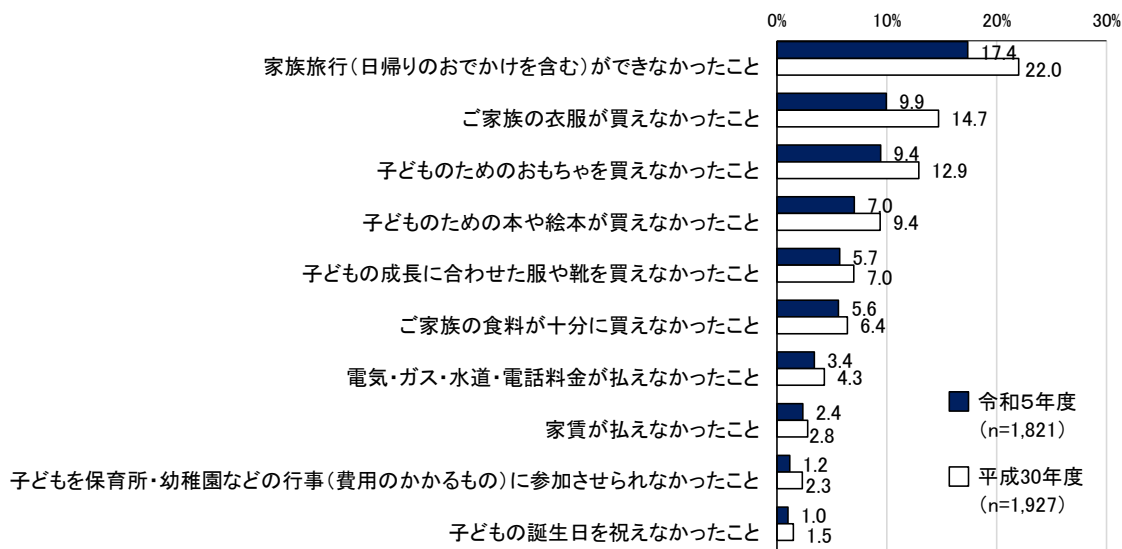
経済的な理由でできなかったこと（n=1,821）



平成30年度調査と経済的な理由でできなかったことが「あった」割合を比較すると、項目の順番に相違はないが、いずれも「あった」割合が減少している。

【参考】平成30年度調査

経済的な理由でできなかったことが『あった』

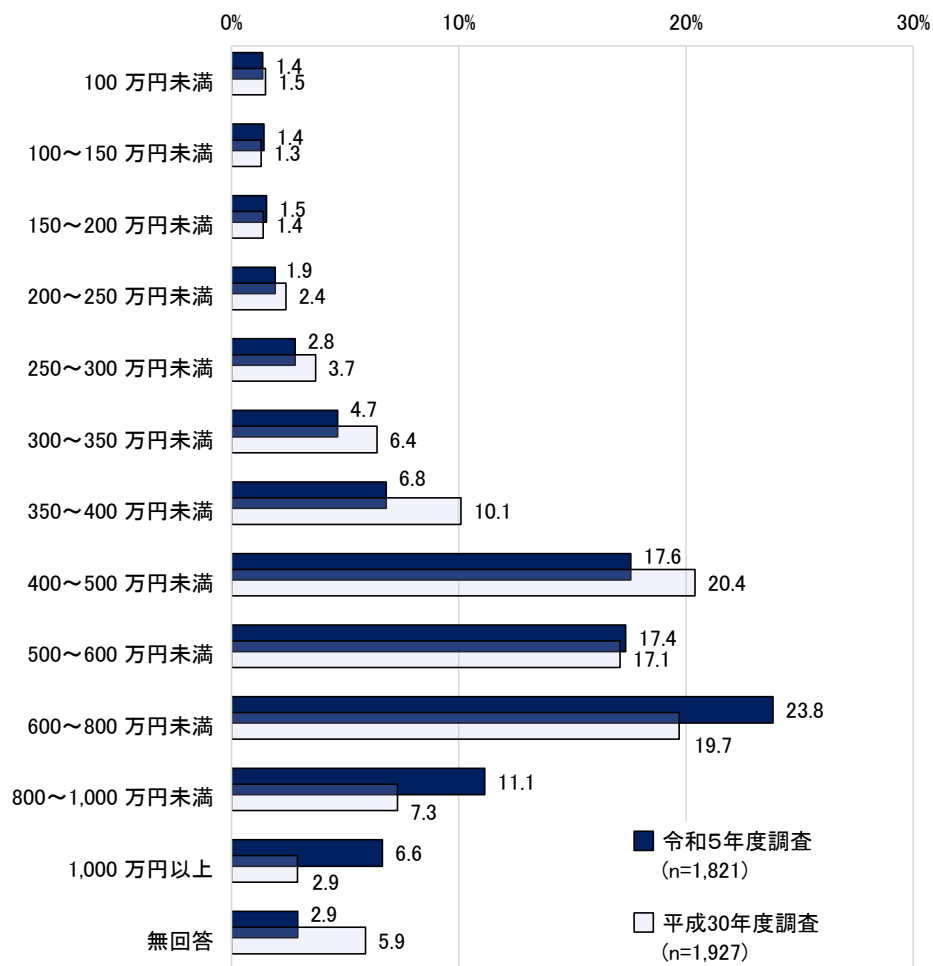


世帯収入（問 35）

世帯の昨年1年間（令和4年1月1日～12月31日）の収入（手取額）は、「600～800万円未満」が最も多く23.8%、次いで「400～600万円未満」が17.6%、「500～600万円未満」が17.4%であった。

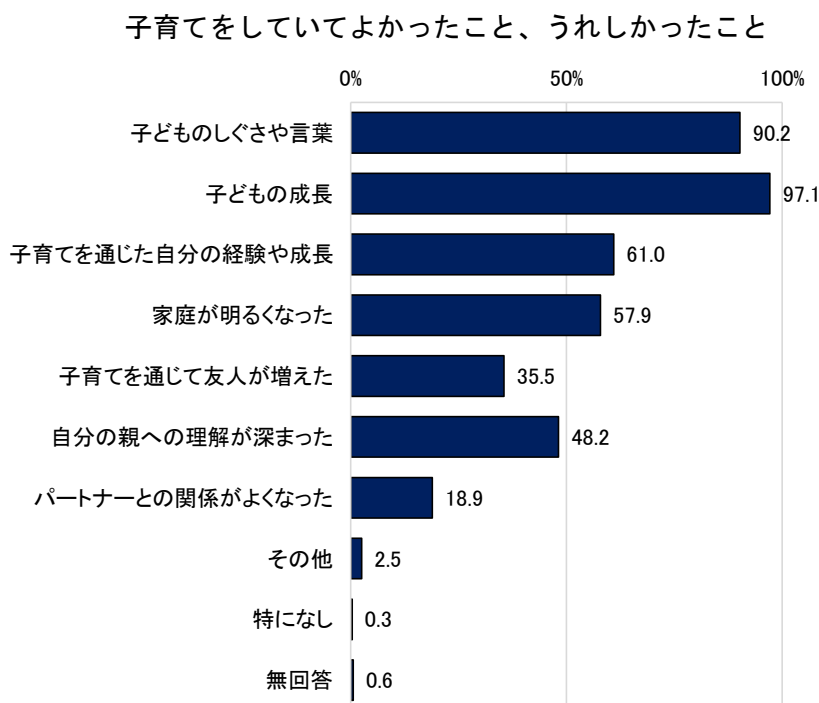
平成30年度調査と比較すると、500万円以上が増加傾向にあり、500万円未満に減少傾向がみられた。

世帯収入（n=1,821）



子育てをされていてよかったこと、うれしかったこと（問 36、複数回答）

子育てをされていてよかったこと、うれしかったことについて、「子どもの成長」が最も多く 97.1%、次いで「子どものしぐさや言葉」が 90.2%、「子育てを通じた自分の経験や成長」が 61.0%であった。



令和5年度調査
(n=1,821)

その他記述

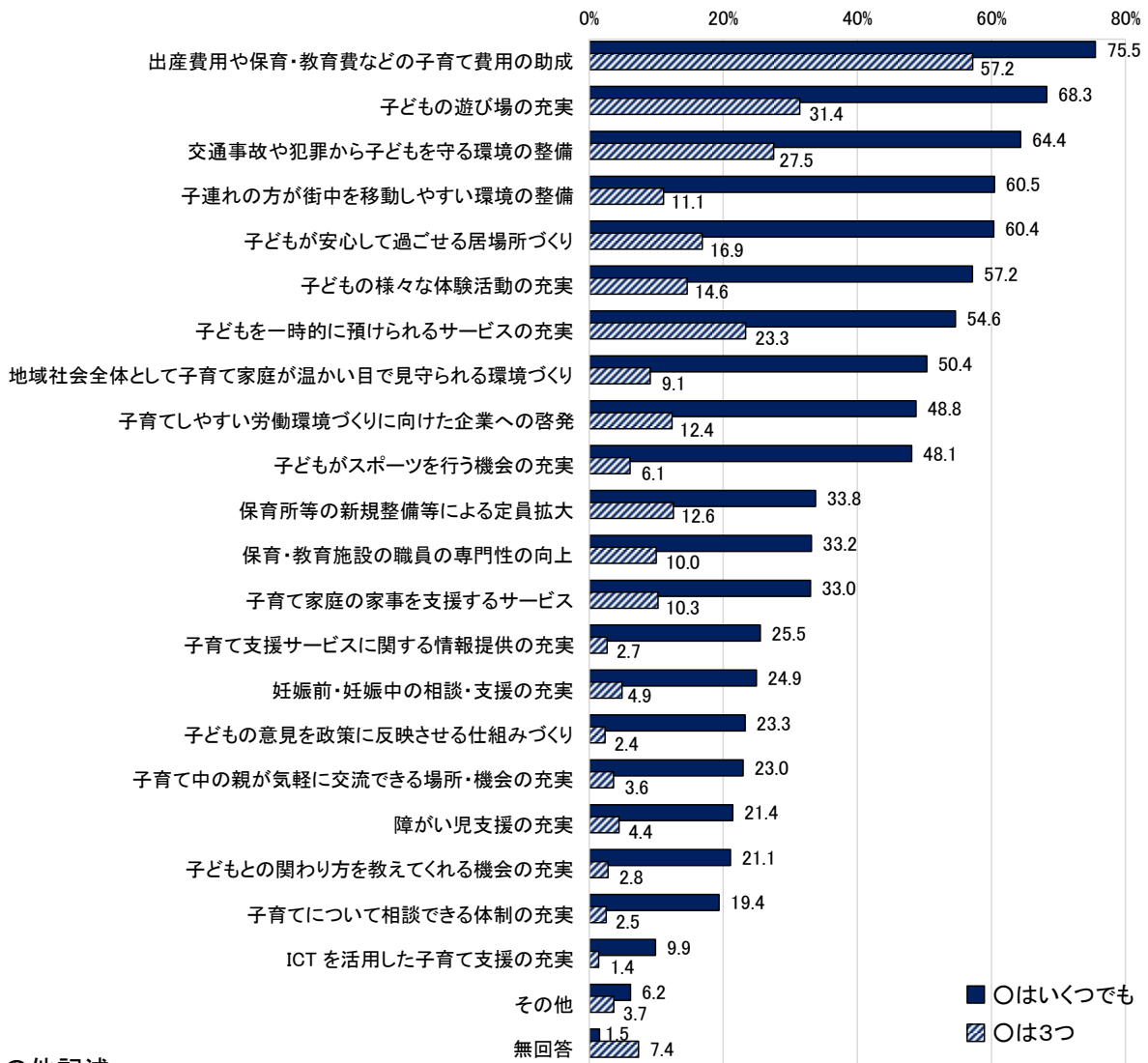
意見	件数
子供がかわいい、優しい、幸せ、楽しい	15
生きがい、生きる希望ができた	6
地域とのつながりができた	4
自分が成長できた、変わった	4
自分を大事にできるようになった	3
人(命)を大切にできるようになった	3
社会への関心が深まった	3
自分の子ども時代を振り返れる、取り戻せる	3
友人との関係が良くなった	2
親が喜んだ	2
健康に気を付けるようになった	2
子どもへの苦手意識がなくなった	1
仕事に活かせる	1
その他	1
合計	50

今後、子育て支援の充実に向けて望むこと（問 37、複数回答）

今後、子育て支援の充実に向けて望むことについて、「出産費用や保育・教育費などの子育て費用の助成」が最も多く 75.5%、次いで「子どもの遊び場の充実」が 68.3%、「交通事故や犯罪から子どもを守る環境の整備」が 64.4%、「子連れの方が街中を移動しやすい環境の整備」が 60.5%、「子どもが安心して過ごせる居場所づくり」が 60.4%であった。

「〇はいくつでも」で回答した場合と「〇は3つまで」とした場合を比較すると、上位3項目に変わらないが、「〇はいくつでも」の方が、環境づくりや仕組みづくり等、「〇は3つまで」の方が、保育所の整備や子育てのサービス等の項目の割合が高い傾向がみられた。

今後、子育て支援の充実に向けて望むこと（n=1,821）



その他記述

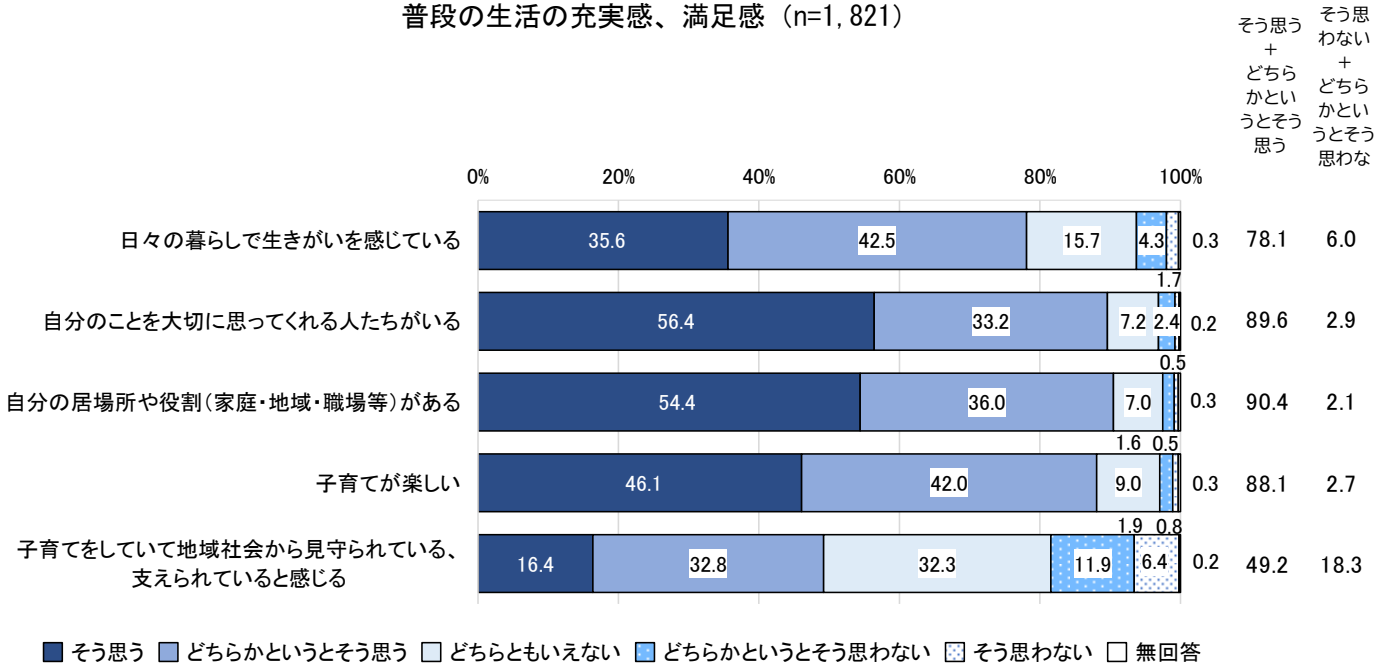
意見	件数	意見	件数	意見	件数
保育士等の待遇改善	17	公園、遊び場	4	発達支援、療育	2
保育園	8	手続きの簡素化、デジタル化	3	アレルギー対策	2
放課後児童クラブ・学童、放課後の居場所	8	習い事	3	減税	2
預け先の充実(休日、リフレッシュ含む)	6	職場環境の改善、求職支援	3	認定こども園	1
経済的支援	6	医療の充実	3	ファミリーサポート	1
産後ケアの充実	5	安全・安心(治安・交通)、環境整備	3	ひとり親の支援	1
所得制限の撤廃	5	幼稚園	2	不登校児童の支援	1
教育の充実、学校	4	不妊治療	2	市役所の対応、窓口	1
父親教室、母親教室	4	共働き世帯への支援	2	その他	10
子育て関連施設、赤ちゃん休憩室	4	コミュニティバス、子育て専用バス	2	合計	115

その他: まちづくり(4)、貧困支援、グリーフケア、図書館、外国籍支援など

普段の生活の充実感、満足感（問 38、複数回答）

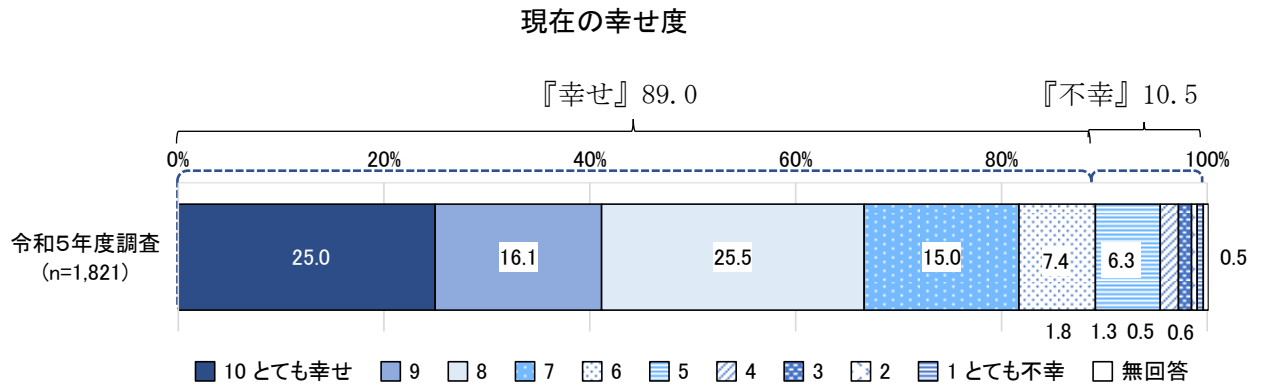
普段の生活の充実感、満足感について、『充実・満足感あり』（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計）では、「自分のことを大切に思ってくれる人たちがいる」、「自分の居場所や役割（家庭・地域・職場等）がある」、「子育てが楽しい」でそれぞれ 89.6%、90.4%、88.1%であった。一方、『充実・満足感なし』（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の合計）では、「子育てをされていて地域社会から見守られている、支えられていると感じる」が 18.3%と他より高くなっている。

普段の生活の充実感、満足感（n=1,821）



現在の幸せ度（問 39）

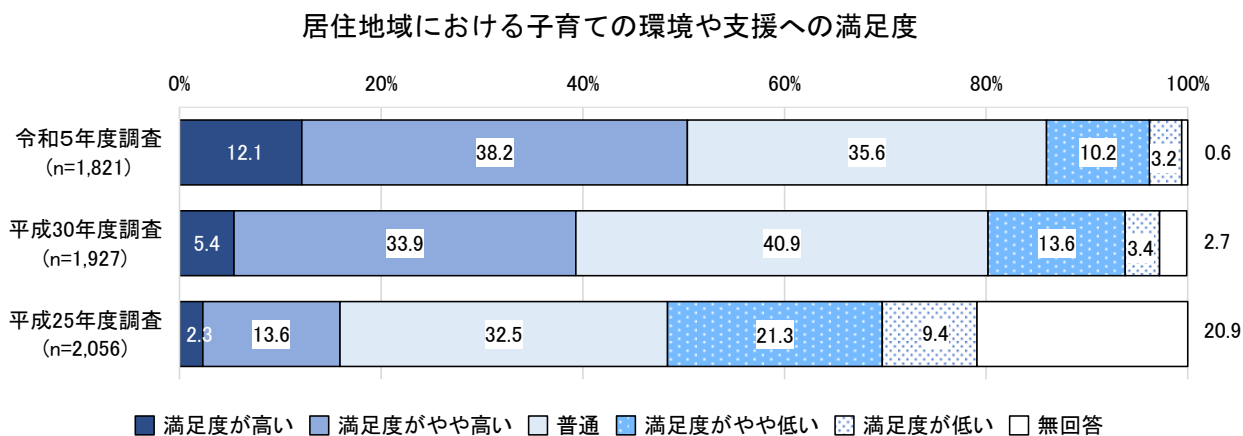
現在どの程度幸せだと感じているか 10 段階でたずねたところ、「幸せ度 8」が 25.5%と最も高く、次いで「幸せ度 10（とても幸せ）」が 25.0%であった。また、『幸せ』を「幸せ度 10～6 の合計」とすると 89.0%、『不幸』を「幸せ度 5～1 の合計」とすると 10.5%であった。



居住地域における子育ての環境や支援への満足度（問 40）

お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について、満足度5を「満足度が高い」、満足度4を「満足度がやや高い」、満足度3を「普通」、満足度2を「満足度がやや低い」、満足度1を「満足度が低い」とすると、「満足度がやや高い」が最も多く38.2%、次いで「普通」が35.6%、「満足度がやや低い」が10.2%であった。

経年で比較すると、満足度は高くなる傾向がみられた。



子育ての環境や支援等に関する意見（問 41）

今回の調査では、問 41 において、自由記入形式により 872 人から 1,402 件の意見を得た。主な意見は以下のとおりである。

分類	項目	回答内容(主な意見)	件数
子どもの教育・保育や一時預かり等について			414
保育園		○保育園の教育知育の充実を図ってほしい	164
		○保育園の書類の WEB 化を進めてほしい	
		○保育所等の専門性の向上やサポート体制の強化	
一時預かり		○当日予約が可能な保育サポート機関がほしい	114
		○一時預り施設をリアルタイムでアプリ管理で利用できるようにしてほしい	
		○特別な理由がなくても気軽に子どもを預けられるようにしてほしい	
病児・病後児保育		○病児保育の広域利用の周知など PR が必要	28
		○病児保育を増設、スタッフを増員して枠を拡充してほしい	
		○病児保育所、早朝から受け入れ、預かり時間を拡張してほしい	
		○病児保育の急な利用への対応をしてほしい	
放課後児童クラブ		○民営の児童クラブしかない小学校には、公営クラブを整備してほしい	25
		○学童スタッフの数と質の向上をしてほしい	
		○学童に塾を併設するなどの市をあげて学力の向上を図ってもらいたい	
		○駅前のビル内に放課後過ごせる児童クラブがあるとよい	
幼稚園		○幼稚園の無償保育時間を長くしてほしい	22
		○幼稚園の預かり保育について、助成を増やしてほしい	
		○保育園、幼稚園の先生たちの待遇改善をして、良い人材を集めてほしい	
送迎ステーション等・送迎サービス		○認定こども園の保育園枠でも送迎ステーションを利用できるようにしてほしい	20
		○子どもが多い家庭や妊娠中に他の兄弟の送り迎え等のサポートがほしい	
放課後の居場所・時間外の居場所		○きらきらぼしは、未就学児までのため、新1年生は寺子屋も使えない時期が困る	18
		○子どもの就学に際し、放課後の子どもの過ごし方に不安がある	
ファミリー・サポート		○出産する前にファミリー・サポートの登録ができるようにしてほしい	15
		○ファミリー・サポートのサポーターを増員してほしい	
		○ファミサポやきらきらぼしは、web で予約できるようにしてほしい	
認定こども園		○認定こども園を拡充してほしい	5
ベビーシッター		○親が家事をしている間に子どもと遊んでくれるサポートがあるとよい	3
		○週に一回は、ベビーシッターが家に来ってくれる制度があるとよい	

分類	項目	回答内容(主な意見)	件数
遊び場や活動の場の整備・提供について			216
公園・遊び場		○公園以外で2歳以上が遊べる場がほしい	107
		○公園でボール遊びができるようにしてほしい	
イベント・教室・サークル・その他交流施設等		○0～2歳児も利用できる公共のプールがほしい	59
		○様々なイベントを増やしてほしい	
		○シリウス・こども一る・各保育園でのイベントなどの情報をまとめたものがほしい	
子育て支援センター		○子育て支援センターが徒歩圏内にほしい	16
こども～る		○施設が狭いため、幼児が走りまわり乳幼児の安全面に不安を感じる	14
		○こども一るの場所や時間などを拡充してほしい	
図書館		○予約した本の受け取りをコミュニティセンターなどでできるようにしてほしい	13
その他育児関連設備(カフェ・トイレ)		○子どもが室内でお弁当などを食べられるフリースペースがほしい	5
		○赤ちゃんの駅のようなおむつ替えが出来る場所を増やしてほしい	
コミュニティセンター		○コミセンを午前中から開けてほしい	2
情報の提供・相談体制について			151
情報提供・相談支援		○保育所・幼稚園の申込手続きについてサポートがほしい	131
		○保育園や幼稚園の情報収集や検索ができる一括ポータルサイトがほしい	
		○夜泣きに対応してくれる支援等、夜間に対応してくれる相談サービスがほしい	
		○子育ての年齢に応じた配信(LINE等)を希望	
		○困った時にチャット等で相談できるシステムがほしい	
定期健診、保健師・助産師訪問		○24時間子どもの大和健康相談の電話が全然繋がらない	20
		○日々の子育ての相談をしたいので、子どもの定期検診を増やしてほしい	
		○出産後の保健師の訪問や産後ケアの利用券が届くのが遅かった	
子育て支援に関連するその他の制度・環境整備について			322
金銭的な支援・現物支給		○保育料の無償化を充実してほしい	180
		○子育てにかかる費用の助成を充実してほしい	
学校施設・教育内容等		○小学校のデジタル化を進めてほしい	53
		○小学校の設備が古い	
		○OPTA活動が負担になるので廃止してほしい	
		○市の小学校の学習内容を統一してほしい	
		○放課後の居場所確保に教育的なところを充実させてほしい	
		○教育現場での教員の言葉遣いが気になることが多々ある	
歩道・道路等		○駅周辺の駐輪場の幅や奥行きを広くしてほしい	45
		○ベビーカーが通りやすい道に整備してほしい	
		○大和駅周辺のプロムナードの自転車走行について厳しく管理してほしい	

分類	項目	回答内容(主な意見)	件数
	駐車場	○車移動が多いため、駐車料金の助成や補助がほしい	18
		○南部方面の公園など、駐車場付きで整備してほしい	
	病院・夜間診療	○小児科、産婦人科を拡充してほしい	13
		○病院では、小さな子連れの親の診察を快く受けいれてほしい	
○急な子どもの発熱でも当日予約で通院できるようにしてほしい			
医療費助成・医療証	○季節性インフルエンザワクチン接種を小児医療証で無料にしてほしい	9	
	○産後ケア事業に新生児期(～1ヶ月)のものを拡充してほしい		
コミュニティバス	○やまとん号やのろつとを増便してほしい	4	
その他子育てに関することについて			299
	親への支援	○家事サポートもしてもらえ支援がほしい	52
		○産前・産後のサービスを充実してほしい	
	育休制度・就労支援・ 職場環境の改善	○正社員以外でも出産後保育園に預けて仕事復帰できるようにしてほしい	51
		○女性の就労についての相談・支援窓口がほしい	
		○自営業の育休制度が必要	
	喫煙・騒音・治安等 対策	○公園のタバコの吸い殻やゴミが散乱が多い	40
		○小学校の下校時の見守りを充実させてほしい	
	市役所の対応等へ の意見	○役所に相談しやすい雰囲気窓口がほしい	39
		○役所など申請中に子ども達を座らせるイスを増やしてほしい	
		○英語や中国語の対応できる人がいてほしい	
	発達の支援	○保育園や幼稚園でも適切な支援や療育が受けられるようにしてほしい	31
		○民間の園に障害児枠を作るなど受け入れ先を増やしてほしい	
		○発達のことが一ヶ所で済むように窓口をひとつにしてほしい	
	地域の人との関係	○子どもへの目が冷たく感じる事が多い	28
		○子育てをしている人に優しく、見守られていると感じられる地域社会にほしい	
	アンケートについて	○このアンケートの必要性がわからない	11
		○アンケートを行うことはいいことだが、ペーパーレスでやった方がよい	
		○本アンケートの集計結果を市民へ報告してほしい	
	その他	○子どもが好きなことにチャレンジできるよう、習い事を安く受けられるようなクーポンがほしい	47
		○育児者用に電動自転車のレンタルがあればよい	
		○性別関係なく、育児や家事をする世の中になるよう啓発してほしい	
合計			1,402